政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續左ノ通相定ム

第一條　仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書竝ニ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ何之誰ノ差押債權者何之誰渡ト記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第一條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ仕拂未濟ナルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ歲出金繰替拂證票ニ本文ノ記入ヲ爲シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第一條ノ三　郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ郵便貯金拂出證書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第二條　政府カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書歲出金繰替拂證票同通知書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

前條ノ如ク記入スヘシ

第三條　第二條ノ場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金ノ差引ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ對シ發行スル仕拂命令、仕拂請求書、歲出金繰替拂證票、同通知書又ハ同傳票ニ於テモ

第四條　出納官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書（公債元利拂ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ）ヲ徵シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ

第五條　金庫出納役又ハ其代理人ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保管供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ同傳票ニ本文ノ記入ヲ爲シ仕拂請求書又ハ同通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ交付スヘシ但シ仕拂未濟ナルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ交付スヘシ

第六條　出納官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル保管金ノ仕拂ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル保管金領收證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第六條ノ二　出納官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル保管金ノ仕拂ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル保管金領收證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第七條　差押債權者明治二十六年大藏省令第十九號第九條ノ領收證書（差押債權者ニ交付スルモノニ限ル）及預金通帳又ハ同年大藏省令第二十號第十條ノ保管證書第十三條ノ拂渡證書又ハ明治三十二年大藏省令第六號第九條ノ請求書及受領證第十二條ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其差押金額ヲ仕拂フヘシ

第八條　金庫出納役又ハ其代理人カ差押債權者ニ交付シアル保管金領收證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第九條　仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル保管金ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ其一部分ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第十條　出納官吏カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ郵便貯金、郵便爲替金又ハ郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書ニ郵便爲替證書又ハ郵便取立金通知書又ハ郵便爲替證書ニ記載シタル金額カ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立濟通知書ニ記載セル金額ノ一部分ナルトキハ適宜ノ領收證書ヲ徵シ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便取立金取立濟通知書ノ裏面ニ「表記金額ノ內金何程ハ差押債權者何之誰ニ拂渡ヲ要スル旨執行裁判所ノ命令ニ依リ別ニ歲出金繰替拂證票（又ハ同通知書）ヲ發行ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付スヘシ

第十一條　仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ其ノ通知ヲ發シタル官吏直ニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ送付スヘシ

第十二條　仕拂命令官出納官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令支拂請求書通知書（明治二十六年大藏省令第四十一號第一號書式又ハ同第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ畫シ其下ニ「ノ差押債權者何之誰渡ト、通知書ノ場合ニハ何某トアル何某ノ文字ニ朱ノ二線ヲ畫シ「何某ノ差押債權者何之誰」）ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十二條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ交付シアル保管證書第十三條ノ拂渡證書又ハ同第十二條ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其差押金額ヲ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ差押債權者ニ交付シアル歲出金繰替拂證票ニ仕拂命令仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シ若クハ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ發行セサル場合ニ於テハ繰替拂傳票ニ本文ノ記入ヲ爲シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第九條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ政府ノ債權者ニ交付シアル繰替拂傳票ヲ出納官吏ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ調製シ遲滯ナク之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

出納官吏現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後前項ノ仕拂停止通知書ヲ受ケタルトキハ直ニ第二號ノ書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十條　金庫又ハ出納官吏ニ於テ前二條ノ仕拂停止通知書ヲ受ケ其ノ金額ノ既ニ仕拂濟ナルトキハ直チニ其ノ旨ヲ附箋シテ通知書ヲ返付スヘシ

第十一條　仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ其ノ通知ヲ發シタル官吏直ニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ送付スヘシ

第十二條　仕拂命令官出納官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令支拂請求書通知書（明治二十六年大藏省令第四十一號第一號書式又ハ同第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ畫シ其下ニ「ノ差押債權者何之誰渡ト、通知書ノ場合ニハ何某トアル何某ノ文字ニ朱ノ二線ヲ畫シ「何某ノ差押債權者何之誰」）ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十三條　第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ交付シアル保管證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第十三條ノ二　第十二條ノ二ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ其ノ裏面ニ「表記金額ノ內金何程ハ差押債權者何之誰ニ拂渡ヲ要スル旨執行裁判所ノ命令ニ依リ別ニ歲出金繰替拂證票（又ハ同通知書）ヲ發行ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ別ニ差押金額ニ對スル歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ發行シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ支拂ハシムル場合ニ於テハ該傳票ノ金額及氏名ノ傍ニ「內金何程ハ差押債權者何某渡」ト朱書シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十四條　第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ現金引出切符ノ無效トナリタルトキハ更ニ現金引出切符ヲ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十五條　仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額ノ仕拂ヲ爲シタル後本文後段ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　金庫又ハ出納官吏第十二條第十三條及第十四條ノ二ノ記入アル仕拂命令、仕拂請求書、通知書、歲出金繰替拂證票、同通知書、現金引出切符又ハ證票ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル手續ヲ爲シタル上第十五條又ハ第十五條ノ二ノ通知書ト對査シ之カ仕拂ヲ爲スヘシ繰替拂傳票ニ依リ仕拂ヲ爲ス場合モ亦之ニ準ス

第十八條　仕拂命令官、出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符又ハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送附シ其ノ旨執行裁判所ニ通知スヘシ但シ供託受領證ハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ニ於テ之ヲ保管シ若クハ裁判所ヨリ其ノ領收證ヲ受クヘシ

第十八條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對スル歲出金繰替拂證票ニ同傳票ヲ發行シ其ノ裏面ニ「表記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何局所出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十八條ノ三　出納官吏ニ歲出金繰替拂證票、同傳票ヲ以テ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便取立金通知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送附シ其ノ旨執行裁判所ヘ通知スヘシ但シ供託受領證ハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ニ於テ之ヲ保管シ若クハ裁判所ヨリ其ノ領收證ヲ受クヘシ

第十八條ノ四　第十八條ノ二ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符、歲出金繰替拂證書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ各其ノ所定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　第十八條及第十八條ノ二ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符、歲出金繰替拂證書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ各其ノ所定ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　差押金額ヲ供託シタル仕拂命令官歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、出納官吏ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書ヲ金庫及政府ノ債權者ニ送付シタル上第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ニ準シ政府ノ債權者ニ交付シアル歲出金繰替拂證票、同通知書ノ取消通知書ヲ調製シ之ヲ出納官吏及政府ノ債權者ニ送付シタル後第十八條ノ二及第十九條ノ手續ヲ爲シ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ支拂ハシムル場合ニ於テハ本文ニ準シ該傳票ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ

第二十二條　銀行又ハ金庫ニ於テ差押金額ノ仕拂ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ仕拂停止請求書ニ仕拂命令官ノ發行シタル仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

一金何程

又ハ

明治何年何月何日第何號

出納官吏氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令ニ、集合仕拂請求書ノ場合ニハ除ク）

金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

現金引出切符何人誰渡又ハ渡ノ內

右ハ差押命令ヲ受ケタルニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第四條ニ據リ此段通知候也

何之誰債權者

何府（縣）何地

何之誰殿

第二號書式（用紙美濃二ツ切）

仕拂停止通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

一金何程

又ハ

明治何年何月何日第何號

出納官吏氏名發行現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ內

右ハ別紙之通リ裁判所ヨリ差押命令送達ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ此段請求候也

何之誰債權者

何府（縣）何地

何之誰殿

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

出納官吏　官　氏　名　㊞

何　地　金　庫　宛

第三號書式（用紙美濃二ツ切）

仕拂停止解除通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡

又ハ渡之內

一金何程　　金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ內

右金額明治何年何月何日付ヲ以テ仕拂停止及通知置候處今般差押解除相成候此段通知候也

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

出納官吏　官　氏　名　㊞

何　地　金　庫　宛

第四號書式（用紙美濃二ツ切）

證　票

何府（縣）何地

差押債權者

何　之　誰

右者「某年度何廳所管仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡ノ內」（金額氏名表第何號何之誰渡ノ內（金額共名表云云ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求ノ場合ニ限ル）又ハ「明治何年何月何日第何號　現金引出切符何之誰渡ノ內」金何程ノ仕拂ヲ受クヘキ差押債權者タルコトヲ證明ス

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

出納官吏　官　氏　名　㊞

何地金庫宛

前記證票ノ金額何程正ニ領收候也

差押債權者

年　月　日　　何　之　誰

何地金庫宛

備考　「前記證票云云」以下ハ差押債權者ニ於テ記入スルモノトス

第五號書式（用紙美濃二ツ切）

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管第何號

案內仕拂命令（案內仕拂請求書）金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號）金何程何之誰渡

又ハ

明治何年何月何日第何號案內引出切符何之誰渡

右ニ對スル仕拂命令（仕拂請求書、通知書、現金引出切符）ニ明治二十七年大藏省令第二號第十二條ニ據リ差押債權者何之誰渡ト記入シ差押債權者ニ交付ス此段通知候也

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

出納官吏　官　氏　名　㊞

何地金庫宛

第六號書式（用紙美濃二ツ切）

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡ノ內

一金何程　　金額氏名表第何號何之誰渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡ノ內

右金額差押債權者何府（縣）何地何之誰ヘ仕拂可有之此段通知候也

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

何地金庫宛　　出納官吏　官　氏　名　㊞

第七號書式ノ甲（用紙美濃二ツ切）

取消通知書

某年度何廳所管第何號

仕拂命令（仕拂請求書）金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令（仕拂請求書）又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ハ明治何年何月何日仕拂停止及通知置候處今般該仕拂命令（仕拂請求書、通知書、現金引出切符）取消候ニ付「右ニ係ル案內仕拂命令（案內仕拂請求書、案內引出切符、仕拂命令（證票ノ）ルモ）返付相成度」又ハ「右ニ對スル集合仕拂命令ノ金額何程ニ更正シ金額氏名表中第何號ヲ取消ス」此段通知候也

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

出納官吏　官　氏　名　㊞

何地金庫宛

第七號書式ノ乙（用紙美濃二ツ切）

取消通知書

某年度何廳所管第何號

仕拂命令（仕拂請求書）金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令（仕拂請求書）又ハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表「第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ供託セリ依テ最ニ交付セシ前記仕拂命令（仕拂請求書通知書現金引出切符）ヲ取消ス此段通知候也

年　月　日　　仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ

◉民事訴訟用印紙法

明治二十三年八月
法律第六十五號

改正　四三年八第一五號

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條　民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　財產權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

訴訟物ノ價額金五圓マテ　二十五錢
同十圓マテ　四十錢
同二十圓マテ　八十錢
同五十圓マテ　一圓八十錢
同七十五圓マテ　二圓五十錢
同百圓マテ　三圓五十錢
同二百五十圓マテ　七圓
同五百圓マテ　十二圓
同七百五十圓マテ　十五圓
同千圓マテ　十八圓
同二千五百圓マテ　二十五圓
同五千圓マテ　三十圓
同五千圓以上ハ千圓ニ達スル每ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條　財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘシ

財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘシ

財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ由テ生スル財產權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條　控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼スヘシ

第六條　支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第六條ノ二　左ニ揭ケル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一　期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

二　申隱又ハ中止ニ關スル訴訟手續ノ受繼ノ申立

三　從參加ノ申請

四　忌避ノ申請

五　和解ノ申立

六　費用額確定ノ申請

七　假執行宣言ノ申立

八　強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立

九　配當要求

十　家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立

十一　強制競賣又ハ強制管理ノ申立

十二　債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請

十三　民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

第六條ノ三　左ニ揭ケル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一　抗告

二　故障

三　證據調ノ申立

處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ没收ス

第十五條　前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕【再犯加重】及ヒ【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス

第十六條　非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用スル可シ但第六條ノ三ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ左ニ揭ケル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用スル可シ

一　裁判上代位ノ申請

二　競賣法ニ依ル競賣又ハ競賣ノ申立

三　競賣法ニ依ル競賣又ハ不動產登記ニ關スル抗告

非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキモノハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做ス

第十一條及ヒ第十二條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

大正十五年四月二十四日
法律第六十四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟用印紙法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟用印紙法中左ノ通改正ス

第二條中「第三條乃至第六條」ヲ「第二十二條第一項及ヒ第二十三條」ニ改ム

第五條ノ二　民事訴訟法第十一條又ハ第七十五條ノ二ノ規定ニ依ル參加ノ申出書ニハ第二條、第三條及ヒ前條ノ規定ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

第六條中「支拂命令ノ申請」ヲ「支拂命令ノ申立」ニ改ム

第六條ノ二中「左ニ揭クル申立」ヲ「左ニ揭クル申立、申出」ニ改メ同條第一號乃至第十三號ヲ左ノ如ク改ム

一　期日指定又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立

二　中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申出

三　民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出

四　除斥又ハ忌避ノ申立

五　和解ノ申立

六　費用額確定ノ申立

七　假執行ニ關スル申立

八　强制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立

九　酌當要求

十　强制競賣又ハ强制管理ノ申立

十一　債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請

十二　民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

第六條ノ三中「左ニ揭クル申立」ヲ「左ニ揭クル申立、申出」ニ、「證據調ノ申立」ヲ「證據調ノ申出」ニ改ム

第七條　和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百五十六條第三項又ハ第四百十二條ノ規定ニ依リ訴訟カ繫屬スルトキハ第二條及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ヲ通算ス

第九條　削除

第十條中「申立」ヲ「申立、申出」ニ改ム

第十一條中「第九十七條」ヲ「第百二十條」ニ改ム

第十二條乃至第十五條　削除

第十六條中「及ヒ第十二條」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●民事爭訟調停ニ關スル件

明治四十三年十二月
勅令　第十一號
改正　四五年三第一〇號

民事爭訟調停ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

民事爭訟調停ニ關スル件

第一條　警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ當事者ノ申請ニ因リ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ニ揭ケタル民事爭訟ニ付調停ヲ爲スコトヲ得但シ地方法院又ハ其ノ支廳所在地ノ警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ此ノ限ニ在ラス

一　二百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額ニ百圓ヲ超過セサルモノニ關スル爭訟

二　價額ニ拘ラス左ノ爭訟

(イ)　貸借人ト貸借人トノ間ニ住家其他ノ建物又ハ其ノ或部分ノ受取、明渡、使用、占據若ハ修繕ニ關シ又ハ貸借人ノ家具若ハ所持品ヲ貸借人ノ差押ヘタルコトニ關シ起リタル爭訟

(ロ)　不動產ノ疆界ノミニ關スル爭訟

(ハ)　占有ノミニ關スル爭訟

(ニ)　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關シ起リタル爭訟

(ホ)　左ノ事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル爭訟

(ヘ)　賄料、宿料又ハ旅人若ハ手荷物ノ運送料

(ト)　旅人ヨリ旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ保護ノ爲預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第二條　民事爭訟ノ調停成立シタルトキハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ調書ヲ以テ爭訟ノ準實及調停ノ始末ヲ明確ナラシムヘシ

調停ノ成立シタル爭訟ト同一ノ事件ニ付テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第三條　地方法院長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル爭訟調停事務ヲ監視シ其ノ書類ヲ檢閱シ注意ヲ與フルコトヲ得

第四條　爭訟調停事務ノ取扱、其ノ費用、執行手續其ノ他必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●民事爭訟調停事務取扱規則

明治四十三年十二月
總令第六十七號

改正　大正三年六第九〇號　一一年二第七號

民事爭訟調停事務取扱規則左ノ通定ム

民事爭訟調停事務取扱規則

第一條　民事爭訟調停ノ申請ハ被申請人ノ居住地ヲ管轄スル當該官署ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ不動產ニ關スル爭訟ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二條　前條ノ申請ヲ受ケタル官署ハ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘシ

被申請人他ノ管轄區域内ニ轉居シタルトキハ事件ヲ其ノ管轄官署ニ移送スルコトヲ得

第三條　當事者ハ代人ヲ用ヰルコトヲ得ス但シ調停官吏ノ許可ヲ受ケ親族又ハ雇人ヲ以テ代理セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第四條　申請人正當ノ事由ナク指定ノ期日ニ出頭セサルトキハ申請ヲ取下ケタルモノト看做ス

被申請人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘシ被申請人他ノ管轄區域内ニ轉居シタルトキハ調停成立セサルモノト看做ス

第五條　民事爭訟調停ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ揭クヘシ

一　當事者及代人ノ氏名、年齡、身分、職業及住所

二　申請及答辯ノ要旨

三　調停ノ成立事項及履行ノ時期

第六條　調停調書ノ原本ニハ年月日ヲ記載シ每葉ニ契印シ當事者又ハ代人ヲシテ署名捺印セシメ調停官吏署名捺印シ且廳印ヲ押捺スヘシ

通譯ヲ用ヰタルトキハ其ノ旨及通譯者ノ氏名ヲ記載スヘシ

第七條　當事者ハ調停調書ノ正本又ハ謄本ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第八條　調停ノ費用ハ執行ニ關スルモノヲ除クノ外當事者各自其ノ支出シタルモノヲ負擔ス

第九條　調停ノ執行ニ付テハ裁判所ニ於テ爲シタル和解ニ因ル强制執行ノ法規ヲ準用シ裁判所、裁判長又ハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ調停官吏之ヲ行フ但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條　調停ノ執行ヲ爲スニハ債務者ノ一般ノ承繼人ニ對スル場合ヲ除クノ外調停調書ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第十一條　强制執行ニ關スル法規中訴ヲ以テ權利又ハ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ通常ノ手續ニ從ヒ調停官吏所屬官署ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ其ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十二條　書類ノ送達ニ付テハ民事訴訟ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條　執達吏ノ職務ヲ行フヘキ者ハ調停官吏又ハ調停ノ執行ノ囑託ヲ受ケタル官署ノ長其ノ所屬官署ノ吏員中ニ就キ之ヲ命ス

第十四條　調停ノ執行ニ付テハ各當該官署間五ニ囑託ヲ爲シ又ハ地方法院若ハ其ノ支廳所在地ノ警察官署又ハ其ノ事務ヲ取扱フ官署ニ囑託ヲ爲スコトヲ得

第十五條　左ニ記載シタル事項ニ付テハ民事訴訟ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事爭訟調停ノ申請ハ之ヲ和解ノ申立ト看做ス

一　民事爭訟調停申請ノ手數料

二　民事爭訟調停調書ノ正本又ハ謄本下付申請ノ手數料

三　執行文付與申請ノ手數料

四　執行費用ノ豫約、供擔及償還方

第十六條　地方法院又ハ其ノ支廳所在地ノ警察官署ニ於テ調停ニ關スル書類ヲ保存スル場合ニ於テハ其ノ調停ノ執行竝調停調書ノ正本及ヒ謄本ノ下付ニ關シテハ當該警察署長ヲシテ調停官吏ト看做ス

附則

本令ハ明治四十三年制令第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●民事爭訟調停事務取扱手續

明治四十三年十二月
總訓第七十一號
改正　大正三年六第二六號、九年一〇第四八號

警察署長
憲兵分隊長

民事爭訟調停事務取扱手續左ノ通定ム

第一條　民事爭訟調停ノ申請ハ被申請人ノ居住地ヲ管轄スル當該官署ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ不動產ニ關スル爭訟ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二條　前條ノ申請書ニシテ受理スヘカラサルモノト思料シタルトキハ臺帳備考欄ニ其ノ旨記入シ之ヲ却下スヘシ

第三條　前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ三日内ニ期日ヲ定メ當事者ニ對シ呼出ノ手續ヲ爲スヘシ（第二號樣式）但シ出頭シタル當事者ニ對シテハ口頭ヲ以テ期日ヲ告知シ請書ヲ徵スルコトヲ得

第四條　書類送達ニ付必要ナル費用ハ申請人チシテ之ヲ豫納セシムヘシ

第五條　調停官吏ハ調停ノ成立ニ拘ハラス民事爭訟調停臺帳（第三號樣式）ノ各欄ニ記入ヲ爲シ調停成立シタル場合ニ在リテハ調停調書ノ謄本ヲ作成シ不成立ノ場合ニ在リテハ其ノ順末ヲ調停申請書ニ附記スヘシ（第四號樣式）

第六條　調停事件完結シタルトキハ其ノ記錄ヲ編綴シ一件每ニ順次記錄番號ヲ附シ民事爭訟調停事件索引簿（第五號樣式）ノ各欄ニ記入ヲ爲スヘシ

第七條　費用ノ豫納ヲ受ケタルトキハ豫納費用受拂簿（第六號樣式）ニ記入ヲ爲シ其ノ受拂ヲ明瞭ナラシムヘシ

第八條　調停官署ニ在リテハ左記ノ書類、簿册ヲ備ヘ調停官署ニ非サル警察官署及其ノ事務ヲ取扱フ官署ニシテ調停ノ執行ノ囑託ヲ受ケタルモノニ在リテハ第四號及第六號ノ書類、簿册ヲ備フヘシ

一　民事爭訟調停ニ關スル例規綴

二　削除

三　民事爭訟調停臺帳

四　民事爭訟調停記錄綴

五　民事爭訟調停事件索引簿

六　豫納費用受拂簿

第二號樣式　（用紙ハ半紙判番號ハ進行番號）

明治　年調第　號

申請人
被申請人

ニ關スル民事爭訟調停事件ニ付明治　年　月　日午　時當警察署ニ出頭可有之候也

明治　年　月　日

官署印

何警察署長
朝鮮總督府警視（部）氏　名印

出頭ノ際ハ此ノ呼出狀ヲ持參スヘシ

第三號様式（用紙ハ美濃判）

進行番號	第　號	
接受年月日	明治　年　月　日	主任官
事件標目 當事者住所氏名	申請人	被申請人
調停成立要旨	明治　年　月　日	
履行時期		
執行申請	明治　年　月　日	
執行結果要旨	明治　年　月　日	
調停不成立要旨	明治　年　月　日	
備考		

民事爭訟調停臺帳

裏面ハ表面ニ同シ

第四號様式（用紙ハ半紙判）

調停調書

住所　身分　職業
申請人　氏名　年齢
住所　身分　職業
右代人　氏名　年齢
住所　身分　職業
被申請人　氏名　年齢
住所　身分　職業
右代理人　氏名　年齢

何警察署

右當事者間　事件ニ付明治　年　月　日
午　時何警察署ニ於テ前記當事者出頭左ノ通リ調停成立シタリ
（申請人ノ請求要旨、被申請人ノ答辯要旨、調停成立事項及履行時期等項ヲ分チ記ス）
本件ハ通譯生某ヲシテ通譯ヲ爲サシメタリ（通譯ヲ介シタルトキ）

明治　年　月　日　於何警察署

申請人（代人）　署名捺印
被申請人（代人）　署名捺印
何警察署長
朝鮮總督府警視（部）　署名捺印

第五號様式（用紙ハ美濃判）

民事爭訟調停事件索引簿

記錄番號	進行番號	調停ノ成否	事件名	申請人氏名	被申請人氏名	備考
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					
第　號	第　號					

第六號様式（用紙ハ美濃判）

豫納費用受拂簿

進行番號　明治　年　第　號　　納人住所氏名

月日	豫納額	拂出額	殘額	備考
月　日	圓	圓	圓	
月　日				
月　日				
月　日				
月　日				
月　日				
月　日				
月　日				
合計				受取人氏名印

裏面ハ表面ニ同シ

● 民事爭訟調停書類ノ送達ニ關スル件

大正三年五月
警訓甲第二十號

警察署長
警察署長ノ職務ヲ行フ憲兵分隊長
同憲兵分遣所長

民事爭訟調停ニ關スル書類ヲ郵便ニ依リ送達スル場合ハ訴訟書類ノ取扱ニ準シ明治四十五年四月一日附遞信局長官達第三十三號訴訟書類郵便送達手續ニ依ル郵便送達證書及送達告知書用紙各一枚ヲ添附シテ之ヲ郵便局所ニ交付シ其ノ郵便料及手數料ハ明治四十五年三月朝鮮總督府令第七十五號ニ依リ豫納金中ヨリ之ヲ支辨スヘシ

● 手形交換所指定

大正六年三月
總令第十七號
改正　大正七年一一第五號、九年一一第一六五號、一〇年七第一一四號、一三年二第六號

朝鮮民事令第一條、第三條ニ基キ商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依リ別表ノ手形交換所ヲ指定ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

名稱	所在地
京城手形交換所	京畿道京城府
仁川手形交換所	京畿道仁川府
群山手形交換所	全羅北道群山府
釜山手形交換所	慶尚南道釜山府
平壤手形交換所	平安南道平壤府
大邱手形交換所	慶尚北道大邱府
元山手形交換所	咸鏡南道元山府

● 朝鮮財團抵當令

大正八年四月
制令第八號
改正　大正九年六第一〇號

朝鮮財團抵當令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮財團抵當令

第一條　工場ニ屬スル土地又ハ建物及工場財團ノ抵當ニ關シテハ工場抵當法ニ依ル但シ同法中區裁判所トアルハ地方法院又ハ其ノ支廳トス

第二條　鑛業財團抵當ニ關シテハ鑛業抵當法ニ依ル但シ同法中採掘權トアルハ鑛業權、採掘權者トアルハ鑛業權者、鑛山監督署長トアルハ朝鮮總督トス

第三條　鐵道及軌道ノ抵當ニ關シテハ明治四十二年法律第二十八號ニ依ル但シ同法中軌道トアルハ鐵道又ハ軌道、軌道營業者トアルハ鐵道營業者又ハ軌道營業者、特許トアルハ許可、勅令トアルハ朝鮮總督府令トス

第四條　鐵道財團又ハ軌道財團ニ對スル强制執行ハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳ノ管轄ニ專屬ス

鐵道財團又ハ軌道財團ノ所有者タル會社カ朝鮮外ニ本店ヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ管轄裁判所ハ京城地方法院トス

第五條　鐵道抵當原簿及軌道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄及軌道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條　本令ニ依リ官報ニ掲載シテ爲スヘキ公告ハ朝鮮總督府官報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則（大正九年六月制令第十號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

● 朝鮮財團抵當令及大正八年制令第九號施行期日

大正八年四月
總令第七十八號

朝鮮財團抵當令及大正八年制令第九號ハ大正八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 朝鮮財團抵當令中改正ノ制令施行期日

大正九年十一月
總令第百八十二號

大正九年制令第十號ハ大正九年十一月十二日ヨリ之ヲ施行ス

◉工場抵當法

明治三十八年三月
法律第五十四號

股令國議會ノ協賛ヲ經タル工場抵當法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工場抵當法

第一條　本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ
營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第二條　工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニ及ヒ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ工場ノ所有者カ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條　工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第四條　第二條第一項但書ニ揭ケタル別段ノ定アルトキハ抵當權設定ノ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第五條　抵當權ハ第二條ノ規定ニ依リテ其ノ目的タル物カ第三取得者ニ引渡サレタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得
前項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六條　工場ノ所有者カ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス
工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキニ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス
工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押又ハ假處分アル前ニ於テ正當ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及フ
第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ非サレハ差押、假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條　工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ揭ケ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

第九條　工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第十條　工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後二箇月內ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　工場財團ハ左ニ揭クルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得
一　工場ニ屬スル土地及工作物
二　機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物
三　地上權
四　賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
五　工業所有權

第十二條　工場ニ屬スル土地又ハ建物ニシテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クルニハ其ノ所有權保存ノ登記ヲ受ケヘシ

第十三條　他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノハ工場財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ賃貸ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　工場財團ハ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキニ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス
工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

第十五條　前條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出ナキトキハ其ノ權利ハ存在セサルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　第二條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第十七條　工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第十八條　第二條、民法第三百七十一條、第三百八十八條及第三百八十九條ノ規定ハ土地又ハ建物カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　第二條第一項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第二十條　工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第二十一條　工場財團ハ所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項ニ揭ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ

第二十二條　工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項ニ揭ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ
前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ揭ケ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

第二十三條　所有權保存ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ財團ニ屬スヘキモノニシテ登記官吏ノ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノト定メタル事項ヲ記載シタル後工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ工場ノ名稱及位置
二　主タル營業ノ種類
三　營業ノ種類

第二十四條　前條ノ場合ニ於テ登記官吏ハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間內ニ其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月以上三箇月以下トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ滿了前ニ却下セラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ取消スヘシ

第二十五條　前條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出ナキトキハ其ノ權利ハ存在セサルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　第二十四條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所有權保存ノ登記ノ申請人ニ通知スヘシ

第二十七條　所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動產登記法第四十九條ニ揭ケタル別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　登記官吏ハ所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ
他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遲滯ナク通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條　工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登錄アルモノハ第二十三條ノ記載ヲ爲シタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ賃貸ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　第二十三條ノ記載アリタル後競賣ノ申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ登記カ效力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若ハ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘシ

第三十三條　工場財團ニ屬スヘキ動產ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十四條　登記官吏カ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ區裁判所ノ管轄地內ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動產登記法第四十九條ニ揭ケタル別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　工場財團ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ第二十三條第一項ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十七條　登記官吏カ抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ抵當權者ノ爲ニ差押、假差押又ハ假處分ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿謄本ノ送付ヲ要セス

第三十八條　工場財團目錄ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所有者ハ遲滯ナク工場財團目錄ノ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ抵當權者ノ同意書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十九條　工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノ又ハ新ニ屬シタルモノノ表示ヲ揭ケタル目錄ヲ提出スヘシ

第四十條　工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ニ登記シタル事項ニシテ變更ノ登記ヲ爲ササルモノニ付之ヲ抹消スヘシ

第四十一條　新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ目錄ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條　工場財團ニ屬シタルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ目錄中其ノ登記ノ目的タルモノノ表示ノ側ニ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ朱抹スヘシ

第四十三條　第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ記載シ第二十三條及第三十四條ノ記載ヲ抹消スヘシ

第四十五條　工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ賃貸ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　第二十四條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出アリタル後ハ工場財團ニ屬スヘキ動產ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ競賣ノ申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒ又ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタルトキハ、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル權利ノ登記又ハ登錄ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ囑託スヘシ

第四十八條　工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタル旨ノ記載ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スヘシ

第四十九條　工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡又ハ賃入ノ目的ヲ以テ第二條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タル物ヲ第三者ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ【重禁錮】ニ處ス
前項ニ規定シタル行爲ト雖刑法ニ正條アル

法人ハ採掘權取消ノ登錄アリタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採掘權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條　前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　鑛竇ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ法人ヲ設立セムトスル者カ鑛竇ニ加入スルトキハ鑛竇ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ鑛竇ニ加入スル者ハ鑛竇ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第七條　鑛業財團ノ鑛落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ鑛竇ニ加入シタル者ナルトキハ鑛落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ

第八條　前條ノ鑛落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以内ニ鑛落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ鑛落人タル場合ニ於テハ自己カ鑛落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條　前條ノ規定ニ依リ鑛落代金ノ支拂アリタルトキハ鑛竇ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ鑛落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス

第十條　第七條ノ期間内ニ法人設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ鑛落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再鑛竇ヲ命スヘシ

前項ノ再鑛竇ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十八年六月二十七日勅令第百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

軌道ノ抵當ニ關スル件

明治四十二年四月
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軌道ノ抵當ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス

第二條　軌道財團ノ左ニ揭クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　軌道線路、其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械

二　工場、倉庫、廐舍、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

三　用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

四　軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　車輛及馬匹竝之ニ屬スル器具機械

七　保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノヲ軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條　公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條　軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十二年七月二十一日勅令第百九十一號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行）

鐵道抵當法

明治三十八年三月
法律第五十三號

改正　大正八年第五六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道抵當法ヲ裁可玆ニ之ヲ公布セシム

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ會社ト稱スルハ地方鐵道條式會社ヲ謂フ

第二條　會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得

鐵道財團ニハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅スル第三條　鐵道財團ハ左ニ揭クルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械

二　工場、倉庫、廐舍、發電所、變壓所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

三　用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

四　鐵道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　車輛及之ニ屬スル器具機械

七　保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

會社カ鐵道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣

供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノハ之ヲ鐵道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第四條　鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニシテ貸借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設クルコトヲ得ス但シ不動産ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト雖一方法ノ決議ヲ經監督官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第六條　鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條　抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二　抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三　抵當權ノ順位

四　債權額及償還ノ方法竝期限

五　利率及利息支拂ノ方法竝期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條　抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

監督官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公告後六箇月内ニ抵當權設定認可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條　前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條　第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ揭ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競竇ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スル第二項ニ揭ケタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノハ亦同シ

前項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リテ鐵道財團ニ屬セシメタルモノニ之ヲ準用ス

前二項ニ揭ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノハ登記ニ關スル其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可アリタル後六箇月内ニ抵當權ノ設定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ抵當權ノ設定ヲ爲シタルトキハ第四條第三項ノ權利ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條　第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定カ認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條　抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月内ニ其ノ登錄ノ申請ヲナキトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條　抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條　抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登錄ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條　數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第十七條　抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條　抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルニ至ル迄鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十九條　抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、減失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ監督官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ慶アリト認ムルトキハ監督官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者カ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

免許ノ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條　債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者カ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條　前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條　抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配

當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條　政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二十六條ノ二　株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二章　登錄

第二十七條　鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲監督官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第二十八條　登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條　抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　抵當權ノ設定ニ關スル證書

二　鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條　抵當權設定ノ登錄ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

一　第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項

二　免許ニ附シタル條件

三　抵當權ヲ設定シタルコト

四　抵當權設定認可ノ年月日

五　登錄ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登錄スルコトヲ要セス

第三十一條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナク變更又ハ消滅ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

變更又ハ消滅カ監督官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條　同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ變更スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條　鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登錄ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條　鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヘシ

前項ノ屆書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條　一用紙ノ抵當權ノ登錄カ全部抹消セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

一　第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキ

二　不動産ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三　鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條　登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノカ監督官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閲覽ヲ請求シ又ハ手數料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條　鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ樣式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第三章　强制競賣及强制管理

第四十條　鐵道財團ニ對スル抵當權ノ强制執行ハ强制競賣又ハ强制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ强制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ强制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス

第四十二條　强制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條　强制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一　債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地

二　競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

三　競賣ノ原因タル事由

四　年月日

五　裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ强制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條　强制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ取下クルコトヲ得

第四十五條　競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條　裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條　裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間內ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條　裁判所ハ監督官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條　裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

二　競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時

三　最低競賣價額

四　競落期日ノ場所及日時

五　執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所

第五十條　〔削除〕

第五十一條　鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リ之ヲ適用セス

第五十二條　競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條　裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條　〔削除〕

第五十五條　競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條　入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五十七條　裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條　裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二　競賣申立人ノ表示

三　入札及開札ノ日時

四　總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト竝第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時竝最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條　强制競賣申立ノ取下若ハ强制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十三條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條　競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限リ競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限リ競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條　裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條　競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第六十五條　競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ第七十三條ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條　競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス

抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條　第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ、第七十三條ノ期間內ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ許可ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ

第六十八條　裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スルコト

二　競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記竝第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條　競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄ヲ抹消スヘシ

第七十條　裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限リ競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ數箇ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條　前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條　〔削除〕

第七十三條　競落人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ許可ヲ申請スヘシ

第七十四條　競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記謄本ヲ添附スヘシ

第七十五條　〔削除〕

第七十六條　監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ許可スヘシ

第七十七條　第七十三條ノ許可ハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條ノ許可カ效力ヲ生シタルトキハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條　强制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　强制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第八十條　前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ强制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條　監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

監督官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

監督官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條　監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條　鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條　强制管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條　管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條　鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ負フ

第八十七條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ差出スヘシ

監督官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間內ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間內ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス

此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條　管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條　强制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

强制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ强制管理ノ取消ヲ命スヘシ

强制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ强制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條　前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外强制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章　罰則

第九十二條　左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二　第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ

四　登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ

五　鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十四條ノ屆出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シタルトキ

六　管理方法ニ付監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

七　第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

八　配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ

九　第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ

第九十三條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十八年勅令第百八十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

◉朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則

大正八年五月
總令第八十四號

改正　大正九年一月第二八三號

朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則左ノ通定ム

朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則

第一條　本令ニ於テ抵當權ト稱スルハ鐵道抵當權又ハ軌道抵當權、財團ト稱スルハ鐵道財團又ハ軌道財團、財團目錄ト稱スルハ鐵道財團目錄又ハ軌道財團目錄、抵當原簿ト稱スルハ鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ヲ謂フ

第二條　抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ朝鮮總督ニ之ヲ提出スヘシ

第三條　抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及財團目錄ノ外尙左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　抵當證書ノ謄本

二　株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三　最終ノ貸借對照表

四　元利支拂ノ豫算

五　株金總額及拂込額ノ登記抄本

六　社債ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條ノ二　軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ前條第一項ニ揭ケル書類ノ外物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書ヲ添附スヘシ

第四條　抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ抵當權設定ノ認可申請書ニ財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第五條　第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　第三條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

第七條　抵當證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第三條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由及年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ屆出ツヘシ

第八條　抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ財團目錄ノ外第三條第一項第三號及第四號ニ揭ケル書類ヲ添附スヘシ

第九條　鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第十條　抵當原簿ハ別記第一號樣式ニ依ル

第十一條　財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條　財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

第十三條　財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ屆書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ財團目錄ノ樣式ニ依リ掲クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及未開業線ノ財團ニ屬スルモノノ變更又ハ消滅ノ屆出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十四條　抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人タルヘキ者ノ名稱、住所

一　債務者ノ名稱及住所

二　抵當權者、債務者及財團ノ所有者ノ名稱及住所

三　抵當權ノ順位

四　債權額及償還ノ方法竝期限

五　利率及利息支拂ノ方法竝期限

六　許可ニ附シタル條件

七　抵當權ヲ設定シタルコト

八　抵當權設定認可ノ年月日

九　登錄稅額

第十五條　登錄ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十六條　登錄申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登錄濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十七條　第十四條ノ規定ハ登錄シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登錄申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登錄申請書ハ正副二通ヲ差出スヘシ

第十八條　抵當原簿ニ登錄ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又ハ信託證書ニ、登錄事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十九條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者アルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十條　抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ抵當權者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ

但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖仍之ヲ一枚ニ計算ス

手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十二條　鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所

二　裁定事件ノ表示

三　申請ノ要旨及理由

第二十三條　前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者又ハ對手人ヨリ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十四條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所

二　裁定事件ノ表示

三　答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十五條　必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　裁定申請者若ハ對手人期間內ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　第二十二條乃至第二十六條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十八條　執行力アル正本ハ付與ノ申請書ニ添附スル左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一　債務者及財團所有者ノ名稱及住所

二　強制執行ヲ要スル事由

第二十九條　管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一　管理人タルヘキ者ノ名稱、住所

二　管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第三十條　削除

第三十一條　本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

附則

本令ハ朝鮮財團抵當令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正九年十一月總令第百八十三號）

本令ハ大正九年制令第十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

（第一號樣式）

登錄番號	第　號	
表題部		備考
第一號	財團所屬線路	
第二號	許可條件	
第三號	財團所有者ノ名稱及住所	

（第二號樣式）

鐵道（軌道）財團目錄

某鐵道（軌道）株式會社

第四號	第五號	第六號	第七號	第八號	第九號	第十號	第十一號	第十二號	第十三號
債務者ノ名稱及住所	抵當權者ノ名稱及住所	抵當權ノ順位	債權額	元金償還ノ方法竝期限	利率	利息支拂ノ方法及期限	抵當權設定ノ認可年月日	抵當權ヲ設定シタル事	以上登錄ノ年月日

線路

區間	本線 軌道總長	本線 複線	本線 三線以上	側線 軌間	軌條重量
、、、間	一〇・〇 哩	九・一〇 哩	鎖	鎖	呎 吋
、、、間	七・〇〇	四・〇〇	七〇〇	二六・一〇	五六〇
、、、間	二・六六	二・四〇	二・六	二五	封度 三〇
、、、間	一三・六六	二・四〇	二・六	二五	封度 三〇

備考　鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應シ總段別又ハ總坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

鐵道用地

區間	線路	停車場	工場	舍宅	何何	何何
、、、間	一三、七〇七・三一五 反畝歩	三、六〇〇・五二〇 反畝歩	一五〇、〇〇〇 坪	四五〇、〇〇〇 坪	一〇、〇〇〇 坪	五、〇〇〇 坪

備考　鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應シ總段別又ハ總坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

鐵道用地以外ノ用地

道、府、郡、面	里洞	地番	地目	段別、坪數	使用種類
、、道、府、郡、面	、、、、	一二一	垈	一二〇 坪	工場用
、、道、府、郡、面	、、、、	一二二	田	一、三一一 坪	工場用

橋梁

名稱	位置	桁又ハ橋臺、橋脚ノ種類	橋臺、橋脚構造	單線、複線又ハ何線	徑間長	徑間數
、、川	一、四〇〇・〇〇 哩 鎖 節	鋼鉸桁梁、鋼	煉瓦造	單線	二〇 呎 吋	一

備考　權利ノ種類ニ依リ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

地上權、賃借權、地役權

道、府、郡、面	里洞	地番	地目	段別 坪數	用方	期限	使用料金	權利設定及登記年月日	土地所有者氏名
、、道、府、郡、面	、、、、	二一五	垈	一、五六五 坪	工場用				
、、道、府、郡、面	、、、、	三四五	畓	五、〇〇〇 坪	線路用	大正二十年	壹坪ニ付壹圓八拾錢	大正七年五月五日	某
、、道、府、郡、面	、、、、	七、二一〇	田	一〇、〇〇〇	工場用	大正五十年	壹坪ニ付壹圓貳拾錢	大正八年二月十日	某

備考　鐵道用地以外ノ用地ハ道、府、郡、面、里洞ノ順序ニ依リ種類ヲ追フテ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

舍宅用	何何								
用水用									
本社用									
事務所用									
何何用									

、、、川	二五〇・五〇	桁、鋼	石	造	同	上	六〇・〇		一五
、、、川	一〇三・〇〇	半圓形、拱	煉瓦	造	複	線	一二〇		一
、、、川	二五五・〇〇	ブラット式構桁	石及煉瓦混造		單	線	二〇〇・〇		一〇
、、、川	三〇・〇〇・〇	木	桁	木	造	同	上	一五・〇	一〇

溝橋

區間	徑間	箇所	所屬器具機械
、、、間	三呎乃至十一呎	八五	

隧道

名稱	位置	構造	延長	所在地、府、郡、面、里洞、地番	所屬器具機械
、、、	自二・五〇 哩 鎖 節 至三・九・五〇	石及煉瓦混造	複線	府、郡、面、里洞、番地	椅子、脚机、脚金庫、箇、其ノ他器具一切
、、、	自二五・五〇・四〇 呎 時 至二五・七〇・五五	煉瓦造	單線		

電線

種類	區間	線數	延長	所屬器具機械
電信	、、、、、間	二	一五・五 里 町 間	一〇 斤
電話	、、、、、間	三	二五・二五・二五	一七
信號線	、、、、、間	二	二・二・二	一〇
電車用架空線	、、、、、間	單線	、、、、、、	
送電線	、、、、、間	二	、、、、、、	

建物其ノ他工作物

種類	構造	坪又ハ延長等	所在地、府、郡、面、里洞、地番	所屬器具機械
停車場本屋附屬建物	煉瓦造瓦葺平家、木造亞鉛葺平家合セテ三棟	二〇〇 坪	府、郡、面、里洞、番地	椅子、脚机、脚金庫、箇、其ノ他器具一切
乘降場附屬上屋	擁壁石造木造柿葺平家	五、五〇〇 呎 坪 一五	同所	
發電所	木造瓦葺二階家煉瓦造瓦葺平家	外二階 五〇 三〇 二〇 坪	同所	橫置二回膨脹凝汽機關、臺、水管式汽鑵、臺、橫置給水喞筒、臺、交番式發電機、臺、變壓機、臺、其ノ他盤、臺、配電器具機械一切
原動機室	、、、、、、、、			竪直二回膨脹汽鑵、臺、コルニツシユ汽鑵、箇、ウオルシントン給水喞筒、臺、直流發電機、臺、ルーツ送風器、臺、其ノ他器具機械一切
煙突	煉瓦造八角	高 四〇 呎	底部面積 二・三 坪	
鑄物工場	、、、、、			熔鑛爐、臺、木製扛重機、臺、其ノ他器具機械一切
木型工場	、、、、、			木削旋盤、臺、其ノ他器具機械一切
鍛冶工場	、、、、、			火床、箇、金敷、箇、水壓搾機、臺、汽槌、臺、鐵製扛重機、臺、其ノ他器具機械一切
機械工場	、、、、、			旋盤、臺、プレーニング機械、臺、旋盤機械、臺、車輪ミリング機械、臺、穿孔盤、臺、シエーピング機械、臺、スロツチン機械、臺、車軸筬入機械、臺、其ノ他器具機械一切
組立工場	、、、、、			

製罐工場	、、、、	、、、、	、、、	易搬扛重機、、、臺、穿孔及剪裁盤、、、臺、水力鋲綴機、、、臺、、其ノ他器具機械一切
木工場	、、、	、、、、	、、、	帶鋸機械、、臺、丸鋸機械、、臺、、其ノ他器具機械一切
塗工場	、、、、	、、、、	、、、、	ペイントミル、、臺、、、其ノ他器具機械一切
、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、、、

備考

一 建物及工作物ハ停車場本屋、乘降場、機關庫、客車庫、信號所、跨線橋、踏切番所、發電所、配電所、變壓所、本社、事務所、工場(各種ニ區別シ)舍宅、倉庫、給水場、轉車臺、遷車盤、貨物揭卸場、棧橋用水池等主ナルモノヲ揭ケ一棟又ハ一箇每ニ種類ヲ追フテ之ヲ記載シ又所屬器具機械ハ馬力又ハ噸數等ノ明瞭ナルモノハ之ヲ附記スヘシ

二 附屬建物ハ本建物ノ欄ニ其ノ棟數及坪數ヲ合記シ小建造物ハ末尾ノ欄ニ其ノ棟數及坪數ヲ合記スヘシ

三 所屬器具機械ハ重ナルモノノ種類數量ヲ揭ケ「其ノ他器具機械一切」ト記載スヘシ以下諸表亦同シ

煙突ハ獨立セル大ナルモノヲ記載シ各建造物ニ附屬セルモノノ如キハ之ヲ記載スルニ及ハス

機關庫

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	重量(噸)	輛數	所屬器具機械
テンダーエンジン	六輪聯働單式八輪車	A一	米國ボルダー	一、九一〇	一七	一	ジャッキ、スパンナ、油差等其ノ他器具一切
タンクエンジン	四輪聯働單式四輪車	B一五乃至二〇	米國ボールト、ウヰン	一、九一五	一五	六	

客車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	定員	手小荷物室郵便室容積	輛數	所屬器具機械
特等	四輪ボギー端扉	トク二乃至七	、、工場	大正六年	一六		六	手用制動機、燈器等一切
特、竝合造	四輪ボギー端扉	トナ三〇	、、、、	、、、、	特一二 竝二三		一	同上
緩急合造郵便車	四輪車	ユブ三乃至八	、、、、	、、、、		小手荷物室二五〇立方呎 郵便室一二五〇	六	同上
電車	四輪電動車	テ五乃至八	、、、、	、、、、	五〇		四	手用制動機、コンフローラー電動機等一切

貨車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	積量	輛數	所屬器具機械
貨物緩急車	四輪ボギー車	ウブ一	、、工場	大正六年	重量五、〇〇〇噸 容量五〇〇立方呎	一	手用制動器及信號燈
有蓋貨車	四輪車	ワ一乃至一五	、、、、	、、、、	同五、〇〇〇	一五	車側制動機
無蓋貨車	四枚側四輪車	ト一乃至一五	、、、、	、、、、	同五、〇〇〇	一五	眞空制動機
土建車	二枚側四輪車	ツチ一乃至一〇	、、、、	、、、、	重量四、〇〇〇	一〇	車側制動機

保線材料及器具機械

材料名稱	現在數	所在地
軌條	三十三呎(三十磅)一、〇〇〇本 十八呎(二十五磅)五〇〇本	、、、停車場內
枕木	普通三、〇〇〇挺 ポイント用二、〇〇〇挺 橋梁用一、〇〇〇挺	、、、、、、
砂利	三〇〇坪	、、、停車場附近
石材	一〇、〇〇〇切	、、、、、、

器具器械ノ名稱	現在數	所在地
杭打器械	一〇臺	、、、倉庫
ブロック	五〇箇	、、、、
ショベル	一〇〇箇	、、、、
ジャッキ、トラベリング	五箇	、、、、、

備考 線路ニ要スル材料ハ軌條、枕木、砂利、鐵材、煉瓦、セメント等主ナルモノヲ記載スヘシ

保線材料及器具機械ハ表記ノ外末尾ニ其ノ他一切所屬ノ旨ヲ記載スヘシ

馬 四

種類	名稱	性	毛色	年齡	體尺	產地	特徵
內地種	、、	牡	靑	五歲	五尺	熊本縣	頭ニ毛旋アリ
雜種	、、	、、	、、	、、	、、	、、、	、、、、
外國種	、、	、、	、、	、、	、、	、、、	、、、、、

電氣供給用電線路

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支持物	亙長	所屬器具機械
送電線	何何發電所ヨリ何何變壓所ニ至ル間	三	專用	、、、里、、町間	
送電線	何何變壓所ヨリ何何、、所ニ至ル間	六	專用	、、、、	
配電線	供給區域何何府內一圓	三條乃至、、、條	專用一部何何會社電燈線ヲ添架セシム	、、、、	柱上變壓器、、箇
配電線	供給區域何何面內一圓	三條乃至、、、條	一部ハ專用一部ハ何何電燈會社ノ電線路ニ架設	專用設分、、他會社ニ添架ノ分、、、	、、、
配電線	何何面何何洞一圓	、、、、	、、、、	、、、、	、、、

〔朝〕

第二款 登記

●朝鮮不動產登記令

明治四十五年三月 制令第九號

改正 大正三年五第一五號、一〇年一第一號

朝鮮不動產登記令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮不動產登記令

第一條 不動產ニ關スル權利ノ登記ニ付テハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外不動產登記法ニ依ル但シ同法第十一條中百年トアルハ二十年トス

前項ノ法律ノ適用ニ付テハ典當權ハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ不動產質權又ハ抵當權ト看做シ林野臺帳ハ之ヲ土地臺帳ト看做ス

第二條 不動產登記法ノ適用ニ付テハ司法大臣ハ朝鮮總督ニ、地方裁判所ハ覆審法院ニ、地方裁判所長ハ地方法院長ニ區裁判所又ハ其ノ出張所ハ地方法院其ノ支廳又ハ出張所ニ、府縣ハ道ニ、郡ハ郡ニ、市ハ府ニ、町村ハ面又ハ之ニ準スルモノニ該當ス

第二條ノ二 各種ノ登記簿ハ府又ハ面每ニ別冊ト爲ス但シ登記事件夥多ナル府又ハ面ニ在リテハ町洞其ノ他ノ區劃ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第二條ノ三 土地調査令又ハ朝鮮林野調査令ニ依ル調査ヲ行ハサル未登記ノ土地ノ所有權ノ登記ハ府尹又ハ郡守ノ認證ニ依リ其ノ所有權ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第三條 申請書其ノ他ノ附屬書類ハ檢事ノ囑託アリタルトキモ之ヲ登記所外ニ持出スコトヲ得

第四條 送達ニ付テハ朝鮮民事令ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令施行ノ地域及期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附 則

第六條 削除

第七條 本令施行前不動產登記法又ハ朝鮮不動產證明令ニ依リ爲シタル登記又ハ證明ハ本令ニ依リ爲シタル登記ト看做ス

第八條 本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動產ニ付登記ヲ爲スヘキトキハ第九條ノ場合ヲ除クノ外舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中本令ノ規定ニ依リ必要ナル事項ヲ登記簿ニ移記シタル後登記ヲ爲シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ移記ヲ爲スニハ登記番號欄ニ登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記又ハ證明ノ番號ヲ附記シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ移シ相當區ノ順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及事項ヲ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ同一ノ不動產ニ關シ登記ト證明ト竝存スルトキハ所有權其ノ他ニ關スル事項ニ付テハ登記及證明ヲ通シテ日附ノ順序ニ依リ之ヲ移記シ移記ノ順序ヲ追ヒテ新ニ順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニハ前登記又ハ證明ノ順位番號ヲ附記スヘシ但シ同一事項ニ付テハ日附ノ早キモノノミヲ移記スヘシ

第八條ノ二 本令施行前登記及證明ヲ爲シタル不動產ニ付登記ヲ申請シタル場合ニ於テ登記ト證明ト牴觸スルトキハ登記官吏ハ假ニ登記ヲ爲シ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ不動產ノ表示ノミカ牴觸スル場合ニ於テ同一不

〔朝〕

動産ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ申請書ニ添附シタルトキハ前條ノ規定ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ初テ假ニ登記ヲ爲ス場合ニハ前條第一項及第二項ノ規定ニ準シ登記及護明ヲ各別ニ移記シタル後之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

抵觸スル登記又ハ證明ノ抹消アリタルトキハ第一項ノ規定ニ依リ假ニ爲シタル登記ハ其ノ登記ノ日ヨリ之ヲ本登記ト看做ス此ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ假ニ爲シタル登記ノ餘白ニ本登記ト爲リタル旨及其ノ事由年月日ヲ記載シ第一項ノ登記申請者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條　本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動產ノ登記又ハ證明ニ付滅失又ハ抹消ノ登記ヲ爲スヘキトキハ從前ノ例ニ依リ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ニ滅失又ハ抹消ノ記入ヲ爲スヘシ

第十條　本令施行地域內ニ在ル不動產ノ證明ニ關スル帳簿書類又ハ其ノ謄本ハ不動產登記法第九條ノ規定ニ準シ管轄登記所ニ之ヲ移送スヘシ

前項ノ規定ニ依リ移送シタル證明簿又ハ證明臺帳ノ謄本ハ之ヲ證明簿又ハ證明臺帳ト看做ス

● 不動產登記法

明治三十二年二月
法律第二十四號
改正　明治三八年三法二九號、四四年三法一二號、大正二年四法六四號、八年三法二四號、二年四法八六號、八年三法二四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル不動產登記法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

不動產登記法

第一章　總則
第二章　登記所及登記官吏
第三章　登記ニ關スル帳簿
第四章　登記手續

第一節　通則

第二節　所有權ニ關スル登記手續
第三節　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續
第四節　抹消ニ關スル登記手續
第五章　抗告
附則

不動產登記法

第一章　總則

第一條　登記ハ左ニ揭ケタル不動產ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

一　所有權
二　地上權
三　永小作權
四　地役權
五　先取特權
六　質權
七　抵當權
八　賃借權

第二條　假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ

二　前條ニ揭ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條　豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條　詐欺又ハ强迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條　他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登證ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條　同一ノ不動產ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第七條　附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ニ依ル

第二章　登記所及登記官吏

第八條　登記スヘキ權利ノ目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動產カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第八條ノ二　司法大臣ハ一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ他ノ登記所ニ委任スルコトヲ得

第九條　町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其ノ區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一箇又ハ數箇ノ不動產ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動產ニ關スル登記簿ノ謄本及附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノミヲ移送シ其不動產ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條　登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條　登記所ハ土地ニ付キ左ニ揭ケタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス

一　所有權ノ保存若クハ移轉

二　質權ノ設定及ヒ存續期間、存續期間ノ變更、移轉若クハ消滅

三　百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ設定、移轉若クハ消滅又ハ百年ヨリ長キ存續期間ヲ百年以下ノ存續期間ニ變更シ若クハ百年以下ノ存續期間ヲ百年ヨリ長キ期間ニ變更シ又ハ存續期間ノ定ナキ地上權ニ百年ヨリ長キ期間ヲ定メ若クハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ヲ存續期間ノ定ナキモノト爲シタルコト

四　所有權、賃權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ登記名義人ノ表示ノ變更

第十二條　登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等內ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等內ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作リ立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第十三條　登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章　登記ニ關スル帳簿

第十四條　登記簿ハ土地登記簿及建物登記簿ノ二種トス

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村每ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條　登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ

同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動產カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨カルトキハ其一箇ノ區畫ノ登記簿ニノミ其不動產ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條　登記簿ハ其用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙ノ二區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地又ハ建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ所有權以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條　削除

第十八條　登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且每葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

第二十條　登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害關係ノ部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條ノ二　登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者カ不動產ノ目錄ヲ提出シタルトキハ登記所ハ其書面ヲ用キテ謄本又ハ抄本ヲ作成スルコトヲ得

第二十二條　登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ揭ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命ヲ受ケ又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三箇月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間內ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條　登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十五條　登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條ノ二　滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動產ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十九條　登記ハ登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

官廳又ハ公署カ取得シタル不動產ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但シ官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條　假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條　假登記權利者ノ申請ニ因リ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動產ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條　假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條ノ二　滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動產ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十三條　假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條　豫告登記ハ第三條ニ揭ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條　登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登記原因ヲ證スル書面

三　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四　登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

六　登記原因ヲ證スル書面ヲ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ揭ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　不動產所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二　地目及ヒ段別又ハ坪數

三　申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

四　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所

五　登記原因及ヒ其日附

六　登記ノ目的

七　登記所ノ表示

第三十七條　登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ附屬建物ノ番號アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二號ニ揭ケタル事項ノ前項ノ申請書ニハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第三十八條　登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定アルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條　登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條　登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戶籍謄ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十二條　申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十三條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十四條　登記義務者ノ權利ニ關スル登記ノ消滅ヲ證スル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面二通ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十五條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十七條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏カ申請書ヲ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條　登記官吏ハ左ノ場合ニ限リ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請人カ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ卽日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一　事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セサルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ揭ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

第五十條　表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十一條　登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要ス但シ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得

第五十二條　登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得

第五十三條　登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要ス

第五十四條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十五條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十六條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十七條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十八條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十九條　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第六十條　表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス但シ登記義務者ノ氏名、住所ヲ記載スルニ及ハス

第六十一條　登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合ニ於テハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス但シ登記義務者ノ氏名、住所ヲ記載スルニ及ハス

第六十二條　申請書ニ揭ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ヲ添付シタルトキハ其書面ニ揭ケタル事項ニシテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十三條　申請書ニ揭ケタル事項カ登記簿ト牴觸スルトキハ申請書ニ揭ケタル事項ニシテ登記簿ト牴觸スル部分ニ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十四條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ登記ノ目的、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要ス

第六十五條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙ニ登記ノ年月日ヲ記載シ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第六十六條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第六十九條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十一條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十二條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十三條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十四條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十五條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十六條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十七條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ申請書ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第四十二條　申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十三條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十四條　登記義務者ノ權利ニ關スル登記ノ消滅ヲ證スル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面二通ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十五條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十七條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏ハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條　登記官吏ハ左ノ場合ニ限リ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請人カ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ卽日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一　事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セサルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ揭ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

第五十一條　第四十四條ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記ノ完了シタル旨ヲ登記義務者又ハ其ノ一人ニ通知スルコトヲ要ス

第五十二條　官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ嘱託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ還滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第五十三條　登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ還滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第五十三條ノ二　前條ノ場合ニ於テ登記ノ錯誤又ハ遺漏カ登記官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十四條　登記官吏カ登記ヲ完了シタル後登記原因ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタルトキハ職權ヲ以テ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五十五條　假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條　權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上ノ利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條　權利ノ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第五十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ノ登記ヲ爲スニ非サレハ其變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條　行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第六十條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ揭ケタル書面ノ一通ニハ申請書受付ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但前項ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第六十一條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其登記ヲ爲シタル旨ヲ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十二條　官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ嘱託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ還滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條　登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ還滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十三條ノ二　前二條ノ通知ハ第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條　第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條　登記ノ回復ヲ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲

シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條　第九條第二項ノ場合ニ於テ乙區記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記濟ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十八條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其不動産ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ニ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條　登記官吏カ登記ヲ移シタルトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十條　所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其部分ノ表示ヲ爲シ若シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十一條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ增減又ハ地目若クハ番號ノ變更アリタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條　前條ノ場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第七十二條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十四條　假登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記用紙ニ記載シタル事項ニ付キ登記ヲ爲シタル旨ヲ申請書ニ記載スルコトヲ要ス

第七十五條　假登記ヲ爲シタルトキハ當事者カ登記濟證ヲ提出スル場合ニ於テハ登記用紙中假登記ノ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且登記濟證ヲ還付スルコトヲ要ス

第七十六條　登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲シ又ハ除カサルトキハ新用紙ニ轉寫シ前用紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ記載シ且前用紙ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十七條　登記用紙ニ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中前用紙登記番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十八條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ登記ヲ申請スルトキハ甲地ノ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第七十九條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ增減又ハ地目若クハ番號ノ變更アリタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條　前條ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記濟ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十條　前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合、滅失若クハ增減シタル段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ坪數又ハ新地目若クハ新番號ヲ記載シ且土地臺帳謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十一條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十三條　前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ移シタル旨ヲ記載シ且甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其朱抹スルコトヲ要ス

第八十五條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙部ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲スヘキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關ス

ル登記ヲ轉寫シ其登記カ合併シタル部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條　甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合筆ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ鎖スルコトヲ要ス

第八十七條　前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其登記カ甲地タリシ部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地タリシ部分ノミカ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條　土地ノ段別又ハ坪數ノ增減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ增減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十九條　地目又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條　削除

第九十一條　建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其滅失、其建坪ノ增減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス

建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條　前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ滅失、增減若クハ新築シタル建坪竝ニ現在ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新番號ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ增減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條　建物ノ分合、其構造ノ變更、其滅失又ハ其建坪ノ減少ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條　甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第九十五條　甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條　第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲スノ外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條　第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條　甲建物ヲ乙建物又ハ其ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條　第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ增減ノ登記ニ之ヲ準用ス

附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第百條　第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更、建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更又ハ敷地ノ番號ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百條ノ二　行政區畫又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ番號ノ變更アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク登記用紙中表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百一條　不動産ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第百二條　前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動産カ他ノ不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ滅失シタル不動産ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動産ノ滅失シタルコトヲ附記シ其不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動産ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

他ノ不動産ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條ノ二　既登記ノ不動産ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ノ抹消ノ囑託アリタルトキハ登記用紙中表示欄ニ世傳御料ニ編入シタル旨ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百二條ノ三　既登記ノ土地カ河川ノ敷地ト爲リタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滯ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ登記用紙中表示欄ニ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載シ土地ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百二條ノ規定ヲ準用ス

第百三條　土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ

土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滯ナク前二項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百三條ノ二　第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ第百二條ノ三第二項及ヒ前條第二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百三條ノ三　不動産ニ付キ遺留財産ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク遺留財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百四條　不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク世襲財産ノ創設ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

管理人カ其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四條ノ二　不動産ノ信託ノ登記ニ付テハ受託者ヲ登記權利者トシ委託者ヲ登記義務者トス

第百四條ノ三　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ信託ノ登記ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ四　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登記ノ申請ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ申請書ニ代位原因ヲ證スル書面ノ外登記ノ目的タル不動産カ信託財産タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百四條ノ五　信託ノ登記ノ申請ハ信託ニ因ル不動産ノ所有權ノ移轉ノ登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リ信託財産ニ屬スル不動産ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ六　受託者更迭ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ七　受託者ノ任務カ死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若クハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登記ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第百四條ノ八　信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

一　委託者、受託者、受益者及ヒ信託管理人ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其名稱及ヒ事務所
二　信託ノ目的
三　信託財産ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其他信託ノ條項

前項ノ書面ニハ申請人署名、捺印スルコトヲ要ス

第百四條ノ九　前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ハ之ヲ信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百四條ノ十　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第百四條ノ十一　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十二　裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十三　前三條ノ場合ヲ除ク外第百四條ノ八第一項ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受託者ハ遲滯ナク其變更ヲ證スル書面ヲ添ヘテ信託原簿ノ記載ヲ申請スルコトヲ要ス但第百四條ノ六又ハ第百四條ノ七ノ場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第百四條ノ十四　第百四條ノ十一ノ規定ニ依リテ信託原簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第百四條ノ十五　第百四條ノ二乃至前條ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第百五條　未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ揭ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者
二　判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第百六條　未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ揭ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者
二　土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者
三　既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者
四　判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第百七條　前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第百五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ記載シ必要ナル證明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及ヒ其日附ヲ記載シ又ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ揭ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第百八條　未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　第百二十八條及ヒ第百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動産所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百十條　官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ第百五條又ハ第百六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス

第三節　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第百十一條　地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十二條　永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十三條　地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十四條　地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ承役地タル不動産ノ表示ヲ爲シ其ノ不動産カ地役權ノ目的タル旨、地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス

要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役權設定ノ目的竝ニ範圍及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十五條　先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス但不動産工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十六條　質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申

請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但書ノ定アルトキ、第三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十七條　抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキハ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十八條　先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ申請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第百十九條　質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權又ハ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十一條　官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百二十二條　數個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十二條ノ二　前條ノ場合ニ於テ不動產カ五箇以上ナルトキハ申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ目錄ニハ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第百二十二條ノ三　一箇又ハ數箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ爲シタル後同一ノ債權ニ付キ他ノ一箇又ハ數箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十三條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル先取特權、質權、又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條　第百二十二條ノ規定ニ從ヒテ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一箇ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利カ共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條ノ二　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附シタル場合ニ於テ其一箇ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ共同擔保目錄ニ揭ケタル他ノ不動產ニ關スル權利ト共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

第百二十四條ノ三　共同擔保目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百二十四條ノ四　第百二十二條ノ三ノ規定ニ依ル登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ其登記及ヒ前ノ登記ニ各不動產ニ關スル權利カ共ニ擔保ノ目的タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條及ヒ第百二十四條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第百二十六條　數箇ノ不動產ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ニ其旨ヲ附記シ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス其一箇ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十六條ノ二　前條第一項ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ登記ハ共同擔保目錄アル場合ニ於テハ其目錄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十七條　賃借權ノ設定又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借賃ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ賃借權ノ移轉若クハ賃借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ賃貸借ヲ爲ス者カ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

賃借權ノ移轉又ハ賃借物ノ轉貸ヲ許シタル旨ノ登記アラサル場合ニ於テ賃借權ノ移轉又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ賃貸人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條ノ二　第百三條及ヒ第百三條ノ二ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用ニ因ル權利移轉ノ登記ニ、第百四條ノ二乃至第百四條ノ十五ノ規定ハ不動產ニ關スル所有權以外ノ權利ノ信託ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第百二十九條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十條　未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第百三十一條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十二條　既登記ノ不動產ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第百三十三條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ヲ目的トスル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　官廳又ハ公署カ未登記ノ不動產ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動產ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第百三十六條　建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請ス

ルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ヲ新築スヘキ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百三十七條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲スニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十八條　既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條　建物ヲ新築スルニ付キ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第百六條及ヒ第百七條ノ適用ヲ妨ケス

附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建築カ終リタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四十條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ建物ノ表示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第四節　抹消ニ關スル登記手續

第百四十一條　登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證スル戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十二條　登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權竝ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十二條ノ二　遺留財產ノ廢止ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク遺留財產ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス遺留財產ノ相續人ナキトキ亦同シ

第百四十三條　華族世襲財產ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク華族世襲財產ノ創設ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百四十三條ノ二　信託財產タル不動產ニ關スル權利ノ移轉ニ因リ其權利カ信託財產ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登記抹消ノ申請ハ移轉登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財產タル不動產ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第百四十四條　假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十五條　第三條ニ揭ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百四十六條　登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百四十七條　登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條　第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百四十九條　第百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動產ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動產ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

第百四十九條ノ二　登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者、登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ一个月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

第百四十九條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第百四十九條ノ四　前條第二項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百四十九條ノ五　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章　抗告

第百五十條　登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百五十一條　抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第百五十二條　抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其憑據ト爲スコトヲ得ス

第百五十三條　登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日內ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百五十四條　抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第百五十五條　抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

第百五十六條　抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ

附スルコトヲ要ス

第百五十七條　登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第百五十八條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百五十九條　送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第百六十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年勅令第百三十四號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行）

第百六十一條　明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第百六十二條　明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第百四十八號布告建物書入質入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

第百六十三條　本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ依ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第百六十四條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

（大正十一年四月法律第六十四號）

附　則（大正十一年法律第十八號）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年五月勅令第九十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

第二條　本法施行前ニ登記所ノ受附タル事件ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

第三條　本法施行前ニ調製シタル登記簿ハ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ關スル從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第四條　本法ニ依ル登記簿ニ始メテ登記ヲ爲ス場合ニ於ケル登記番號ハ從來ノ番號ヲ追ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條　從前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ本法ニ依ル登記簿ニ繼續用紙ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ乙區事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ新ナル順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　所有權以外ノ權利ニ關スル登記ノ前後ハ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノト本法ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノトノ間ニ在リテハ受附番號ニ依ル

第七條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタル所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ付キ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ主登記ヲ爲シタル區ノ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ本法ニ依ル登記簿ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキハ受附番號ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其左側ニ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ於ケル區ノ名稱及ヒ順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第九條　不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ登記官吏ハ其ノ事由ヲ記載シ又ハ職權ヲ以テ之ヲ登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十條　登記官吏ハ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲シタル後從前ノ登記簿ニ登記ヲ抹消スヘシ

第十一條　受附帳ハ附錄第六號雛形ニ依リ每年之ヲ調製スヘシ

第十二條　受附番號ハ一年毎ニ更新スヘシ

第十三條　受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　圖面綴込帳

二　印鑑簿

三　共同擔保目錄綴込帳

四　申請書類綴込帳

五　決定原本綴込帳

六　抗告書類綴込帳

七　評價事件簿

◉朝鮮不動産登記令施行規則

明治四十五年三月
總令第三十六號
改正　大正三年五月五〇號、五年四第二九號、一五年二第一〇號

朝鮮不動産登記令施行規則左ノ通定ム

朝鮮不動産登記令施行規則

第一章　登記ニ關スル帳簿

第一條　土地登記簿及建物登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　共同人名簿ハ土地共同人名簿及建物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲スヘシ但シ便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區畫每ニ見出ヲ附スヘシ

第三條　土地共同人名簿及建物共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　登記簿及共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方法院長之ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及各冊ノ枚數ヲ見積リ每年十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五條　登記簿及共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條　土地登記見出帳及林野登記見出帳ハ附錄第三號雛形、土地分合登記見出帳ハ附錄第四號雛形、建物登記見出帳ハ附錄第五號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條　土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル每ニ其ノ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若建物ノ番號アルトキハ其ノ番號ヲ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

第八條　土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部迄ヲ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス每ニ其ノ土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部（十百千ノ數ヲ冠スルモノハ一ノ部ニ記入スルノ類）ニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入スヘシ但シ土地カ合併ニ因リ二以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其ノ見出ヲ朱抹スヘシ

第九條　建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部迄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル每ニ敷地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ部ニ敷地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若建物ノ番號アルトキハ其ノ番號ヲ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

第十條　登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其ノ見出ヲ朱抹スヘシ

第十一條　受附帳ハ附錄第六號雛形ニ依リ每年之ヲ調製スヘシ

第十二條　受附番號ハ一年每ニ更新スヘシ

第十三條　受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　圖面綴込帳

二　印鑑簿

三　共同擔保目錄綴込帳

四　申請書類綴込帳

五　決定原本綴込帳

六　抗告書類綴込帳

七　評價事件簿

八　評價書類綴込帳

九　印鑑證明書綴込帳

十　本登記濟證交付帳

十一　土地登記濟通知簿

十二　謄本抄本交付帳

十三　各種通知簿

十四　受領證原符元帳

十五　還納受領證綴込帳

第十五條　前條第三號乃至第十五號ノ帳簿ハ一年每ニ別冊ト爲スヘシ但シ分冊スルコトヲ妨ケス

第十六條　申請書、囑託書、通知書、許可書、謄轉寫書ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄本、登記立會調書其ノ他ノ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

第十七條　圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十七條ノ二　共同擔保目錄ハ一年每ニ其ノ番號ヲ更新スヘシ

第十八條　不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ニ通ノ內一通ハ登記所ニ保存スヘシ

第十九條　第十四條第十三號ノ通知簿ニハ大正三年制令第十六號第六條、朝鮮不動産登記令第八條ノ二、不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條ノ三、第七十五條第二項、第百二十三條第二項、第百二十七條ノ二第一項、第百五十三條第二項及本令第六十三條第一項、第六十四條第一項、第七十條、第七十條ノ二ノ通知事項、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ記入スヘシ

第二十條　評價事件簿ハ附錄第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十一條　事變ヲ避クル爲登記簿又ハ其ノ附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏ハ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第二十二條　裁判所、豫審判事又ハ檢事ヨリ申請書其ノ他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令又ハ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其ノ關係アル部分ニ限リ之ヲ送付スヘシ

第二十三條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其ノ事由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其ノ他不動産登記法第二十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且回復登記期間ヲ豫定シ地方法院長ニ申報スヘシ

地方法院長カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後朝鮮總督ニ具申スヘシ

第二十四條　登記簿及其ノ附屬書類ノ滅失スルノ虞アルトキハ詳細其ノ狀況ヲ取調ヘ且處分方法ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申報又ハ具申スヘシ

第二十五條　登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ自錄ヲ作リ地方法院長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　本籍地又ハ所在地ノ市、島、町村長（市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其ノ職務ヲ行フ吏員）又ハ府尹、面長若ハ之ニ準スル者ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ證明ヲ得ルコト能ハサルトキハ成年者二人以上ノ連署シタル證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

不動産ヲ所有スル法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ代表者ハ其ノ法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑、會社令第十九條第二項又ハ第二十條ニ規定スル會社ニシテ登記ヲ爲ササルモノニ在リテハ朝鮮ニ駐在スル其ノ本國領事官ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ提出スヘシ但シ法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　印鑑ハ附錄第八號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十八條　印鑑簿調製ノ樣式及貼附ノ方法等ハ地方法院長之ヲ定ムヘシ

第二十九條　第二十六條ノ規定ハ官廳及公署ニハ之ヲ適用セス

第三十條　登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十一條　土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但シ閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　土地所在地ノ表示及土地ノ番號

二　手數料ノ金額

三　登記所ノ表示

四　年月日

第三十二條　土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ前條ニ揭ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十三條　前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但シ建物ノ番號アルトキハ申請書ニ之ヲ準用ス但シ建物ノ番號ヲモ記載スヘシ

第三十三條ノ二　不動産登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ不動産ノ目錄ハ登記簿及共同擔保目錄ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目錄ハ半紙竪紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三十四條　不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十五條　登記官吏カ第三十條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十六條　登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此ノ謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作リ玆ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但シ抄本用紙ハ半紙竪紙ノ用ウヘシ

第三十六條ノ二　登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外登記簿一用紙ノ全部ヲ謄寫シテ之ヲ作ルヘシ但シ請求ニ因リ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ又ハ所有權ノ移轉シタル登記ノ所有權ヲ目的トスル他ノ登記ナキ場合ニ於テハ後ノ登記ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ認證文ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第三十六條ノ三　前條但書ノ規定ノ登記簿ノ謄本ノ交付ノ申請書ニ共同人名簿又ハ共同擔保目錄ノ謄寫ヲ除ク旨記載アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、數、交付ノ年月日及申請人ノ氏名ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十九條　印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

受付帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

本登記濟證交付帳、土地登記濟通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領證原符元帳及還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期限ハ當該年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第三十九條ノ二　共同擔保目錄ハ先取特權、質權又ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第二章　登記申請ノ手續

第四十條　登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登錄稅額ヲ記載スヘシ但シ明治四十五年制令第十六號第一條第一項第一號乃至第十五號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

朝鮮登錄稅令第十條ノ場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ

第四十一條　申請書カ二葉以上ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十二條　登記原因ヲ證スル書面初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十三條　不動產カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ跨ル場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十四條　不動產登記法第百二十八條又ハ第百三十條ノ規定ニ依リ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動產カ建物ナルトキハ申請書ニ其ノ圖面ヲ添附スヘシ

第四十五條　建物ノ圖面ニハ不動產登記法第三十六條第一號竝第三十七條ニ揭ケタル事項及敷地ノ方位竝建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ

圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其ノ圖ハ朱引、朱字ト爲スヘシ

圖面ハ美濃紙ヲ以テ調製スヘシ

第四十五條ノ二　共同擔保目錄ハ附錄第九號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十五條ノ三　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ不動產共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第四十五條ノ四　共同擔保目錄ニ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スニハ其ノ表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ

第四十五條ノ五　質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　登記原因及登記ノ目的カ同一ニシテ且明治四十五年制令第十六號第一條第九號乃至第十四號、第十八號、但書及第十九號但書ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ二以上ノ登記所ノ管轄內ニ在ル二以上ノ不動產ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ金額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第四十六條ノ二　不動產登記法第百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニハ共同擔保目錄ノ番號又ハ登記番號及順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十六條ノ三　法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ代表者カ不動產ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動產所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十六條ノ四　法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動產所在地ヲ管轄スル登記所ト異ナル場合ト雖同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

前二項ノ規定ハ會社令第十九條第二項又ハ第二十條ノ會社ニシテ未タ會社ノ登記ヲ受ケサルモノカ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條ノ五　前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ戶籍吏又ハ之ニ準スル者ノ書面ヲ添附スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條ノ六　不動產登記法第百六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十六條ノ七　申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十七條　不動產登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記濟證カ滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十八條　不動產登記法第四十四條ニ揭ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

一　登記ヲ受クヘキ不動產ノ表示及登記ノ目的
二　登記義務者ノ人違ナキコト
三　保證人カ其ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動產ノ表示及年月日又ハ登記番號
四　保證人ノ住所、年齡
五　年月日

第四十八條ノ二　朝鮮登錄稅令第八條ノ規定ニ依リ價格ヲ認定シタルトキハ之ヲ申請書ニ記載シ且書面又ハ口頭ヲ以テ告知スヘシ

第四十八條ノ三　評價ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ請求書ニ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼付シテ之ヲ差出スヘシ

第四十八條ノ四　朝鮮登錄稅令第九條ノ規定ニ依ル評定價格及課稅標準價格ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ評價請求者ニ告知スヘシ

前項ノ告知書ニハ評價費用額ヲ記載シ且評價費用ノ豫納額ニ不足アルトキハ其ノ不足額ヲ遲滯ナク納付スヘキ旨ヲ記載スヘシ

第四十八條ノ五　課稅標準價格確定シタルトキハ登記官吏ハ申請書ニ其ノ價格及登錄稅額ヲ記載スヘシ

第四十八條ノ六　登記申請人カ其ノ負擔ヲ超エテ納付シタル登錄稅額及評價費用額ノ還付ヲ請求シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其ノ請求書ヲ地方法院長（覆審法院所在地ニ在リテハ覆審法院長）ニ送付シ且事件ヲ表示シテ左ノ事項ヲ報告スヘシ

一　申告價格、認定價格、評定價格及確定價格
二　既納及確定ノ登錄稅額
三　豫納及確定ノ評價費用額
四　還付ヲ要スル金額
五　還付ヲ受クヘキ者ノ氏名、住所

第三章　登記手續

第四十九條　登記官吏申請書ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク申請ニ關スル總ヘテノ事項ヲ調査スヘシ

第五十條　表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ畫シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ畫シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ畫シ其ノ左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ畫スヘシ

第五十一條　登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタ

ル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第五十二條　申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第五十三條　不動產登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其ノ番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　不動產登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十五條　共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及持分欄ニ於ケル縱線ヲ番號欄及豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十六條　共同人名簿ニ記載シタル登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ノ文字前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十八條ノ二　不動產登記法第百二十四條ノ二ノ規定ニ依ル記載ハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ

第五十八條ノ三　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附シタル場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ目錄ニ揭ケタル各不動產ニ關スル權利ノ表示ノ上ニ其ノ登記用紙ノ編綴シタル登記簿ノ冊數、登記番號及順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目錄ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十八條ノ四　不動產登記法第百二十六條ノ二ノ規定ニ依リ共同擔保目錄ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十五條ノ四ノ規定ニ依ル番號ヲ用ヰテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印シ其ノ變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十八條ノ五　前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ縱線ヲ畫シテ餘白ト分界スヘシ

第五十八條ノ六　共同擔保目錄用紙中豫備欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其ノ目錄ニ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ契印スヘシ

第五十八條ノ七　不動產登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱、許可ノ年月日及登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第五十九條　登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其ノ權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第六十條　附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十一條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記濟證ニ不動產登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十二條　不動產登記法第百四十九條ノ五ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由及登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十三條　不動產カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ跨ル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其ノ旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其ノ通知事項ヲ記入スヘシ

第六十四條　地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其ノ登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十四條ノ二　不動產登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及代位原因ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ大正三年制令第十六號第二條ノ二ノ規定ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第六十五條　登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動產ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十六條　不動產登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十七條　不動產登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記濟證ヲ交付スルトキ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十八條　不動產登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請人ノ氏名、住所
二　申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若ハ登記官吏ノ四親等內ノ親族ナルコト
三　登記ヲ爲スヘキ不動產ノ表示及登記ノ目的
四　申請書受附ノ年月日及受附番號
五　立會人ノ氏名、住所及年齡
六　立會人カ其ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動產ノ表示及年月日又ハ登記番號

第六十九條　不動產登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在地ノ表示及土地ノ番號、地目、段別若ハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ但シ土地ニ對スル地稅又ハ市街地稅ノ納期開始前十五日內ハ其ノ都度通知ヲ爲スヘシ

第七十條　登記官吏カ不動產登記法第百二十九條、第百三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動產ノ表示、登記原因、其ノ日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及登記濟ノ旨ヲ不動產ノ所有者ニ通知スヘシ但シ第百三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其ノ通知ヲ爲スヘシ

第七十條ノ二　不動產登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ハ同法第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者、大正三年制令第十六號第二條ノ二ノ場合ニ於テハ申請人ニ亦之ヲ爲スヘシ

第七十條ノ三　不動產登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ完了シタル事件ノ

ノ表示及事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサルコト又ハ登記スヘキモノニ非サルコトヲ記載スヘシ

第七十一條　大正三年制令第十六號第六條、朝鮮不動產登記令第八條ノ二、不動產登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ二、第七十五條第一項、第百三條ノ二、第百二十七條ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三條第二項及本令第七十條、第七十條ノ二ノ通知ハ郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十二條　不動產登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ其ノ表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫若ハ洞里之ニ隣接スル又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ其ノ表紙ニ記載シタル行政區畫若ハ洞里之ニ隣接スル又ハ其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附　則

第七十三條　本令ハ朝鮮不動產登記令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正三年五月總令第五十號）

本令ハ朝鮮不動產登記令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ謄本ハ從前ノ規定ニ依リ謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

朝鮮不動產登記令第八條ノ規定ニ依リ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ヨリ登記簿ニ移記シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ表題部又ハ表示部ニ登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、新登記番號及年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ且第六十五條ノ手續ヲ爲スヘシ

附　則（大正十五年二月總令第十號）

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前調製シタル帳簿及用紙ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ樣形ニ依ルヘシ

（別記）

附錄第一號

土地（建物）登記簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

表

登記番號　第　號

題部（不動產表示）

表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄

甲　區　所有權）

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

乙　區　所有權以外ノ權利）

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

丁

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備

附錄第二號

土地（建物）共同人名簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

附錄第三號

土地（林野）登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

土地ノ番號			登記簿				舊登記簿又ハ證明簿		備考
符號	本番	符號	冊數	丁數	登記番號	登記繼續用紙ノ冊數	冊數	番號	

丁

土地ノ番號			登記簿				舊登記簿又ハ證明簿		備考
符號	本番	符號	冊數	丁數	登記番號	登記繼續用紙ノ冊數	冊數	番號	

附錄第四號

土地林野分合登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

部　ノ

土地ノ番號			登記簿				備考
符號	本番	符號	冊數	丁數	登記番號	登記繼續用紙ノ冊數	

丁

部　ノ

土地ノ番號			登記簿				備考
符號	本番	符號	冊數	丁數	登記番號	登記繼續用紙ノ冊數	

附錄第五號

建物登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

部　ノ

敷地ノ番號			建物ノ番號	登記簿				舊登記簿又ハ證明簿		備考
符號	本番	符號	番號	冊數	丁數	登記番號	登記繼續用紙ノ冊數	冊數	番號	

ノ部

敷地ノ番號	建物ノ番號	登記簿 舊登記簿又ハ謄明簿 冊數 番號	登記繼續用紙 冊數 丁數	登記繼續用紙ノ番號ノ冊數	備考
本番符號	符號				

附錄第六號

不動產登記受附帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

受附ノ年月日	受附番號	登記ノ目的	申請人ノ氏名	備考

丁

附錄第七號

不動產評價事件簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

評價請求者ノ氏名、住所及請求ノ年月日		評價費用確定額		物件ノ表示	申告價格	認定價格	評定價格	稅令第九條ニ依ル確定價格
登記ノ原因及目的		評價人ノ氏名及評定書提出ノ年月日						
申請書受附ノ年月日及受附番號		評定價格及課稅標準價格告知ノ年月日						
登錄稅額		還付額請求書送付ノ年月日						
差稅額		豫備						
確定稅額								
評價費用豫納額								

丁

附錄第八號（用紙厚紙竪五寸橫一寸）

㊞印鑑

住所
氏名
何年何月何日生

（注意）法人ノ代表者ナルトキハ氏名ノ肩ニ事務所又ハ營業所ノ所在地、法人ノ名稱並代表者ノ資格ヲ記載スヘシ

附錄第九號

不動產共同擔保目錄

登記簿ノ番號	登記順位番號	擔保ノ目的タル權利ノ表示	豫備

丁

◉朝鮮不動産登記令施行期日及地域

大正三年五月
總令第五十一號

朝鮮不動産登記令ヲ大正三年五月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　京畿道京城府、仁川府、水原郡水原面、開城郡松都面
一　忠清北道清州郡清州面
一　忠清南道公州郡公州面、大田郡大田面、論山郡江景面
一　全羅北道群山府、全州郡全州面
一　全羅南道木浦府、光州郡光州面、羅州郡羅州面
一　慶尚北道大邱府、金泉郡金泉面
一　慶尚南道釜山府、馬山府、晉州郡晉州面
一　黃海道海州郡海州面
一　平安南道平壤府、鎭南浦府
一　平安北道新義州府、義州郡義州面
一　咸鏡南道元山府、咸興郡咸興面
一　咸鏡北道清津府、會寧郡會寧面ノ內一里、二里、三里、四里、五里、鏡城郡梧村面ノ內勝岩洞、壽星洞、一里洞、羅南町、生駒町、初瀨町、美吉町、城津郡鶴城面ノ內舊各國居留地ニ屬セシ地域

大正四年三月
總令第十五號

朝鮮不動産登記令ヲ大正四年四月一日ヨリ左ノ地域ニ施行ス

一　京畿道始興郡、富川郡、金浦郡、江華郡
一　忠清南道天安郡、牙山郡、鷄山郡
一　慶尚北道達城郡、清道郡、慶山郡、高靈郡
一　慶尚南道密陽郡

大正四年八月
總令第八十九號

朝鮮不動産登記令ヲ大正四年九月一日左ノ地域ニ施行ス

一　京畿道驪州郡、水原郡、利川郡、龍仁郡、振威郡、安城郡、廣州郡
一　大正四年朝鮮總督府令第四十二號ニ依リ忠清南道天安郡ニ編入シタル地域

大正四年十一月
總令第百十四號

朝鮮不動産登記令ヲ大正四年十二月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　忠清北道沃川郡、鎭川郡、報恩郡、永同郡
一　忠清南道燕岐郡、唐津郡、瑞山郡

大正五年一月
總令第四號

朝鮮不動産登記令ヲ大正五年二月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　忠清北道清州郡（清州面ヲ除ク）
一　忠清郡公州郡（公州面ヲ除ク）
一　慶尚北道星州郡、義城郡、盈德郡、英陽郡、慶州郡、迎日郡、永川郡、金泉郡（金泉面ヲ除ク）
一　慶尚南道金海郡
一　慶尚南道安州郡、平原郡

大正五年三月
總令第十九號

朝鮮不動産登記令ヲ大正五年四月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　京畿道坡州郡、開城郡（松都面ヲ除ク）
一　忠清南道大田郡（大田面ヲ除ク）、青陽郡、扶餘郡、論山郡（江景面ヲ除ク）
一　慶尚北道星州郡、義城郡、盈德郡、英陽郡、慶州郡、迎日郡、永川郡、金泉郡（金泉面ヲ除ク）
安東郡
一　慶尚南道東萊郡、昌寧郡、梁山郡、蔚山郡
一　慶尚南道金海郡
一　平安南道安州郡、平原郡

大正五年六月
總令第四十七號

朝鮮不動産登記令ヲ大正五年七月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　京畿道　高陽郡、長湍郡、漣川郡、楊州郡
一　忠清南道　洪城郡、保寧郡
一　平安南道　中和郡
大正六年五月
總令第二十九號

朝鮮不動産登記令ヲ大正六年六月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　全羅北道　南原郡
一　黃海道　海州郡（海州面ヲ除ク）、松禾郡、瑞興郡

大正六年八月
總令第五十一號

朝鮮不動産登記令ヲ大正六年八月十日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

全羅北道任實郡
一　全羅南道靈巖郡、潭陽郡、長城郡、靈光郡、海南郡、務安郡、咸平郡、康津郡、長興郡、高興郡
一　黃海道金川郡、延白郡、安岳郡
一　平安南道寧遠郡、孟山郡
一　江原道春川郡

大正六年九月
總令第五十七號

朝鮮不動産登記令ヲ大正六年九月十日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　全羅南道順天郡、珍島郡、羅州郡（羅州面ヲ除ク）
一　黃海道長淵郡、甕津郡
一　平安南道江東郡
一　江原道麟蹄郡、寧越郡、華川郡、楊口郡、平昌郡

大正六年十一月
總令第八十九號

朝鮮不動産登記令ヲ大正六年十二月十日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　全羅南道　潭陽郡
一　黃海道遂安郡、新溪郡、載寧郡、信川郡
一　平安南道价川郡
一　江原道襄陽郡、金化郡、鐵原郡、杆城郡、蔚珍郡、旌善郡、原州郡、橫城郡

大正七年一月
總令第七號

朝鮮不動産登記令ヲ大正七年二月十日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　全羅南道莞島郡
一　黃海道谷山郡、黃州郡、平山郡
一　平安南道順川郡
一　平安北道定州郡、龜城郡
一　江原道三陟郡、伊川郡、淮陽郡、平康郡
一　咸鏡南道洪原郡、永興郡

大正七年二月
總令第十九號

朝鮮不動産登記令ヲ大正七年三月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

一　黃海道鳳山郡
一　平安南道德川郡、成川郡、陽德郡
一　平安北道宣川郡、泰川郡、熙川郡、鐵山郡、碧潼郡、昌城郡、義州郡（義州面ヲ除ク）、寧邊郡
江原道洪川郡、江陵郡、通川郡
一　咸鏡南道安邊郡、定平郡
一　咸鏡北道城津郡（鶴城面ノ內舊各國居留地ニ屬セシ地域ヲ除ク）

大正七年五月
總令第五十三號

朝鮮不動産登記令ヲ大正七年六月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

平安北道朔州郡、渭原郡、楚山郡
一　咸鏡南道端川郡、新興郡、利原郡、文川郡、高原郡、豐山郡、甲山郡、北青郡、咸興郡（咸興面ヲ除ク）、德源郡
一　咸鏡北道吉州郡、慶源郡、茂山郡、富寧郡、會寧郡（會寧面ノ內二洞、四洞、五洞ヲ除ク）、慶興郡、鏡城郡（倉村面ノ內鰲岩洞、壽星洞、一里洞及羅南面ノ內內町、生駒町、初瀨町、美吉町ヲ除ク）

大正七年六月
總令第六十四號

朝鮮不動産登記令ヲ大正七年七月一日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

平安北道朔州郡、龍川郡、江界郡、博川郡、慈城郡、厚昌郡
一　咸鏡南道長津郡、三水郡
一　咸鏡北道明川郡、鍾城郡、穩城郡

◉永代借地登記規則

大正三年五月
總令第五十四號

永代借地登記規則左ノ通定ム

永代借地登記規則

第一條　永代借地權ヌハ之ヲ目的トスル權利ノ登記ニ付テハ永代借地登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第二條　永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部及順位番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ永代借地權又ハ以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第三條　永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　永代借地登記簿ニ付テハ見出帳ヲ設ケ登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ永代借地權又ハ以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第三條　永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　永代借地登記簿ニ付テハ見出帳ヲ設ケ登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　未登記ノ永代借地權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地臺帳ノ謄本ヲ添附スヘシ

永代借地權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地證書又ハ判決ノ謄本ヲ添附スヘシ未登記ノ永代借地權ノ所有權ニ變更スル爲所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合亦同シ

第六條　未登記ノ永代借地權ニ付登記ノ申請アリタルトキハ前條ノ申請アリタル場合ヲ除クノ外登記官吏ハ職權ヲ以テ永代借地權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ヲ爲スニハ前條ノ書面ヲ申請書ニ添附スヘシ此ノ場合ニ於テハ不動産登記法第三十五條第三號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第七條　永代借地權ヲ所有權ニ變更スル爲所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ノ變更ニ因ル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ土地臺帳謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第八條　前條ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ登記ハ土地登記簿ニ之ヲ爲シ甲區事項欄ニ永代借地權ノ變更ニ因ル旨ヲ記載シ永代借地登記簿ノ用紙中永代借地權ヲ目的トスル權利ニ關スル登記アルトキハ抹消ニ係ラサル事項ヲ土地登記簿ニ移記スヘシ

前項ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第九條　帝國ノ臣民又ハ法人ノ爲永代借地權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ其ノ永代借地登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル事項ヲ土地登記簿ニ移記シ其ノ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十條　前條ノ規定ハ登記官吏府尹又ハ郡守ヨリ永代借地權者カ帝國ノ臣民ト爲リタル旨ノ通知ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　永代借地權ノ保存、移轉又ハ永代借地權ノ變更ニ因ル所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ府尹又ハ郡守ニ通知スヘシ

第十二條　外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ニ永代借地權ヲ目的トスル質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ現存スル場合ニ於テ其ノ質權又ハ抵當權ノ移轉變更又ハ消滅ノ登記ハ永代借地權ノ移轉ノ登記又ハ永代借地權ノ變更ニ因ル所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ當該領事官ノ承認書ヲ添附スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ永代借地權ヲ處分シタル場合ノ登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　登記ノ申請書ニ添附スル書面カ外國語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ譯文ヲ附スヘシ

第十四條　永代借地ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外朝鮮不動産登記令及同施行規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

第十五條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　本令施行前外國領事廳ニ於テ永代借地又ハ其ノ上ニ存スル建物ニ關シ爲シタル登記ハ其ノ登記簿ノ謄本ノ引繼ヲ受ケタルモノニ限リ帝國法令ニ依リ爲シタル登記ト看做ス

外國領事廳ヨリ引繼ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ハ帝國法令ニ依ル登記簿ト看做ス

第十七條　外國領事廳ヨリ引繼ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ハ地方法院長之ヲ國別ニ編綴シ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且每葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲シ之ヲ登記所ニ交付スヘシ

地方法院長ハ前項ノ登記簿ノ謄本ノ譯文ヲ作リ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　前條ノ登記簿ノ謄本及其ノ譯文ニハ登記官吏國別ニ依リ登記ノ順序ヲ追ヒテ各登記ニ番號ヲ附スヘシ

前項ノ規定ニ依リ附シタル番號ハ之ヲ登記番號ト看做ス

第十九條　第十六條ノ登記ヲ受ケタル永代借地又ハ建物ニ付登記ヲ爲スヘキトキハ外國領事廳ヨリ引繼ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ノ譯文中必要ナル事項ヲ永代借地登記簿又ハ建物登記簿ニ移記シタル後登記ヲ爲シ其ノ謄本及譯文ヲ閉鎖スヘシ但シ滅失又ハ抹消ノ登記ハ謄本及譯文ニ記載シテ之ヲ爲スヘシ

第二十條　本令施行前外國領事廳ノ爲シタル登記ニ關スル謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求アリタルトキハ其ノ謄本ノ譯文ニ依リ之ヲ作成シ交付スヘシ

第二十一條　帝國ノ臣民又ハ法人カ舊日本居留地及各國居留地ニ於テ所有シタル永代借地ニ關スル登記簿ハ朝鮮不動産登記令第八條ニ規定スル舊登記簿ト看做ス

附錄第一號

永代借地登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

表題部　（永代借地表示）　登記番號　第　號

表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄

永代借地登記簿　丁

甲					
順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

永代借地登記簿　丁

乙					
順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

區　（永代借地權）

附錄第二號

永代借地登記見出帳

何地方法院（何支廳）

永代借地登記見出帳　丁

土地ノ登記簿ノ番號符號ノ冊數ノ丁數	登記簿登記（外國ニ在ル事務ノ登記證書謄本錄込帳ノ冊數、丁數）	備考

區　（永代借地權外地代以外ノ利）

永代借地登記簿　丁

土地ノ番號	土地ノ符號	登記簿ノ册數	登記簿ノ丁數	登記番號	外國領事廳ノ登記簿謄本綴込帳ノ册數、丁數	備考

●法人及夫婦財産契約登記取扱規則

明治四十五年三月
總令第二十九號
改正　大正一二年一第一五號、一五年二第一一號

法人及夫婦財産契約登記取扱規則左ノ通定ム

法人及夫婦財産契約登記取扱規則

第一條　法人登記簿ハ附錄第一號雛形、夫婦財産契約登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　法人登記見出帳及夫婦財産契約登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登記所ニハ登記簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　印鑑簿
二　申請書類綴込帳
三　決定原本綴込帳
四　抗告書類綴込帳
五　登記濟證交付帳
六　謄本抄本證明書交付帳
七　受領證原符元帳

第四條　前條第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一年毎ニ別册ト爲スヘシ但シ分册スルコトヲ妨ケス

第四條ノ二　夫婦財産契約登記見出帳中名稱欄ニハ夫ノ氏名ヲ記載シ備考欄ニ妻ノ氏名ヲ記載スヘシ

第四條ノ三　法人設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中名稱欄ニ法人ノ種類ヲモ記載スヘシ

第五條　外國法人ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキハ最之ニ類似スル欄ニ記載シ其ノ名稱ヲ附記スヘシ

第六條　外國法人ノ事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第七條　夫婦財産契約カ夫婦ノ一方ノ死亡ニ因リテ終了シタルトキハ他ノ一方ノ者ノミニテ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第八條　夫婦財産契約ニ關シ登記シタル事項ノ變更ノ登記又ハ夫婦財産契約ノ登記ノ更正ハ登記用紙中管理者ノ變更及共有財産ノ分割欄ニ之ヲ爲スヘシ

第九條　商業登記取扱規則第二十四條第四項、第二十六條及第二十九條ノ規定ハ法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十條　朝鮮不動産登記令施行規則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條、第三十六條ノ二、第三十七條、第三十八條、第四十一條、第四十九條、第五十二條及商業登記取扱規則第四條乃至第六條、第九條乃至第二十三條、第二十七條、第二十八條第、三十條、第三十一條、第三十二條乃至第三十五條、第六十條ノ規定ハ法人及夫婦財産契約ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前法人又ハ夫婦財産契約ノ登記ヲ爲シタルモノニ付テハ登記所ハ本令ニ依リ登記簿ニ其ノ登記ヲ移スヘシ

前項ニ依リ登記ヲ移スニハ登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ逐ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ各相當欄ニ舊登記簿ニ依リ登記ヲ移シ登記ノ末尾ニ舊登記簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ法人登記ニ在リテハ舊登記簿ノ變更欄ノ登記ノ末尾ニ夫婦財産契約登記ニ在リテハ舊登記簿ノ消滅欄ニ新登記簿第何册第何丁ニ移シタル旨新登記番號及年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

附　則（大正十五年二月總令第十一號）

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前調製シタル帳簿及用紙ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ調製スル迄ハ仍從前ノ雛形ニ依ルヘシ

附錄第一號

法人登記簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

登記番號	第　號						
登記ノ年月日及ヒ登記官吏印	一 名稱	二 事務所	三 目的	四 設立許可ノ年月日	五 存立時期	六 資産ノ總額	七 出資ノ方法
第一欄ヨリ第八欄マデ 大正年月日登記	（法人團）						
八 理事ノ氏名、住所	九 解散ノ原因及ヒ年月日	十 清算人ノ氏名住所					
	大正年月日登記	大正年月日登記					

丁

豫備

變更

變更

變更

丁

變更

變更

附錄第二號

夫婦財産契約登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記番號	第　號	契約者ノ氏名、住所	夫婦財産契約
			夫婦財産契約

丁

管理者ノ變更及共有財産ノ分割	消滅

附錄第三號

法人（夫婦財産契約）登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

管理者ノ變更及共有財産ノ分割	名稱	登記簿冊數丁數	登記繼續用紙ノ數	備考

丁

名稱	登記簿冊數丁數	登記繼續用紙ノ數	備考

丁

◉商業登記取扱規則

明治四十五年三月
總令第三十號

改正　大正三年五第五三號、七年六第六六號、一二年一第一四號、一五年二第二二號

商業登記取扱規則左ノ通定ム

第一條　商業登記簿ハ附錄第一號乃至第九號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ但シ合資會社登記簿ハ附錄第七號雛形ノ第一欄乃至變更欄ノ用紙ト社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙トヲ別ニ初ニ第一欄乃至變更欄ノ用紙ヲ纏メ其ノ末尾ニ社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙ヲ纏メテ之ヲ編綴スヘシ

外國會社登記簿ノ雛形ハ附錄第六號乃至第九號ニ依ルヘシ

第二條　商業登記簿ハ府又ハ面毎ニ別冊ト爲スヘシ

第三條　商業登記簿ノ見出帳ハ附錄第十號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條　受附帳ハ附錄第十一號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　法令ニ依リ登記ノ申請書ニ捺印スヘキ者ハ豫メ其ノ印鑑ヲ登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但シ委任ニ因ル代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　印鑑ハ附錄第十一號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條　登記所ニハ登記簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　印鑑簿
二　申請書類綴込帳
三　決定原本綴込帳
四　抗告書類綴込帳
五　登記濟證交付帳
六　謄本抄本證明書交付帳
七　受領證原符元帳

第八條　前條第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ但シ分冊スルコトヲ妨ケス

第九條　申請書、囑託書、通知書、屆書、許可書、管轄轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄本其ノ他附屬書類ハ之ニ登記簿ノ冊數及其ノ丁數ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

登記簿ノ種類ニ依リ前項ノ綴込帳ヲ分冊シタルトキハ其ノ表紙ニ登記簿ノ種類ヲ示スヘキ文字ヲ記載スヘシ

第十條　印鑑簿ハ永久之ヲ保存スヘシ

受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳及抗告書類綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

登記濟證交付帳、謄本抄本證明書交付帳及受領證原符元帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽又ハ登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

第十二條　登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但シ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ利害關係ヲ疏明スルニ足ルヘキ事由ヲ記載シ又ハ之ニ其ノ關係ヲ疏明スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

一　登記簿ノ種類
二　閱覽ヲ請求スル登記事項
三　登記所ノ表示
四　年月日

第十三條　登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

一　登記簿ノ種類
二　謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル登記事項
三　手數料ノ金額

登記用紙中登記事項ヲ記載シタル欄内ニ餘白アルトキハ其ノ餘白ニ朱線ヲ交叉スヘシ

變更欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ左側ニ縱線ヲ畫シテ餘白ト分界スヘシ

第二十一條　變更ノ登記又ハ登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正シタル登記事項ヲ朱抹スヘシ

第二十二條　抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ抹消スヘキ登記事項ヲ朱抹スヘシ但シ抹消ノ登記ヲ爲シタルニ因リ登記用紙ヲ閉鎖スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　登記用紙ヲ閉鎖スルニハ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第二十四條　會社ノ設立ノ場合ヲ除ク外商法第五十一條第一項、第百七條、第百四十一條第一項又ハ第二百四十二條ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ會社ノ合併又ハ組織變更ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

非訟事件手續法及第百三十五條ノ二及第百三十五條ノ三ニ定メタル營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ノ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

非訟事件手續法及第百七十條第二項ノ規定ニ依リ商業登記ニ記載スヘキ事項ハ豫備欄ニ之ヲ記載スヘシ

破產法第百二十二條及和議法第八條ノ規定ニ依ル登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ二　擔保附社債信託法ニ依ル社債ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ三　登記官吏カ擔保附社債信託法第百十五條ノ規定ニ依リ主務官廳ヨリ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ規定ニ從フヘシ

一　囑託カ信託會社ノ事業ノ停止ニ關スル場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

二　嘱託カ銀行事業ヲ兼ヌル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ目的變更ノ登記ヲ爲スヘシ

三　嘱託カ信託事業ヲ專業トスル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十五條　資本又ハ株金若ハ社債ノ增加ノ登記ヲ爲シタル後同一ノ事項ニ付更ニ登記ヲ爲スヘキトキハ變更欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十六條　非訟事件手續法第百四十八條ノ規定ニ依リ登記更正ノ申請アリタルトキハ登記用紙中變更欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十七條　登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其ノ番號ノ第二ナルコト竝前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字竝新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及之ニ繼續ス旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　登記用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其ノ欄ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍之ニ登記ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　登記ヲ爲シ又ハ申請書其ノ他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫ヲ明瞭ニスヘシ

金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹弐參拾ノ字ヲ用ユヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正、挿入、又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尚讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第二十九條　登記ノ公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十條　登記申請人ハ登記濟證ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登記官吏前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ附錄第十三號雛形ニ依リ登記濟證ヲ交付スヘシ

第三十一條　商業登記簿ハ登記用紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第三十二條　登記用紙ハ登記番號ヲ記載スル每ニ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及登記番號ヲ記入スヘシ

第三十一條ノ二　妻ノ登記ニ付テハ夫ノ氏名、法定代理人ノ登記ニ付テハ無能力者ノ氏名支配人ノ登記ニ付テハ主人ノ氏名又ハ商號、外國會社ノ登記ニ付テハ會社ノ種類ヲ見出帳ノ備考欄ニ記載スヘシ

第三十二條　登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ其ノ事由ヲ記載シテ其ノ見出ヲ朱抹スヘシ

第三十三條　商號ノ變更又ハ未成年者、妻、法定代理人若ハ支配人ノ氏名ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中更ニ相當ノ部ニ其ノ見出ヲ移シ前ノ見出ノ備考欄ニ第何册第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シテ其ノ見出ヲ朱抹スヘシ

第三十四條　甲登記所ノ管轄區域ノ一部カ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其ノ部分ニ屬スル登記簿又ハ其ノ謄本及附屬書類又ハ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ移送スヘシ但シ登記簿ノ謄本ニハ現存スル登記ノミヲ謄寫スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲登記所ノ登記用紙中豫備欄ニ管轄ノ變更ニ因リ轉出シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十五條　前條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本及附屬書類又ハ其ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ乙登記所ハ登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移スニハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記管轄ノ變更ニ因リ轉入シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第三十六條　會社ノ商號ハ商號登記簿ニ登記スルコトヲ要ス

第三十七條　同一ノ當事者ヨリ二以上ノ商號ノ登記ノ申請アリタルトキハ各商號ニ付各別ノ登記用紙ニ之ヲ爲スヘシ其ノ登記事項ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ付亦同シ

第四十八條　會社ノ社員ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記及社員ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中代表社員ノ氏名欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十九條　會社ヲ代表スヘキ取締役ノ登記、取締役ノ共同代表ノ登記及取締役ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中取締役ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十條　第四十三條ノ規定ハ會社ノ社員又ハ取締役ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ニ之ヲ準用ス

第五十一條　株主總會ノ決議無效ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ決議無效ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及其ノ判決ノ確定シタル年月日ヲモ記載スヘシ

前項ノ登記ヲ爲シタルトキハ決議シタル事項ノ登記ヲ朱抹スヘシ

前二項ノ規定ハ創立總會ノ決議無效ノ登記ニ之ヲ準用ス

第五十二條　會社カ其ノ本店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ新所在地ノ登記所管轄內ニ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條　會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　會社ノ設立無效ノ登記ハ登記用紙中解散ノ事由及年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ設立無效ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及其ノ判決ノ確定シタル年月日ヲモ記載スヘシ

第五十六條　會社ノ設立取消ノ登記ハ登記用紙中解散ノ事由及年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十七條　裁判所カ清算人ヲ選任又ハ解任シタル場合ニ於ケル登記ノ申請書ニハ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五十八條　會社ヲ代表スヘキ清算人ノ登記及清算人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ始テ清算人ノ選任ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中清算人ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十九條　會社登記簿ニ清算結了ノ登記ヲ爲シタルモノハ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第五十九條ノ二　非訟事件手續法第百五十一條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ爲シタル事件ノ表示及其ノ登記カ商法又ハ非訟事件手續法ノ規定ニ依リ許スヘカラサルモノナルコトヲ記載スヘシ

第五十九條ノ三　非訟事件手續法第百五十一條ノ四ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由ヲモ記載スヘシ

第五十九條ノ四　非訟事件手續法第百五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及許可ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十條　登記ノ申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ謄本ニ原本還付ノ旨ヲ登記シテ捺印スヘシ

第六十一條　外國會社ノ登記ハ其ノ會社ト同種ノ會社ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

登記簿又ハ最之ニ類似スル會社ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキハ最之ニ類似スル欄ニ記載シタル上其ノ名稱ヲ附記スヘシ

第六十二條　外國會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六十三條　非訟事件手續法第百三十五條ノ四第一項、第百九十五條ノ二、第二百一條ノ二及擔保附社債信託法第百十五條ノ規定ニ依ル登記ノ嘱託ニ付テハ登錄稅ヲ要セス

第六十四條　登記官吏カ其ノ職務上過料ニ處セラルヘキ者アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク其事件ヲ管轄地方法院長ニ通知スヘシ

第六十五條　朝鮮不動產登記令施行規則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條ノ二、第三十七條、第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十九條、第五十二條及第七十二條第一項ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則(大正七年六月總令第六十六號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前佛ヘタル朝鮮外會社登記簿ハ本令施行後ハ之ヲ外國會社登記簿トス

內地、臺灣又ハ關東州ニ本店ヲ有スル會社ニ付本令施行前朝鮮外會社登記簿ニ爲シタル登記ハ其ノ抹消ニ係ル事項及朝鮮ニ於ケル代表者ニ關スル事項ヲ除クノ外之ヲ會社登記ニ移記スヘシ

附　則(大正十五年二月總令第十二號)

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ調製シタル帳簿及用紙ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ雛形ニ依ルヘシ

附錄第一號

商業登記簿

何地方法院(何支廳)

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

附錄第三號

妻登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記番號	第　號	
一	妻ノ氏名住所	
二	營業ノ種類	
三	營業所	
	登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記
	備豫	

消滅	更變
	明治　年　月　日登記

丁

附錄第二號

未成年者登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記番號	第　號	
一	未成年者ノ氏名住所	
二	營業ノ種類	
三	營業所	
	登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記
	備豫	

消滅	更變
	明治　年　月　日登記

丁

附錄第四號

法定代理人登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記番號	第　號	
一	未成年者ノ氏名住所	
二	營業ノ種類	
三	營業所	
	登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記
	備豫	

消滅	更變
	明治　年　月　日登記

丁

登記番號	第　號	
一	商號	
二	營業ノ種類	
三	營業所	
四	商號使用者ノ住所氏名	
	登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記
	備豫	

消滅	更變
	明治　年　月　日登記

丁

附錄第六號

合名會社登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

附錄第五號

支配人登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記番號	第　號				
一	法定代理人ノ氏名、住所及資格				
二	無能力者ノ氏名、住所				
三	營業ノ種類				
四	營業所				
登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記				
備豫					

消滅	更變
明治　年　月　日登記	

丁

登記番號	第　號				
一	支配人ノ氏名、住所				
二	主人ノ氏名、住所				
三	主人ノ營業				
四	支配人ノ用ユヘキ商號				
五	支配人ヲ置キタル場所				
登記ノ年月日及登記官印	右明治　年　月　日登記				
備豫					

消滅	更變
明治　年　月　日登記	

丁

登記番號	第　號								
一	商號								
二	本店								
三	支店								
四	目的								
五	設立ノ年月日								
六	代表社員ノ氏名								
七	社員ノ氏名、住所、出資ノ種類及價格								
八	存立ノ時期又ハ解散ノ事由								
九	解散ノ事由及年月日	明治　年　月　日登記							
十	清算人ノ氏名住所	明治　年　月　日登記							
十一	清算結了ノ年月日	明治　年　月　日登記							
登記ノ年月日及登記官印	第一欄ヨリ第八欄マテ　明治　年　月　日登記								
備豫									

丁

更變	更變
更變	更變

丁

附錄第七號

合資會社登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記ノ番號	登記ノ年月日及登記官印	第一欄ヨリ明治　年　月　日登記第八欄マテ	七 社員ノ氏名、住所等	八 存立ノ時期又ハ解散ノ事由	九 解散ノ事由及年月日	十 清算人ノ氏名、住所	十一 清算結了ノ年月日	備豫
第　號								
一 商號								
二 本店								
三 支店								
四 目的								
五 設立ノ年月日								
六 代表社員ノ氏名								

變更	丁	變更

登記番號	商號	社員ノ氏名、住所、出資ノ種類、價格及責任	變更
第　號			

附錄第八號

株式會社登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登記ノ番號	登記ノ年月日及登記官印	第一欄ヨリ明治　年　月　日登記第十二欄マテ	十 監査役ノ氏名住所	十一 存立ノ時期又ハ解散ノ事由	十二 開業前ニ配當スヘキ利率	十三 社債ノ總額	十四 各社債ノ金額	十五 社債ノ利率	十六 社債償還ノ方法及期限	十七 資本ノ總額	十八 各株ニ付拂込ミタル株金額	十九 一株ノ金額	二十 各株金ノ拂込ミタル株金額	二十一 公告ヲ爲ス方法	二十二 取締役ノ氏名、住所	二十三 解散ノ事由及年月日	二十四 清算人ノ氏名、住所	二十五 清算結了ノ年月日	備豫
第　號																			
一 商號																			
二 本店																			
三 支店																			
四 目的																			
五 設立ノ年月日																			

變更	丁	變更

登記番號	商號	社員ノ氏名、住所、出資ノ種類、價格及責任	變更
第　號			

附錄第九號

株式合資會社登記簿

何地方法院（何支廳）

紙數表紙ヲ除キ　　枚

何地方法院長

登記番號	第　　號					
登記ノ年月日及登記官印	一 商店	二 本店	三 支店	四 目的	五 設立ノ年月日	十二 無限責任社員ノ氏名、住所、株金以外ノ出資ノ種類及價格
第一欄ヨリ第十四欄マテ明治　年　月　日登記 第十五欄ヨリ第十九欄マテ明治　年　月　日登記 第二十欄ヨリ第二十三欄マテ明治　年　月　日登記						

六 株金ノ總額	七 一株ノ金額	八 各株ニ付拂込ミタル株金額	九 公告ヲ爲ス方法	十 代表社員ノ氏名	十一 監査役ノ氏名住所	十三 存立ノ時期又ハ解散ノ事由	十四 開業前ニ配當スヘキ利率	十五 社債ノ總額	十六 各社債ノ金額	十七 社債ノ利率	十八 社債償還ノ方法及期限	十九 各社債ニ付拂込ミタル金額	二十 増加株金ノ總額	二十一 株金増加決議ノ年月日	二十二 各新株ニ付拂込ミタル株金額

丁

二十三 優先株ノ種類及其ノ各種ノ株式ノ數	二十四 解決ノ事由及年月日	二十五 清算人ノ氏名、住所	二十六 清算結了ノ年月日
	明治年月日登記	明治年月日登記	明治年月日登記

備考

變更

變更

丁

附錄第十號

何何登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

何ノ部

名稱	登記簿 冊數	丁數	登記番號	繼續用紙ノ冊數	備考

丁

附錄第十一號

商業登記受附帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

何ノ部

名稱	登記簿 冊數	丁數	登記番號	繼續用紙ノ冊數	備考

受附ノ年月日	受附番號	登記ノ目的	申請人ノ氏名	備考

受附ノ年月日	受附番號	登記ノ目的	申請人ノ氏名	備考

丁

（附錄第十二號）
（用紙厚紙堅五寸横一寸）

㊞印鑑

住所
氏名
何年何月何日生

（注意）會社ノ代表者ナルトキハ氏名ノ肩ニ會社ノ營業所ノ所在地、會社ノ商號竝代表者ノ資格ヲ記載スヘシ

（附錄第十三號）

登記濟證

登記簿ノ種類	
登記番號	
登記ノ件名	
申請人ノ氏名住所	丁
登記ノ年月日	

右登記濟ナルコトヲ證ス

明治　年　月　日

何地方法院（何支廳）

第十七條ノ二乃至第十九條、第二十條ノ二乃至第二十五條、第二十八條、第三十條、第三十三條ノ二、第三十四條、第三十五條、第三十六條ノ二乃至第三十八條、第四十一條、第四十二條、第四十五條ノ二、第四十六條ノ四、第四十六條ノ五、第四十六條ノ七乃至第五十條、第五十二條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十二條及商業登記取扱規則第十四條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章　登記所

第二條　本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外船籍港ヲ管轄スル地方法院、其ノ支廳又ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第三條　登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第五十條ノ規定ニ依ル抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スヘシ

前項ノ通知ニハ船舶ノ種類、名稱、積量、船籍港、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

第三章　登記ニ關スル帳簿

第四條　登記簿ハ船籍港毎ニ別冊ト爲ス

第五條　登記簿ハ一艘ノ船舶ニ付一用紙ヲ備フ

第六條　登記簿ハ其ノ一用紙ノ登記番號欄、表題部及甲乙丙ノ三區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各船舶ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ第三十三條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ抵當權及賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第七條　船舶登記簿ハ附錄第一號雛形、船舶共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ、船舶特別登記簿ハ附錄第一號雛形、船舶特別共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ準シ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第八條　船舶登記ニ關シ出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第九條　船舶登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ殘メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及登記番號ヲ記入スヘシ

第十條　受附帳ハ附錄第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第十一條　船舶所有者ハ其ノ本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長（市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其ノ職務ヲ行フ吏員）若ハ府尹、面長ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スルコトヲ要ス改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但シ不動產ノ登記ニ關シ其ノ登記所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スルコトヲ要ス但シ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　印鑑ハ附錄第五號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十三條　第十一條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セス

第十四條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　印鑑簿

二　共同擔保目錄綴込帳

三　申請書類綴込帳

四　決定原本綴込帳

五　抗告書類綴込帳

六　評價書類綴込帳

七　印鑑證明書類綴込帳

八　登記證書交付帳

九　本登記濟證交付帳

十　船舶登記濟通知簿

十一　謄本交付帳

十二　各種通知簿

十三　受領證原符元帳

十四　還納受領證綴込帳

十五　前條第二號乃至第十五號ノ帳簿ハ一年毎ニ別册ト爲スヘシ但シ分册スルコトヲ妨ケス

第十六條　第二項乃至第四項ノ左ノ如ク改ム

受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

登記證書交付帳、本登記濟證交付帳、船舶登記濟通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領證原符元帳及還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十七條　共同擔保目錄ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタルトキヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　登記簿謄本ノ交付又ハ登記ニ關スル書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但シ閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類及名稱

二　船籍港

三　手數料ノ金額

四　登記所ノ表示

五　年月日

第十九條　登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ前條ニ揭ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スルコトヲ要ス

第二十條　登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此ノ謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作リ玆ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但シ抄本用紙ハ半紙竪紙ヲ用ウヘシ

第二十一條　削除

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十二條　登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請スル場合及第二十七條第一項ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ登記證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類名稱及積量

二　船籍港

三　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル事項

四　登錄稅額及朝鮮登錄稅令第一條ノ二第一項第一號乃至第九號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格

朝鮮登錄稅令第十條ノ場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ

第二十四條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其ノ日附、登記ノ目的及登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スヘシ

第二十五條　登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇泊スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳ノ

第四條　商業登記取扱規則第三十條、法人及夫婦財產契約登記取扱規則第十條又ハ地方金融組合登記取扱規則第九條ノ規定ニ依リ登記濟證ノ交付ヲ請求スル者ハ手數料トシテ十錢ヲ納ムヘシ

第五條　非訟事件手續法第四十二條第一項又ハ第五十七條第一項ノ規定ニ依リ書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者ハ手數料トシテ其ノ用紙一枚ニ付十五錢ヲ納ムヘシ但シ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚ニ、十行以下ハ半枚ニ計算ス

第六條　私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ハ手數料トシテ一件ニ付三十錢ヲ納ムヘシ

第七條　手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第八條　第一條乃至第三條ノ三ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲其ノ職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮船舶登記規則

大正三年五月
總令第八十七號

改正　大正三年一〇第一四五號、五年四第三〇號、一五年二第二三號

朝鮮船舶登記規則左ノ通定ム

朝鮮船舶登記規則

第一章　總則

第一條　不動產登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第百一條、第百二條、第百六條、第百十九條、第百二十條、第百二十二條乃至第百二十七條、第百四十一條、第百四十二條、第百四十四條乃至第百四十八條、第百四十九條ノ二乃至第百五十九條、朝鮮不動產登記令第二條、第三條、第四條、朝鮮不動產登記令施行規則第二條、第四條、第五條、第十條、第十二條、第十三條、第十六條、

ハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第三十一條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證スル者ヨリ其ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第百七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ管海官廳ヨリ交付シタル船舶件名書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

朝鮮ニ於テ製造シタル船舶ニ付始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ船舶ニ關スル登錄稅ノ受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十三條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類及名稱

二　國籍取得ノ年月日但シ朝鮮ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　總噸數

四　登簿噸數

五　造水ノ年月

汽船ニ在リテハ前項ニ揭ケル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　船質

二　汽機ノ種類及數

三　推進器ノ種類及數

噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船ニ在リテハ第一項ニ揭ケル事項ノ外船質及帆裝ヲ記載スルコトヲ要ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ總噸數及登簿噸數ニ代ヘテ積石數ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ地方法院又ハ其ノ支廳ニ於テ登記官吏カ其ノ登記ヲ完了シタルトキハ附錄第六號鑑形ノ用紙ヲ以テ登記證書ヲ作リ之ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱竝積量、船籍港及第二十四條ニ揭ケタル事項ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ交付スヘシ

第三十五條　登記證書ヲ交付スルトキハ登記證書交付帳ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱竝船籍港、交付ノ年月日及申請人ノ氏名ヲ記載シ登記證書ト契印スヘシ

第三十六條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請シ又ハ所有權移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ朝鮮ニ住所ヲ有スル日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十七條　前條ノ場合ニ於テ登記權利者カ商事會社其ノ他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地及朝鮮人ノ代表者又ハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證及此等ノ者カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ニ於テ既ニ商法第五十一條乃至第五十三條、第百七條、第百四十六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前項ニ定メタル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及船舶管理人ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶所有者カ其ノ所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　商法第五百四十四條ノ二ノ規定ニ依ル船舶ノ委付ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

特定ノ債權者ニ對シテ船舶ヲ委付スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權者ヲ表示スルコトヲ要ス

第四十條　前條ノ申請アリタルトキハ登記官吏ハ登錄稅ノ納付ヲ調査シ其ノ納付ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附セシメタル後登記ヲ爲スヘシ

第四十一條　第三十三條ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船籍港ヲ變更シ又ハ所有權ノ登記名義人ニ遷滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

第四十二條　前條ノ申請アリタルトキハ登記官吏ハ登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三十三條ニ揭ケタル事項ニ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

第四十四條　同一ノ登記所ノ管轄內ニ於ケル船籍港變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ登記簿ニ舊船籍港ノ登記ヲ移スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ舊船籍港ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登記ヲ移シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十五條　船舶所有者カ船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船籍港ノ登記簿及其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前條第二項、第三項及不動產登記法第九條ニ於テハ申請書ニ其ノ債權者ヲ表示スルコトヲ要ス

第四十六條　船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第四十三條及第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スヘシ

第四十九條　未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ此ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ此ヲ準用ス

第五十條　左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一　船舶カ滅失又ハ沈沒シタルトキ

二　船舶カ解撤セラレタルトキ

三　船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

四　船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シ其ノ他朝鮮船舶令第一條各號ニ該當セサル船舶ト爲リタルトキ

五　船舶カ船舶法第二十條ニ揭クル船舶ト爲リタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十條ノ二　登記官吏管海官廳ヨリ船舶令施行規則第二十八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登記ヲ爲シ其ノ旨ヲ所有權ニ關スル登記用紙ヲ閉鎖シ且其ノ旨ヲ所有權ニ關スル登記名義人及登記上利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知スヘシ

第三節　抵當權及賃借權ニ關スル登記手續

第五十一條　共同擔保目錄ハ階錄第七號鑑形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スルコトヲ要ス

第五十二條　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ船舶共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第五十三條　登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第百十七條ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第五十四條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

朝鮮外ニ於テ製造中ニ係ル船舶ノ抵當權ノ登記ハ朝鮮總督ノ指定スル登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十五條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類

二　龍骨ノ長若船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ船ノ長

三　計畫ノ幅及深

四　計畫ノ積量

五　製造地

六　造船者ノ氏名、住所若造船者カ法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

七　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル事項

第五十六條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

第五十七條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記官吏カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スヘシ

第六十條　第六十一條ノ申請ニ因リ登記ヲ爲シタル登記所ハ運滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六十七條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其ノ末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スヘシ

第六十六條　第六十一條ノ申請ニ因リ登記ヲ爲シタル登記所ハ運滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六十七條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其ノ末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スヘシ

第六十八條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱竝積量及船籍港ヲ表示シ且甲區事項欄ニ抵當權ノ登記ヲ爲シタル旨及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第六十九條　既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　附　則　本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條　舊船舶法ニ依リ船舶原簿ニ爲シタル船舶ノ所有權、抵當權、典當權又ハ賃借權ニ關スル登錄ハ本令ニ依リ爲シタル所有權、抵當權又ハ賃借權ニ關スル登記ト看做ス

第七十二條　管海官廳ハ前條ノ登錄ニ關スル

許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方法院又ハ其ノ支廳ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ要ス

第二十六條　前條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十七條　所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セシテ登記ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十八條　登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シ其ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ順位番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第二十九條　特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シ之ニ本登記濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若第六十七條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

不動產登記法第七十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

朝鮮不動產登記令施行規則第十九條ノ規定ハ第一項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第三十條　登記原因及登記ノ目的ノ力同一ニシテ且朝鮮登錄稅令第一條ノ二第一項第六號乃至第九號、第十二號但書及第十三號但書ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄內ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登錄稅ノ受領證ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十一條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權者ヲ表示スルコトヲ要ス

第四十條　前條ノ申請アリタルトキハ登記官吏ハ登錄稅ノ納付ヲ調査シ其ノ納付ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附セシメタル後登記ヲ爲スヘシ

第四十一條　第三十三條ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船籍港ヲ變更シ又ハ所有權ノ登記名義人ニ遷滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

第四十二條　前條ノ申請アリタルトキハ登記官吏ハ登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三十三條ニ揭ケタル事項ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

第四十四條　同一ノ登記所ノ管轄內ニ於ケル船籍港變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ登記簿ニ舊船籍港ノ登記ヲ移スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ舊船籍港ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登記ヲ移シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十五條　船舶所有者カ船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船籍港ノ登記簿及其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前條第二項、第三項及不動產登記法第九條ニ於テハ申請書ニ其ノ債權者ヲ表示スルコトヲ要ス

第四十六條　船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第四十三條及第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スヘシ

第四十九條　未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ此ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ此ヲ準用ス

第五十條　左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一　船舶カ滅失又ハ沈沒シタルトキ

二　船舶カ解撤セラレタルトキ

三　船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

四　船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シ其ノ他朝鮮船舶令第一條各號ニ該當セサル船舶ト爲リタルトキ

五　船舶カ船舶法第二十條ニ揭クル船舶ト爲リタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十條ノ二　登記官吏管海官廳ヨリ船舶令施行規則第二十八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登記ヲ爲シ其ノ旨ヲ所有權ニ關スル登記用紙ヲ閉鎖シ且其ノ旨ヲ所有權ニ關スル登記名義人及登記上利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知スヘシ

第三節　抵當權及賃借權ニ關スル登記手續

第五十一條　共同擔保目錄ハ階錄第七號鑑形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スルコトヲ要ス

第五十二條　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ船舶共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第五十三條　登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第百十七條ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第五十四條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

朝鮮外ニ於テ製造中ニ係ル船舶ノ抵當權ノ登記ハ朝鮮總督ノ指定スル登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十五條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類

二　龍骨ノ長若船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ船ノ長

三　計畫ノ幅及深

四　計畫ノ積量

五　製造地

六　造船者ノ氏名、住所若造船者カ法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

七　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル事項

第五十六條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

第五十七條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記官吏カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スヘシ

第六十條　第六十一條ノ申請ニ因リ登記ヲ爲シタル登記所ハ運滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六十七條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其ノ末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スヘシ

第六十六條　第六十一條ノ申請ニ因リ登記ヲ爲シタル登記所ハ運滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六十七條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其ノ末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第六十八條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱竝積量及船籍港ヲ表示シ且甲區事項欄ニ抵當權ノ登記ヲ爲シタル旨及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第六十九條　既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條　附　則　本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條　舊船舶法ニ依リ船舶原簿ニ爲シタル船舶ノ所有權、抵當權、典當權又ハ賃借權ニ關スル登錄ハ本令ニ依リ爲シタル所有權、抵當權又ハ賃借權ニ關スル登記ト看做ス

第七十二條　管海官廳ハ前條ノ登錄ニ關スル

船舶原簿ノ謄本ヲ作リ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ移送スヘシ但シ其ノ謄本ニハ登記簿ニ記載ヲ要スル事項ニシテ抹消ニ係ラサルモノノミヲ謄寫スヘシ

前項ノ移送ヲ爲シタルトキハ船舶原簿ハ登記ニ關シテハ閉鎖シタルモノト看做ス

第七十三條　船舶原簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ登記所ハ其ノ謄本ニ依リ登記簿ニ移記スヘシ

前項ノ移記ヲ爲スニハ登記番號欄ニ登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ船舶原簿ノ番號ヲ附記シ表示欄ニ船舶ノ表示ヲ移シ順位番號欄ニ新ナル番號ヲ附シ事項欄ニ相當事項ヲ移スヘシ

第七十四條　登記官吏前條ノ移記ヲ爲シタルトキハ第三十四條ノ規定ニ準シ登記證書ヲ作リ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第三十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ登記證書ニハ抹消ニ係ラサル抵當權又ハ賃借權ニ關スル事項ヲモ記載スヘシ

附　則（大正三年十月總令第百四十五號）

第一條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタル船舶ニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第三十三條第一項第二號ノ事項ヲ除クノ外同條ニ揭クル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ變更後ノ事項ノ記載ハ第三十三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記ヲ受ケサル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本令ニ依ル表示ニ當然變更シタルモノト看做ス

附　則（大正十五年二月總令第十三號）

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前調製シタル帳簿及用紙ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ雛形ニ依ル

附錄第一號

船舶登記簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

乙區	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄
（船舶管理人）						

丙區（抵當權及賃借權）	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

丁

附錄第二號

船舶共同人名簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備

丁

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備

丁

登記番號　第　號	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄
船舶表示部題						

甲區（所有權）	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

丁

附錄第三號

船舶登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

船舶ノ名稱 | 登記簿冊數丁數 | 登記番號 | 備考

ノ部

丁

附錄第四號

船舶登記受附帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

船舶ノ名稱 | 登記簿冊數丁數 | 登記番號 | 備考

ノ部

丁

受附ノ年月日番號 | 登記ノ目的 | 申請人ノ氏名 | 備考

丁

附錄第五號

（用紙厚紙竪五寸橫一寸）

住所

氏名　何年何月何日生

㊞印鑑

（注意）法人ノ代表者ナルトキハ氏名ノ肩ニ事務所又ハ營業所ノ所在地、法人ノ名稱竝ニ代表者ノ資格ヲ記載スヘシ

附錄第六號（用紙美濃紙）

登記證書

附錄第七號

船舶共同擔保目錄

登記簿ノ冊數 | 登記番號 | 順位番號 | 番號 | 擔保ノ目的タル權利ノ表示 | 豫備

丁

朝

●釜山地方法院ヲ朝鮮船舶登記規則第五十四條第二項ノ規定ニ依ル登記所ニ指定

大正三年六月總告第二百十一號

釜山地方法院ヲ朝鮮船舶登記規則第五十四條第二項ノ規定ニ依ル登記所ニ指定ス

●船舶ノ登記其ノ他ノ手續ニ關スル件

大正三年八月總訓第四十四號

官房土木局長
遞信局長官
鐵道局長官
警務總長
道長官

本府所管船舶ノ登記、登錄、檢査其ノ他一般海事ニ關スル申請、屆出等ノ手續ハ朝鮮總督府ノ名義ニテ其ノ官ノ名ヲ用キ之ヲ爲スヘシ

營林廠長
稅關長

●朝鮮産業組合登記取扱規則

大正十五年二月
總令第十六號

朝鮮産業組合登記取扱規則左ノ通定ム

朝鮮産業組合登記取扱規則

第一條　朝鮮産業組合登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　朝鮮産業組合登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登記所ニハ登記簿見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　印鑑簿
二　申請書類綴込帳
三　決定原本綴込帳
四　抗告書類綴込帳
五　登記濟證交付帳
六　謄本抄本證明書交付帳
七　受領證原符元帳

第四條　前條第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一年每ニ別册ト爲スヘシ但シ分册スルコトヲ妨ケス

第五條　産業組合カ其ノ主タル事務所ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　朝鮮産業組合令第十五條ノ規定ニ依リ同令第十二條第一項各號ノ事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ産業組合ノ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八條　不動産登記令施行規則第四條、第五條、第十二條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條ノ二、第三十七條、第三十八條、第四十一條、第四十九條、第五十二條及商業登記取扱規則第四條乃至第六條、第九條乃至第二十三條、第二十四條第四項、第二十六條乃至第三十一條、第三十二條乃至第三十五條、第五十九條乃至第五十九條ノ四、第六十條、第六十四條ノ規定ハ朝鮮産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ朝鮮産業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

朝鮮産業組合登記簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

登記番號	第	號

登記ノ年月日及登記官吏印	第一欄ヨリ第九欄マテ	大正　年　月　日登記
一	名稱	
二	主タル事務所	
三	目的	
四	區域	
五	設立許可ノ年月日	
六	存立時期又ハ解散ノ時期若ハ事由	
七	出資總口數及拂込ミタル出資ノ總額	
八	出資一口ノ金額及其ノ拂込方法	
九	組合長、理事及監事ノ氏名、住所	
十	解散ノ原因及年月日	大正　年　月　日登記
十一	清算人ノ氏名、住所	大正　年　月　日登記
十二	清算結了ノ年月日	大正　年　月　日登記
備	豫	
變	更	

丁

變	更
變	更

變	更
變	更

丁

附錄第二號

朝鮮産業組合登記見出帳

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

●金融組合登記取扱規則

大正三年八月
總令第百十七號
改正　七年九第八九號、一二年一第一六號、一五年二第一四號

金融組合登記取扱規則左ノ通定ム

金融組合登記取扱規則

第一條　金融組合登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　金融組合登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登記所ニハ登記簿見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　印鑑簿
二　申請書類綴込帳
三　決定原本綴込帳
四　抗告書類綴込帳
五　登記濟證交付帳
六　謄本抄本證明書交付帳
七　受領證原符元帳

第四條　前條第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一年每ニ別册ト爲スヘシ但シ分册スルコトヲ妨ケス

ノ部						
名稱	登記簿 冊數	登記簿 丁數	登記簿 登記番號	登記簿 繼續用紙ノ冊數	備考	

ノ部						
名稱	登記簿 冊數	登記簿 丁數	登記簿 登記番號	登記簿 繼續用紙ノ冊數	備考	

丁

第五條　金融組合カ其ノ主タル事務所ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　金融組合令第二十二條ノ規定ニ依リ同令第十九條第一項ニ定メタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ金融組合ノ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八條　削除

第九條　不動産登記令施行規則第四條、第五條、第十二條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十七條、第三十四條乃至第三十六條ノ二、第三十七條、第三十八條、第四十一條、第四十九條、第五十二條及商業登記取扱規則第四條乃至第六條、第九條乃至第二十三條第二十四條第四項、第二十六條乃至第三十一條、第三十二條乃至第三十五條、第五十九條乃至第五十九條ノ四、第六十條、第六十四條ノ規定ハ金融組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十條　金融組合聯合會ノ登記ニ付テハ金融組合ノ登記ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ地方金融組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則(大正七年十月總令第八十九號)

本令ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ備付ケタル登記簿中「業務區域」トアルハ之ヲ「區域」ニ、「出資拂込ノ方法」トアルハ之ヲ「出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法」ニ本令施行ノ際變更シタルモノト看做ス

本令施行前登記ヲ受ケタル金融組合ハ出資一口ノ金額ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

附　則(大正十五年二月總令第十四號)

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ樣形ニ依ルヘシ

附錄第一號

金融組合登記簿

何地方法院(何支廳又ハ何出張所)

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

第　號

登記番號	登記ノ年月日及登記官吏印	一 名稱	二 主タル事務所	三 目的	四 區域	五 設立許可ノ年月日	六 存立時期又ハ解散ノ時期若ハ事由
(第一回關第九回關マテ)	大正　年　月　日登記						

七 出資總口數及拂込ミタル出資ノ總額	八 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法	九 組合長、理事及事務所ノ氏名	十 解散ノ原因及年月日	十一 清算人ノ氏名、住所	十二 清算結了ノ年月日	備考
			大正　年　月　日登記	大正　年　月　日登記	大正　年　月　日登記	

金融組合登記簿　丁

變更

附錄第二號

金融組合登記見出帳

何地方法院(何支廳又ハ何出張所)

丁

變更	變更
變更	變更

ノ部	登記簿	丁	ノ部
名稱	登記繼續用紙ノ冊數	備考	名稱
冊數			冊數
丁數			丁數
番號			番號
ノ冊數			ノ冊數

㊱土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件

大正三年五月
制令第十六號
改正　大正一〇年一第二號

土地調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル土地ノ登記又ハ證明ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　土地ノ所有權カ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル場合ニ於テ之ト牴觸スル登記又ハ證明アルトキハ土地所有者ハ其ノ登記又ハ證明ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ牴觸ヲ證スル足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

所有權以外ノ權利ニ關スル登記又ハ證明アルトキハ申請書ニ其ノ登記又ハ證明ノ名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

不動産登記法第百二條及第百二條ノ規定ハ第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二條　既登記又ハ既證明ノ土地ノ一部ニ關シ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權カ登記又ハ證明ノ名義人ニ代リ土地所有者ハ登記又ハ證明ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第四十六條ノ二及第五十條第三項ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第三條　土地調査令ニ依ル調査ノ結果土地ノ分合、面積ノ增減又ハ地目番號若ハ面積ノ單位ノ變更ヲ生シタル爲其ノ登記又ハ證明ノ事項ヲ證スル土地臺帳附箋ヲ添附スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ不動産登記法第八十一條ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第三條ノ二　土地調査令ニ依ル調査ノ結果甲乙地カ乙地ニ合シテ一筆ノ土地ト爲リタルニ因リ其ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ乙地ノ登記用紙ニ現存スル登記ト登記原因、其ノ日附、登記ノ目的及受附番號ノ同一ナル甲地ノ登記又ハ證明ヲ其ノ用紙ニ移ストキハ移記又ハ轉寫ノ手續ヲ要セス其ノ用紙ニ甲地タリシ部分ヲ記載シ其ノ部分ニ付同一ノ登記アル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル

第四條　土地調査令ニ依ル調査ノ結果既登記又ハ既證明ノ土地カ未登記又ハ未證明ノ土地ト合シテ一筆ノ土地ト爲リタル場合ニ於テ合併ノ登記又ハ證明ヲ申請スルニハ土地所有者ハ先ツ未登記又ハ未證明ノ部分ニ付所有權保存ノ登記又ハ證明ヲ申請スヘシ

前項ノ保存ノ登記又ハ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ全部ニ對スル土地臺帳謄本及既登記又ハ既證明ノ土地ト合シテ一筆ノ土地ト爲リタルコトヲ證スル土地臺帳所管廳ノ書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ保存ノ登記又ハ證明ニ付テハ未登記又ハ未證明ノ部分ハ登記又ハ證明ノ手續上之ヲ一筆ノ土地ト看做ス

第五條　土地調査令ニ依ル調査ノ結果土地ノ分合、面積ノ增減又ハ地目番號若ハ面積ノ單位ノ變更ヲ生シタルトキハ登記又ハ證明ノ名義人又ハ登記又ハ證明ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ申請書ニ第三條第一項ノ申請ニ因ル登記又ハ證明ニ之ヲ準用ス

第六條　登記官吏又ハ證明官吏第一條乃至第三條又ハ第五條ノ登記又ハ證明ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ其ノ抹消又ハ變更ニ付登記又ハ證明上利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知スヘシ

第七條　既登記又ハ既證明ノ土地ニ付土地臺帳調製後初テ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ地カ乙地ニ合シテ一筆ノ土地ト爲リタルニ因リ其ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ乙地ノ登記用紙ニ現存スル登記ト登記原因、其ノ日附、登記ノ目的及受附番號ノ同一ナル甲地ノ登記又ハ證明ヲ其ノ用紙ニ移ストキハ移記又ハ轉寫ノ手續ヲ要セス其ノ用紙ニ甲地タリシ部分ヲ記載シ其ノ部分ニ付同一ノ登記アル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル

第八條　第二條乃至第五條ノ規定ハ證明ニ付テハ登錄稅ヲ課セス第五條ノ規定ニ依リ登記又ハ證明ノ抹消ヲ爲シタル土地ノ所有權保存ノ登記ニ付亦同シ

第九條　本令ハ土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ヲ經テ確定シタル所有權ニ付再審ノ結果變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條　本令ハ朝鮮林野調査令ニ依リ査定又ハ裁決ヲ經タル林野又ハ土地ノ登記ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

㊲財團抵當登記取扱規則

大正八年五月
總令第百號
改正　大正一五年二第一五號

財團抵當登記取扱規則左ノ通定ム

第一條　工場抵當法ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外朝鮮不動産登記令施行規則ニ依ル

第二條　工場財團登記簿ハ附錄第一號雛形、工場財團共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條　工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ工場抵當法第二十二條ニ揭ケタル書面ノ外工場ノ圖面ヲ提出スヘシ

第四條　各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ工場ニ付工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ工場抵當法第二十一條第一號乃至第三號ノ事項ニ付各所有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第五條　工場財團目錄ノ記載ハ後九條ノ規定ニ從フヘシ

第六條　土地ニ付テハ府、郡、島、面、町洞里、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數及用方ヲ記載スヘシ

第七條　工作物ニ付テハ其ノ種類、構造及建坪又ハ延長ヲ記載シ且其ノ所在ノ土地ヲ表示スヘシ

第八條　機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物ニ付テハ其ノ種類、構造、箇數又ハ延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月、記號、番號其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ヘキ特質アルトキハ其ノ特質ヲモ記載スヘシ

數箇ノ土地又ハ工作物ノ一ニ附屬スル物ニ付テハ其ノ附屬スル土地又ハ工作物ヲ表示スヘシ

軽微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲スコトヲ得

第九條　登記シタル船舶ニ付テハ朝鮮船舶登記規則第三十三條ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十條　地上權ニ付テハ第六條ニ揭ケタル事項ノ外設定ノ目的及範圍、存續期間、地代及其ノ支拂時期、設定ノ年月日竝所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條　賃借權ニ付テハ第六條、第七條、第八條又ハ第九條ニ揭ケタル事項ノ外存續期間、借賃及其ノ支拂時期、設定ノ年月日竝賃貸人ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十二條　工場抵當法第十六條第二項ニ依リ抵當權ノ目的タルヘキ地役權ニ付テハ承役地ノ表示、設定ノ目的及範圍、設定ノ年月日竝所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十三條　工業所有權ニ付テハ其ノ權利ノ種類、名稱、番號及原簿登錄ノ年月日ヲ記載スヘシ

工業所有權ニ關スル實施權ニ付テハ實施權ノ範圍竝本權ノ種類、名稱、番號、原簿登錄ノ年月日及其ノ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十四條　數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ各工場ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テハ各所有者ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

第十五條　工場財團目錄ヲ作成スルニハ美濃判大ノ紙料ヲ用ウヘシ

第十六條　工場財團目錄ニハ其ノ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

第十七條　工場ノ圖面ニハ屬スル土地及工作物ノ方位、形狀及間尺竝重要ナル隣屬物ノ配置ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

地上權ノ目的タル土地、賃借權ノ目的タル土地及工作物竝承役地ニ付テハ各其ノ方位、形狀及間尺ヲ記載スヘシ

工場ノ一部ヲ以テ工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ財團ニ屬スル部分ト之ニ屬セサル部分トヲ區分スヘシ

第十八條　登記官吏カ工場抵當法第二十條第三項ニ依リ表示欄ニ工場財團ノ表示ヲ爲スニハ工場ノ名稱、位置、主タル營業所及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ所有者ノ氏名又ハ名稱ヲモ記載スヘシ

第十九條　登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ工場財團目錄及工場ノ圖面ニ申請書受附ノ年月日、受附番號及登記番號ヲ記載スヘシ

工場抵當法第三十九條ニ依リ提出シタル目錄ニハ申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十條　登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第三十四條第二項、第三十七條第二項、第四十一條第二項、第四十四條第二項、第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ要旨、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ朝鮮不動産登記令施行規則第十四條第十三號ノ通知錄ニ記入スヘシ

第二十一條　登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第三十七條第二項、第四十四條第二項、第四十八條第二項及第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ受附帳ニ通知事項ノ要旨、通知ヲ爲シタル登記所ノ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ通知書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ通知ヲ爲シタル登記所ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二十二條　工場財團目錄及工場ノ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第二十三條　工場抵當法第三條ノ場合ニ於テハ土地又ハ建物カ同法第一條ノ工場ニ屬スルモノナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出スヘシ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テ土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲ストキハ工場抵當法第三條ニ依リテ目錄ノ提出アリタルコトヲ記載スヘシ

第二十五條　第八條、第十五條、第十六條、第十九條及第二十二條ノ規定ハ工場抵當法第三條ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第二十六條　鑛業抵當法ニ依ル鑛業財團ノ登記ニ付テハ後六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十七條　鑛業財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ鑛業抵當法第三條及工場抵當法第二十二條ニ揭ケタル書面ノ外工作物ノ配置ヲ記載シタル圖面ヲ提出スヘシ

前項ノ圖面ニハ申請人署名捺印スヘシ

第二十八條　鑛業財團目錄ニ揭クヘキ鑛業權ニ付テハ鑛區ノ位置、鑛物ノ名稱、鑛區ノ面積、鑛業權設定ノ年月日及其ノ登錄番號ヲ記載スヘシ

鑛業權ニ付期限アルモノニ付テハ其ノ期限ヲモ記載スヘシ

第二十九條　鑛業財團目錄ニ揭クヘキ土地ノ使用權ニ付テハ土地所在ノ府、郡、島、面、町洞里、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、使用ノ目的、使用ノ時期、使用ノ期間、使用料及其ノ支拂時期竝土地所有者及關係人ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第三十條　數箇ノ鑛業權ニ付鑛業財團ヲ設クル場合ニ於テ鑛業財團目錄ヲ作成スルニハ各鑛區ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ但シ數箇ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　登記官吏カ鑛業財團登記簿ノ用紙中表示欄ニ鑛業財團ノ表示ヲ爲スニハ鑛區ノ位置、鑛物ノ名稱、鑛區ノ面積、鑛業權ノ登錄番號及鑛業事務所ヲ記載スヘシ

第三十二條　鑛業財團目錄及第二十七條ニ依リ提出シタル圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年二月總令第十五號）

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

工場財團登記簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

登記番號	第　　號												
表題部（財團表示）		甲　區（所有權）						乙					區（抵當權）
表示番號	表示欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄		

丁　　丁

附錄第二號

工場財團共同人名簿

何地方法院（何支廳又ハ何出張所）

紙數表紙ヲ除キ　枚

地方法院長

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備

丁

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備

●官廳ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ關スル件

大正十年八月
總令第百二十三號

改正　大正一二年一二第一三五號、一四年一第一號、一四年四第二九號

官廳ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　本府所管ニ係ル不動産ノ登記ハ左ノ官吏ヲシテ之カ囑託ヲ爲サシム

內務局長
內務局出張所長
殖產局長
遞信局長
鐵道局長
鐵道局出張所長
鐵道局事務所長
專賣局長
專賣支局長
高等法院長
覆審法院長
地方法院長
典獄
醫院長
濟生院長
感化院長
勸業模範場長
中央試驗所長
營林廠長
觀測所長
獸疫血清製造所長
警察官講習所長
官立學校長
秘關長
道知事
府尹郡守島司
水產試驗場長
林業試驗場長
圖書館長

第二條　前條ニ依リ指定シタル官吏ハ朝鮮不動產登記令ニ依ル不動產登記法第三十五條第五號ノ書面ノ提出ヲ要セス

第三條　左ニ揭ク官吏其ノ所屬官廳ノ所管ニ係ル不動產登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ前條同シ

朝鮮軍經理部長
衛生部長
要塞司令部工兵科將校
築城部支部長

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年朝鮮總督府令第四十四號及大正五年朝鮮總督府令第三十八號ハ之ヲ廢止ス

第三款　戶籍

●朝鮮戶籍令

大正十一年十二月
總令第百五十四號

朝鮮戶籍令左ノ通定ム

朝鮮戶籍令

第一章　總則

第一條　朝鮮人ノ戶籍ニ關シテハ朝鮮民事令ノ規定ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　地方法院支廳ノ一人ノ判事又ハ上席判事ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其ノ事務取扱區域內ニ於ケル戶籍事務ヲ監督ス

第二章　戶籍簿

第三條　戶籍ハ府又ハ面ノ區域內ニ本籍ヲ定メタル者ニ付戶主ヲ本トシテ一戶毎ニ之ヲ編製ス

第四條　戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編製シテ帳簿トス

一ノ府又ハ面內ニ於ケル各區畫ノ順序ハ府尹又ハ面長之ヲ定ム

第五條　戶籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ府廳又ハ面事務所ニ備ヘ副本ハ監督裁判所之ヲ保存ス

第六條　新ニ戶籍ヲ編製シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ副本ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第七條　戶籍簿ハ事變ヲ避ケル爲ニスル場合ヲ除クノ外府廳又ハ面事務所外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第八條　戶籍簿ヲ閱覽シ又ハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

府尹又ハ面長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

謄本又ハ抄本ハ府尹又ハ面長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

第九條　戶主相續、絕家其ノ他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其ノ戶籍ハ之ヲ戶籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

第十條　第七條及第八條ノ規定ハ除籍簿及除カレタル戶籍ニ付之ヲ準用ス

第三章　戶籍ノ記載手續

第十一條　戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　戶主及家族ノ姓名及本貫竝前戶主ノ姓名

二　戶主ノ本籍

三　戶主又ハ家族カ朝鮮貴族ナルトキハ其ノ旨

四　戶主及家族ノ出生ノ年月日

五　戶主又ハ家族ト爲リタル原因及年月日

六　戶主及家族ノ實父母ノ姓名竝戶主及家族ト實父母トノ續柄

七　戶主又ハ家族カ養子ナルトキハ其ノ養親及實父母ノ姓名竝養子ト養親及實父母トノ續柄

八　戶主ト前戶主及家族トノ續柄

九　家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戶主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其ノ家族トノ續柄

十　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其ノ續柄

十一　他家ヨリ入リテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其ノ原籍、原籍ノ戶主ノ姓名及其ノ戶主ト戶主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ姓名、本籍竝其ノ就職及任務終了ノ年月日

十二　其ノ他戶主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十二條　戶主及家族ノ姓名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一　戶主

第二　戶主ノ直系尊屬

第三　戶主ノ配偶者

第四　戶主ノ直系卑屬及其ノ配偶者

第五　戶主ノ傍系親及其ノ配偶者

第六　戶主ノ親族ニ非サル者直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬ノ間又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戶籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戶籍ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第十三條　戶籍ノ記載ハ屆出、報告若ハ申請、證書若ハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第十四條　戶籍ニハ第十一條ニ揭クルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　屆出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ屆出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ屆出人又ハ申請人ノ資格及姓名、他ノ府尹、面長又ハ官吏ヨリ屆書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受附ノ年月日及發送者ノ職氏名

二　報告ノ受附ノ年月日及報告者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及證書又ハ航海日誌ノ作製者竝謄本ノ發送者ノ職氏名

四　戶籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及裁判所ノ名稱

第十五條　府尹又ハ面長カ屆書、報告書其ノ他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ヲ記載スヘシ

本籍地ノ府尹又ハ面長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戶籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十六條　戶主相續、戶主相續回復其ノ他戶主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付屆出又ハ申請アリタルトキハ其ノ屆出又ハ申請及前戶主又ハ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戶籍ニ依リテ新戶籍ヲ編製スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前戶主又ハ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戶籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スヘシ

第十七條　一戶ノ全員又ハ一戶內ノ一人若ハ數人ヲ戶籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戶籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スヘシ

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ

尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ府尹又ハ面長ニ入籍ノ通知ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其ノ他受理シタル書類ハ本籍人及非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スヘシ

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スヘシ

第二十七條　前條第一項ノ書類ハ一月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第二十八條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノ又ハ其ノ記載ニ錯誤若ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ其ノ錯誤又ハ遺漏カ府尹又ハ面長ノ過誤ニ出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ府尹又ハ面長ハ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其ノ職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二十九條　同一ノ事件ニ付數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其ノ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第三十條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スヘシ

第三十一條　府尹又ハ面ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該府又ハ面ニ引繼クヘシ

第三十二條　第二十一條乃至第二十四條及第二十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ朝鮮ノ家ヲ去リタル者及他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付之ヲ準用ス

第四章　届出

第一節　通則

第三十三條　届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付届出アリタル後其ノ者ノ本籍カ分明トナリタルトキハ又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十五條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スヘシ

一　届出事件

二　届出人ノ年月日

三　届出人ノ出生ノ年月日及本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其ノ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍並身分變更ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十七條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ルトキハ届書ニ其ノ續柄ヲ記載スヘシ

届出人カ家族トナルトキハ届書ニ戸主ノ姓名及届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ

第三十八條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者ト爲ス但シ出生、死亡其ノ他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治産者亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二　無能力ノ原因

三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第三十九條　無能力者カ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツヘシ

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スヘシ

第四十條　届出ニ證人ヲ要スル場合ニ於テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及本籍ヲ記載シテ署名、捺印スヘシ

第四十一條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其ノ所在ヲ記載スヘシ

第四十二條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ府尹又ハ面長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第四十三條　届書ニハ本令其ノ他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノハ之ヲ記載スヘシ

第四十四條　第十八條第一項及第三項ノ規定ハ届書ニ付之ヲ準用ス

第四十五條　二以上ノ府廳又ハ面事務所ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ府廳又ハ面事務所ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スヘシ

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尚一通ノ届書ヲ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ府尹又ハ面長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第四十六條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出

人ハ府廳又ハ面事務所ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スヘシ

府尹又ハ面長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其ノ書面ニ署名、捺印セシムヘシ

届出人カ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届出事件ニ付戸主、父母、後見人、親族會其ノ他ノ者ノ同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ届書ニ其ノ同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ同意又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十八條　届書ニ關スル規定ハ第四十六條第二項及前條第一項ノ書面ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　外國ニ在ル朝鮮人カ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ本令ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ府尹又ハ面長ニ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條　外國ニ在ル朝鮮人ハ其ノ國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一月内ニ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ提出スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後船舶カ朝鮮ノ港ニ著シタルトキハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其ノ地ノ府尹又ハ面長ニ發送スヘシ

第五十一條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其ノ送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條　府尹又ハ面長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲササルトキハ府尹又ハ面長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テハ届書ニ其ノ受理ノ年月日ヲ記載シ且届出人ニ受理ノ證明書ヲ交付スヘシ

第五十四條　届出期間經過後ノ届出ト雖府尹又ハ面長ハ之ヲ受理スヘシ

第五十五條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スヘシ

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第二十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付證明書ヲ請求スルコトヲ得

第八條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第二十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條　届出人其ノ他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名ハ其ノ署名ヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ署名スルコト能ハサルトキハ姓名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

第五十七條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スヘシ

第二節　出生

第五十八條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十九條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條　嫡出子ヲ出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子ヲ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲クル者ハ其ノ順序ニ從ヒ届出ヲ爲スヘシ

第一　戸主

第二　同居者

第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四　分娩ヲ介抱シタル者

第六十一條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十二條　航海中ニ出生アリタルトキハ船長ハ二十四時内ニ出生アリタルトキハ船長ハ二十四時内ニ第五十七條第二項ニ掲クル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後船舶カ朝鮮ノ港ニ著シタルトキハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其ノ地ノ府尹又ハ面長ニ發送スヘシ

第六十三條　病院、監獄其ノ他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テハ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スヘシ

第六十四條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十五條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ姓名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品發見ノ場所、年月日時其ノ他ノ狀況及姓名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝本籍ヲ調書ニ記載スヘシ其ノ調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第六十六條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一月内ニ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

第六十七條　第六十五條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節　認知

第六十八條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　子ノ姓名、男女ノ別、出生ノ年月日及本籍

二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ姓名及本籍並父ノ職業

四　子カ家族トナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主ト子トノ續柄

第六十九條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其ノ旨、母ノ姓名及本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第七十條　父カ庶子ヲ出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其ノ届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第七十一條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第六十八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第七十二條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ第六十八條又ハ第六十九條ノ規定ニ從ヒテ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十三條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地

ニ於テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者カ執行者其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十四條　第四十六條第三項ノ規定ハ第六十八條及第六十九條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子縁組

第七十五條　縁組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業

二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄

四　新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲ルトキハ其ノ旨

前項ノ届出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七十六條　父母其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ届出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第七十七條　遺言ニ依ル縁組ニ付テハ遺言執行者及養子ト爲ルヘキ者ハ遺言カ效力ヲ生シタル後遅滯ナク縁組ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ縁組ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第七十八條　縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七十九條　第四十六條第三項ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離縁

第八十條　離縁ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業

二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍

五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨竝創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ届出ヲ爲シタル後養子カ復籍スヘキ家ノ戸主又ハ其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ届出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第八十一條　離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十二條　離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十三條　離縁ノ裁判カ確定シタル場合ニ於テハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ三月内ニ其ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ左ノ事項ヲ通知スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業

二　父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

四　招壻ナルトキハ其ノ旨

當事者ノ一方カ婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲クル事項ノ外實家ノ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

第八十四條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ招壻ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スヘシ

第八十五條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其ノ届書ニ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第八十六條　第四十六條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第八十七條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業

二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄

四　新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲ルトキハ其ノ旨

前項ノ届出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八十八條　父母其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ届出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第八十九條　遺言ニ依ル縁組ニ付テハ遺言執行者及養子ト爲ルヘキ者ハ遺言カ效力ヲ生シタル後遅滯ナク縁組ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ縁組ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第九十條　縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十一條　第四十六條第三項ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及後見

第九十二條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其ノ權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十三條　失權宣告取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十四條　後見開始ノ届出ハ後見人其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十五條　後見人ノ解任ノ裁判カ確定シタルトキハ後見人ノ戸籍ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十六條　後見人ノ辭任ノ裁判カ確定シタルトキハ後見人ノ戸籍ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十七條　後見終了ノ届出ハ後見人ノ戸籍ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條　後見人ノ職務ノ執行ニ付後見監督人アルトキハ後見監督人ノ戸籍ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十九條　後見人又ハ後見監督人カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第百條　後見人及被後見人ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

三　後見開始ノ原因及年月日

四　後見人就職ノ年月日

第百一條　後見人ノ更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百二條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第百三條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スヘシ

一　被後見人ノ姓名及本籍

二　後見終了ノ原因及年月日

第百四條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ノ戸籍ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第百五條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ二箇月内ニ管理ノ計算ヲ爲スヘシ但シ此ノ期間ハ利害關係人ノ協議ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第百六條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ後見ノ計算ヲ爲シタル後其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第百七條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理スル權利ヲ有セス

第百八條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ヲ指定スルコトヲ得

第百九條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル利息ヲ引渡スヘシ

第百十條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十一條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十二條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十三條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十四條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十五條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十六條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十七條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十八條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百十九條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十一條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十二條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十三條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十四條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十五條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十六條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十七條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十八條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百二十九條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百三十條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百三十一條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百三十二條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第百三十三條　後見人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ引渡スヘキ相手方ニ對シ其ノ引渡ノ時マテニ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

コトヲ得

第百一條　水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

第百二條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遅滯ナク監獄所在地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スヘシ

第百三條　前二條ノ報告書ニハ第九十八條第二項ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

第百四條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遅滯ナク死亡地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

死亡者ノ本籍地分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遅滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第一項ノ報告アリタル後第九十九條第一號及第二號ニ掲クル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ

第百五條　第五十九條、第六十二條及第六十三條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第百六條　失踪宣告ノ届出ハ其ノ宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　失踪者ノ姓名及本籍

二　民法第三十條ニ定ムル期間滿了ノ日

三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及戸主ト失踪者トノ續柄

第十節　戸主相續

第百七條　戸主相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一月内ニ之ヲ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　戸主相續ノ原因及戸主ト爲リタル年月日

二　前戸主ノ姓名及前戸主ト戸主トノ續柄

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　絕家ノ戸主ノ姓名及本籍

二　絕家ノ原因及年月日

第百八條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第百九條　轉籍及就籍

第百十四節　轉籍及就籍

第百十條　轉籍セムト欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第百十一條　本家ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主トノ續柄

二　分家ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主トノ續柄

分家ノ戸主及家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ姓名及本籍

第百十二條　絕家ノ家族ハ絕家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スヘシ

第百十三條　絕家再興ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　絕家ノ戸主ノ姓名及本籍

二　絕家ノ原因及年月日

三　絕家ノ戸主ト再興ヲ爲ス者トノ續柄

四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

第十三節　改名、族稱ノ得喪及襲爵

第百十四條　改名ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

第百十五條　本籍ヲ有セサル者ハ其ノ就籍セムト欲スル地ヲ管轄スル裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スヘシ

届書ニハ第十一條ニ掲クル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百十六條　就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十七條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スヘシ

第百十八條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第百十九條　轉籍及就籍

第百十四節　轉籍及就籍

第百二十條　轉籍セムト欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第百二十一條　本家ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主トノ續柄

二　分家ノ戸主及家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ姓名及本籍

第百二十二條　絕家ノ家族ハ絕家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スヘシ

第百二十三條　絕家再興ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　絕家ノ戸主ノ姓名及本籍

二　絕家ノ原因及年月日

三　絕家ノ戸主ト再興ヲ爲ス者トノ續柄

四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

第十三節　改名、族稱ノ得喪及襲爵

第百二十四條　改名ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

第百二十五條　本籍ヲ有セサル者ハ其ノ就籍セムト欲スル地ヲ管轄スル裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スヘシ

届書ニハ第十一條ニ掲クル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百二十六條　就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十七條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スヘシ

第百二十八條　第百二十一條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附ス

第百二十九條　本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百三十條　本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

第百二十八條　本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

民籍法、明治四十四年朝鮮總督府令第百四十八號及大正十年朝鮮總督府令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第百二十九條　本令施行前生シタル事項ノ申告又ハ届出ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

第百三十條　本令ノ規定ハ從前ノ申告又ハ届出及本令施行前ノ申告又ハ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載手續ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第百三十一條　本令施行前共通法第三條ノ規定ニ依リ朝鮮ノ家ニ入リタル場合ニ於テモ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル場合ニ於テモ民籍法又ハ他ノ地域ノ家ニ入リタル場合ニ於テモ戸籍法又ハ戸籍法ニ從ヒ申告又ハ届出アリタルモノニ付テハ府尹又ハ面長ハ本令ノ定ムル所ニ準シ入籍、除籍其ノ他ノ手續ヲ爲スヘシ

當事者、戸主其ノ他ノ利害關係人ハ當事者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ申告又ハ届出アリタル旨ヲ申出ツヘシ

第百三十二條　從前ノ規定ニ依ル民籍ハ本令ニ依ル戸籍トシテ其ノ效力ヲ有ス

第百三十三條　府尹又ハ面長ハ本令施行ノ日

ヨリ六月内ニ従前ノ規定ニ依リ全戸除籍シタルモノヲ除クノ外前條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ヲ作リ之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

◉戸籍法

大正三年三月
法律第二十六號
改正　大正一〇、四、第四八號、一三、七、第二〇號

除帝國議會ノ協賛ヲ經タル戸籍法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戸籍法

第一章　戸籍事務ノ管掌
第二章　戸籍簿
第三章　戸籍ノ記載手續
第四章　届出

第一節　通則
第二節　出生
第三節　認知
第四節　養子縁組
第五節　養子離縁
第六節　婚姻
第七節　離婚
第八節　却籍及ヒ後見
第九節　隠居
第十節　死亡及失踪
第十一節　家督相續
第十二節　推定家督相續人ノ廃除
第十三節　家督相續人ノ指定
第十四節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絶
第十五節　分家及ヒ廃絶家再興
第十六節　国籍ノ得喪
第十七節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲having
第十八節　純籍及ヒ就籍
第十九節　戸籍ノ訂正
第五章　抗告
第六章　罰則
附則

戸籍法

第一章　戸籍事務ノ管掌

第一條　戸籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條　市町村長ハ自己ノ家ヲ同シクスル者ニ關スル戸籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

第三條　戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條　市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市ヲ、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

第六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村ヲ、市町村長及ヒ市役所竝ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條　第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條　本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　戸籍簿

第九條　戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第十條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條　戸籍ハ正副二冊ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條　新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遅滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條　戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條　戸籍簿ヲ閲覧シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　戸籍簿ヲ閲覧シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十五條　戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條　家督相續、廢絶家再興ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十八條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名
二　戸主ノ本籍
三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱
四　家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱
五　戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
六　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日
七　戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族カ實子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子ト養親竝ニ實父母トノ續柄

第十九條　戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

一　戸主
二　戸主ノ直系尊属
三　戸主ノ配偶者
四　戸主ノ直系卑属及ヒ其配偶者
五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊属ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑属又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコトヲ要ス

第二十條　戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條　戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名

二　報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報

告者又ハ請求者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ作製者竝ニ謄本ノ發送者ノ職氏名

四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十二條　市町村長カ届書、報告書其他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　家督相續、家督相續回復其他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付キ届出、申請又ハ請求及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スルコトヲ要ス

家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ記載ヲ爲スマテハ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ヲ抹消シ家督相續人カ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　復籍拒絶ノ届出アリタルトキハ復籍拒絶者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後新戸籍ヲ編製スルトキハ之ニ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ移記スルコトヲ要ス

復籍ヲ拒絶セラレタル者カ死亡シ其他復籍スルコトナキニ至リタルトキハ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條　家督相續人指定ノ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條　離籍又ハ廃家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立又ハ廃家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若

行フコトヲ得ス

第三條　戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條　市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市ヲ、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

第六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村ヲ、市町村長及ヒ市役所竝ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條　第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條　本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　戸籍簿

第九條　戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第十條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條　戸籍ハ正副二冊ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條　新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遅滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條　戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條　戸籍簿ヲ閲覧シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十五條　戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條　家督相續、廢絶家再興ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十八條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名
二　戸主ノ本籍
三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱
四　家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱
五　戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
六　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日

七　戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族カ實子ナルトキハ其養親竝ニ實父母トノ續柄

第十九條　戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

一　戸主
二　戸主ノ直系尊属
三　戸主ノ配偶者
四　戸主ノ直系卑属及ヒ其配偶者
五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊属ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑属又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコトヲ要ス

第二十條　戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條　戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名

二　報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報

面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轄屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ戸籍ノ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條　前條第一項ノ場合ニ於テハ一ノ本籍ニ付キ一ノ戸籍ヲ編製シ其他ノ本籍ニ付キ戸籍ヲ編製スルニ至リタルトキハ其戸籍ニ前戸籍ノ記載ヲ移記スルコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遅滞ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遅滞ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條　同一ノ事件ニ付キ數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十三條　届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十五條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出アリタル後其者ノ本籍カ分明ニ至リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第四十六條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出

人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件

二　届出ノ年月日

三　届出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日並ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一个月内ニ本籍地ノ市町村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス

第四十八條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治産者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　無能力ノ原因

三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條　無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツルコトヲ要ス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條　證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第五十二條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條　届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第五十六條　二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尚ホ一通ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第五十七條　日頃ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出人ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人チシテ其書面ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコトヲ能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　届出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ届書ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者チシテ届書ニ其旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條　届書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十一條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第六十二條　大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一个月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條　市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　市町村長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者チシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　届出期間經過後ノ届出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　届出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ届出ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第二節　出生

第六十九條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子カ氏名及ヒ男女ノ別

二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

三　出生ノ年月日時及ヒ場所

四　父母ノ氏名、本籍及ヒ職業

五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所

七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到着地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一　戸主

第二　同居者

第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四　分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキハ雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條　航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ揭ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名生レタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第八十八條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條　緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名及ヒ本籍

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　養子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所

第九十四條　第五十七條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第九十五條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條　民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離緣ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第百條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

四　入夫婚姻又ハ壻養子緣組ナルトキハ其旨

五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト

爲ルトキハ其旨
當事者ノ一方カ婿家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ壻養子緣組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滯ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第百四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六條　第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及ヒ後見

第百七條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキ
裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百八條　第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ前項ノ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　後見開始ノ原因及ヒ年月日
三　後見人ノ氏名及ヒ本籍
四　後見人就職ノ年月日

第百十條　後見人ノ更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス
後見人ニ選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百十二條　後見終了ノ原因及ヒ年月日
二　後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條　前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本家督相續人ト隱居者トノ續柄
三　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十七條　第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百十八條　後見開始ノ原因及ヒ年月日
三　後見人ノ氏名及ヒ本籍
四　後見人就職ノ年月日

第百十九條　失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　失踪宣告ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　失踪者ノ氏名及ヒ本籍
三　民法第三十條ニ定メタル期間滿了ノ日

第百二十一條　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節　家督相續

第百二十二條　家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第百二十三條　第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十五條　家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スヘキ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第百二十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十七條　水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十八條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十九條　前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
死亡者ノ本籍分明ナルニ至リタルトキ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス
第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ揭ケタル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲シタル後胎兒

カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ一箇月内ニ醫師又ハ産婆ノ檢案書ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

母カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十九條　家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
日ヨリ一箇月内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第百二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十條　第百二十五條及ヒ前三條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二節　推定家督相續人ノ廢除

第百三十一條　推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　廢除ノ原因

第百三十二條　廢除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　裁判確定ノ原因
三　裁判確定ノ日

第百三十三條　家督相續人ノ指定、
定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　家督相續人指定取消ノ届書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十五條　遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百三十六條　指定家督相續人カ死亡シタルトキハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十三節　家督相續人ノ指定

第百三十三條　家督相續人指定ノ届書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　家督相續人指定取消ノ届書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十五條　遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百三十六條　指定家督相續人カ死亡シタルトキハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百三十七條　家督相續人カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其相續權ヲ失フ
一　相續ニ關シ被相續人ヲ殺シ又ハ殺サントシテ刑ニ處セラレタル者
二　被相續人ノ殺害ヲ知リテ之ヲ告發セス又ハ告訴セサル者但其者ニ是非ノ辨別ナキ場合又ハ其者カ被相續人ノ配偶者又ハ直系血族ナル場合ハ此限ニ在ラス
三　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人ノ遺言ヲ妨ケタル者
四　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人ヲシテ遺言ヲ爲サシメ又ハ其取消ヲ妨ケタル者
五　被相續人ノ遺言ヲ僞造、變造、破棄又ハ隱匿シタル者

第百三十八條　家督相續人カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ被相續人ハ其家督相續權ヲ失ハシムル旨ノ意思ヲ表示スルコトヲ得
一　被相續人ニ對シ虐待ヲ加ヘタル者
二　被相續人ニ重大ナル侮辱ヲ與ヘタル者
三　被相續人ノ財產ヲ不當ニ處分シ又ハ著シク其財產ヲ危殆ニ陷ラシメタル者
四　家督相續人ニ非サル推定家督相續人カ前條第一號ニ該當スルトキハ被相續人ハ其家督相續權ヲ失ハシムル旨ノ意思ヲ表示スルコトヲ得

第百三十九條　前二條ノ規定ニ依リ家督相續權ヲ失ヒタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十四節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絕

第百四十條　民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラムト欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百四十一條　原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百四十二條　民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サムト欲スル者ハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
届書ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十三條　戸主カ其家族ヲ離籍セムト欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　離籍スヘキ者ノ氏名
二　離籍ノ原因

第百四十四條　離籍ノ原因ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　離籍者ノ氏名及ヒ本籍
二　離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄
三　離籍ノ原因及ヒ年月日

第百四十五條　戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マムト欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
一　復籍ヲ拒マムトスル者ノ氏名及ヒ本籍
二　復籍ヲ拒マムトスル者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第百四十六條　復籍拒絕ノ原因
三　復籍拒絕ノ原因

第百四十七條　復籍拒絕又ハ復籍スヘキ家ノ廢絕ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若クハ婚姻ノ取消又ハ離緣若クハ離婚ノ届書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
二　國籍回復前ニ有セシ國籍
三　許可ノ年月日
四　國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第百四十八條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知ノ届書ニ子ノ

第百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第十八節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲併

第百五十三條　氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　變更前ノ氏名

二　變更シタル氏名

三　許可ノ年月日

第百五十四條　新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　新舊族稱

二　族稱變更ノ原因

三　辭令又ハ許可ノ年月日

第百五十五條　僣ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十六條　華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十七條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九節　轉籍及ヒ就籍

第百五十八條　轉籍セント欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テヲ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百六十條　本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ揭ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條　就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十三條　第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章　戸籍ノ訂正

第百六十四條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル地ノ役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條　届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十六條　前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一个月内ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一个月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

検事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第百六十八條　第四十三條、第四十六條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章　抗告

第百六十九條　戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十一條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第百七十二條　市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第百七十四條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十五條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第百七十六條　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五　其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第百七十九條　過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百八十條　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

附則

第百八十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八十二條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三條　本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四條　舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十五條　舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ共事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第百八十六條　身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

（大正三年勅令第百二十一號ヲ以テ大正四年一月一日ヨリ施行）

附則（大正十年四月法律第四十八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則（大正十三年七月法律第二十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十三年勅令第二百六十三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

●朝鮮戸籍令施行手續

大正十二年三月

總督　第十五號

朝鮮戸籍令施行手續

朝鮮戸籍令施行手續左ノ通定ム

第一條　戸籍用紙ハ强靱ナル美濃紙ヲ用ヰ附錄第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　戸籍カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

從前ノ規定ニ依ル民籍ノ用紙ヲ用ヰ盡シタルトキハ前條ノ戸籍用紙ヲ用ヰテ其ノ記載ヲ繼續スヘシ

第三條　戸籍簿ニハ附錄第二號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

戸籍簿ハ之ヲ分冊スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分冊シタルトキハ其ノ地區ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第四條　除籍簿ハ年每ニ之ヲ別冊トシ其ノ表紙ニ「大正何年除籍簿」ト記載スヘシ

前條ノ規定ハ除籍簿ニ付之ヲ準用ス

府尹又ハ面長ハ相當ト認ムルトキハ數箇年ノ除籍簿ヲ合綴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ表紙ヲ附シ「自大正何年至大正何年除籍簿綴」ト記載スヘシ

第五條　戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ戸籍ノ副本ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第六條　裁判所カ前條ノ規定ニ依リテ送付ヲ受ケタル副本ハ府又ハ面ノ區別ニ從ヒ之ヲ編綴シ除籍簿ノ副本トシテ之ヲ保存スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ帳簿ニ付之ヲ準用ス

第七條　府尹又ハ面長ハ戸籍簿及除籍簿ニ付各別ニ見出帳ヲ調製シ之ニ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ハ戸主ノ姓ノ(イ)(ロ)(ハ)順ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第八條　府尹又ハ面長ハ届書其ノ他ノ書類ヲ受理シ又ハ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ノ外本籍人及非本籍人ノ區別ニ從ヒ受附ノ順序ニ依リ種類番號ヲ記載スヘシ

府尹又ハ面長ハ朝鮮戸籍令第二十八條第二項又ハ第五十二條第三項ノ規定ニ依リ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正又ハ記載ヲ爲ストキハ前項ニ揭ケル事項ハ許可書ニ之ヲ記載スヘシ

第九條　事件ノ種類ハ朝鮮戸籍令第四章第二節乃至第十四節ニ揭ケル事件ノ區別ニ從ヒテ之ヲ定ムヘシ

届出ノ追完、戸籍ノ訂正竝朝鮮戸籍令第八十條第三項及第八十七條第三項ノ規定ニ依ル一家創立ノ届出ニ關スル書類ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ一ノ種目ヲ定ムヘシ

第十條　府尹又ハ面長ハ附錄第三號樣式ニ依リ每年受附帳ヲ調製シ其ノ年内ニ受理シタル事件ニ付受附ノ順序ニ從ヒ件名、届出事件ノ本人ノ姓名及本籍、受附ノ番號及月日竝種類番號ヲ記載スヘシ

受附番號及種類番號ハ每年之ヲ更新スヘシ

第十一條　戸籍ノ副本又ハ届書其ノ他書類若ハ其ノ謄本ノ送付ハ送付スヘキ書類ニ發送ノ年月日及發送者ノ職氏名ヲ記載シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條　戸籍ノ記載ハ附錄第一號樣式附屬雛形ニ定ムル相當欄ニ之ヲ爲スヘシ

直系尊屬、直系卑屬若ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者又ハ戸主ノ親族ニ非サル者ハ親族順位ニ依リ親族順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ之ヲ記載スヘシ

事項欄ノ記載ハ附錄第四號記載例ニ從ヒ事件每ニ行ヲ更メテ之ヲ爲スヘシ

第十三條　婚姻及離婚ニ關スル事項ハ夫及妻ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第十四條　新ニ戸籍ヲ編製スルトキハ戸主及家族ノ身分ニ關スル事項ニシテ基本タル戸籍ニ記載シタルモノハ之ヲ新戸籍ニ記載スヘシ

第十五條　朝鮮戸籍令第百十九條第二項ノ場合ニ於テハ届書ニ添附シタル戸籍ノ謄本ニ記載シタル事項ハ婚姻其ノ他ノ事由ニ因ル除籍者ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ轉籍地ノ戸籍ニ記載スヘシ

第十六條　本籍地變更ノ後原籍地ノ府尹又ハ面長カ受理シタル届書其ノ他ノ書類ハ之ヲ新本籍地ノ府尹又ハ面長ニ送付シ其ノ書類ニ依リ戸籍ヲ記載スヘシ

新本籍地ノ府尹又ハ面長カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十七條　離緣又ハ離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル者ニ付テハ戸籍ニ離緣又ハ離婚ニ關スル事項ノ外實家ノ戸籍又ハ除カレタル戸籍ニ基キ其ノ者ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ但シ實家ノ本籍地ノ府廳又ハ面事務所ニ保存スル戸籍及除カレタル戸籍ニ記載ナキ事項ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前條ノ規定ハ緣組又ハ婚姻ノ無效其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載ヲ回復スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルニハ附錄第五號樣式ニ依リ之ヲ朱抹スヘシ

第二十條　戸籍ノ訂正ヲ爲スニハ訂正ノ趣旨及事由ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ訂正スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ更正ヲ爲スニハ事項欄ニ更正ノ事由ヲ記載シ附錄第七號樣式ニ依リ更正スヘキ事項ノ記載ヲ訂正スヘシ

第二十二條　府尹又ハ面長ノ名稱ヲ更正スル場合ニ於テハ戸籍簿ノ表紙ニ記載シタル名稱ヲ更正シ表紙ノ裏面ニ其ノ由ヲ記載スヘシ

第二十三條　朝鮮戸籍令第二十七條ノ書類ニ關スル事項ノ事由ニ因ル除籍ニ付テハ其ノ除籍ノ謄本ヲ添附シ其ノ事由ヲ届出ツルコトヲ要ス

シテ非本籍人ニ關スルモノハ其ノ書類ヲ受理シタル府廳又ハ面事務所ノ區別ニ從ヒ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但シ分綴スルコトヲ妨ケス

第二十四條　朝鮮戸籍令第二十六條第二項ノ書類ハ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但シ分綴スルコトヲ妨ケス

第二十五條　裁判所ハ新戸籍ノ副本及第五條ノ戸籍ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキハ前ニ送付ヲ受ケタル戸籍ノ副本ハ其ノ戸籍ニ關スル届書其ノ他ノ書類ト共ニ別ニ編綴シ之ヲ廢書簿ト爲スヘシ但シ第六條ノ帳簿ニ編綴スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　府又ハ面ノ區域ノ變更アリタル場合ニ於テ戸籍及之ニ關スル書類ノ引繼完了シタルトキハ引繼ヲ受ケタル府尹又ハ面長ハ其ノ旨ヲ監督裁判所ニ報告スヘシ

府又ハ面ノ區域ノ變更ニ因リ裁判所ノ管轄又ハ事務取扱區域ニ變更ヲ生シタルトキハ舊管轄又ハ事務取扱區域内ノ本籍人ノ戸籍及除カレタル戸籍ノ副本竝之ニ關スル書類ハ新ニ管轄シ又ハ事務ヲ取扱フ裁判所ニ之ヲ引繼クヘシ

第二十七條　戸籍簿及届書其ノ他ノ書類ハ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其ノ保存ヲ嚴ニシ倚倉庫アルトキハ倉庫ニ藏置スヘシ

第二十八條　事變ヲ避クル爲戸籍簿又ハ除籍簿ヲ府廳又ハ面事務所外ニ持出シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督裁判所ニ報告スヘシ

第二十九條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ事由、年月日、帳簿ノ名稱、册數其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ監督裁判所ニ申報スヘシ

監督裁判所前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ必要ナル調査ヲ爲シタル後其ノ再製又ハ補完ノ方法ヲ具シテ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第三十條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失スル虞アルトキハ前條ノ例ニ準シ申報及具申ヲ爲スヘシ

第三十一條　戸籍簿、除籍簿又ハ届書其ノ他ノ書類ノ閲覽ハ係員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其ノ記載ニ接續シテ附錄第八號書式ニ依リ附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　前條第二項及第三項ノ規定ハ府尹又ハ面長ノ作ルヘキ届書其ノ他ノ書類ノ謄本ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　朝鮮戸籍令第八條第三項ノ規定ニ依ル告知ノ書面ハ附錄第九號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三十五條　届出又ハ申請ノ受理又ハ不受理ノ證明書ハ附錄第十號書式ニ依リ届書、申請書其ノ他ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書其ノ他法令ノ規定ニ依リテ交付スヘキ戸籍ニ關スル證明書ハ附錄第十一號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ但シ府尹又ハ面長ハ證明ヲ求ムル事項ヲ記載シタル書面又ハ其ノ符箋ニ證明ノ趣旨及年月日ヲ記載シテ署名、捺印シ之ヲ以テ證明書ニ代フルコトヲ得

符箋ニ依リテ前項ノ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ職印ヲ以テ接目ニ契印スヘシ

第三十六條　府尹又ハ面長カ届出、申請又ハ其ノ追完ヲ怠リタル者ニ對シ朝鮮戸籍令第五十二條、第五十三條又ハ第百二十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ催告ハ附錄第十二號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條　府尹又ハ面長ハ届出、申請又ハ其ノ追完ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ届出事件ヲ具シ其ノ旨ヲ管轄裁判所ニ通知スヘシ

第三十八條　同一ノ府又ハ面ニ於テ二以上ノ戸籍ニ記載スヘキ事項ニ付テハ監督裁判所ハ其ノ戸籍ト同數ノ届書又ハ申請書ヲ提出セシムヘキコトヲ府尹又ハ面長ニ命スルコトヲ得但シ府尹又ハ面長ハ受理シタル届書又ハ申請書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書又ハ申請書ニ代フルコトヲ得

第三十九條　戸籍竝之ニ關スル帳簿及書類ノ保存期間ハ後三條ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　除籍簿及其ノ副本ノ保存期間ハ五十年トス

朝鮮戸籍令第二十六條第二項ノ書類ノ保存期間ハ十年、同第二十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノノ保存期間ハ三年トス

前二項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　受附帳ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十二條　廢書簿ノ保存期間ハ第五條ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ノ送付アリタル翌年ヨリ三年トス

第四十三條　朝鮮戸籍令第百三十三條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ハ新戸籍ノ副本ノ送付アル迄之ヲ保存スヘシ

第四十四條　前條ニ揭クルモノヲ除クノ外朝鮮戸籍令施行前ノ帳簿及書類ノ保存期間ハ左ノ區別ニ依ル

一　除籍簿　五十年
二　申告書　五年
三　其ノ他ノ書類　三年

前項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十五條　府尹又ハ面長ハ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セムトスルトキハ目錄ヲ作リ監督裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ朝鮮戸籍令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄目錄

第一號　戸籍ノ樣式
　雛形
附屬
第二號　戸籍簿表紙ノ樣式
第三號　受附帳ノ樣式
第四號　戸籍記載例
第五號　戸籍ノ抹消ノ樣式
第一　全部抹消
第二　一部抹消
第六號　戸籍ノ訂正ノ樣式
第一　全部ノ訂正
第二　一部ノ訂正
第七號　本籍ノ更正ノ樣式
第八號　謄本又ハ抄本ノ附記ノ樣式
第九號　告知書ノ書式
第十號　受理又ハ不受理ノ證明書ノ書式
第十一號　記載事項證明書ノ書式
第十二號　催告狀ノ書式
第一　届出又ハ申請ノ催告狀ノ書式
第二　同追完ノ催告狀ノ書式
第三　同第二回以後ノ催告狀ノ書式

本籍

寸五

表

前戸主	主戸	前戸主トノ續柄	出生	父母	本貫

裏

出生	父母	本貫

表

出生	父母	本貫

裏

出生	父母	本貫

附錄第一號樣式附屬雛形

注意（本雛形ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ相當欄及特殊ノ記載例ヲ示スニ止マル）

本籍　京城府 ^朱^ 鳳翼洞百一番地 / 禮智洞一番地

前戸主　李丙煥

大正拾貳年七月九日前戸主李丙煥死亡ニ因リ戸主相續届出同月拾五日受附㊞
京城府鳳翼洞百一番地ニ轉籍届出大正拾貳年拾壹月參日受附㊞
朴春卿ト婚姻届出大正拾貳年拾貳月五日受附㊞

戸主　前戸主ト續柄　亡李丙煥長男
父　亡李丙煥　母　劉彩鳳　長男　本貫　成興
李圭徹
出生　光武六年貳月六日

大正拾參年四月八日午後拾壹時京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ死亡戸主李圭徹届出同月九日受附㊞

母　父　亡劉興基　母　亡任正姫　長女　本貫　江陵
^朱^ 劉彩鳳 ^朱^
出生　開國四百八拾六年八月拾五日

忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里三番地戸主朴泳根長女大正拾貳年拾貳月五日李圭徹ト婚姻届出同日入籍㊞

妻　父　朴泳根　母　崔月峯　長女　本貫　密陽
朴春卿
出生　光武拾年五月四日

慶尙南道東萊郡東萊面溫泉里五番地ニ於テ出生父李圭徹届出大正拾四年壹月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付入籍㊞
趙薰淑ト婚姻届出大正四拾年壹月拾日平壤府尹大江淸澄受附同月拾四日送付㊞

長男　父　李圭徹　母　朴春卿　長男　本貫
容鎭
出生　大正拾四年壹月壹日

慶尙南道晉州郡晉州面平安洞八番地戸主吳梅春二女吳娥眉私生子大正拾五年九月八日私生子認知ノ裁判確定親權ヲ行フ母吳娥眉届出同月拾日受附入籍㊞
大正四拾貳年九月八日時不詳京畿道高陽郡漢芝面西氷庫里漢江ニ於テ水難ニ因リ死亡龍山警察署長警視赤木守衞報告同月拾日受附㊞

庶子男　父　李圭徹　母　吳娥眉　庶子男　本貫
^朱^ 台鎭 ^朱^
出生　大正拾五年六月八日

京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ出生母朴春卿届出大正拾八年參月拾四日受附入籍㊞
京畿道開城郡松都面滿月町十五番地金鍾箕ト婚姻届出大正參拾五年拾壹月貳日開城郡松都面長人見參太郞受附同月參日送付除籍㊞

長女　父　李圭徹　母　朴春卿　長女　本貫
^朱^ 鳳琴 ^朱^
出生　大正拾八年參月拾日

養父京畿道高陽郡延禧面水色里百五十番地戸主李大武ト協議離緣届出大正拾八年四月貳日高陽郡延禧面長都夏淳受附同月四日送付復籍㊞
京城府仁義洞三十六番地ニ分家届出大正四拾年五月貳日受附除籍㊞

弟　父　亡李丙煥　母　亡劉彩鳳　二男　本貫
^朱^ 圭泰 ^朱^
出生　光武拾年貳月拾日

大正拾八年四月四日夫李圭泰復籍シタルニ付共ニ入籍㊞
大正四拾年五月貳日夫李圭泰分家ニ付共ニ除籍㊞

弟ノ妻　父　亡金敬煥　母　宋貞順　三女　本貫　金海
家族トノ續柄　弟李圭泰妻
^朱^ 金光淑 ^朱^
出生　隆熙參年九月九日

平壤府鏡齋里五番地戸主（實家戸主黃海道延白郡銀川面凝川里百八十三番地趙德順）大正四拾年壹月拾日李容鎭ト婚姻届出同月拾四日入籍㊞

子婦　父　趙德順　母　吳貞子　長女　本貫　豐穰
家族トノ續柄　長男李容鎭妻
趙薰淑
出生　大正拾九年七月八日

平壤府鏡齋里五番地ニ於テ出生父李容鎭母趙薰淑届出大正四拾年貳月壹日受附入籍㊞
大正四拾年拾壹月五日父李容鎭親權喪失ノ裁判確定ニ因リ母趙薰淑親權ヲ行フ旨届出同月拾壹日受附㊞

孫　父　李容鎭　母　趙薰淑　長女　本貫
淑子
出生　大正參拾九年拾貳月貳拾八日

京城府忠信洞六拾七番地ニ於テ出生同居者安憙淵届出大正四拾年參月六日受附入籍㊞
大正四拾年五月貳日父李圭泰分家ニ付共ニ除籍㊞

姪　父　李圭泰　母　金光淑　長男　本貫
^朱^ 春鎔 ^朱^
出生　大正四拾年參月五日

全羅北道全州郡全州面多佳町二十五番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組同人竝緣組承諾者李世鎭及妻柳在華届出大正四拾貳年四月貳日受附入籍㊞

孫　父　李世鎭　母　柳在華　二男　本貫
養親　李容鎭　養子
泳烈
出生

京城府梨花洞七番地戸主張蘭植二女張英子京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ庶子出生父李鎭届出大正四拾貳年七月貳拾五日受附入籍㊞
大正四拾貳年九月八日親權ヲ行フ父死亡シタルニ因リ後見開始同日後見人戸主李圭徹就職ニ付届出同月拾貳日受附㊞
大正四拾貳年拾月拾參日親權ヲ行フ者アルニ至リタルニ因リ後見終了届出同月拾五日受付㊞
大正五拾五年壹月八日許可ニ因リ其ノ名海榮ヲ泳植ト改名届出同月拾日受附㊞

孫　父　李台鎭　母　張英子　庶子男　本貫
泳植 ^朱^ 海榮
出生　大正四拾壹年七月拾日

京城府梨花洞七番地戸主張蘭植二女親族入籍戸主李圭徹届出大正四拾貳年拾月拾參日受附㊞

父　張蘭植　母　金美玉　二女　本貫　德水
家族トノ續柄　孫李海榮母
張英子
出生　大正拾四年壹月五日

父　母　本貫
出生

父　母　本貫
出生

父　母　本貫
出生

附錄第二號樣式　戸籍簿表紙

（何册ノ内第一）

戸籍簿（副本）

（地區ノ名稱）

何府廳（又ハ面事務所）

附錄第三號樣式　受附帳（用紙美濃紙）

大正何年

戸籍受附帳

何府廳（又ハ面事務所）

受附番號	種類番號	届出事件	備考
本籍人 非本籍人	件名	受附月日 本人ノ姓名	

附錄第四號　戸籍記載例

出生

（事例括弧内ノ記載ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ事項欄ヲ示ス）

一　子ノ本籍地ニ於テ届出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（子ノ事項欄）

京城府仁義洞壹番地ニ於テ出生父李圭徹届出大正拾貳年七月壹日受附入籍㊞

二　子ノ出生地ニ於テ同居者ヨリ届出テタル庶子出生ニ關スル記載（同上）

忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根長女朴春卿慶尙南道東萊郡東萊面溫泉里六番地ニ於テ庶子出生同居者金華山届出大正拾貳年七月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付入籍㊞

三　私生子カ一家ヲ創立スル場合ニ其ノ本籍地ニ於テ母ノ後見人ヨリ届出テタル私生子出生ニ關スル記載（同上）

忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根妹朴紅霞京城府内資洞七番地ニ於テ私生子出生母朴紅霞後見人朴泳根届出大正拾貳年七月六日受附母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立㊞

四　非本籍府尹ノ送付ニ係ル航海日誌ノ謄本ニ依ル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）

元山港ヨリ釜山港ニ向ケ航海中ノ船舶金剛丸内ニ於テ出生船長大原平吉ノ作成發送ニ係ル航海日誌ノ謄本大正拾貳年七月八日釜山府尹礒邊靜雄受附同月拾貳日送付入籍㊞

五　子ノ出生地ニ於テ公設所ノ長ヨリ届出タル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）

京城府苑南洞壹番地朝鮮總督府醫院ニ於テ出生同院長大井惠届出大正拾貳年七月拾日棄兒發見ニ關スル記載（同上）

六　棄兒發見ニ關スル記載（同上）

大正拾貳年七月參日一家創立同日附京城府尹國府政雄調書ニ依リ記載㊞

七　棄兒引取ニ因ル戸籍ノ訂正（同上）

大正拾貳年拾月五日父京城府仁義洞壹番地李圭徹引取戸籍訂正申請同月七日受附本戸籍ヲ抹消ス㊞

八　私生子認知ノ效力ヲ生セシムル目的ヲ以テ婚姻中父母共ニ届出テタル嫡出子出生ニ關ス

番號	名	本籍	備考
九	名未定ノ子ノ出生ニ關スル記載（同上）		
	京城府仁義洞壹番地ニ於テ出生名未定分娩ヲ介抱シタル者安順子届出大正拾貳年七月四日受附入籍㊞		
十	前例ニ付子ノ名ノ追完ニ關スル記載（同上）		
	父李圭徹子ノ名追完届出大正拾貳年七月拾日受附㊞		

認知

一	私生子認知ノ届出ニ因リ子カ父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（父ノ戸籍中子ノ事項欄）		
	忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根長女朴春卿私生子父李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾壹日受附入籍㊞		
二	除籍地ノ府尹又ハ面長カ他ノ府又ハ面ニ在ル父ノ家ニ入ルヘキ私生子認知ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載及入籍通知ニ因リテ爲ス除籍（原籍戸籍中子ノ事項欄）		
	父京城府仁義洞壹番地李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾壹日受附㊞同月拾六日入籍通知ニ因リ除籍㊞		
三	死亡シタル子カ認知セラレ其ノ者ノ子カ認知者タル祖父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（祖父ノ戸籍中孫ノ事項欄）		
	忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根孫妻朴春卿私生子父李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾日受附入籍㊞		
四	裁判ニ因ル認知ニ關スル記載（父ノ戸籍中子ノ事項欄）		
	忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴春卿私生子大正拾貳年七月七日私生子認知ノ裁判確定親權ヲ行フ母朴春卿届出同月拾壹日受附入籍㊞		
五	遺言ニ依ル認知ニ關スル記載（同上）		
	忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴春卿私生子父亡李圭徹認知遺言執行者李容鎭届出大正拾貳年七月八日受附入籍㊞		
六	妻ノ實家ニ在ル私生子ノ認知届出ニ因リ子カ父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（同上）		
	忠清南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根妹朴紅霞京城府内資洞七番地ニ於テ私生子出生母朴紅霞後見人朴泳根届出大正拾貳年七月六日受附母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立㊞		
七	非本籍府尹ノ送付ニ係ル航海日誌ノ謄本ニ依ル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）		
	元山港ヨリ釜山港ニ向ケ航海中ノ船舶金剛丸内ニ於テ出生船長大原平吉ノ作成發送ニ係ル航海日誌ノ謄本大正拾貳年七月八日釜山府尹礒邊靜雄受附同月拾貳日送付入籍㊞		
八	子ノ出生地ニ於テ公設所ノ長ヨリ届出タル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）		
	京城府苑南洞壹番地朝鮮總督府醫院ニ於テ出生同院長大井惠届出大正拾貳年七月拾日棄兒發見ニ關スル記載（同上）		
九	棄兒發見ニ關スル記載（同上）		
	大正拾貳年七月參日一家創立同日附京城府尹國府政雄調書ニ依リ記載㊞		
十	棄兒引取ニ因ル戸籍ノ訂正（同上）		
	大正拾貳年拾月五日父京城府仁義洞壹番地李圭徹引取戸籍訂正申請同月七日受附本戸籍ヲ抹消ス㊞		

四　養子ノ事項欄）

京畿道開城郡松都面滿月町十五番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組届出大正拾貳年七月貳日仁川府尹中川清明受附同月五日送付入籍㊞

四　同上除籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

京城府仁義洞一番地李容鎭ト養子緣組届出大正拾貳年七月貳日仁川府尹中川清明受附同月五日送付㊞同月七日入籍通知ニ因リ除籍㊞

五　夫ノ緣組ニ因リ之ニ隨ヒテ養家ニ入ル妻ノ入籍（養家ノ戸籍中妻ノ事項欄）

大正拾貳年七月貳日夫李泳烈養子緣組ニ因リ夫ト共ニ入籍㊞

六　同上除籍（原籍ノ戸籍中妻ノ事項欄）

大正拾貳年七月貳日夫李泳烈養子緣組ニ因リ夫ト共ニ除籍㊞

七　養子ニ代リ父母カ承諾ヲ爲ス養子緣組ニ關スル記載（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

京城府忠信洞八番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組同人竝緣組承諾者李世鎭及妻柳在華届出大正拾貳年七月貳日受附㊞同月拾參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

八　同上入籍（養子ノ入リタル家ノ戸籍中）

大正拾貳年七月貳日夫李泳烈復籍シタルニ付共ニ入籍㊞

五　實家ノ本籍地外ニ於テ届出テタル協議離緣ニ因ル復籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父京城府仁義洞一番地李容鎭ト養子緣組届出大正拾貳年七月貳日仁川府尹中川清明受附同月五日送付㊞同月七日入籍通知ニ因リ除籍㊞

六　養子ニ代リ父母カ承諾ヲ爲ス離緣ニ因ル除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月貳日受附實家絕家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立届出同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

七　養親ノ死亡後ニ爲ス離緣ニ因ル除籍（同上）

養父李容鎭死亡後協議離緣協議者趙蕙淑ト共ニ届出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

八　裁判上ノ離緣ニ因リ養子ノ除籍（同上）

大正拾貳年七月參日離緣ノ裁判確定養父李容鎭届出同月拾日受附㊞同月拾參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

九　協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月五日送付實家絕家ニ付一家創立届出同月拾九日受附㊞同年八月參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附實家絕家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立届出同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十一　離緣及離緣ノ後養家ノ本籍地ニ於テ届出テタル一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）

養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月參拾日送付實家絕家ニ付一家創立届出同月貳拾五日開城郡松都面長人見參太郎受附同月參拾壹日送付㊞

十二　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附㊞實家絕家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立届出同月貳拾九日受附㊞同年八月參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十三　離緣及離緣ノ後實家ノ本籍地ニ於テ届出テタル一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）

養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月參拾壹日送付實家絕家ニ付一家創立届出同月貳拾五日開城郡松都面長人見參太郎受附同月參拾壹日送付㊞

十四　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附㊞實家絕家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立届出同月貳拾五日開城郡松都面長人見參太郎受附同月貳拾九日送付㊞同年八月壹日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十五　離緣及實家再興ニ因ル除籍（同上）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附實家絕家ニ付仁川府花平里七番地ニ再興㊞同月五日入籍通知ニ因リ除籍㊞

三　養家ト養家ノ本籍地ヲ同シクスル場合ニ於ケル協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

二　同上ノ復籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）

養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

一　實家ト養家ト本籍地ヲ同シクスル場合ニ於ケル協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（同子ノ事項欄）

養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

離緣

一	實家ト養家ト本籍地ヲ同シクスル場合ニ於ケル協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）		
	養父李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞		
二	同上ノ復籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）		
	養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣届出大正拾貳年七月參日受附復籍㊞		
三	養子ニ隨ヒテ養家ヲ去ル者ノ除籍（養家ノ戸籍中養家ヲ去ル者ノ事項欄）		
	大正拾貳年七月參日夫李泳烈離緣ニ付共ニ除籍㊞		

婚姻

一　夫ニ付婚姻ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
趙蕙淑ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日受附㊞

二　婚姻ニ因ル妻ノ入籍（妻ノ戸籍中）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地戸主趙徳順二女大正拾弐年七月弐日李容鎭ト婚姻届出同日入籍㊞

三　同上除籍（實家ノ戸籍中）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日京城府尹國府政雄受附同月四日送付除籍㊞

四　婚姻證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
マリヤ、ベルナールト婚姻大正拾弐年七月弐日何國何職何某婚姻證書作製右謄本提出同月拾日同國駐在大使太和武雄受附同年九月弐拾日送付㊞

五　妻ニ付招壻ニ關スル記載（妻ノ事項欄）
李明鎭ト婚姻（招壻）届出大正拾弐年七月弐日受附㊞

六　招壻ニ因ル夫ノ入籍（婚家ノ戸籍中）
京城府仁義洞一番地戸主李圭徹三男大正拾弐年七月弐日趙蕙淑ト婚姻（招壻）届出同日入籍㊞

七　同上夫ノ除籍（夫ノ實家ノ戸籍中）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地趙蕙淑ト婚姻（招壻）届出大正拾弐年七月弐日高陽郡漢芝面長郭斗榮受附同月五日送付除籍㊞

八　父ノ家ニ在ル庶子カ父母ノ婚姻ニ因リ嫡出子ノ身分取得ニ關スル記載（嫡出子ノ身分ヲ取得シタル者ノ欄）
大正拾弐年七月弐日父李容鎭母趙蕙淑ノ婚姻ニ因リ嫡出子ト爲ル㊞

九　本籍不明ノ夫カ婚姻ヲ爲シタル後本籍分明ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於ケル夫ニ付テノ記載（夫ノ事項欄）
趙蕙淑ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日高陽郡漢芝面長郭斗榮受附李明鎭本籍分明届出同年九月八日同面長宋昌禮受附同月拾日送付㊞

十　同上妻ノ入籍（婚家ノ戸籍中）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地戸主趙徳順二女大正拾弐年七月弐日李明鎭ト婚姻届出同年九月拾日入籍㊞

十一　同上除籍（實家ノ戸籍中）
本籍不明李明鎭ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日受附㊞李明鎭本籍京城府仁義洞一番地分明届出同年九月八日受附㊞同月拾弐日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十二　婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於ケル妻ノ入籍（婚家ノ戸籍中）
京城府仁義洞一番地戸主李圭徹亡弟李圭泰ノ妻（實家戸主全羅南道濟州島右面西歸里五番地金敬煥）大正拾弐年七月弐日洪鍾聲ト婚姻届出同日入籍㊞

十三　婚家ノ戸主ト爲レル女カ更ニ婚姻ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於ケル妻ノ入籍（同上）
京城府黄金町三丁目百三番地戸主（實家戸主黄海道延白郡銀川面凝川里百八十三番地朴炳日）大正拾弐年七月弐日洪鍾聲ト婚姻届出同日入籍㊞

離婚

一　夫ニ付協議離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
趙蕙淑ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日受附㊞

二　協議離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地戸主趙徳順二女大正拾弐年七月弐日李容鎭ト婚姻届出同日入籍㊞

三　同上復籍（實家ノ戸籍中）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト婚姻届出大正拾弐年七月弐日京城府尹國府政雄受附同月四日送付除籍㊞

四　夫ニ付裁判上ノ離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
マリヤ、ベルナールト婚姻大正拾弐年七月弐日何國何職何某婚姻證書作製右謄本提出同月拾日同國駐在大使太和武雄受附同年九月弐拾日送付㊞

五　裁判上ノ離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
大正拾弐年七月参日離婚ノ裁判確定㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

六　同上復籍（實家ノ戸籍中）
大正拾弐年七月参日離婚ノ裁判確定夫京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭届出同月拾壹日京城府尹國府政雄受附同月拾弐日送付復籍㊞

七　婚姻入籍後實家カ轉籍シタル場合ニ於ケル離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
大正拾弐年七月参日夫李容鎭ト協議離婚届出京畿道水原郡水原面南昌里九番地戸主趙徳順方ヘ復籍㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

親權及後見

一　親權（管理權）ノ喪失ニ關スル記載（子ノ事項欄）
大正拾弐年七月壹日父李容鎭親權（管理權）喪失ノ裁判確定ニ因リ母趙蕙淑親權（管理權）ヲ行フ旨届出同月八日受附㊞

二　失權宣告ノ取消ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月弐日失權宣告取消ノ裁判確定謄提起者李台鎭届出同月八日受附㊞

三　後見ノ開始ニ關スル記載（無能力者ノ事項欄）
大正拾弐年七月拾日親權ヲ行フ母財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リ後見開始同月参拾日後見人京城府臥龍洞八十三番地李圭泰就職ニ付届出同年八月五日受附㊞

四　後見人ノ更迭ニ關スル記載（同上）
後見ノ更迭ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月八日後見人李圭泰辭任同月拾五日京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地趙徳順就職ニ付更迭届出同月拾九日受附㊞

五　後見ノ終了ニ關スル記載（同上）
後見ノ終了ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月五日被後見人成年ニ達シタルニ付後見終了届出同月八日受附㊞

六　保佐人ニ關スル記載（同上）
保佐人ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月壹日準禁治産宣告ノ效力發生同月参拾日保佐人京城府仁義洞一番地李圭徹就職ニ付届出同月参拾壹日受附㊞

七　保佐人ノ任務終了ニ關スル記載（同上）
保佐人ノ任務終了ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月弐日準禁治産宣告取消ノ裁判確定ニ因リ保佐人ノ任務終了届出同月八日受附㊞

死亡及失踪

一　本籍地ニ於テ届出テタル死亡ニ關スル記載（死亡者ノ事項欄）
大正拾弐年七月八日午後拾壹時京城府鳳翼洞百壹番地ニ於テ死亡戸主李圭徹届出同月九日受附㊞

二　水難ニ付取調官廳ノ報告ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月八日時不詳京畿道高陽郡漢芝面西氷庫里漢江ニ於テ水難ニ因リ死亡龍山警察署長警視赤木守衛報告同月拾壹日受附㊞

三　在監中ノ死亡ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月八日午後三時京畿道高陽郡龍江面孔德里一等地京城監獄ニ於テ死亡典獄山路改造報告同月拾日高陽郡龍江面長襪世益受附報告書謄本同月拾四日送付㊞

四　本籍姓名不明ノ死亡者ニ付本籍姓名ノ報告アリタル場合ニ關スル記載（同上）
大正拾弐年七月八日午前拾壹時京城府惠化洞七番地先道路ニ於テ本籍姓名不詳ノ者死亡ニ付東大門警察署長警視市井明光ノ報告同日京城府尹國府政雄受附同警察署長警視水野彈正ノ死亡者ノ本籍姓名ノ報告同年八月弐日同府尹國府政雄受附兩報告謄本同月七日送付㊞

五　死亡ニ關シ職權ヲ以テ爲ス記載（同上）
大正拾弐年七月日時及場所不詳死亡届出ヲ爲ス者ナキニ付大正拾弐年九月壹日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月六日除籍㊞

六　失踪ニ關スル記載（失踪者ノ事項欄）
大正拾弐年七月八日失踪宣告大正拾弐年弐月七日死亡ト看做サル右本人妻崔新月届出
大正拾弐年七月拾五日受附㊞

戸主相續

一　戸主死亡ニ因ル相續ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
大正拾弐年七月九日前戸主李丙燦死亡ニ因リ戸主相續届出同月拾五日受附㊞

二　前戸主ノ戸籍ノ抹消（前戸主ノ事項欄）
大正拾弐年七月拾五日李圭徹ノ戸主相續届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

三　死後養子緣組ニ因ル相續ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
大正拾弐年七月弐日前戸主趙蕙淑ノ前戸主亡夫李容鎭トノ死後養子緣組ニ因リ戸主相續親權ヲ行フ養母趙蕙淑届出同月五日受附㊞

四　戸主相續ノ同復ニ付新戸籍ノ記載（同上）
大正拾弐年七月九日前戸主李丙燦死亡ニ因リ戸主相續大正拾參年四月八日戸主相續同復ノ裁判確定届出同月拾日受附㊞

五　戸主相續同復ノ場合ニ於ケル戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ノ抹消（戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ事項欄）
大正拾參年四月拾日李圭徹ノ戸主相續同復届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

親族入籍

一　家族ノ親族ノ入籍ニ關スル記載（入リタル家ノ戸籍中入籍者ノ事項欄）
京城府梨花洞七番地戸主張鳳植二女親族入籍戸主李圭徹届出大正拾弐年七月拾參日受附㊞

二　同上除籍（去リタル家ノ戸籍中入籍者ノ事項欄）

分家及絕家

一　分家ニ因ル新戸籍ノ記載（戸主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹姪分家届出大正拾弐年七月五日受附㊞

二　分家ノ戸主ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル者ノ入籍（新戸籍中入籍者ノ事項欄）
大正拾弐年七月五日父李春鎔分家ニ付共ニ入籍㊞

三　分家者ノ除籍（本家ノ戸籍中分家戸主ノ事項欄）
京城府忠信洞弐番地ニ分家届出大正拾弐年七月五日受附除籍㊞

四　分家ノ戸主ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル者ノ除籍（同入籍者ノ事項欄）
大正拾弐年七月五日父李春鎔分家ニ付共ニ除籍㊞

五　絕家ニ關スル記載（最終戸主ノ事項欄）
戸主相續人ナキニ因リ絕家李圭泰届出大正拾弐年七月壹日受附㊞

六　絕家ニ因ル一家創立ニ關スル記載（一家創立者ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹弟大正九年五月拾五日李圭徹死亡戸主相續人ナキニ付絕家ニ因リ一家創立届出大正拾弐年七月壹日受附㊞

七　絕家ノ家族ノ一家創立ニ因ル除籍（絕家ノ戸籍中家族ノ事項欄）
京城府孝悌洞五拾參番地ニ於テ一家創立届出大正拾弐年七月壹日受附除籍㊞

八　職權ヲ以テスル絕家ノ戸籍ノ抹消（最終戸主ノ事項欄）
相續人ナキニ因リ絕家大正拾弐年八月壹日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月參日本戸籍ヲ抹消ス㊞

九　絕家再興ニ因ル新戸籍ノ記載（戸主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹弟絕家李圭範家再興届出大正拾弐年七月壹日受附㊞

十　絕家再興者ノ除籍（主リタル家ノ戸籍中再興者ノ事項欄）
京城府臥龍洞八拾參番地ニ於テ絕家李圭範家再興届出大正拾弐年七月壹日受附除籍㊞

一　改名ニ關スル記載（名ヲ變更シタル者ノ事項欄）
大正拾弐年七月八日許可ニ因リ其ノ名海榮ヲ泳植ト改名届出同月拾日受附㊞

二　族稱取得ニ關スル記載（朝鮮貴族ニ列セラレタル者ノ事項欄）
大正拾弐年七月壹日朝鮮貴族ニ列セラル右届出同月八日受附㊞

三　襲爵ニ關スル記載（爵ヲ襲キタル者ノ事項欄）
大正拾弐年七月拾壹日襲爵仰付ラル右届出同月拾五日受附㊞

四　處刑ニ因ル族稱喪失ニ關スル記載（族稱喪失者ノ事項欄）
大正拾弐年七月七日京城地方法院ニ於テ懲役ノ刑ニ處セラレ朝鮮貴族ノ族稱喪失右同法院ノ報告同月拾參日受附㊞

轉籍及就籍

一　他ノ府又ハ面ヨリノ轉籍ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
京畿道高陽郡延禧面新村里六番地ヨリ轉籍届出大正拾弐年七月弐日受附入籍㊞

二　他ノ府又ハ面ニ轉籍ノ場合ニ關スル記載（原戶籍中戶主ノ事項欄）
京城府松月洞百參番地ニ轉籍屆出大正拾貳年七月貳日京城府尹國府政雄受附同月五日送付全戶除籍㊞

三　同一府、面内ニ於ケル轉籍ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地ニ轉籍屆出大正拾貳年七月參日受附㊞

四　本籍地ニ於ケル土地ノ名稱及地番號ノ更正ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月貳拾壹日土地ノ名稱及地番號變更ニ付本籍欄中「黃金町參丁目百參番地」ヲ「永樂町壹丁目九拾六番地」ニ更正㊞

五　就籍ニ關スル記載（就籍者ノ事項欄）
大正拾貳年七月拾七日京城地方法院春川支廳ノ就籍許可ノ裁判ニ因リ戶主李鳳九屆出同月貳拾壹日受附就籍㊞

戶籍ノ訂正

一　許可ノ裁判ニ因ル出生ノ日ノ訂正（子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ父李圭泰戶籍訂正申請同月拾日受附出生ノ日ヲ「拾日」ト訂正ス㊞

二　朝鮮戶籍令第二十九條ノ規定ニ依ル出生ノ日ノ訂正（同上）
同居者金華山出生屆出大正拾貳年七月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付出生ノ日ヲ「貳日」ト訂正ス㊞

三　養子緣組無效ノ確定判決ニ因ル戶籍ノ訂正（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父李容鎭戶籍訂正申請同月拾日受附㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

四　同上（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父李容鎭戶籍訂正申請同月拾日京城府尹國府政雄受附同月拾四日送付入籍㊞

五　緣組無效ニ付許可ノ裁判ニ依ル戶籍ノ訂正（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
緣組無效ニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ李容鎭戶籍訂正申請同月拾日受附㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

六　同上（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
緣組無效ニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父李容鎭戶籍訂正申請同月拾日京城府尹國府政雄受附同月拾四日送付入籍㊞

七　失踪宣告取消ノ確定判決ニ因ル戶籍ノ訂正（戶主ノ名義ヲ有シタル者ノ戶籍中戶主ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ失踪宣告取消ノ判決ニ因リ妻朴春卿戶籍訂正申請同月拾日受附本戶籍ヲ抹消ス㊞

八　同上（失踪宣告ヲ取消サレタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ失踪宣告取消ノ判決ニ因リ妻朴春卿戶籍訂正申請同月拾日受附㊞

九　職權ヲ以テスル戶籍ノ訂正（訂正スヘキ記載アル者ノ事項欄）
戶主トノ續柄ノ記載ニ錯誤アルモ戶籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月拾日其ノ續柄ヲ「弟」ト訂正ス㊞

附錄第五號樣式　戶籍ノ抹消
第一　全部抹消

本籍　京城府鳳翼洞百一番地（朱線抹消）

前戶主	李丙煥	本貫	咸興
父	亡李丙煥長男		
母	劉彩鳳		

（略）大正拾六年七月拾五日李容鎭ノ戶主相續屆出アリタルニ因リ本戶籍ヲ抹消ス㊞

本籍　京城府鳳翼洞百一番地

前戶主	李丙煥		
前戶主ノ續柄	亡李丙煥長男		
主戶	李徹	本貫	咸興
出生	光武六年貳月六日		
父	亡劉興基	本貫	
母	亡任正姬	長女	江陵

（略）

長男	李容鎭	本貫	咸興
出生	大正拾四年壹月壹日		
父	李圭徹	本貫	
母	吳娥眉	庶子男	

（略）

妻	朴春卿	本貫	密陽
出生	光武拾年五月四日		
父	朴泳根	本貫	
母	崔月峯	長女	

（略）

母	劉彩鳳	本貫	咸興
出生	開國四百八拾六年八月拾五日		
父	亡李丙煥	長男	
母	劉彩鳳		

（略）

庶子男	台鎭	本貫	咸興
出生	大正拾五年六月八日		
父	李圭徹	本貫	
母	吳娥眉	庶子男	

第二　一部抹消

本籍　京城府鳳翼洞百一番地

前戶主	李丙煥		
前戶主ノ續柄	亡李丙煥長男		
主戶	李圭徹	本貫	咸興
出生	光武六年貳月六日		
父	亡劉興基	本貫	
母	亡任正姬	長女	江陵

（略）大正拾貳年七月六日午後拾壹時京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ死亡戶主李圭徹屆出同月九日受附㊞

母	劉彩鳳	本貫	咸興
出生	開國四百八拾六年八月拾五日		
父	亡李丙煥	長男	
母	劉彩鳳		

（略）

出生			
父		本貫	
母			

（略）

出生			
父		本貫	
母			

（略）

出生			
父		本貫	
母			

附錄第六號樣式　戶籍ノ訂正
第一　全部ノ訂正

本籍　京城府仁義洞三十六番地（朱線抹消）

前戶主	金光淑		
前戶主ノ續柄	出大正四拾年五月貳日受附㊞		
主戶	李圭泰	本貫	咸興
出生	光武拾年貳月拾日		
父	金敬煥	本貫	
母	宋貞順	三女	金海

（略）

妻	金光淑	本貫	全州
出生	隆熙參年九月九日		
父	亡金海龍	本貫	
母	朴泰白	三女	

（略）

長男	李圭泰	本貫	咸興
出生	大正四拾貳年參月五日		
父	李圭泰	本貫	
母	金光淑	長男	

（略）

二男	仁鎔	本貫	咸興
出生	大正四拾參年四月拾五日		
父	李圭泰	本貫	
母	金光淑	二男	

（略）

子嫡	曹清姬	本貫	全州
出生	大正四拾六年貳月八日		
父	曹仁麒	本貫	
母	朴泰白	三女	
家族トノ續柄	長男李春鎔妻		

第二　一部ノ訂正

本籍　京城府仁義洞三十六番地

前戸主	主戸	妻	長男	長女	三女
（略） 亡李丙煥ト婚姻届出大正四拾壹年貳月貳拾八日濟州島右面長猶興里戸主金敬煥三女大正四拾壹年貳月貳拾八日李圭泰ト婚姻ノ届出ニ付大正四拾壹年貳月貳拾八日入籍㊟ 婚姻無效ニ付大正四拾參年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ李圭泰戸籍訂正申請同月拾八日受附㊟同月貳拾參日入籍通知ニ因リ除籍㊟	前戸主ノ續柄	亡李丙煥	二男		
	出生	光武拾年貳月拾日			
	父	亡李丙煥	本貫		
	母	亡劉彩鳳	咸興		
	李圭泰				
金光淑	出生	隆熙參年九月九日			
	父	金敬煥	本貫		
	母	宋貞順	金海		
（略） 大正四拾貳年五月拾日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ父李圭泰ノ戸籍訂正申請同月拾貳日受附名ヲ「春錄」ト訂正ス㊟	長男				
	出生	大正四拾貳年參月五日			
	父	李圭泰	本貫		
	母	金光淑			
李春錄	出生				
	父				
	母				
	出生				
	父		本貫		
	母				

附錄第七號樣式　本籍ノ更正

本籍　京城府黃金町三丁目百三番地

前戸主	主戸
（略） 大正拾貳年九月八日土地ノ名稱及地番號變更ニ付本籍欄中「黃金町三丁目百三番地」ヲ「永樂町一丁目九十六番地」ニ更正ス㊟	前戸主ノ續柄
	出生
	父
	母
李丙煥	
	出生
	父
	母
李圭徹	
	出生
	父
	母
	出生
	父
	母
	出生
	父
	母

附錄第八號書式

右謄（抄）本ハ戸籍（除籍）ノ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第九號書式

告知書

大正何年何月何日ノ請求ニ係ル戸籍簿（除籍簿）ノ閲覽（戸籍又ハ除籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付）ハ左ノ理由ニ依リ許可難致候

一、

右及告知候也

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

姓名　殿

附錄第十號書式

一何何届書（申請書）

届出（申請）事項ノ要旨　何通

事件本人　本籍

右年月日附届出（申請）ハ年月日受理シタルコト（左ノ事由ニ依リ受理セサリシコト）ヲ證明ス

（一、）

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第十一號書式

何何届書

事件本人　本籍

證明ヲ求ムル事項　何何

右ノ事項ハ届書ニ記載アルコトヲ證明ス

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第十二號書式

第一

催告狀

何何ノ届出（申請）可相成之處未タ其ノ手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）可相成此段及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）

姓名　殿

第二

追完催告狀

大正何年何月何日何何届ハ何何ノ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルニ付何月何日迄ニ追完可相成此段及催告候也

追テ右期間内ニ追完ノ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）

姓名　殿

第三

催告狀（第二回以後）

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何何届（申請）（又ハ其ノ追完）ヲ爲スヘキ旨及催告候處未タ其ノ手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）（又ハ其ノ追完）可相成更ニ及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）

姓名　殿

●朝鮮戸籍令ニ依ル警察官ノ職務ニ關スル件

大正十三年九月
總令第五十三號

朝鮮戸籍令ニ依ル警察官ノ職務ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮戸籍令第六十五條及第百四條ノ規定ニ依ル警察官ノ職務ハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ巡査ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮戸籍手數料規則

大正十一年十二月
總令第百五十六號

朝鮮戸籍手數料規則左ノ通定ム

第一條　戸籍簿（除籍簿又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢トス

第二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條　届出若ハ申請ノ受理又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手數料ハ一件ニ付十錢トス

第四條　官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ以テ戸籍簿若ハ除籍簿ノ閲覽又ハ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ又數料及郵送料ヲ要セス

第五條　第一條乃至第三條ノ手數料ハ之ヲ府又ハ面ノ收入トス

附則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件

大正十二年三月
總令第四十三號

府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮民事令ニ依リ府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ爲要スル費用ハ府又ハ面ノ負擔トス

附　則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件

明治四十四年十月
總令第百二十四號
改正　大正四年三第一九號

朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮人ニシテ姓名ヲ改稱セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ民籍謄本ヲ添ヘ所轄面長又ハ府尹ヲ經由シ道長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、姓名、職業、年齡

二　改稱セムトスル姓名

三　改稱ノ理由

第二條　前條ノ願書ニハ妻又ハ妾ニ在リテハ其ノ夫ノ承諾書、滿二十歲以下ノ者ニ在リテハ戸主ノ承諾書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ願書ニ其ノ事實ヲ記載スヘシ

第三條　第一條ニ依リ姓名改稱ノ出願ヲ爲ス者ハ手數料トシテ五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟等民籍無償證明ノ件

大正七年八月
總令第八十號

府尹又ハ面長ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ヨリ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ民籍ニ關シ證明ヲ願出タルトキハ無償ニテ證明ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

◉工場法

明治四十四年三月
法律第四十六號

第十六條　職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ【戸籍吏】ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

◉土地調查令ニ依ル地番號ノ設定ナキ地ノ統戸番號ノ新設、變更ニ關スル件

大正四年七月
總訓第四十一號

道長官
府尹
郡守
島司
面長
警務總長
警務部長
警察署長
（警察事務ヲ取扱フ）憲兵分隊長
同
憲兵分遣所長

土地調查令ニ依ル地番號ノ設定ナキ地ニ於テ統戸番號ノ新設、變更ヲ要スルトキハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ面長ノ左ノ定ムヘシ

大正三年朝鮮總督府訓令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

◉外國在留鮮人ノ身分取扱ニ關スル件

大正二年六月
總訓第三十二號

【警務總長】
【警務部長】
【警察署長、同分署長】
【（警察事務ヲ取扱フ）憲兵分隊長、同分遣所長】

在外帝國公館ニ於テ受理シタル外國在留朝鮮人ノ身分ニ關スル屆書又ハ證書ノ謄本ノ送付ヲ受クタルトキハ民籍法ニ依ル申告ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第四款　華族　貴族

◉華族令

明治四十年五月
皇令第一號
改正　明治四三年八第一七號

第一條　凡ソ有爵者ヲ華族トス

有爵者ノ家族ハ華族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第三條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮內大臣之ヲ奉行ス

第四條　有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇ヲ享ク

第五條　有爵者ノ嫡ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシメ其ノ家ノ戸主トナリタルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ華族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第六條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ華族ノ禮遇ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ法定ノ推定家督相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子

三　戸主タリシ者

四　前三號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第七條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ラサル者

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ラサル者

第八條　有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規程ノ範圍內ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第九條　爵ハ男子ノ家督相續人ヲシテ之ヲ襲カシム

第十條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ開始ヲ知リタル時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ家督相續ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十一條　襲爵ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス

一　第十條第一項ノ期間內又ハ家督相續開始ノ時ヨリ三箇年內ニ家督相續ノ屆出ヲ爲ササルトキ

二　第十二條又ハ第二十四條ニ依リ華族ノ族稱ヲ享ケサルトキ又ハ之ヲ失ヒ若ハ之ヲ除カレタルトキ

第十三條　有爵者及其家族ノ身分ニ關シ監督上必要ナル事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十四條　有爵者、婚姻、養子緣組、隱居、協議上ノ離婚若ハ離緣又ハ家督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ戸籍吏ニ其ノ屆出ヲ爲ス前、隱居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ請求スル前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

有爵者遺言ヲ以テ養子緣組ヲ爲シ又ハ家督相續人ノ指定ヲ爲スノ意思ヲ表示シタルトキハ養子トナル者又ハ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ニ在リテハ其ノ承諾ヲ爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十五條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ニ請求スル前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絕家再興又ハ他家相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十八條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ養子、家督相續人ノ指定又ハ選定ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人左ノ各號ノ一ニ該當セサルトキハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

一　養父又ハ被相續人ノ男系ノ六親等內ノ血族但シ他家ヨリ入リタル者ノ實方ノ親族ヲ除ク

二　本家又ハ同家ノ家族若ハ分家ノ戸主又ハ家族

三　華族ノ族稱ヲ享ケル者

第二十條　宮內大臣ノ認許ヲ受クヘキ者認許ヲ受ケスシテ第十四條乃至第十八條ノ行爲ヲ爲シタルトキハ情狀ニ依リ華族ノ禮遇ヲ停止シ又ハ爵ヲ奪カシメサルコトアルヘシ

第十八條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ入籍者ハ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十一條　有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ奪フ

有爵者ノ婿前項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス

第二十二條　第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ者又ハ有爵者ノ家族前條ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ

新ニ爵ヲ授ケラレタル者ノ家族ニシテ前條ノ場合ニ該當スル者アルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十三條　有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ停止ス

一　華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

二　宮內大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第二十四條　前三條ニ規定シタル場合ノ外華族ノ體面ヲ汚辱スル失行アリタル者ハ情狀ニ依リ爵ヲ返上セシメ、華族ノ族稱ヲ除キ又ハ其ノ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第五條、第六條ノ禮遇ヲ享ケサル家族ニシテ前項ノ失行アリタル者ハ華族ノ族稱ヲ除ク

第二十五條　有爵者其ノ禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第五條第一項、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十六條　有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮內大臣ヲ經テ爵ヲ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十七條　第二十條第一項、第二十三條、第二十四條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ行フ

禮遇ノ停止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十八條　削除

附　則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十七年泰勅遂華族令及明治三年九月十日太政官布告竝ニ華族家人職員ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

◉朝鮮貴族令

明治四十三年八月
皇令第十四號

朕惟フニ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ハ宜シク之ヲ優列ニ陞シ敍シテ朝鮮貴族ト爲シ用テ寵光ヲ示スヘシ茲ニ其ノ舊德前功ヲ秩シ世爵ノ典ヲ定メテ朝鮮貴族令トシ之ヲ裁可シ公布セシム

朝鮮貴族令

第一條　本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ嫡ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮內大臣之ヲ奉行ス

第五條　有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシメ其ノ家ノ戸主トナリタルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ朝鮮貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第六條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ朝鮮貴族ノ禮遇ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　前二號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第七條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇

一　禁治產者及準禁治產者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ラサル者

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ラサル者

第八條　有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規程ノ範圍內ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第九條　爵ハ男子ノ家督相續人ヲシテ之ヲ襲カシム

第十條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ開始ヲ知リタル時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ家督相續ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十一條　襲爵ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス

一　第十條第一項ノ期間內又ハ家督相續開始ノ時ヨリ三箇年內ニ家督相續ノ屆出ヲ爲ササルトキ

二　第十二條又ハ第二十四條ニ依リ華族ノ族稱ヲ享ケサルトキ又ハ之ヲ失ヒ若ハ之ヲ除カレタルトキ

第十三條　有爵者及其家族ノ身分ニ關シ監督上必要ナル事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十四條　有爵者、婚姻、養子緣組、隱居、協議上ノ離婚若ハ離緣又ハ家督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ戸籍吏ニ其ノ屆出ヲ爲ス前、隱居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ請求スル前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十五條　有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十六條　有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十七條　有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁

者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮內高等官中ヨリ勅命シタル審查委員ヲシテ審查セシメタル後宮內大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條　有爵者ノ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者ノ婿ハ其ノ爵ヲ襲クコトヲ得ス

第十條　爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ相續ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條　襲爵ハ相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一　第十一條第一項ノ期間內ニ相續ノ屆出ヲ爲ササルトキ

二　第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條　相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セラルルコトナシ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十六條　有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ判確定シタルトキハ其ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十七條　有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁

止ス

一　貴族ノ體面ヲ汚辱スル尖行アル者

二　貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

三　忠順ヲ缺クノ行爲アル者

四　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第十八條　第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享ヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第十九條　有爵者貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ第六條第一項及第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十條　有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮内大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第二項、第十七條及第十八條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ處分及解除ニ之ヲ準用ス

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十二條　審査委員ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

●朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件

明治四十三年八月
皇令第十五號

於朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮貴族令第八條、第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ

前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

審査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮内大臣ノ協議シテ之ヲ定ム

第二條　朝鮮貴族令第九條第二項、第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ届出、認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條　朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在住スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ内朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮内大臣ニ協議スヘシ

第四條　朝鮮ニ在住スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮貴族ニ關スル審査委員會規程

明治四十五年三月
總令第十七號

朝鮮貴族ニ關スル審査委員會規程左ノ通定ム

第一條　審査委員會ハ委員長及委員五名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　審査委員會ハ委員長之ヲ招集ス

第四條　審査委員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第五條　委員長事故アルトキハ朝鮮總督ノ指定シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　審査委員會ノ議事ニ關スル取扱手續ハ委員長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五款　財産管理及處理

●獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件

大正九年三月
勅令第四十八號

玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ獨逸國、墺地利洪牙利國若ハ土耳其國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ申告ヲ命スルコトヲ得

第三條　當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ關シ調査ノ爲必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條　第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管理命令ヲ以テ之ヲ開始ス

第五條　當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ登錄ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル旨ノ登記又ハ登錄ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産債權ナルトキハ管理財産タル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スヘキ財産ノ管理ハ登記若ハ登錄又ハ通知アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條　前二條ノ規定ハ財産ノ管理ヲ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　當該官廳ハ管理財産ノ所有者又ハ保管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條　管理ニハ財産ノ換價其ノ他ノ處分ヲ包含ス

政府カ擔保權ノ目的タル管理財産ヲ換價シタルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第九條　第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ屬スル管理財産ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　管理財産ハ管理ニ依リテ生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ强制執行又ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　財産ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル管理財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第十二條　財産ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財産ノ隱匿、處分、毀棄ヲ爲シ若ハ爲サムトスル行爲アリタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ依リ命セラレタル申告ヲ爲サス又ハ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者

二　第三條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ供述ヲ爲シタル者

三　第七條ノ規定ニ依ル引渡ノ命ニ應セサル者

附　則

本令ハ大正八年勅令第三百四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財産タル國債ニ關スル取扱手續

大正九年三月
大藏省令第十一號

大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財産タル國債ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

第一條　當該官廳ニ於テ管理財産タル旨ノ登錄ヲ受ケムトスルトキハ國債ノ種別、登錄ノ金額、記號、番號（利札ヲ登錄ヲ受ケムトスルトキハ利札ノ種別、金額、番號ノ外利札ニ關スル事項ヲ記載スヘシ）及記名ヲ記載シタル請求書ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第二條　取扱店ニ於テ國債登錄簿ニ管理財産タル旨ノ登錄ヲ爲シタルトキハ請求書記載ノ事項及登錄濟年月日ヲ記載シタル登錄濟通知書ヲ當該官廳ニ交付スヘシ

第三條　前二條ノ規定ハ登錄國債ノ管理財産タル旨ノ登錄ヲ變更シ又ハ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　國債規則ノ規定ハ當該官廳カ管理財

產タル國債ニ關シテ請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年勅令第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正八年大藏省令第十六號ニ依リ爲シタル手續及登錄ハ之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ基ク損害申告ニ關スル件

大正九年五月
總令第六十八號

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ基ク損害申告ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第八編（賠償）第一款第一附屬書第一號、第二號、第三號、第八號、第九號又ハ第十號ニ該當スル損害ヲ受ケタル帝國臣民（帝國法人ヲ含ム）ニシテ朝鮮ニ居住スルモノハ本令ニ依リ其ノ損害ヲ朝鮮總督ニ申告スヘシ

第二條　前條ノ申告ハ別記樣式ニ依リ大正九年七月十日迄ニ申告者ノ居住地ヲ管轄スル道知事ニ之ヲ提出スヘシ

第三條　申告書ハ三通ヲ作成シ且損害ヲ證スル書類三通ヲ添附スヘシ

第四條　道知事前條ノ申告書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ進達スヘシ

第五條　虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號樣式

損害申告書

申告者	居住地	職業

第二號樣式

損害申告書

申告者	被害者	被害年齡	被害住所	被害年月日及場所	損害			備考
					被害ノ種類及數量	被害ノ財産ニ對スル權利、利益ノ種類及其ノ價額	損害ノ總額	
居住地								
職業								

右申告候也

年　月　日　　申告者氏　名印

朝鮮總督殿

第三號樣式

損害申告書

申告者	被害船舶ノ船籍港	被害年月日及場所	損害			備考
			被害船舶ノ種類、噸數及船名	被害船舶ノ修繕費又ハ價額	被害船舶ノ運賃其ノ他ノ收入ノ減少額	
現住所						
職業						

右申告候也

年　月　日　　申告者氏　名印

朝鮮總督殿

凡例

一、平和條約第八編第一附屬書一、二、三、八、十號ノ損害ハ第一號樣式ニ依リ九號ノ損害（船舶ノ損害ヲ除ク）ハ第二號樣式ニ依リ船舶ノ損害ハ第三號樣式ニ依ルコト

一、申告書ハ一事件毎ニ別ニスルコト

一、第一附屬書ノ八、九及十ノ損害ニシテ被害者死亡シ其ノ相續人ヨリ之ヲ申告スルトキ並同附屬書一、二、三ニ依リ生存被扶養者ノ損害ヲ申告スルトキハ戸籍謄本ヲ添附スルコト

一、被扶養者多數アル場合ニ於テハ之ヲ一括シテ申告スルコト

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件

大正九年五月
勅令第百七十一號

玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國トノ平和條約第二百九十七條ニ規定スル支拂ニ充ツルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　前條ノ政府管理財産ノ上ニ存スル抵當權、質權、其ノ他ノ擔保權ハ第三條乃至第六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條　前條ノ擔保權者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ其ノ擔保權ヲ特殊財産管理局ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ニハ擔保權ノ性質及原因竝債權ノ額ヲ表示シ且證據書類又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ

第四條　前條ニ規定スル期間ヲ經過シタル後届出ヲ爲シタル擔保權者ハ擔保權ノ目的ヌリシ財産ノ殘餘價額ノ限度ニ於テノミ政府管理財産ニ付擔保權ヲ實行スルコトヲ得

第五條　第二條ノ擔保權ハ辨濟期ニ至ラサル債權、條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テモ之ヲ實行スルコトヲ得

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テハ擔保權ノ實行ハ特殊權利審査會ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價額ニ從ヒテ之

第十三條　第八條ノ規定ニ依ル財産回收ノ希望ノ表示アリタル場合ニ於テハ前條ニ規定スル手續ハ其ノ回收行ハレタルトキ、回收不能ト認メタルトキ又ハ一部ニ付回收行ハレ他ノ部分ニ付回收不能ト認メタルトキ之ヲ爲スヘシ

第十四條　特殊權利審査會カ金錢債權ニ關スル審査ノ請求ニ付爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定告知ノ日ヨリ起算シ三月內ニ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　內地ニ住居ヲ有セサル者ニ對スル前條ノ訴ハ政府管理財產ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ政府管理財產ノ所在地ハ東京市トス

第十六條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及從前ノ占領地ニ存スル政府管理財產ハ特殊財產管理局之ヲ管理ス

第十七條　第一條ニ規定スル支拂ハ本令ニ規定スル手續ニ從ヒ確定シタル金額ニ依リ特殊財產管理局之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件

大正九年十一月
勅令第五百三十四號

脫玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

大正九年勅令第百七十一號ハ塊地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財產ヲ以テ同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約第二百四十九條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特殊權利審査會官制

大正九年五月
勅令第百七十四號

脫特殊權利審査規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特殊權利審査會官制

第一條　特殊權利審査會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ大正九年勅令第百七十一號、同年勅令第五百三十四號及大正十年勅令第三百七十六號ノ規定ニ依ル事務ヲ掌リ會長一人審査員十九人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　會長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ

審査員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

外務省條約局長
內務省警保局長
司法省民事局長
法制局參事官　三人
外務省參事官　三人
內務省參事官　三人
司法省參事官　三人
判事　四人

第三條　前條第二項第四號乃至第八號ノ規定ニ依ル審査員ハ司法大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ司法大臣ノ指定スル審査員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審査會ノ會議ハ審査員五人以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

審査會ノ決定ハ出席審査員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條　審査會ニ幹事四人ヲ置ク司法大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　審査會ニ書記若干人ヲ置ク司法大臣之ヲ命ス

書記ハ會長、審査員及幹事ノ指揮ヲ承ケ記錄ノ調製其ノ他庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正　大正九年一一第五三六號一〇年八第三八〇號

脫特殊權利審査會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特殊權利審査會官制

第一條　特殊權利審査會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ大正九年勅令第百七十一號、同年勅令第五百三十四號及大正十年勅令第三百七十六號ノ規定ニ依ル事務ヲ掌リ會長一人審査員十九人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　會長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ

審査員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

外務省條約局長
內務省警保局長
司法省民事局長
法制局參事官　三人
外務省參事官　三人
內務省參事官　三人
司法省參事官　三人
判事　四人

第三條　前條第二項第四號乃至第八號ノ規定ニ依ル審査員ハ司法大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ司法大臣ノ指定スル審査員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　審査會ノ會議ハ審査員五人以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

審査會ノ決定ハ出席審査員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條　審査會ニ幹事四人ヲ置ク司法大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　審査會ニ書記若干人ヲ置ク司法大臣之ヲ命ス

書記ハ會長、審査員及幹事ノ指揮ヲ承ケ記錄ノ調製其ノ他庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件

大正十年二月
內令第三號

朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　財產ノ所有者、保管者其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財產ニ付テハ本令施行後十日內ニ本令施行後生シタル財產ニ付テハ其ノ都度特殊財產管理局長ニ別記樣式ニ依リ財產ニ關スル申告ヲ爲スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年一月十一日以後塊地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年十月十五日以後ニ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　管理財產ノ所有者及保管者ハ管理財產ニ付キ滅失、毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其ノ旨直ニ特殊財產管理局長ニ屆出スヘシ

第三條　當該官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　特殊財產管理局長ニ提出スヘキ書面ハ財產所在地所轄道廳ニ在ル特殊財產管理局職員ニ差出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年朝鮮總督府令第五十號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除ク外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特殊權利審査細則

大正九年六月
司法省令第七號

特殊權利審査細則左ノ通之ヲ定ム

特殊權利審査細則

第一條　特殊權利審査會ハ司法省ニ於テ之ヲ開ク

第二條　特殊權利審査會ニ審査ヲ請求スル者ハ金錢債權ニ付テハ審査請求書正副二通、賠償請求ニ付テハ其ノ正本一通副本二通ヲ差出スヘシ

第三條　財產回收ニ關スル審査請求ト共ニ之ト牽連スル賠償請求ニ關スル審査請求ヲ爲ス者ハ同一ノ請求書ヲ以テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　特殊權利審査會ハ審査ヲ請求スル者ヲシテ審査費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第五條　特殊權利審査會金錢債權ニ關スル審査請求ヲ理由アリトスルトキハ特殊財產管理局ニ決定ノ謄本又ハ抄本ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特殊權利審査會ニ對スル審査請求ノ書式

大正九年六月
司令第八號

特殊權利審査會ニ對スル審査請求ノ書式左ノ通定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（賠償ノ請求ニ關スルモノ）

審査請求書

住所　職業
被害者　氏　名

（代理人ニ依リテ請求ヲ爲ストキハ代理人ノ氏名住所及職業ヲ記載スヘシ）

一、請求ノ趣旨

一、添附書類

（證據書類又ハ其ノ謄本、代理人ニ依リテ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面、債權者ノ相續人ヨリ請求スル場合ニ於テハ其ノ戶籍謄本）

一、理由

（請求金額ヲ記載シ且大正九年勅令第百七十一號第八條ニ依リ賠償請求ノ目的ヲ財產回收ニ依リ達セムトスルトキハ其ノ希望ノ表示ノ外財產回收不能ノ場合ニ於ケル金錢賠償ノ請求ヲ記載スヘシ）

一、證據方法

（書證、人證其ノ他ノ證據ヲ開示スヘシ）

右及請求候也

年　月　日

被害者　氏　名印

（代理人ニ依リテ請求ヲ爲ストキハ其ノ代理人ノ記名捺印ヲ要ス）

特殊權利審査會長宛

注意

大正九年勅令第百七十一號第七條第一項所定ノ期間經過後審査ノ請求ヲ爲ス場合ニハ其ノ期間經過ノ事由ヲ附記スヘシ

●同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ニ規定スル支拂ヲ求ムル爲ノ特殊權利審査會ニ提出スヘキ請求ノ書式

大正九年六月
司令第十七號

同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約第十編第四款ニ規定スル支拂ヲ求ムル爲メ特殊權利者別、住所又ハ所在地、職業、姓名又ハ名稱ノ（別記）第一樣式ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面、債權者ノ相續人ヨリ請求スル場合ニ於テハ其ノ戶籍謄本

一、添附書類

（證據書類又ハ其ノ謄本、代理人ニ依リテ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面、債權者ノ相續人ヨリ請求スル場合ニ於テハ其ノ戶籍謄本）

一、理由

（請求ノ理由タル事實特ニ被害發生ノ事由、賠償額算定ノ基礎ヲ記載スヘシ）

一、證據方法

（書證、人證其ノ他ノ證據ヲ開示スヘシ）

右及請求候也

年　月　日

被害者　氏　名印

（代理人ニ依リテ請求ヲ爲ストキハ其ノ代理人ノ記名捺印ヲ要ス）

特殊權利審査會長宛

注意

大正九年勅令第百七十一號第七條第一項第八條所定ノ期間經過後審査ノ請求ヲ爲ス場合ニハ其ノ期間經過ノ事由ヲ附記スヘシ

●同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約第十編第四款ニ規定スル支拂ヲ求ムル爲メ特殊權利審査會ニ提出スヘキ請求ノ書式

大正九年司法省令第八號ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件

大正十年二月
內令第三號

朝鮮ニ於ケル特殊財產管理ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　財產ノ所有者、保管者其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財產ニ付テハ本令施行後十日內ニ本令施行後生シタル財產ニ付テハ其ノ都度特殊財產管理局長ニ別記樣式ニ依リ財產ニ關スル申告ヲ爲スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年一月十一日以後塊地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年十月十五日以後ニ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　管理財產ノ所有者及保管者ハ管理財產ニ付キ滅失、毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其ノ旨直ニ特殊財產管理局長ニ屆出スヘシ

第三條　當該官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　特殊財產管理局長ニ提出スヘキ書面ハ財產所在地所轄道廳ニ在ル特殊財產管理局職員ニ差出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年朝鮮總督府令第五十號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除ク外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（別記）

第一樣式

番	國	權利者別	住所又ハ所在地	職業	姓名又ハ名稱

第二樣式

番號

土地ニ關スル權利

參考事項	權利ノ種別	登記年月日番號	所在地	地目	地積	地價	權利價額	所有權者住所地姓名	權利

第三樣式

番號

建物ニ關スル權利

參考事項	所在地	種類	坪數	價額	備考
合計					

第四樣式

番號

預金及現金

參考事項	預入保管又ハ所持ノ別	金高	保管者又ハ銀行所在地	姓名又ハ名稱	備考
合計					

參考事項	號	種別	價額又ハ金高	備考
	籍			
	所有者			
	保管者又ハ代表者			
		財産 土地		
		建物		
		預金及現金		
		外國貨幣		
		有價證券		
		債權		
		商品		
		特許權		
		其他		
		合計		

第五樣式

番號

有價證券

參考事項	種類	數量	額面高	時價	保管者又ハ保管銀行所在地	姓名又ハ名稱	備考
合計							

第六樣式

番號

其ノ他ノ財産

參考事項	種類	數量	價格	所在地	備考
合計					

第二章　刑事

●朝鮮刑事令

明治四十五年三月制令第十一號

改正　大正六年一二第三號、八年八第一六號、九年三第二號、一〇年三第三號、同年四第八號、一一年二第一四號

朝鮮刑事令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮刑事令

第一條　刑事ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ法律ニ依ル

一　刑法
二　刑法施行法
三　爆發物取締罰則
四　明治二十二年法律第三十四號
五　通貨及證券模造取締法
六　明治三十八年法律第六十六號
七　印紙犯罪處罰法
八　海底電信線保護萬國聯合條約罰則
九　刑事訴訟法
十　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
十一　刑事訴訟費用法

第二條　前條ノ法律中大審院ノ職務ハ高等法院、大審院長ノ職務ハ高等法院長、檢事總長ノ職務ハ高等法院檢事長、檢事長ノ職務ハ覆審法院檢事長、控訴院檢事ノ職務ハ覆審法院檢事、地方裁判所檢事及區裁判所檢事ノ職務ハ地方法院檢事之ヲ行フ

第三條　刑法第七十五條、第七十六條及朝鮮總督府裁判所令第三條第三項ノ規定ハ王族ニ付之ヲ準用ス

第四條　朝鮮總督府道知事ハ各其ノ管轄地內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スルニ付地方法院檢事ト同一ノ職權ヲ有ス

第五條　左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘシ

一　警察部長タル朝鮮總督府道事務官

二　朝鮮總督府道警視、道警部、道警部補

三　憲兵將校、准士官、下士

前項ノ司法警察官ハ檢事ノ職務上發シタル命令ニ從フ

第六條　裁判所ハ被告人カ其ノ裁判所ノ管轄區域內ニ在ラサルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ被告人ノ所在地ヲ管轄スル同等ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得

第七條　官吏、公吏ノ作リタル書類ニシテ形式ニ瑕疵アルモノハ當該官吏、公吏之ヲ補正スルコトヲ得

前項ノ補正ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日、場所及補正ノ事項ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第八條　削除

第九條　刑事訴訟法第八十二條中二十里トアルハ八里、五里トアルハ三里トス

第十條　刑事訴訟法ニ依リ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘキ場合ニ於テハ府官吏、府面吏員又ハ二人以上ノ相當ナル者ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一條　削除

第十二條　檢事ハ刑事訴訟法ニ規定スル場合ノ外事件禁錮以上ノ刑ニ該リ急速ノ處分ヲ要スルモノト思料スルトキハ公訴ノ提起前ニ限リ押收、捜索、檢證及被疑者ノ勾引、被疑者若ハ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ翻譯ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢事ニ許シタル處分ハ司法警察官亦之ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第五百四十五條中市町村長トアルハ府尹又ハ面長トス

第三十九條　朝鮮民事令第二條乃至第四條、第六條、第九條、第十六條、第十七條、第三十二條及第四十一條ノ規定ハ刑事ニ付之ヲ準用ス但シ朝鮮民事令第二條中前條竝同令第三條、第四條、第六條及第十六條中第一條トアルハ本令第一條ニ該當ス

附　則

第四十條　本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一　刑法大全

二　鐵道事項犯罪人處斷例

三　刑事裁判費用規則

第四十二條　本令施行後仍效力ヲ有スル舊韓國法規ノ刑ハ左ノ例ニ從ヒ本令ノ刑名ニ變更ス但シ刑ノ期間又ハ金額ハ此ノ限ニ在ラス

舊韓國法規ノ刑　本令ノ刑

死刑　死刑

終身役刑　無期懲役

終身流刑　無期禁錮

十五年以下ノ役刑　有期懲役

十五年以下ノ流刑又ハ禁獄　有期禁錮

罰金　罰金

拘留　拘留

科料　科料

沒入　沒收

二十日以下ノ拘留又ハ科料　答刑

第四十三條　本令施行前舊韓國法規ノ刑ニ處セラレタル者ハ前條ノ例ニ照シ之ヲ本令ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ答刑ニ處セラレタル者ニ付テハ答五十以下拘留一日ニ換フ

第四十四條　舊韓國法規ニ依リ許シタル假放ハ之ヲ假出獄ト看做ス

第四十五條　本令施行前ニ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ付テハ本令ニ依リ之ヲ處斷ス

第四十六條　本令ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第四十七條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

【朝】

第四十六條　本令施行前既ニ爲シタル上告ハ從前ノ手續ニ依リ之ヲ完結ス

第四十七條　朝鮮民事令第七十九條及第八十二條ノ規定ハ刑事ニ之ヲ準用ス

附　則（大正六年一二月制令第三號）

本令ハ大正六年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ朝鮮刑事令第四十一條第二項ノ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ付テハ朝鮮刑事令ニ依リ之ヲ處斷ス

附　則（大正十年四月制令第八號）

本令ハ大正十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年十二月制令第十四號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（大正十二年六月總令第八十五號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行）

本令施行前言渡シタル闕席判決ニ對スル故障ハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ拋棄シ又ハ之ヲ取下クルコトヲ得

本令施行前申立アリタル上告ニ付テハ仍從前ノ第三十一條乃至第三十七條ノ規定ニ依ル

刑法

明治四十年四月

法律第四十五號

改正　大正一〇年四號七七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別冊）

刑法

第一編　總則

第一章　法例

第一章　法例

第二章　刑

第三章　期間計算

第四章　刑ノ執行猶豫

第五章　假出獄

第六章　時效

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第八章　未遂罪

第九章　併合罪

第十章　累犯

第十一章　酌量減輕

第十二章　加減例

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第二章　內亂ニ關スル罪

第三章　外患ニ關スル罪

第四章　國交ニ關スル罪

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第六章　逃走ノ罪

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第八章　騷擾ノ罪

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第十五章　飮料水ニ關スル罪

第十六章　通貨僞造ノ罪

第十七章　文書僞造ノ罪

第十八章　有價證券僞造ノ罪

第十九章　印章僞造ノ罪

第二十章　僞證ノ罪

第二十一章　誣告ノ罪

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二十五章　瀆職ノ罪

第二十六章　殺人ノ罪

第二十七章　傷害ノ罪

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二十九章　墮胎ノ罪

第三十章　遺棄ノ罪

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第三十二章　脅迫ノ罪

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第三十八章　橫領ノ罪

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

刑法

第一編　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第七十七條乃至第七十九條ノ罪

二　第八十一條乃至第八十九條ノ罪

三　第百八十四條ノ罪及ヒ其未遂罪

四　第百四十八條ノ罪及ヒ第百五十條ノ罪

五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪

六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪

七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十六條第二項ノ罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二　第百十九條ノ罪

三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪

四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪

六　第百九十九條、第二百四條ノ罪及ヒ其未遂罪

七　第二百九條乃至第二百十四條ノ罪

八　第二百十六條乃至第二百十八條ノ罪

九　第二百十九條、第二百二條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二　第二百三十條ノ罪

十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百四十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五　第二百五十三條ノ罪

十六　第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二　第百五十六條ノ罪

三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノニ從テ之ヲ適用ス

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ヲ組成シタル物

二　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條　拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニアラス

第二十一條　未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章　期間計算

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ暦ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條　受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章　刑ノ執行猶豫

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一　猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章　假出獄

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四　假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章　時效

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條　時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衞スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衞ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章　未遂罪

第四十三條　犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章　併合罪

第四十五條　確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條　併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條　併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條　罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條　併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條　併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條　併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條　併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條　拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條　一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條　連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章　累犯

第五十六條　懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條　裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條　三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章　共犯

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條　人ヲ敎唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

敎唆者ヲ敎唆シタル者亦同シ

第六十二條　正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ敎唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條　拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ敎唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章　酌量減輕

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章　加減例

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六　科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一　再犯加重

二　法律上ノ減輕

三　併合罪ノ加重

四　酌量減輕

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第七十三條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章　内亂ニ關スル罪

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ

其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章　外患ニ關スル罪

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條　要塞、陣營、軍艦、軍艦其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其他ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章　國交ニ關スル罪

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第九十六條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十七條　公務員ノ施行ニ係ルトキハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章　逃走ノ罪

第九十八條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條　既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆集合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百十一條　火ヲ放テ其現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百十二條　火ヲ放テ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百十三條　失火ニ因リ他人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十四條　失火ニ因リ他人ノ現在スル前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十五條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十六條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十章　溢水及水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十一條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十二條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十三條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十四條　第百二十條第一項、第百二十一條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十五條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車又ハ艦船ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ亦同シ

第十四章　信用及ヒ名譽ニ對スル罪

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一節　信用ニ對スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百三十八條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百三十九條　汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十三條　水道ニ因リテ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ閉塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル物ノ例ニ同シ

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十章　溢水及水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十一條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十二條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十四條　隄路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者亦同シ

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆又ハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車又ハ艦船ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ亦同シ

第十四章　信用及ヒ名譽ニ對スル罪

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一節　信用ニ對スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百三十八條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆又ハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百三十九條　汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十三條　水道ニ因リテ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ閉塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ

ハ輸入シタル者亦同シ

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章　文書偽造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百五十七條　公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章　有價證券偽造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百六十三條　偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章　印章偽造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章　偽證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條　十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條　有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第百八十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第百八十六條　常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章　禮拜及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條　神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條　死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條　檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章　瀆職ノ罪

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條　人ヲ敎唆若クハ幇助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セストモ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ

従テ處斷ス

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加ヘ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

明治四十一年六月
勅令第百六十三號

脫刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

脫刑法施行期日ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑法施行法

明治四十一年三月
法律第二十九號

改正　明治四二年三第四四號、第三九號、四四年四第五三號、大正五年三第一五號、第一七號、一〇年三第六八號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑トシ舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑　舊刑法ノ刑

死刑　死刑

無期徒刑　無期徒刑

無期禁錮　無期流刑

有期徒刑、重懲役　有期流刑、重禁錮、輕禁錮

有期禁錮　有期流刑、重禁獄、輕禁錮

罰金　罰金

拘留　拘留

科料　科料

第三條　法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條　刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ得テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條　刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條　刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用スル可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第七條　左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者

二　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

第八條　刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條　刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條　刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ニ付キ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條　刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ完納セサル爲メ

ヲ除ク外本章ノ罪ハ誉利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十一條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章　信用及ヒ業務ニ關スル罪

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條　强盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ强盜ヲ以テ論ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十條　强盜ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百四十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百四十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百四十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十九條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章　橫領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ橫領シタル者亦同シ

第二百五十三條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百五十八條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百五十九條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百六十條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百六十一條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十三條　他人ノ財物ヲ詐取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百六十四條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十五條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第三十八章　橫領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ橫領シタル者亦同シ

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條　闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時效期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條　剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ完納セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條　他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條　他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條　他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條　他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用スル罪ニ付テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條　明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ內刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一　第二編第四章第九節

二　第二編第五章第三節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一　軍機保護法ニ揭ケタル罪

二　徵兵令ニ揭ケタル罪

三　明治三十八年法律第六十六號ニ揭ケタル罪

四　通貨及證券模造取締法ニ揭ケタル罪

五　船舶法ニ揭ケタル罪

六　船員法ニ揭ケタル罪

七　船舶職員法ニ揭ケタル罪

八　船舶檢査法ニ揭ケタル罪

九　戶籍法ニ揭ケタル罪

第二十七條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一　著作權法ニ揭ケタル罪

二　削除

三　移民保護法ニ揭ケタル罪

第二十八條　人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條　死刑、無期又ハ六年未滿ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條　前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條　拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條　他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條　前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條　六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條　六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十七條　削除

第三十八條　（本條乃至第五十二條ハ刑事訴訟法中ノ改正ニ係ル依テ同法中ニ訂正セリ茲ニ略ス）

第五十三條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ

此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條　明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條　私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

●決鬪罪ニ關スル件

明治二十二年十二月
法律第三十四號

決鬪罪ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

●爆發物取締罰則

明治十七年十二月
太政官布告第三十二號
改正　四一年法律第二九號、大正七年四第三四號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

爆發物取締罰則

第一條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條　前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條　第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ノ之ヲ削ル

●通貨及證券模造取締法

明治二十八年四月
法律第二十八號

第一條　行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條　帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ノ之ヲ削ル

●通貨及證券模造取締法

明治二十八年四月
法律第二十八號

第三條　情ヲ知テ僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ〔輕懲役〕又ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

收得シタル後其ノ僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條　第一條ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五條　販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條　前數條ニ規定シタル〔輕罪〕ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條　〔本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス〕

第八條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第十一條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附　則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

●海底電信線保護萬國聯合條約罰則

大正五年三月
法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條　海底電信線ヲ損壞シテ通信ヲ障碍シ又ハ障碍スヘキ危險ヲ生セシメタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ海底電信線ヲ布設又ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得サルニ出テタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條　自己ノ生命若ハ船舶ヲ保護スル爲又ハ海底電信線ヲ布設若ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得スシテ海底電信線ヲ損壞シタル者ハ直ニ無線電信ニ依リ電信官署又ハ帝國領事館ニ屆出ツヘシ無線電信ニ依ルコトヲ得サルトキハ最初ニ著船シタル時ヨリ二十四時間内ニ其ノ地ノ電信官署又ハ帝國領事館ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　海底電信線保護萬國聯合條約第五條第一項乃至第三項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　海底電信線保護萬國聯合條約第十條第二項ノ場合ニ於テ公書ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ以テ前項ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正五年七月勅令第百八十五號ヲ以テ大正五年八月一日ヨリ施行）

●刑事訴訟法

大正十一年五月
法律第七十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪

銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第三條　第一條ニ揭ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條　第一條ニ揭ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

（參照）

明治九年布告第五十七號ハ贋造金銀銅貨幣紙幣等取扱規則ナリ

●外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル件

明治三十八年三月
法律第六十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ〔重懲役〕又ハ〔輕懲役〕ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ〔輕懲役〕又ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第二條　流通セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者亦前條ノ例ニ同シ

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ〔重懲役〕又ハ〔輕懲役〕ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ〔輕懲役〕又ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第二條　流通セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者亦前條ノ例ニ同シ

●海底電信線保護萬國聯合條約罰則

大正五年三月
法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條　海底電信線ヲ損壞シテ通信ヲ障碍シ又ハ障碍スヘキ危險ヲ生セシメタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ海底電信線ヲ布設又ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得サルニ出テタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條　自己ノ生命若ハ船舶ヲ保護スル爲又ハ海底電信線ヲ布設若ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得スシテ海底電信線ヲ損壞シタル者ハ直ニ無線電信ニ依リ電信官署又ハ帝國領事館ニ屆出ツヘシ無線電信ニ依ルコトヲ得サルトキハ最初ニ著船シタル時ヨリ二十四時間内ニ其ノ地ノ電信官署又ハ帝國領事館ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　海底電信線保護萬國聯合條約第五條第一項乃至第三項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　海底電信線保護萬國聯合條約第十條第二項ノ場合ニ於テ公書ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ以テ前項ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正五年七月勅令第百八十五號ヲ以テ大正五年八月一日ヨリ施行）

●刑事訴訟法

大正十一年五月
法律第七十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ犯人ノ住所若ハ居所ニ依ル

二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四　數人同時ニ一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條　同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條　同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條　裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條　法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一　管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二　被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十七條　犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條　被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第二十二條　豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ

二　判事私訴當事者ナルトキ

三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ

二　判事私訴當事者ナルトキ

三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ

忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條　合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條　訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條　忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

第三章　訴訟能力

第三十六條　被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條　刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヰサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條　前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章　辯護及輔佐

第三十九條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條　辯護人ハ公訴ノ提起アリタル後、輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　裁判

第四十一條　判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條　被告人ノ法定代理人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　裁判

第四十六條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受ケル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受ケル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十七條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲ササルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時テモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開延中日頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ揭ケル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判延ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開延ノ日ヨリ五日内ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第七章　送達

第七十條　被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ノ書類ノ送達ヲ受ケル爲書面ヲ以テ其ノ生居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各

審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

第七十六條　住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條　檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ揭載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條　書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

第八章　期間

第八十一條　期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條 召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構內ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條 被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八十八條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

第九十一條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十二條 被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條 被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ搜查及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜查及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第百一條 勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百二條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百三條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百四條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百五條 軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六條 裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ニ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第百八條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百九條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ヲ執行シタル場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百十條 檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百十一條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百十二條 裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閱シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

第百十四條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百十五條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百十六條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百十七條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地內ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資產ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百十九條 被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百二十一條 上訴提起期間內又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一 被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ

二 現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ

五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

六 被疑者常習トシテ强盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

第百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ

三 司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

第百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ四十八時間內ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百二十八條 司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命令ニ依リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

第百二十九條 檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

第百三十條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百三十一條　第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

第百三十二條　五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限リ第百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章　被告人訊問

第百三十三條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百三十四條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第百三十五條　被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百三十六條　被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百三十七條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百三十八條　被告人肇ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ噤ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第百三十九條　本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一章　押收及捜索

第百四十條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百四十一條　裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管シ又ハ所持スルモノヲ提出セシムルコトヲ得

第百四十二條　押收又ハ捜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第百四十三條　押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第百四十四條　押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百四十五條　押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十六條　押收又ハ捜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第百四十七條　押收又ハ捜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第百四十八條　押收ヲ爲スヘキ場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第百四十九條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第百五十條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第百五十一條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第百五十二條　必要アルトキハ押收物ノ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ニ對シ其ノ保管ヲ命スルコトヲ得

第百五十三條　押收物ニシテ腐敗ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第百五十四條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第百五十五條　押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十六條　豫審判事ハ押收及捜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百五十七條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百五十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管シ又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十九條　郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリ思料スルトキハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百六十條　被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第百六十一條　裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ捜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ捜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ捜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百六十二條　捜索ニ付テハ祕密ヲ保チ且捜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百六十三條　捜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ捜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百六十四條　押收又ハ捜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百六十五條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百六十六條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立タルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百六十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第百六十八條　押收又ハ捜索ニ付テハ秘密ヲ保チ且捜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百六十九條　捜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ捜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百七十條　押收又ハ捜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百七十一條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百七十二條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立タルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十三條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百七十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百七十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管シ又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立タルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者又ハ其ノ保管シ又ハ所持スルモノニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ捜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

第百七十六條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調書ニ記載スヘシ

日沒後押收又ハ捜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百七十七條　左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ捜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二　旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第百七十八條　公務所又ハ軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第百七十九條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ捜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第百七十九條乃至第百八十條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付之ヲ準用ス

第百八十一條、第百八十二條、第百八十三條、第百八十四條、第百八十五條及第百八十六條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付之ヲ準用ス

第十二章　檢證

第百八十七條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第百八十八條　檢證ニ付テハ身體ノ檢查、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢查ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ檢查スル場合ニ於テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第百八十九條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百九十條　第百五十六條乃至第百五十九條ノ規定ハ檢證ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　檢證ニ付テハ第百五十四條、第百五十六條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ヲ準用ス

第百九十二條　檢證ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第百九十三條　第百四十七條、第百五十四條、第百五十七條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第百九十四條　第百四十條乃至第百四十九條、第百五十三條、第百五十五條乃至第百五十七條ノ規定ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第十三章　證人訊問

第百九十五條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第百九十六條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ出入ヲ拒ムコトヲ得

第百九十七條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立タルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第百九十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立タルトキハ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ其ノ職務ニ關シ官廳又ハ公務所ノ承諾ヲ得テ訊問スヘシ

第百九十九條　第百九十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百一條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百六條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百八條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百九條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十一條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十二條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十三條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十四條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十五條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十六條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十七條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十八條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十九條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十二條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十三條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十二條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十三條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十九條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十二條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十三條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十條　第百九十七條ノ規定ハ第百九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百八十六條　左ニ揭クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得
一　被告人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者
二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人
三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者
共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗敎若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得
現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第百八十九條　證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得
證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第百九十條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百九十二條　第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第百九十三條　第八十八條、第百條乃至第百五條及第百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第百九十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ
召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ
召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ
第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ
裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前僞證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第二百一條　證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ
一　十六歲未滿ノ者
二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
四　第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ
五　第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
六　被告人ノ雇人又ハ同居人
前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス
第一項ニ揭クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百二條　證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三條　證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ
後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第二百四條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ
必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得
前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百七條　第八十五條、第百三十六條及第百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百八條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ
帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百十條　證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ
前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條　裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百十二條　裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十三條　豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ

〔朝〕

規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百十五條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百十六條　司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十七條　第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第二百十八條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四章　鑑定

第二百十九條　裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ
宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ
鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得
被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百二十三條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得
第百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得
鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條　裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條　裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得
第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得
第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ說明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十一條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

第十五章　通譯

第二百三十二條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百三十三條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百三十五條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條　第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章　訴訟費用

第二百三十七條　刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ
被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十八條　共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十九條　告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十條　親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十一條　檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十二條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

〔朝〕

第二百四十三條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條　裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條　訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

第二編　第一審

第一章　搜査

第二百四十六條　檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜査スヘシ

第二百四十七條　警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條　左ニ揭クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スヘシ
一　廳府縣ノ警察官
二　憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條　左ニ揭クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ
一　巡査
二　憲兵卒

第二百五十條　前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條　森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條　第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス搜査ニ付之ヲ準用ス

第二百五十三條　搜査ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ

ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十四條　捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ强制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

捜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條　檢事捜査ヲ爲スニ付强制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、捜索、檢證及被疑者ノ勾留ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條　判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十八條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十八條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條　祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シタル又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シタル又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婿姻ノ取消又ハ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第二百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

第二百七十條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虚實ヲ探査スヘシ

第二章　公訴

第二百七十八條　公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百七十九條　犯人ノ性格、年齡及境遇竝犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十九條　拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ

署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判手續ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

第二百九十四條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審判事ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二　被告人ノ心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三百六條　豫審判事檢事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ豫審判事ノ決定ヲ不當ト思料スルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百七條　豫審判事ハ檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十二條　公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴ノ取消アリタルトキ

七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ豫判チ爲スヘカラサルトキ

九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事裁判所書記ノ記載シ豫審判事ノ取調十分ナラス

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ

亦同シ

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及補佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及補佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人シテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ノ許可ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

一　被告人疑ナルトキ

二　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

三　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

四　被告人未成年者ナルトキ

五　其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由心證ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要ト認ムル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第三百三十九條　裁判長ハ公判期日ニ於ケル訊問ヲ終リタル後陪席判事ニ告ケ又ハ檢事、被告人若ハ辯護人ニ告ケ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ事行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人ヌ字ヲ解セサルトキニ限リ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人又ハ文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十二條　公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ

二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百四十六條　區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十七條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ

問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條　被告人心神喪失ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條　區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

二　大赦アリタルトキ

三　時效完成シタルトキ

四　告訴又ハ告發ノ取消アリタルトキ

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ

二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六十六條　被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受クスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受クタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ得

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ヲ爲スコトヲ還付ノ言渡アリタルトキハ前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十六條　上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條　上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第三百八十五條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十六條　上訴ノ拋棄又ハ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十七條　上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十八條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間內ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百九十條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十一條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

第四百一條　控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

第四百二條　第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ上訴裁判所ハ事件ヲ第一審ノ裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百三條　被告人ニ控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百四條　被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五條　控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコト

第四百六條　第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第三章　上告

第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九條　上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ

三　判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四　審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五　不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

六　不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタル

トキ

八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三　法律ニ依リ公判ニ於テ取調ヘヲ要スル證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十四　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十五　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ

十六　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ

十七　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ

十八　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十　判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脫シタルトキ

二十一　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタル後ハ之ヲ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條　上告ハ第四百十五日ト雖モ但シ控訴ノ申立アリタル後ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由チ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百二十六條　第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百二十七條　上告趣意書ニ對スル答辯書ハ上告裁判所ニ到達シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ差出スヘシ

第四百二十八條　第四百二十六條ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ上告趣意書ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十九條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百三十條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十一條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十二條　上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ノ通知ヲ待テ之ヲ爲スヘシ

第四百三十三條　上告申立人ハ期日內ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續竝第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

第四百三十六條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條　公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百三十三條　辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ附スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續竝第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百三十六條　第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十七條　第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲スヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付

告ヲ爲スヘシ

第四百三十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百三十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百三十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百三十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百五十一條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百五十二條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十三條　被告人上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十四條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十五條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尚本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ

調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條　不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因リ檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條　前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報

スヘシ

前項ノ請求期間内及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條　檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條　前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條　第四百六十一條、第四百六十三條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第四百七十五條　裁判所構成法第五十條第二號ニ揭ケル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十六條　控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十七條　第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ

第四百七十八條　檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ豫メ前搜査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條　檢事總長搜査ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條　檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連シタル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條　大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條　大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條　大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ

一　被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二　被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三　被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公訴ヲ棄却スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百八十四條　第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

第五編　再審

第四百八十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一　原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ僞造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二　原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ飜譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキ

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

四　原判決ノ憑據トナリタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ノ言渡ヲ爲シタル刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル判事ノ職務執行ニ關シ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

四　原判決ノ憑據トナリタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ノ言渡ヲ爲シタル刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル判事ノ職務執行ニ關シ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

四　原判決ノ憑據トナリタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ノ言渡ヲ爲シタル刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル判事ノ職務執行ニ關シ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

四　原判決ノ憑據トナリタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ為ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲クル者之ヲ為スコトヲ得

一 管轄裁判所ノ檢事
二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者
三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫
四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十五條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ為ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行為罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ為スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ為スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ為ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ為スコトヲ得

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ為スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ為スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ為スコトヲ得ス

第四百九十九條 第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條 再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ為サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ為スヘシ

第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ為シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ為スコトヲ得ス

第五百六條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ為スヘシ

再審開始ノ決定ヲ為シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條 第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ為シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條 第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ為シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條 再審ノ請求ニ付決定ヲ為ス場合ニ於テハ請求ヲ為シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ掲クル者請求ヲ為シタル場合ニ於テハ尚有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條 第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第五百十一條 裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ為スヘシ

第五百十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ為ニ再審ノ請求ヲ為シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ為スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ為シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ為ニ再審ノ請求ヲ為シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ為ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ為シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ為スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ為シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ為ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付為シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ為ニ為シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第五百十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ為ニ為シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ為シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ為スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ為スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條 公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ為スヘシ

第五百十九條 非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ為スヘシ

一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ為不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ為ス
二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ為シタルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編 略式手續

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ為スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ為ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ為スヘシ

第五百二十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ為スコトヲ得ス又ハ之ヲ為スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ為スヘシ

第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト為ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分並謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ為スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條 略式命令ヲ為シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ為スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ為シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ為スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第五百二十九條 第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條 正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ為シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ為スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第五百三十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ為シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編 裁判ノ執行

第五百三十四條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ為シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ為スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記錄下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス

第五百三十六條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ為シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ為スコトヲ得

第五百三十七條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ為サシムルコトヲ得

第五百三十八條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條 死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條 司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ為スヘシ

第五百四十一條 死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ為スヘシ

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作リ檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ為スコトヲ得ス

第五百四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百四十六條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ掲クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
二 七十歳以上ナルトキ
三 受胎後百五十日以上ナルトキ
四 分娩後六十日ヲ經過セサルトキ
五 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ
六 祖父母又ハ父母七十歳以上又ハ癈篤疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ
七 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百四十七條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ為之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百四十九條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事ハ檢事長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ為サシムヘシ

第五百五十條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百五十二條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條 罰金、科料、沒收、追徵、過料、沒取、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準

用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百五十四條　沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徵ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徵ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五百五十五條　法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徵ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條　上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部

二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

第五百五十七條　沒收物ハ檢事之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條　沒收ノ執行後三月內ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢事ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條　押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月內ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間內ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條　疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百六十四條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百六十五條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條　第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九編　私訴

第一章　通則

第五百六十七條　犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財産ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條　私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條　公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ

第五百七十條　私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決ハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十一條　私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十二條　民事訴訟法中左ニ揭クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ卽時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

一　訴訟能力
二　共同訴訟人
三　第三者ノ訴訟參加
四　訴訟代理及輔佐
五　訴訟費用
六　保證
七　訴訟上ノ救助
八　訴訟手續ノ中斷及中止
九　當事者本人ノ出頭
十　訴訟上ノ和解
十一　請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決
十二　訴又ハ上訴ノ取下
十三　强制執行

第五百七十三條　當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條　辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條　當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條　私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條　私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章　第一審

第五百七十八條　私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第五百七十九條　訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條　裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

第五百八十一條　公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百八十二條　原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條　私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

第五百八十四條　原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條　裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第五百八十六條　公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條　裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍內ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第五百八十八條　檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス

檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五百八十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條　公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十一條　略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十二條　裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條　當事者召喚ヲ受ケ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章　上訴

第五百九十四條　私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、控第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第五百九十六條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

第五百九十九條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第六百條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第六百一條　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出サルコトヲ得

第六百二條　上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三條　當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條　第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第六百六條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條　前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

第六百九條　前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條　第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條　本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附　則

第六百十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年五月勅令第二百十五號ニテ大正十三年一月一日施行）

第六百十五條　明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條　本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條　本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ原由ノ疏明ヲ爲サヽリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條　本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條　本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀

ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條　本法施行前保釋ヲ許サザル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條　第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條　本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第百七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條　本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十六條　本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百二十七條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

本法施行前闕席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十八條　本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス

第六百二十九條　本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ

第六百三十條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條　本法施行前提起シタル要償ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百三十二條　本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

法律第七十一號　大正十五年四月二十四日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第五百七十條但書ヲ削ル

第五百七十二條中「保證」ヲ「擔保」ニ、「請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決」ヲ「請求ノ拋棄」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◉刑事訴訟費用法

法律第六十八號　大正十年四月

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟費用法

第一條　左ニ掲クルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一　豫審又ハ公判ニ付呼出シタル證人、鑑定人及通事ニ給スヘキ日當、旅費及止宿料

二　第三條第二項ニ規定スル費用

第二條　證人ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第三條　鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以上十圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

鑑定又ハ通譯ニ付特別ノ技能若ハ費用又ハ長時間ヲ要スルトキハ日當ノ外豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムル金額ヲ給スルコトヲ得

第四條　證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第五條　證人、鑑定人及通事ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第六條　證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費及止宿料ハ豫審ニ付テハ其ノ終結前公判ニ付テハ判決前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第七條　共犯人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ連帶負擔トス

附　則

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年四月勅令第百七十四號ヲ以テ大正十年五月一日ヨリ施行）

刑法施行法第六十二條乃至第六十七條ヲ削ル

陸軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

海軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

本法施行前要シタル費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◉敍位條例施行細則又ハ勳章褫奪令施行細則ニ依ル申牒及勳章年金支給細則第十三條ニ依ル通知ニ關スル件

朝鮮總督府裁判所
同　檢事局
大正十年二月　總訓第七號

敍位條例施行細則又ハ勳章褫奪令施行細則ニ依ル申牒及勳章年金支給細則第十三條ニ依ル通知ハ檢事局ノ長ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申牒書、通知書及之ニ關スル往復文書ハ本府ヲ經由スルニ及ハス

大正三年朝鮮總督府訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

◉逃亡犯罪人引渡條例

明治二十年八月　勅令第四十二號

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

逃亡犯罪人引渡條例

第一條　本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避セムトスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一　帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互ニ其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ

二　犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條　締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條　左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一　引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二　引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セムトスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條　逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國内ニ於テ告訴告發ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條　帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條　引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメムカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條　本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國内何レノ地ニ於テモ效力アルモノトス

第八條　一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條　假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キタル相當ノ期限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附錄第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條　第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條　外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到著スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條　上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條　請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

第十六條　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

第十七條　司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラルルコトナカルヘシ

第十八條　司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一　引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條　闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴告發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條　逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條　引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條　逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國内海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

附錄

第一號書式

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齡本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付（告訴告發／有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

明治　年　月　日　（檢事局ノ印）　上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

（割印）（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）
（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

右ノ通執行候也

明治　年　月　日
巡査又ハ憲兵署名捺印

執行ノ時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅ヲ捜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ	逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
年　月　日				

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齡本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ

執行ノ時	執行ノ場所	逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
年　月　日		

第二號書式

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ揭ケル、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴／告發／有罪ノ宣告）ヲ受ケタル、、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治　年　月　日
ノ印

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

右ノ通執行候也
明治　年　月　日
巡査又ハ憲兵署名捺印

執行ノ手續

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ理由ヲ記スヘシ

執行ノ年月日時

執行ノ場所

執行ノ手續

（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）

（刻印）

第二號書式

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ揭ケル、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴／告發／有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治　年　月　日
ノ印

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

右ノ通執行候也
明治　年　月　日
巡査又ハ憲兵署名捺印

執行ノ手續

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ理由ヲ記スヘシ

執行ノ年月日時

執行ノ場所

執行ノ手續

（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）

（刻印）

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ揭ケル、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴／告發／有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治　年　月　日
ノ印

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

脫帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

第一條　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關シ締盟各國トノ通商航海條約又ハ領事職務條約ニ依リテ爲スヘキ援助ハ當該領事官ノ請求ニ依リ檢事之ヲ行フ

第二條　左ノ場合ニ於テハ檢事ハ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ニ應スルコトヲ得ス

第一　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國臣民ナルトキ

第二　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付訴追ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキ

第三　第八條ニ依リ放免シタル艦船乘組員ニ對シ更ニ同一ノ事件ニ付請求アリタルトキ

第四　領事官カ援助ノ請求書ニ船舶登錄簿及艦船乘組員名簿ノ正當ナル按萃又ハ乘組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文ノ科料ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付テハ聽取書又ハ始末書ヲ省略スルコトヲ得

第三條　書類ノ送達ハ巡査ヲシテ之ヲ爲シ送達書（第一號式）ヲ作ラシムヘシ若本人ニ送達スルコト能ハサルトキハ其ノ住所ニ於テ同居ノ家族又ハ雇主、雇人ニ之ヲ爲シ送達書ニ其ノ事由ヲ記載セシムヘシ但シ拘留又ハ科料ノ言渡書謄本若ハ呼出狀ノ送達ハ便宜使丁ヲシテ之ヲ爲シ受領書ヲ徵セシメ又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　卽決ノ言渡確定シ監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲サシムヘキトキハ受刑者ト共ニ執行囑託書（第二號式）及言渡書謄本ヲ送致シ

第五條　書類ノ送達、證憑ノ取調及令狀竝刑ノ執行ニ付テハ各警察署間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

第六條　刑ノ執行ヲ他ノ官署ニ囑託スルトキハ執行囑託書（第三號式）ト共ニ言渡書謄本ヲ送付スヘシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テハ犯罪卽決事件受託簿（第四號式）ノ記入ヲ爲シ刑ノ執行ヲ終リタルトキハ執行濟通知書（第三號式）ヲ發送スヘシ

第七條　犯罪卽決ヲ爲スヘキ官署ニハ左ノ書類、簿冊ヲ備フヘシ

一　犯罪卽決事務ニ關スル例規綴
二　懲役禁錮禁獄罰金卽決事件簿
三　懲役禁錮罰金卽決事件言渡書及記錄綴
四　拘留科料卽決事件簿
五　拘留科料卽決事件言渡書及記錄綴
六　犯罪卽決事件受託簿

書ヲ添付セサリシトキ

第五　領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保證セサリシトキ

第三條　檢事カ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢事カ纜船乘組員ノ逮捕ヲ命スヘキ場合ニ於テハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五條　逮捕狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ其ノ指定シタル者ヲ逮捕シタルトキハ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ引致スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ直ニ之ヲ訊問シ人違ナシト認メタルトキハ速ニ當該領事官ニ引渡スヘシ

第七條　逮捕シタル纜船乘組員ニ付領事官ヨリ留置ノ請求アリタルトキハ檢事ハ之ヲ監獄ニ留置セシムヘシ

第八條　留置シタル纜船乘組員ニ付領事官ヨリ放免ノ請求アリタルトキ又ハ逮捕ノ日ヨリ六箇月以内ニ於テ引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ放免スヘシ

第九條　逮捕狀ノ發付及其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法中拘留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　援助ニ關スル費用ハ檢事ニ於テ當該領事官ニ對シ其ノ實費額ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　檢事ハ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ司法大臣ニ報告スヘシ其ノ援助ヲ爲スヘキモノニ非スト認メタルトキ又ハ援助ノ手續ヲ終リタルトキ亦同シ

●犯罪卽決例

明治四十三年十二月
制　令　第十號

改正　四五年三第一二號

犯罪卽決例（明治四十三年　勅令　第三百二十四號第一條及第二條）ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

犯罪卽決例

第一條　警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ卽決スルコトヲ得

一　拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪
二　三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪
三　三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政法規違反ノ罪

第二條　卽決ハ裁判ノ正式ヲ用キス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　卽決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ管轄地方法院ニ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得

第四條　卽決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名、年齡、身分、職業、住所、犯罪ノ事實、適用シタル法條、言渡シタル刑、正式裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期間竝言渡ヲ爲シタル官吏ノ官職氏名年月日ヲ記載スヘシ

第五條　正式裁判ヲ請求スル者ハ卽決ノ言渡ヲ爲シタル官署ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ三日同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書謄本ノ送達アリタル日ヨリ五日トス

前項ノ期間内ニ正式裁判ヲ請求セサルトキハ卽決ノ言渡ハ確定シタルモノトス

第六條　前條ノ申立ヲ受ケタル官署ハ速ニ關係書類ヲ管轄地方法院檢事ニ送致スヘシ

第七條　懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得

第八條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アルトキハ第五條ニ定メタル期間内被告人ヲ留置スルコトヲ得但シ言渡シタル刑期ニ相當スル日數ヲ過クルコトヲ得ス

第九條　罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ被告人ヲ留置スル其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖尙一日ニ計算ス

第十條　留置セラレタル者正式裁判ヲ請求シ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

第十一條　第八條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ之ヲ拘留ノ刑期ニ算入シ第九條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ之ヲ罰金又ハ科料ノ金額ニ算入ス

附　則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪卽決例施行手續

明治四十三年十二月
總訓第七十二號

改正　大正一〇年一二第六八號

警察署長
警察分署長
憲兵分隊長

犯罪卽決例施行手續左ノ通定ム

第一條　犯罪卽決ヲ爲スヘキ官吏事件ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ事件卽決スヘカラス又ハ卽決セサル相當ト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ卽決ヲ得ヘキ事件ト雖他ノ卽決スヘカラサル事件ト併發シタルトキ亦同シ

第二條　被告人ヲ引致シ又ハ呼出シタル場合ニ於テハ其ノ陳述ヲ錄取シ又ハ便宜始末書ヲ徵シ證憑ヲ取調ヘ犯罪ノ事實明確ナルトキハ直ニ卽決ノ言渡ヲ爲スヘシ但シ拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付テハ聽取書又ハ始末書ヲ省略スルコトヲ得

第三條　書類ノ送達ハ巡査ヲシテ之ヲ爲シ送達書（第一號式）ヲ作ラシムヘシ若本人ニ送達スルコト能ハサルトキハ其ノ住所ニ於テ同居ノ家族又ハ雇主、雇人ニ之ヲ爲シ送達書ニ其ノ事由ヲ記載セシムヘシ但シ拘留又ハ科料ノ言渡書謄本若ハ呼出狀ノ送達ハ便宜使丁ヲシテ之ヲ爲シ受領書ヲ徵セシメ又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　卽決ノ言渡確定シ監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲サシムヘキトキハ受刑者ト共ニ執行囑託書（第二號式）及言渡書謄本ヲ送致シ

第五條　書類ノ送達、證憑ノ取調及令狀竝刑ノ執行ニ付テハ各警察署間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

第六條　刑ノ執行ヲ他ノ官署ニ囑託スルトキハ執行囑託書（第三號式）ト共ニ言渡書謄本ヲ送付スヘシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テハ犯罪卽決事件受託簿（第四號式）ノ記入ヲ爲シ刑ノ執行ヲ終リタルトキハ執行濟通知書（第三號式）ヲ發送スヘシ

第七條　犯罪卽決ヲ爲スヘキ官署ニハ左ノ書類、簿冊ヲ備フヘシ

一　犯罪卽決事務ニ關スル例規綴
二　懲役禁錮禁獄罰金卽決事件簿
三　懲役禁錮罰金卽決事件言渡書及記錄綴
四　拘留科料卽決事件簿
五　拘留科料卽決事件言渡書及記錄綴
六　犯罪卽決事件受託簿

第一號樣式（用紙ハ半紙判）

送達書

一　卽決言渡書（呼出狀）一通

道郡面洞里

受取人署名捺印

番　地某ヘ送達スヘキモノナリ

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)ノ氏　名印

第二號樣式（用紙ハ半紙判）

送達月日場所	送達ノ事由
	右之通取扱候也 巡査　氏　名印

第號

執行囑託書

執行スヘキ刑名刑期	氏名 年齢
確定年月日　大正　年　月　日	前科
通算期間	備考

右者別紙卽決言渡書謄本ノ通確定候條（言渡候條確定ノ上ハ）直ニ執行相成度候也

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

何監獄(分監)典獄(看守長)ノ氏　名殿

第三號樣式（用紙ハ半紙判）

執行濟通知書

來書番號		執行	完納年月日	大正　年　月　日
受刑者氏名			現金送付年月日	大正　年　月　日
卽決言渡年月日	大正　年　月　日		右送付先官署名	

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

第四號樣式（用紙ハ半紙判）

卽決言渡書

罪名			
刑名刑期(金額)	刑	初日	備考
		滿期日	
	ノ	監獄ヘ送致年月日	大正　年　月　日

右及通知候也

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)氏

名殿

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

件名	賭博寄附金品募集規則違反(2)	被告人	住所 身分職業 氏名　年齡 （共犯ハ連名ニテ言渡スモ差支ナシ）
言渡主文	懲役二月ニ處ス 但シ此ノ言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スル期間ハ三日トス(1) 罰金十圓ニ處ス 但シ此ノ言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スル期間ハ此ノ言渡書ノ送達アリタル日ヨリ五日トス(2)		
適用法條	刑法第百八十六條第一項(1) 明治四十四年朝鮮總督府令第百三十八號第二條第十二條(2)		
犯罪事實	被告ハ綽號ヲ何々ト稱シ賭博ヲ常習トスル者ニシテ大正　年　月　日午　時ヨリ何處某方ニ於テ某、某ト共ニ金錢ヲ賭シ丁半ト稱スル博奕ヲ爲シ居ル現場ニ於テ巡査某ニ逮捕セラレタルモノナリ(1) 被告ハ大正　年　月　日頃ヨリ　月　日迄何處某外何名ヨリ何々ノ名義ニテ金何圓ヲ募集シタルモノナリ(2)		

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

第五號樣式（用紙ハ半紙判）

拘留	道郡面洞里	執行シタル年月日時	大正　年　月　日午　時
罪名	統戶　身分職業	執行シタル場所	
刑期	氏名　年齡	執行手續	
言渡年月日	明治　年　月　日		
右ニ拘留スヘキモノ也 但シ本人潛匿シタルトキハ家宅ヲ捜索スヘシ		家宅捜索ヲ爲シタルトキハ其ノ事由	
大正　年　月　日　官署印		拘留スルコトヲ能ハサルトキハ其事由	
何警察署長		執行者ノ署名捺印	
朝鮮總督府道警視(部)氏　名印			

第六號樣式（用紙ハ半紙判）

留置命令書

道郡面洞里統戶
身分職業
通稱何何事　氏　名　年齡

右ハ拘留日ノ言渡ヲ爲シタル處留置ノ必要アルニ付犯罪卽決例第八條ニ依リ　日間ニ留置ス

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

第七號樣式（用紙ハ半紙判）

留置命令書

道郡面洞里統戶
身分職業
通稱何何事　氏　名　年齡

右ハ罰金(科料)　ヲ假納セサルニ付犯罪卽決例第九條ニ依リ　日間　ニ留置ス

大正　年　月　日　官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視(部)　氏　名印

第八號樣式（用紙ハ半紙判）

接受 年月日	進行 發覺原因 現行ノ別	甲第 號	犯罪 名	犯罪 年月日時 所	場	事實ノ概要
大正 年 月 日						

主任官	被告人 本籍 住所 出生地 身分 職業 氏名 年齡	前科	適用法條	刑名刑期（金額）	言渡年月日 對席、缺席ノ別	確定 年月日
					大正 年 月 日席	大正 年 月 日

正式裁判 終局	申立 年月日	大正 年 月 日
	言渡 年月日	大正 年 月 日

拘留 執行	執行 年月日	大正 年 月 日	初日	大正 年 月 日	假納 金額	罰金	假納 年月日	完納 年月日
	發布 年月日	大正 年 月 日	滿期日	大正 年 月 日			大正 年 月 日	大正 年 月 日
	釋放 年月日	大正 年 月 日						
	及其ノ事由							

沒收	沒收金額	沒收物件	賣却代金	現金送付 年月日	大正 年 月 日	右送付先官署名
處分						

備考

禁錮及懲役罰金卽決事件簿

第九號樣式（用紙ハ美濃判）

接受 年月日	進行 發覺原因 現行ノ別	乙第 號	犯罪 名	犯罪 年月日時 所	場	事實ノ概要
大正 年 月 日						

主任官	被告人 本籍 住所 出生地 身分 職業 氏名 年齡	前科	適用法條	刑名刑期（金額）	言渡年月日 對席、缺席ノ別	確定 年月日
					大正 年 月 日席	大正 年 月 日

正式裁判 終局	申立 年月日	大正 年 月 日
	言渡 年月日	大正 年 月 日

拘留	留置 年月日	大正 年 月 日
	釋放 年月日	大正 年 月 日

沒收	沒收金額	沒收物件	賣却代金	現金送付 年月日	大正 年 月 日	右送付先官署名
處分						

備考

拘留科料卽決事件簿

第十號樣式（用紙ハ美濃判）

受刑者住所 身分 職業 氏名 年齡	留置期間	現金送付 年月日	右送付先官署名	執行 初日	大正 年 月 日
				滿期日	大正 年 月 日

囑託官署名	假納 金額	假納 年月日	大正 年 月 日	完納 年月日	大正 年 月 日
卽決官吏氏名					

受託官署 主任官	刑ノ執行	滿期 日	大正 年 月 日
		完納 年月日	大正 年 月 日

犯罪年月日	大正 年 月 日	現金送付 年月	大正 年 月 日
		右送付先官署名	

罪名	囑託官署へ通報 年月日	大正 年 月 日
刑名刑期（金額）		

適用法條	備考

犯罪卽決事件受託簿

裏面ハ表面ニ同シ

●朝鮮總督府警視、警部ノ地方法院支廳檢事ノ職務取扱ニ關スル件

明治四十五年三月
總訓第十三號

朝鮮總督府警視
朝鮮總督府警部

地方法院支廳所在地ニ在勤スル朝鮮總督府警視、警部ハ所轄地方法院檢事正ノ要求アルトキハ其ノ地方法院支廳檢事ノ職務ヲ取扱フヘシ

前項ノ職務ハ成ルヘク上席ノ者ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

●司法警察事務竝令狀執行ニ關スル件

明治四十五年七月
制令第二十六號

司法警察事務竝令狀執行ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

司法警察官ノ職務ヲ已ムヲ得サル場合ニ於テハ巡査又ハ憲兵上等兵ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ巡査補又ハ憲兵補助員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程

大正四年二月
總訓第四號

改正　大正一二年一二第五四號

刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

第一條　刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程

拘禁中ノ被告人ニ對シ自由刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事（檢事職務取扱者ハ直ニ樣式第一號ノ書面チ以テ監獄ノ長ニ刑ノ執行チ指揮スヘシ

檢事ハ裁判確定前ト雖樣式第二號ノ書面チ以テ刑ノ執行チ指揮スルコトチ得

第二條　拘禁セラレサル被告人ニ對シ自由刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事ハ速ニ之チ檢事局ニ召喚シ樣式第一號ノ執行指揮書チ附シテ監獄ニ護送セシムヘシ

刑ノ言渡チ受ケタル者チ逮捕シテ引致シタルトキ亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ刑期ハ逮捕狀執行ノ日ヨリ起算ス

第三條　削除

第四條　第一條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル刑ノ執行指揮ハ決定ノ期間內ニ上訴ノ申立アリタルニ因リ其ノ效力チ失フ前項ノ上訴申立カ被告人以外ノ者ニ依リ爲サレタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ申立アリタルコトチ監獄ノ長ニ通知スヘシ

第五條　削除

第六條　上訴取下アリタル場合ニ於テ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ上訴裁判所ノ檢事ハ速ニ上訴ノ取下アリタルコト及其ノ日チ原裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第七條　上訴ノ拋棄又ハ取下アリタルトキハ刑期ハ裁判所ニ於テ其ノ申立チ受ケタル日ヨリ起算ス但シ拘禁中ノ被告人監獄ノ長又ハ其ノ代理者チ經由シテ上訴ノ拋棄又ハ取下アリタルトキハ其ノ監獄ニ於テ申立書チ受理シタル日ヨリ之チ起算ス

第八條　刑事訴訟法第五百三十七條但書ノ規定ニ依ルノ必要アルトキハ檢事ハ各刑ニ付執行スヘキ順序チ定メ指揮スヘシ

前項ノ規定ハ勞役場留置ト他ノ有期刑トチ併セテ執行スヘキ場合ニ之チ準用ス

第九條　刑訴第五十一條但書末段ノ適用アル場合ニ於テハ檢事ハ各刑ニ付執行スヘキ期間チ定メ其ノ執行チ指揮スヘシ

第十條　拘禁中ノ受刑者ニ對シ刑ノ執行チ停止シタルトキハ檢事ハ樣式第三號ノ書面チ以テ出監ノ指揮チ爲スヘシ

檢事前項ニ規定スル處分チ爲シタル場合ニ於テ其ノ受刑者他廳檢事ノ指揮ニ係ルモノナルトキハ其ノ旨チ刑ノ言渡チ爲シタル裁判所ノ檢事及刑ノ執行チ指揮シタル檢事ニ通知スヘシ

第十一條　刑ノ執行停止ノ事由止ミタル者、刑ノ執行中逃走シタル者又ハ假出獄ノ許可チ取消サレタル者ニ對シ殘刑ノ執行チ爲スヘキ場合ニ於テハ檢事ハ第二條ノ例ニ準シ樣式第四號ノ書面チ以テ之チ指揮スヘシ

第十二條　刑事訴訟法第三百七十四條又ハ第三百七十五條ニ定メタル裁判確定シタルトキハ檢事ハ第一條第一項又ハ第二條ノ例ニ依リ刑ノ執行チ指揮スヘシ

刑ノ執行猶豫チ言渡シタル裁判所以外ノ裁判所ニ於テ刑事訴訟法第三百七十四條ニ定メタル裁判アリタルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ハ刑ノ執行指揮ニ付執行猶豫チ言渡シタル裁判所ノ檢事ノ囑託チ受ケタルモノト看做ス

第十三條　再審又ハ非常上告ニ依リ言渡シタル刑ノ執行チ爲スヘキトキハ前ノ執行日數チ其ノ刑期ニ通算スヘシ

第十四條　削除

第十五條　勞役場留置ノ執行チ爲ス場合ニ於テハ檢事ハ樣式第五號ノ書面チ以テ之チ指揮スヘシ

第十六條　勞役場留置ノ執行チ爲シタル場合ニ於テ其ノ受刑者他廳檢事ノ指揮ニ係ルモノナルトキハ其ノ旨チ刑ノ言渡チ爲シタル裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條　檢事刑ノ執行チ指揮スルニハ裁判書ノ謄本又ハ抄本（樣式第六號）チ添附スヘシ

檢事ハ監獄ノ長ノ請求アルトキハ裁判書ノ謄本チ送付スヘシ

第十八條　裁判書ノ謄本又ハ抄本チ添附シテ刑ノ執行チ指揮シタル後更ニ其ノ謄本又ハ抄本ニ揭ケタル刑ニ付執行チ指揮スルトキハ裁判書ノ謄本又ハ抄本チ添附スルチ要セス

第十九條　拘禁中ノ被告人ニ對シ死刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事ハ直ニ裁判書ノ謄本チ監獄ノ長ニ送付スヘシ死刑ノ裁判確定後拘禁シタルトキ亦同シ

第二十條　無罪、免訴其ノ他ノ事由ニ因リ被告人又ハ被疑者チ出監セシムル場合ニ於テハ檢事ハ樣式第七號ノ書面チ以テ之チ指揮スヘシ

第二十條ノ二　勞役場留置ノ執行ニ付テハ第十六條ニ依ルノ外本規程チ準用ス

第二十一條　警察官署ノ長ニ對スル刑ノ執行ニ關スル指揮ハ本規程ニ準シテ之チ爲スヘシ

附　則（大正十二年十二月總訓第五十四號）

本規程ハ大正十三年一月一日ヨリ之チ施行ス

關係判決ニ依リ言渡シタル刑ノ執行指揮ニ關スル取扱ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

樣式第一號

第　號

執行指揮書

刑名	刑期	被告人ノ氏名
	裁判確定 年月日 大正 年 月 日	
	刑期起算 大正 年 月 日	
	通算日數 裁判ニ依ルモノ	備考
	法定ニ依ルモノ	

様式第二號

第　號

執行指揮書

刑名		被告人ノ氏名	
刑期			
裁判言渡年月日	大正　年　月　日		
通算日數	裁判ニ依ルモノ	備考	
	法定ニ依ルモノ		

右者別紙ノ通裁判相成候條確定ノ上ハ執行可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視）
道警部

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補）（看守長）　殿

様式第三號

第　號

刑ノ執行停止指揮書

裁判確定年月日	大正　年　月　日	受刑者ノ氏名	
言渡裁判所名		罪名	

右者（別紙）（囊ニ送付シタル）判決　本）ノ通裁判ヲ受ケ確定シタル處（罰金）（科料）ヲ納付スルコト能ハサルモノニ付勞役場ニ留置可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視）
道警部

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補）（看守長）　殿

様式第四號

第　號

殘刑執行指揮書

刑名		受刑者ノ氏名	
刑期			
殘刑起算日		備考	
通算日數	裁判ニ依ルモノ		
	法定ニ依ルモノ		

右者（別紙）（囊ニ送付シタル）判決　本ノ刑大正　年　月　日ヨリ刑期起算執行中大正　年　月　日（刑執行停止出監ノ處其ノ事由止ミタルニ付）（逃走シ刑ノ執行ヲ逋レ居リタルニ付）（假出獄許可釋放ノ處取消相成候ニ付）殘刑執行可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視）
道警部

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補）（看守長）　殿

刑名刑期	通算日數	裁判ニ依ルモノ	
		法定ニ依ルモノ	備考

右者左ノ事由ニ因リ其ノ刑ノ執行ヲ停止候條出監ノ手續可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視）
道警部

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補）（看守長）　殿

刑ノ執行停止ノ事由	

様式第五號

大正　徵第　號

留置指揮書

留置スヘキ日數		受刑者ノ氏名	
起算日	大正　年　月　日	備考	

右者（別紙）（囊ニ送付シタル判決　本）ノ通裁判ヲ受ケ確定シタル處（罰金）（科料）ヲ納付スルコト能ハサルモノニ付勞役場ニ留置可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視）
道警部

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補）（看守長）　殿

（注意）罰金、科料ヲ納付セムト申立ツルトキハ適宜ノ書面ニ其ノ金額相當ノ收入印紙ヲ貼付シテ（消印ヲ爲サス）差出サシメ速ニ其ノ書面ヲ添ヘ報告スヘシ但シ其ノ一部ヲ納付スル場合ニ於テハ刑法第十八條ニ照シ留置一日ニ滿タサル金額ハ納付スルコトヲ得ス

様式第六號

何法院（何地方法院何支廳）第　審判決抄本

言渡	大正　年　月　日	犯罪事實	
罪名			
刑名 刑期 金額			
通算日數			
法律適用	處斷正條		
	加重減輕		
	累犯ノ原因ト爲ルヘキ前科		

大正　年　月　日原本ニ依リ拔抄ス

何法院（何地方法院何支廳）
朝鮮總督府裁判所書記

（注意）處斷罪名ニハ「」ヲ附スヘシ

判決抄本記載例

一、罪名及刑名刑期金額ハ判決理由ニ於テ認メタル罪ニ付總テ之ヲ相當欄ニ掲記ス
二、刑法第十八條ニ依リ勞役場留置ノ期間ハ刑名刑期金額欄ニ基本タル金額ヲ記載シタル下括弧内ニ之ヲ掲記ス
三、刑法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ヲ本刑ニ算入シタル場合ニ於テハ之ヲ通算日數欄ニ掲記ス
四、併合罪中罪名ヲ異ニスルモノニ付テハ各其ノ罪ノ事實ヲ掲記ス
五、併合罪中罪名ヲ同フスル數罪アルトキハ左ノ例ニ依ル
第一罪數三箇以下ナルトキハ總テ其ノ事實ヲ掲記ス
第二罪數四箇以上ナルトキハ犯情重シト認ムル三箇ノ罪ヲ選ミ其ノ事實ヲ記載シ其ノ他ノ罪ニ付テハ其ノ數ノミヲ掲記シ事實ハ之ヲ略スルコトヲ得
六、犯罪事實ノ拔抄ニ付テハ犯罪ノ原因、日時、場所、方法、共犯ノ氏名ヲ記載シ其ノ他行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載ス
七、用紙ハ半紙半截トス

指揮書記載例

一、指揮書ハ一人一枚トス
二、備考欄ニ記載スヘキ事項左ノ如シ
第一上訴ノ抛棄又ハ取下ノ場合ニ於テハ其ノ旨
第二非常上告若ハ再審ノ裁判ニ係ルトキハ其ノ裁判確定前ニ於ケル各審級ノ裁判所名及其ノ裁判年月日
第三規程第八條第九條ニ定ムル事項
第四判決罪名
第五以上ノ外執行上必要アリト認ムル事項
三、用紙ハ半紙半截トス

様式第七號

第　　號

出監指揮書

罪名	被告人（被疑者）ノ氏名
判決決定年月日	大正　年　月　日
出監ノ事由	

右者直ニ出監ノ手續可有之候也

大正　年　月　日

何法院檢事局（支廳檢事分局）
朝鮮總督府檢事（檢事事務取扱朝鮮總督府道警視 道警部）

何刑務所（支所）長
朝鮮總督府典獄（典獄補 看守長）殿

出監事由欄ニハ左ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ

一、無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡、勾留ノ取消、保釋、責付、勾留執行停止、勾留期間滿了、其ノ他

二、刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ出監セシムルトキハ刑名、刑期、猶豫期間及裁判確定年月日ヲ附記スヘシ

●刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程

明治四十五年三月
總訓第十五號

朝鮮總督府檢事
朝鮮總督府警察署

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程

第一條　一定ノ住所ヲ有セサル犯人ニ對シテ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ヲシテ速ニ其ノ住所ヲ定メ之ヲ屆出テシムヘシ

第二條　檢事ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ猶豫期間ノ始期及終期竝刑法第二十六條及第二十七條ノ趣旨ヲ告知スヘシ

第三條　地方法院又ハ地方法院支廳ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタルトキハ檢事ハ犯人ノ氏名、年齡、職業、本籍地、住所、罪名、刑名、刑期、猶豫期間及其ノ始期、終期其ノ他必要ト認ムル事項ヲ所轄警察署（警察分署及警察事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵分遣所ヲ含ム以下同シ）ニ通知スヘシ

犯人其ノ裁判所ノ管轄地域外ニ住スルトキハ管轄地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ亦前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四條　高等法院又ハ覆審法院ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ住所ノ地ヲ管轄スル地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ前條第一項ニ定ムル事項ヲ通知シ其ノ通知ヲ受ケタル檢事ハ之ヲ所轄警察署ニ通知スヘシ高等法院又ハ覆審法院ニ於テ上訴ヲ棄却シ刑ノ執行猶豫ノ言渡確定シタルトキ亦同シ

第五條　地方法院又ハ支廳ノ檢事局及警察署ニハ別記様式ニ依リ刑ノ執行猶豫人名簿ヲ備フヘシ

刑ノ執行猶豫人名簿各欄ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ記入スヘシ

第六條　警察署ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ付刑ノ執行猶豫人名簿ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルコトヲ覺知シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ管轄地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ通知スヘシ

犯人住所ヲ轉シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫人名簿ノ寫ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ所轄警察署ニ通知スヘシ

第七條　地方法院又ハ支廳ノ檢事刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ付刑ノ執行猶豫人名簿ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルコトヲ覺知シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ所轄警察署ニ通知スヘシ

第八條　地方法院又ハ支廳ノ檢事刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人カ住所ヲ轉シタルコトヲ知リタルトキハ刑ノ執行猶豫人名簿寫ヲ添ヘ速ニ其ノ轉住地ヲ管轄スル地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ通知スヘシ

若他ノ裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタル者ナルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ亦前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第九條　警察署ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ付言渡取消ノ原因アルコトヲ覺知シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ管轄地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ通知スヘシ犯人ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第十條　檢事前條ノ原因アルコトヲ覺知シタルトキハ犯人所在ノ地又ハ最後ノ住所ノ地ヲ管轄スル地方法院又ハ支廳ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタル場合ニ於テハ檢事ハ所轄警察署ニ之ヲ通知スヘシ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタル裁判所又ハ犯人住所ノ地ヲ管轄スル裁判所以外ノ裁判所ニ於テ取消ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ハ猶豫ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ住所ノ地ヲ管轄スル地方法院若ハ支廳ノ檢事ニモ亦其ノ旨ヲ通知スヘシ

刑ノ執行猶豫人名簿様式（用紙美濃紙　但半面ヲ以テ一用紙トス）

第　丁

本籍	
住所	
轉住	
職業	
氏名	
年齡又ハ生年月日	
猶豫期間（年間）	始期　明治　年　月　日
	終期　明治　年　月　日
終局事由	期間滿了　明治　年　月　日
	言渡取消　明治　年　月　日（再犯發覺・餘罪發覺・前科發覺）
	死亡　明治　年　月　日
	其他
罪名	
刑名刑期	
判決裁判所	
備考	

刑ノ執行猶豫人名簿　　　　廳名

●刑ノ執行停止者取締ニ關スル件

大正二年三月
總訓第七號
改正　大正一三年九第一三號

朝鮮總督府檢事
朝鮮總督府警察署

刑ノ執行停止者取締ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　檢事ハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ刑事訴訟法第五百四十四條又ハ第五百四十六條ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタルトキハ受刑者ノ氏名、年齡、職業、本籍地、住居、判決裁判所、判決年月日、罪名、刑名刑期、執行停止ノ年月日、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ居住地ノ警察署刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所以外ノ裁判所ノ檢事刑ノ執行ヲ停止シ其ノ旨刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ通知スル場合ニハ刑ノ執行停止ニ關スル書類ヲ送付シ其ノ通知ヲ受ケタル檢事ニ於テ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二條　警察署ハ刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ニ付停止事故ノ存續スルヤ否ヤヲ視察シ事由止ミタルトキ、住居ヲ轉シタルトキ所在不明トナリタルトキ又ハ死亡シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ其ノ管轄地域外ニ轉住シタル場合ニ在リテハ第一條ニ定メタル事項ヲ轉住地ノ警察署ニモ通知スヘシ

第三條　檢事ハ刑ノ執行停止ヲ取消シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ受刑者居住地ノ警察署ニ通知スヘシ

第四條　前三條ノ規定ハ勞役場留置ノ執行ヲ停止シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ勞役場留置ノ執行ニシテ囑託ニ係ルモノナルトキハ其ノ執行ヲ指揮シタル檢事ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ト看做ス

●司法警察官執務規程

大正十二年十二月
總訓第五十二號

朝鮮總督府檢事
朝鮮總督府司法警察官吏

司法警察官執務規程左ノ通改正ス

司法警察官吏執務規程

第一章　總則

第一條　司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲スヲ以テ其ノ職務トス

司法警察吏ハ犯罪ノ捜査ノ補助ヲ爲スヲ以テ其ノ職務トス

第二條　司法警察官吏ハ各所屬官署ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フモノトス但シ事實發見ノ爲必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　司法警察官吏ハ其ノ職務ニ付相互ニ補助スヘシ

第四條　司法警察官書類ヲ受理シタルトキハ取扱者其ノ欄外ニ受理ノ年月日ヲ記載シ之ニ認印スヘシ

第五條　犯罪事件ノ記錄號ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ附スヘシ

一　刑事訴訟法第八條ノ規定ニ依リ牽連スル事件ハ之ヲ一件トス

二　前號ノ事件ト雖既ニ檢事、相當官署又ハ即決官署ニ送致シ又ハ訓誡放免ノ處分ヲ爲シタル後ニ至リ受理シタルモノハ新ニ之ヲ一件トス

三　不起訴又ハ豫審免訴決定等ノ處分アリタル後更ニ捜査ノ必要ヲ認メテ其ノ手續ニ著手シタルトキハ新ニ之ヲ一件トス

四　檢事ヨリ直受事件ノ一般的捜査ノ指揮ヲ受ケタルトキハ之ヲ一件トス

五　他署ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ之ヲ一件トス

第六條　司法警察官左ニ記載スル罪ヲ犯シタル者又ハ非常事變ニ際シ犯罪ヲ件フ虞アリト思料スルトキハ速ニ所轄地方法院檢事正及事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ（様式第四十七號）

一　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

二　刑法第二編第十六章及明治三十八年法律第六十六號ノ罪（輕微ナルモノヲ除ク）

三　刑法第百五十四條乃至第百五十八條及第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪（輕微ナルモノヲ除ク）

四　殺人ノ罪

五　强盗ノ罪

六　保安法及大正八年制令第七號ノ罪

七　軍機及要塞地帶ニ關スル罪

八　新聞紙及出版物ニ關スル罪

九　爆發物ニ關スル罪

十　選擧ニ關スル罪

十一　公務員、有爵者及從四位、勳三等、功三級以上ノ者ノ罰金以上ノ刑ニ該ル罪

十二　外國人ニ關スル罪（支那人ニ關スルモノ及輕微ナルモノヲ除ク）

十三　前各號ノ外社會ノ耳目ヲ惹クヘキ罪

第七條　司法警察官變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルコトヲ知リタルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

檢事ノ命ニ依リ檢視ヲ爲シタルトキハ檢視調書ヲ作成スヘシ（様式第二十八號）

第八條　司法警察官檢證ニ付死體ノ解剖又ハ墳墓ノ發掘ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　司法警察官ハ拘禁中ノ被疑者、被告人逃走又ハ死亡シタルトキハ速ニ所轄地方法院檢事正及事件所管廳ノ檢事ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ逃走シタル被疑者又ハ被告人ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

第十條　事件送致後ト雖必要アルトキハ捜査ヲ續行シ證據ヲ得タルトキハ直ニ事件所管廳ノ檢事ニ送付スヘシ殊ニ被害者ノ創傷等ニ付テハ常ニ其ノ經過ニ注意シ危篤ニ陥リタルトキ、死亡シタルトキ其ノ他異狀ヲ呈シタルトキハ診斷書又ハ容態書ヲ添附シ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十一條　事件送致後被疑者ニ前科アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ其ノ事件ニ付確定判決アリタル後ト雖亦同シ

第十二條　被疑者不明又ハ被疑者ノ所在不明ノ爲檢事ニ於テ起訴中止處分ヲ爲シタル事件ノ繼續捜査ハ檢事ノ指揮アリタル場合ニ限リ之ヲ爲スヘシ

檢事ヨリ記錄ヲ添附シテ捜査ヲ命セラレタル事件ニ付其ノ指定期間内ニ被疑者ヲ檢擧スルニ至ラサルトキハ關係書類ヲ添ヘ直ニ檢事ニ報告スヘシ

第十三條　起訴中止處分ニ付セラレタル被疑

者ヲ檢擧シ又ハ其ノ所在ヲ發見シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ搜査ヲ進行スヘシ

第十四條　司法警察官吏ノ作成スル書類ニ付テハ朝鮮刑事令ニ依ラサル場合ト雖刑事訴訟法第七十一條及第七十二條ノ規定ニ從フヘシ

第十五條　書類ヲ作成スルニハ簡易ニシテ事實ヲ失ハサルヲ旨トシ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　複雜ナル事項ハ項ヲ分チ序ヲ逐ヒテ記述スルコト

二　方言、略語、隱語ノ類ニハ其ノ下ニ括弧ヲ附シ說明又ハ譯解ヲ爲スコト

三　地名、人名等ニシテ讀ミ難キトキ又ハ特殊ノ稱呼アルトキハ傍訓ヲ附スルコト

第十六條　被疑者其ノ他ノ者ノ供述ヲ聽キタルトキハ聽取書ヲ作成スヘシ（樣式第十一號、第十八號、第十九號）

供述事項簡單ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面（手續書又ハ始末書）ヲ差出サシメテ聽取書ニ代フルコトヲ得

第十七條　被疑者、證人、鑑定人其ノ他ノ者ノ作成スル書類ハ朝鮮刑事令ニ依ラサルモノト雖成ルヘク刑事訴訟法第七十三條及第七十四條ノ規定ニ從ハシムヘシ

前項ノ書類代書ニ係ルトキハ代書者ヲシテ其ノ書類ヲ本人ニ讀聞カセタルコト及代書ノ事由ヲ附記セシメ署名捺印セシムヘシ

第十八條　司法警察官吏ハ朝鮮刑事令ニ定ムル場合ノ外其ノ作成ニ係ル書類ニシテ被疑者、證人、鑑定人其ノ他ノ者ニ署名捺印セシムル場合ニ於テハ刑事訴訟法第五十六條及第七十四條ノ規定ニ從フヘシ

第二章　搜査

第十九條　搜査ハ犯罪ノ證據ヲ蒐集シ犯人ヲ檢擧シ公訴ノ提起及實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第二十條　搜査ニ付テハ祕密ヲ嚴守シ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意シ被疑者其ノ他ノ者ヲ拘禁シタル場合ニ在リテハ特ニ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第二十一條　搜査ヲ爲スニハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　被疑者ノ氏名、年齡、身分、職業、本籍、住居、出生地及前科、起訴猶豫又ハ訓誡放免ノ有無

二　被疑者位記、勳章、年金、恩給又ハ記章ヲ有スルヤ否

三　被疑者ノ兵役關係（徵集年、役種、兵種及官等級ヲ記スルコト）

四　被疑者ノ素行、經歷、家庭ノ狀況、生活ノ狀態、敎育ノ程度、宗敎及出獄後ノ狀態等

五　犯罪ノ性質、方法、日時、場所及原因

六　被害者ノ氏名、年齡、職業及住居

七　被疑者ノ身分、親族關係其ノ他被疑者ト被害者トノ關係等ニ因リ罪ノ成否又ハ刑ノ輕重等ニ關係アル事件ニ付テハ特ニ其ノ事項

八　被疑者ノ處刑ニ因リ其ノ家庭及家族ニ及ホス影響

九　犯罪ニ因リ被害者ノ家庭及家族ニ及ホス影響

十　被害ノ狀態及損害ノ價格

十一　被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事實

十二　前各號ノ事項ヲ證明スヘキ資料

第二十二條　被疑者其ノ他ノ關係人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第二十三條　告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告又ハ變死者、變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルコトノ屆出アリタルトキハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス且搜査ヲ要スヘキモノナルト否トニ拘ラス之ヲ受理シ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ內査ヲ遂ケ犯罪アリト思料スルトキハ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條　告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告ヲ爲ス者アルトキハ成ルヘク其ノ原由及第二十一條ニ揭クル事項ヲ明瞭ナラシムルコトニ注意スヘシ

告訴アリタル場合ニ於テ其ノ告訴人カ被害者ニ非サルトキハ告訴權ノ有無、親告罪ニ係ルモノナルトキハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ期間ヲ經過セサルヤ否、姦通罪ニ係ルモノナルトキハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ條件ヲ具備スルヤ否ヲ調査スヘシ

第二十五條　口頭ヲ以テ告訴、告發又ハ自首ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ（樣式第四號、第五號）

書面ヲ以テ前項ニ規定スル申告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明瞭ナルカ又ハ必要アリト思料シ其ノ趣旨ニ付陳述ヲ爲サシメタルトキハ補充調書ヲ作ルヘシ（樣式第六號）

第二十六條　告訴、告發又ハ自首ニ付取消ノ申立アリタルトキハ其ノ原因ヲ明確ナラシムルコトニ注意スヘシ

口頭ヲ以テ前項ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ調書ヲ作ルヘシ（樣式第七號）

第二十七條　刑事訴訟法第二百七十一條ノ代理人告訴又ハ告訴ノ取消ヲ爲ストキハ本人ノ委任狀ヲ差出サシムヘシ

第二十八條　告訴、告發又ハ自首ノ書面ハ其ノ取消ノ申立アルモ之ヲ還付セサルモノトス

第二十九條　司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕始末書ヲ作成スヘシ（樣式第八號）

第三十條　司法警察吏現行犯人ヲ受取リタルトキハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取リ必要アル場合ニ於テハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　司法警察官現行犯人ヲ受取リタルトキハ犯罪發覺ノ原因、逮捕ノ日時、場所其ノ他必要ノ狀況ヲ申立テシメ逮捕及告發調書又ハ逮捕及告訴調書ヲ作成スヘシ（樣式第九號）

前項ノ場合ニ於テ逮捕始末書ヲ差出シタルトキハ其ノ相違ナキヤ否ヲ取調ヘ其ノ旨ヲ記載シ署名捺印シ之ヲ以テ調書ニ代フルコトヲ得（樣式第八號、第十號）

第三十二條　司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタル場合ニ於テ之ヲ留置スヘカラス又ハ留置ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ釋放スヘシ

第三十三條　司法警察官被疑者、證人、鑑定人其ノ他ノ者ヲ取調フルニ當リ必要アルトキハ通事ヲ用ヰ又ハ書面ヲ以テ問答ヲ爲スヘシ

通事ヲ用ヰ問答ヲ爲シタルトキハ通事ヲシテ調書又ハ聽取書ノ趣旨ヲ本人ニ告知セシメ其ノ旨ヲ附記シ通事ヲシテ共ニ署名捺印セシムヘシ（樣式第十八號）

書面ヲ以テ問答ヲ爲シタルトキハ調書又ハ聽取書ヲ供述者ニ讀聞カセ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキヤ否ヲ問フヘシ此ノ場合ニ於テ供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書又ハ聽取書ニ記載スヘシ（樣式第十九號）

第三十四條　血痕、指紋、足跡其ノ他滅失ノ虞アル證據物ハ之カ保全ニ注意シ且檢證調書其ノ他ノ書類ニ其ノ性質形狀ヲ明確ナラシムヘシ

檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルニ際シ死體解剖又ハ物ノ毀損其ノ他原狀ノ變更ヲ要スル場合ニハ其ノ變更前ノ形狀ニ付前項ニ準シ之ヲ明確ナラシムヘシ

血液、排泄物及劇毒藥等ニ付鑑定ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ一部ヲ保存スルコトニ注意スヘシ

第三十五條　現行犯處分其ノ他強制處分ニ著手シタル後檢事ノ臨檢ヲ必要ナリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ事件所管廳ノ檢事ニ報告シ指揮ヲ待ツヘシ但シ猶豫スヘカラサル處分ハ之ヲ續行スヘシ

第三十六條　現行犯處分其ノ他ノ強制處分ニ著手シタル場合ニ於テ檢事自ラ其ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ速ニ之ヲ引繼クヘシ

第三十七條　現行犯處分其ノ他強制處分トシテ押收、搜索及檢證ノ處分ヲ爲ストキト雖成ルヘク穩當ノ方法ニ依ルヘシ

第三十八條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲シ且事件名、被疑者ノ氏名及差押目錄又ハ領置目錄ニ記載シタル順次番號ヲ記シタル强靭ナル紙片又ハ木札ヲ附スヘシ

第三十九條　搜査上必要アリト認ムルトキハ被疑者、證人、鑑定人其ノ他ノ者ニ任意出頭ヲ求メ若ハ其ノ所在ニ就キ供述ヲ聽キ又ハ其ノ承諾ヲ得テ指定ノ場所ニ出頭セシメ若ハ同行スルコトヲ得

第四十條　被疑者自白シタルトキト雖其ノ自白ニ適應スル證據ノ有無ニ付取調ヲ爲スヘシ

第四十一條　外國語ヲ以テ記載シタル書面ヲ提出シタルトキハ成ルヘク譯文ヲ添附セシムヘシ

第四十二條　搜査上必要アリト認ムルトキハ犯所其ノ他ノ場所ニ出張シ實況ヲ見分スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ實況見分書ヲ作成スヘシ（樣式第二十號）

第四十三條　證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ押收シタルトキハ差押調書及差押目錄又ハ領置調書及領置目錄ヲ作成スヘシ（樣式第二十二號、第二十三號、第二十四號、第二十五號）

前項ノ場合ニ於テ訊問調書又ハ聽取書ニ押收ノ旨ヲ記載シテ調書ニ代フルコトヲ得

押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ差押目錄又ハ領置目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第四十四條　司法警察官ハ強制處分ヲ爲スコトヲ得サル場合ト雖搜査上必要アリト認ムルトキハ強制力ヲ用ヰスシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章　令狀及留置狀

第四十五條　本規程ニ於テ令狀ト稱スルハ勾引狀、勾留狀、逮捕狀及假逮捕狀ヲ謂フ

第四十六條　令狀ハ迅速且適確ニ之ヲ執行スヘシ

第四十七條　判事ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ニ檢事ノ認印アルトキハ執行指揮書ノ添附ナシト雖之ヲ執行スヘシ

刑事訴訟法第百條第一項但書ノ指揮アリタル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ執行スヘシ

第四十八條　被疑者、被告人又ハ證人ニ對シ令狀ヲ執行スル場合ニ於テハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第四十九條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル證人ヲ護送スル場合又ハ引致シタル場合ト雖監獄又ハ警察署ノ留置場ニ留置スルコトヲ得ス

第五十條　司法警察官令狀ヲ執行スル場合ニ於テ執行ヲ受クヘキ者其ノ管內ニ居住セサルトキハ左ノ區別ニ從ヒ處理シ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ旨ヲ報告又ハ通報スヘシ

一　同一地方法院ノ管轄內ナルトキハ其ノ所轄司法警察官ニ令狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムヘシ

二　他ノ地方法院ノ管轄內ナルトキ、住居分明ナラサルトキ其ノ他執行不能ノトキハ令狀ヲ返戾又ハ送付スヘシ

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第百二條ノ適用ヲ妨ケス

第五十一條　令狀ノ執行ヲ終リ又ハ返戾ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ事件ノ記錄ニ編綴スヘシ但シ命令又ハ囑託ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　朝鮮刑事令第十三條ノ規定ニ依ル留置ハ留置狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ（樣式第三十六號）

第五十三條　留置狀ヲ執行スルニハ之ヲ被疑者ニ示シテ警察署ノ留置場ニ留置スヘシ

第五十四條　留置期間內ト雖留置スヘカラス又ハ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ年月日ヲ留置狀ニ記載スヘシ

第五十五條　同一事件ニ付テハ再ヒ被疑者ヲ留置スルコトヲ得ス

第五十六條　留置狀ハ執行ノ後之ヲ其ノ事件ノ記錄ニ編綴スヘシ

第四章　少年取扱

第五十七條　本規程ニ於テ少年ト稱スルハ十八歲ニ滿タサル者ヲ謂ヒ其ノ年齡ハ戶籍ニ依ル但シ戶籍ニ依リ難キトキ又ハ疑アリテ之ニ依ルヲ相當トセサルトキハ心身發育ノ狀況其ノ他諸般ノ實情ヲ調査シテ其ノ年齡ヲ認定スヘシ

第五十八條　少年ノ犯罪事件ハ特ニ遲滯ナク處理シ事件完結ノ後ト雖之ニ關スル事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物等ニ揭載セシメサルコトニ注意スヘシ

第五十九條　少年ニ對スル取調ニ付テハ出來得ル限リ人目ヲ惹カサル場所ニ於テ座談的ニ溫和深切ニ之ヲ行ヒ自發的答辯ヲ促シ且他ノ者トノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十條　少年ニ對シテハ已ムヲ得サル場合ノ外拘束ヲ加ヘサルコトトシ若拘束スルノ必要アルトキト雖成ルヘク捕繩其ノ他ノ戒具ヲ施用セスシテ之ヲ爲スヘシ

第六十一條　少年ノ素行調書ハ本人ノ素行其ノ他ヲ具體的ニ取調ヘ必要アリト思料スルトキハ學校教員、近親、隣佑、雇主等ニ就キ調査シ其ノ詳密正確ヲ期スヘシ（樣式第四十四號）

心身ニ異常アリト認ムルトキハ成ルヘク醫師ヲシテ診斷セシムヘシ

第六十二條　少年ニ對シ訓誡放免ヲ爲シタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ懇篤ニ訓誡ヲ加ヘ悔改心ノ誓約ヲ爲サシムルノ要アリト認ムルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

前二項ノ規定ハ起訴猶豫ヲ爲シタル少年ニ對シ檢事ヨリ訓誡ノ命令ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　前條ノ場合ニ於テ身柄ヲ保護者ニ引渡スヘキモノト認ムルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ且成ルヘク將來十分ナル監督ヲ爲スヘキ旨ノ請書ヲ差出サシメタル上本人ヲ引渡スヘシ

第六十四條　少年ニ對シ訓誡放免ヲ爲シタル場合ニ於テ學校長ノ訓誡ニ委スルヲ相當ト認ムルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シテ其ノ訓誡ヲ求メ且將來ノ保護監督ニ付協定ヲ遂クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ特ニ其ノ少年ノ犯罪ニ關スル事項ヲ他ニ漏ラササル樣注意スヘシ

第六十五條　滿十八歲以上ノ者ト雖其ノ心身發育ノ狀況ニ依リ少年ノ取扱ヲ爲スヲ相當ト認ムルトキハ本章ノ規程ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第五章　事件送致

第六十六條　搜査ニ依リ事件ノ要領ヲ得タルトキハ速ニ管轄裁判所ノ檢事、相當官署又ハ即決官署ニ之ヲ送致スヘシ但シ檢證ヲ經サル犯人不明ノ事件ハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條　事件ヲ送致スルニハ記錄ニ意見書及送致書ヲ添ヘ且成ルヘク被疑者ノ素行調書ヲ添附スヘシ（樣式第一號、第三號、第四十三號、第四十四號）

第六十八條　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ事件ヲ送致スルニ當リ被疑者ノ所在不明ナルトキハ成ルヘク人相書ヲ添附スヘシ（樣式第四十五號）

第六十九條　記錄ハ其ノ受理又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴シ目錄ヲ附シ毎葉ニ丁數ヲ附スヘシ（樣式第二號）

第七十條　第六條第一號ノ事件ノ記錄ヲ各別ニ送致スルトキハ各送致書ニ其ノ關係事件ノ送致年月日、事件名、被疑者ノ氏名、若事件所管廳ヲ異ニスルトキハ其ノ廳名ヲ附記シ一方ニハ其ノ證據ト爲ルヘキ書類ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七十一條　搜査ノ結果罪ト爲ラス又ハ被疑者ノ死亡、公訴時效ノ完成其ノ他公訴權消滅ノ原因アリト認ムル事件ハ之ヲ送致セサルコトヲ得但シ告訴又ハ告發ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十二條　事件輕微ニシテ處罰ノ實益ナシト思料スルトキハ被疑者ニ訓誡ヲ加ヘ之ヲ送致セサルコトヲ得但シ告訴又ハ告發ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ被疑者ヲシテ成ルヘク贓品ノ返還、損害ノ賠償又ハ謝罪ノ方法ニ

依り被害者ニ満足ヲ與ヘシムルコトニ注意シ若法禁物又ハ犯罪供用物件アルトキハ被疑者ヲシテ任意ニ廢棄其ノ他適宜ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第七十三條　前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄地方法院檢事正及事件所管廳ノ檢事ニ報告シ被疑者他ノ管内ニ居住スルトキハ所轄警察署長ニモ通知スヘシ（様式第四十六號）

第七十四條　公ニスルヲ相當トセサル報告又ハ復命等ノ書類ハ記錄ニ編綴スルコトナク親展書トシテ送付スヘシ

第七十五條　證據物中證書及書翰ノ類ハ之ヲ一括シテ封筒ニ入レ封皮ニ證據品ナル旨ヲ表示シテ送付スヘシ

押收物ヲ記錄ト共ニ送致セサルトキハ送致書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第七十六條　押收物ニシテ送付ノ必要ナシト認メタルモノ又ハ運搬ニ不便ナルモノハ之ヲ保管シ又ハ適當ノ者ニ命シテ之ヲ保管セシムヘシ

前項ニ依リ保管ヲ命シタルトキハ保管者ニ請書ヲ差出サシムヘシ（様式第四十一號）

第七十七條　押收物ニシテ送付スルノ必要ナク且沒收スヘカラサルモノト認ムルトキハ之ヲ假ニ還付スルコトヲ得

假還付ヲ爲スニハ假還付中善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ物件ヲ保管シ一切ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ假還付物受領者ニ諭示シ假還付請書ヲ差出サシムヘシ（様式第四十號）

第七十八條　被疑者ノ手ニ現存スル贓物、贓物ト交換シタル物、贓物ヲ賣却シタル代金又ハ贓金ヲ以テ購求シタル物ヲ押收シタル場合ニ於テ之ヲ送付スルノ必要ナク且沒收スヘカラサルモノト認ムルトキハ成ルヘク關係人ヲシテ協議ノ上相當ノ處置ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ協議書ヲ差出サシムヘシ（様式第四十二號）

第七十九條　押收物ニシテ事件ニ關係ナキコト分明シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

前項ニ依リ還付ノ手續ヲ爲シタルトキハ還付請書ヲ差出サシムヘシ（様式第三十九號）

第八十條　前四條ノ場合ニ於テ請書及協議書ハ之ヲ記錄ニ編綴シ差押目錄又ハ領置目錄ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第八十一條　押收物ノ廢棄、換價、還付又ハ假還付ヲ爲ス場合ニ於テ高價品、貴重品又ハ事件ニ重要ナル關係アル物ニ係ルトキハ處分前檢事ノ指揮ヲ受ケヘシ

第八十二條　事件送致後ニ於テ書類又ハ物件ヲ追送スル場合ニ於テハ事件送致ノ年月日、事件名及被疑者ノ氏名ヲ記載シタル送付書ヲ添附スヘシ

第六章　帳簿及書類

第八十三條　警察署ニハ左ノ帳簿及書類ヲ備フヘシ

一　犯罪捜査簿（様式第五十二號）
二　犯罪事件簿（様式第五十三號）
三　押收票（様式第五十四號）
四　令狀執行簿（様式第五十五號）
五　勾引狀原簿（留置狀原簿）（様式第五十六號）
六　檢視名簿（様式第五十七號）
七　過料請求簿（様式第五十八號）
八　司法警察ニ關スル例規綴
九　司法警察ニ關スル機密書類綴
十　犯罪捜査既濟事件記錄綴
十一　犯罪捜査未濟事件記錄綴
十二　訓諭放免記錄綴
十三　令狀綴
十四　司法警察ニ關スル表記綴
十五　司法處分結果通知綴
十六　司法警察ニ關スル雜書綴

第八十四條　司法警察事務ニ關シ監督官廳ヨリ發シタル訓令、通牒、指令又ハ訓示等將來證據スヘキ書類一切ヲ編綴スヘシ

朝鮮總督府官報ニ掲ケタル訓令、通牒ノ類ニシテ例規トナルヘキモノハ其ノ寫ヲ作リ編綴スヘシ

第八十五條　司法警察ニ關スル機密書類綴ニハ特ニ機密ニ關スルモノヲ編綴スヘシ

第八十六條　犯罪捜査既濟事件記錄綴ニハ告訴又ハ告發ニ係ラサル事件ニシテ捜査ノ結果犯罪ト爲ラス又ハ被疑者ノ死亡、公訴時效ノ完成其ノ他公訴權消滅ノ原因アリト認メ檢事ニ送致セサリシ事件記錄ヲ一件毎ニ取纏メ編綴スヘシ

檢事ニ送致シタル事件ノ送致書又ハ意見書等ノ寫若ハ控ノ類亦本綴ニ編綴スヘシ

第八十七條　犯罪捜査未濟事件記錄綴ニハ差向キ檢擧ノ見込ナキ盜難届書、申告書其ノ他之ニ類スル事件記錄ヲ一件毎ニ取纏メ編綴スヘシ

第八十八條　訓諭放免記錄綴ニハ訓諭放免處分ヲ爲シタル事件記錄及其ノ報告書寫ヲ編綴スヘシ

第八十九條　令狀綴ニハ差向キ執行ノ見込ナキ令狀及之ニ關スル書類ヲ編綴スヘシ

第九十條　司法警察事務ニ關スル總テノ統計表記ヲ編綴スヘシ

第九十一條　司法處分結果通知綴ニハ受刑人名票、判決結果通知、不起訴（起訴猶豫、起訴中止ヲ含ム）ニ關スル通知書等ヲ編綴スヘシ

第九十二條　司法警察ニ關スル雜書綴ニハ前八條ニ屬セサル一切ノ書類ヲ編綴スヘシ

第九十三條　書類綴ニハ索引目錄ヲ附スヘシ

書類編綴後之ヲ除去シタル場合ハ索引目錄備考欄ニ其ノ年月日及事由ヲ記載シ取扱者之ニ認印スヘシ

第九十四條　警察署長ハ必要ト認ムルトキハ第八十三條ノ規定以外ニ相當ノ帳簿又ハ書類綴ヲ備フルコトヲ得

第九十五條　司法警察事務ニ關スル帳簿及書類ハ行政警察事務ニ關スル帳簿及書類ト明ニ區別シ一定ノ場所ニ整置スヘシ

第九十六條　司法警察事務ニ關スル帳簿及書類綴ハ毎年之ヲ更新スヘシ但シ必要アルトキハ累年繼續使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ年度ヲ區劃スル爲分界紙ヲ挿入シ又ハ見出札ヲ附スヘシ

第九十七條　帳簿及書類ハ左ノ期間之ヲ保存スヘシ

一　犯罪捜査簿　二十年
二　犯罪事件簿　二十年
三　押收票　十年
四　令狀執行簿　二年
五　勾引狀原簿（留置狀原簿）　二年
六　檢視名簿　二年
七　過料請求簿　二年
八　司法警察ニ關スル例規綴　永久
九　司法警察ニ關スル機密書類綴　三年
十　犯罪捜査既濟事件記錄綴　七年
十一　犯罪捜査未濟事件記錄綴　三年
十二　訓諭放免記錄綴　五年
十三　司法警察ニ關スル表記綴　二年
十四　司法處分結果通知綴　二年
十五　司法警察ニ關スル雜書綴　二年

逮捕狀ハ刑ノ時效完成迄之ヲ保存スヘシ

第一項第十一號ノ記錄綴中所定ノ保存期間ヲ經過スルモ尚公訴時效完成セサルモノアルトキハ其ノ時效完成迄保存スヘシ

第九十八條　保存期間ハ事件完結シ又ハ最後ノ手續ヲ爲シタル翌年ヨリ之ヲ起算ス

保存期間ヲ經過シタル帳簿及書類綴ハ廢棄目錄ヲ作リ廢棄スヘシ

第九十九條　本規程ハ司法警察官吏ノ職務ヲ取扱フ者ノ職務執行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本規程ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

第　號

事件送致書（檢事直受事件）

罪名

被疑者　氏名（拘束（不拘束）（官公吏、位、勳、功、爵））

發覺原因

受理

留置　大正　年　月　日

放免　大正　年　月　日

取調中又ハ照會中ノ事項

備考

右　事件（證據物相添）及送致候也

大正　年　月　日

何警察署長　官氏名

何地方法院檢事正
（何地方法院何支廳檢事）　宛

（注意）一、被疑者數人アリテ各罪名其ノ他事項ヲ異ニスルトキハ相當ノ符號ヲ記載シ又ハ備考欄ニ記入スル等一見明瞭ナラシムヘシ

二、拘束、不拘束、官公吏、位、勳、功、爵、檢事直受事件ハ之ヲ朱書スヘシ

三、本書ハ目錄ノ前ニ編綴シ記錄ノ表紙ニ代用スヘシ

様式第二號

書類標目	丁數	備考
告訴狀（二枚ノ例）	一	
告訴人某調書（四枚ノ例）	三	
被疑者某調書（六枚ノ例）	七	
證人某調書（五枚ノ例）	一三	
鑑定人某調書（三枚ノ例）	一八	
鑑定書（四枚ノ例）	二一	
被疑者某素行調書（一枚ノ例）	二五	
意見書（二枚ノ例）	二六	

様式第三號

意見書

本籍

住居、身分、職業

（勳位）　氏名　年齢

一　刑事處分、起訴猶豫又ハ訓諭放免ヲ受ケタルコトノ有無

注意　記錄ニ丁數ヲ附スルニハ書類ノ左上欄外ニ一、二、三ノ順ヲ逐フテ記載シ各書類初丁ニ記載シタル數字ヲ本目錄丁數欄ニ記入スヘシ

何

注意　前ニ刑事處分、起訴猶豫又ハ訓誡放免ノ處分ヲ受ケタル者ナルトキハ被疑者訊問調書ニ於ケル注意ニ準ス

參照條文
規程六七

一、犯罪事實

第一　何

——

第二　何

注意　犯罪ノ日時、場所、方法、被害者ノ氏名、被害物件及其ノ價格等ノ概要ヲ簡明ニ記載シ且二箇以上ノ所爲アル場合ハ犯罪ノ順ヲ逐ヒ一罪毎ニ項ヲ分チ記載スヘシ、共犯者ノ犯罪ニ對シテハ犯人毎ニ事實ノ列記ヲ爲サス成ルヘク一項中ニ共犯者氏名全部ヲ一括シテ記載スヘシ

右事件ハ「刑法(何法)第何條ニ該當スル犯罪(ナルモ何ノ事由ニ因リ起訴猶豫、起訴中止、不起訴相成ルヘキモノ)」ト思料ス

大正　年　月　日

何警察署(何警察署何警察官駐在所)

司法警察官　官　氏　名

何地方法院檢事正
(何地方法院何支廳檢事)　宛

樣式第四號

告訴(告發)調書

住居、職業

告訴人(告發人)　氏　名

年齡

右ノ者大正　年　月　日午前(後)何時當署(何警察署何警察官駐在所)ヘ出頭何某ニ對スル何事件ニ付口頭ヲ以テ告訴(告發)致度旨申立ツルニ依リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ

參照條文
規程二五

問　被疑者ノ本籍、住居、職業、氏名、年齡ハ如何

答　何

注意　住居、氏名等ヲ知ラサルトキハ人相其ノ他被疑者ヲ確ムヘキ資料ヲ供述セシムヘシ

——

問　被疑者ト親族、雇傭、同居等ノ關係ナキヤ

答　何

問　告訴(告發)ノ事實ヲ述ヘヨ

答　何

問　何

答　何

注意　犯罪カ時效ニ係リ居ラサルヤ否告訴ナルトキハ告訴權ヲ有スルヤ否(刑事訴訟法第二百五十九條乃至二百六十九條參照)ヲ明瞭ナラシムヘシ

樣式第五號

自首調書

住居、職業

自首人　氏　名

年齡

右ノ者大正　年　月　日午前(後)何時當署(何警察署何警察官駐在所)ヘ出頭シ何事件ニ付口頭ヲ以テ自首致度旨申立ツルニ依リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ

參照條文
規程二五

問　爵位、勳章、記章ヲ有シ年金、恩給ヲ受ケ又ハ公務員ノ職ニ在ルモノニ非サルヤ

答　何

問　是迄刑事處分、起訴猶豫又ハ訓誡放免ヲ受ケタルコトナキヤ

答　何

注意　前ニ刑事處分ヲ受ケタルトキハ何年何月何日何裁判所ニ於テ何罪ニ依リ何ニ處セラルト記載スヘシ起訴猶豫、訓誡放免ヲ受ケタルモノ

ナルトキ亦之ニ準ス若刑事處分ニ付放免ヲ受ケタルトキハ其ノ裁典ノ年月日ヲ記載スヘシ

問　被害者ト親族、雇傭、同居ノ關係ナキヤ

答　何

問　自首ノ事實ヲ詳述セヨ

答　何

注意

一　內地人ニ付テハ軍籍關係ノ有無ヲモ取調ヘ記載スヘシ

二　犯罪カ時效ニ係リ居ラサルヤ否ヲ明瞭ナラシムヘシ

樣式第六號

告訴(告發)(自首)補充調書

住居　職業

告訴人(告發人)(自首人)　氏　名

年齡

參照條文
規程二五

右(「何某ニ對スル何罪告訴」「告發」)(何罪自首)事件ニ付其ノ趣旨ヲ明瞭ナラシムル爲取調ヲ爲スコト左ノ如シ

問　何

答　何

問　何

答　何

——

樣式第七號

告訴(告發)(自首)變更(取消)調書

住居　職業

告訴人(告發人)(自首人)　氏　名

年齡

參照條文
規程二六

右(「何某ニ對スル何罪告訴」「告發」)(何罪自首)事件ニ付變更(取消)致度旨申立ツルニ依リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ

問　何

答　何

問　何

答　何

——

注意　變更(取消)ノ事由ヲ詳述セシムルコトヲ要ス

様式第八號

逮捕始末書

大正　年　月　日午前(後)何時何所ニ於テ何罪ヲ現認シ犯人ヲ逮捕シタル始末左ノ如シ

一、犯　人　住居、職業

氏　名

年　齢

一、犯罪事實　何

一、逮捕ノ狀況　何

参照條文 規程二九 三一

様式第九號

逮捕及告發(告訴)ノ調書

大正　年　月　日午前(後)何時道巡査何某(何所何某)ハ本職ニ何罪現行犯人ヲ引致シ左ノ通逮捕及告發(告訴)ノ申立テヲ爲シタリ

一、犯　人　住居、職業

氏　名

年　齢

一、犯罪事實　何

一、逮捕ノ狀況　何

大正　年　月　日

何警察署(何警察署何警察官駐在所)

逮捕告發(告訴)人　(官)氏　名

司法警察官　官　氏　名

注意　逮捕ノ狀況ニハ發覺原因、逮捕ノ日時、場所及現行犯ト認メタル狀況ヲ詳記スヘシ

参照條文 規程三一

様式第十號

(逮捕人ヨリ其ノ手續書ヲ差出シタルニ依リ更ニ逮捕及告發(告訴)ニ付キ調書ヲ作ラサルトキハ其ノ紙尾ニ左ノ如ク記載スヘシ)

右逮捕告發(告訴)ノ事實ニ付取調ヘタル處其ノ申立前書ノ通相違ナキニ付共ニ署名捺印ス

大正　年　月　日

於某署

官　氏　名

逮捕人　氏　名

参照條文 規程三一

様式第十一號

聽取書(二回以後ノ分ニハ第何回ト記載スヘシ)

住居、身分、職業

氏　名

年　齢

右當署(何所)ニ出頭シ左ノ通任意供述ヲ爲シタリ

一　何

一　何

参照條文 規程一六

様式第十二號

被疑者訊問調書

被　疑　者

右何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

問　氏名、年齢、身分、職業、住居及本籍地ハ如何

答　何

問　爵位、勳章、記章ヲ有シ年金、恩給ヲ受ケ又ハ公務員ニ非サルヤ

答　何

問　是迄刑事處分、起訴猶豫又ハ訓誡放免ヲ受ケタルコトナキヤ

答　何　注意　前ニ刑事處分ヲ受ケタルトキハ何年何月何日何裁判所ニ於テ何罪ニ因リ何ニ處セラレト記載スヘシ起訴猶豫又ハ訓誡放免ヲ受ケタルモノナルトキ亦之ニ準ス若刑事處分ニ付放免ヲ得タルトキハ其ノ赦典ノ年月日ヲ記載スヘシ

茲ニ於テ被疑事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問ヒタルニ被疑者ハ左ノ如ク答ヘタリ

答

参照條文 刑訴五六 一一三 一一三九 刑令一二 一四

注意　内地人ニ付テハ軍籍關係ノ有無ヲモ取調記載スヘシ

問　利益ト爲ルヘキ證據アラハ提出スヘシ又其ノ事實アラハ申立ツヘシ
答　何

様式第十三號

被疑者訊問調書(第二回)

被疑者

右何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ前回ニ引續キ被疑者ニ對シ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

参照條文 刑訴五六 一一三三 刑令一一二九 一一四

問　何
答　何

様式第十四號

證人訊問調書

證人

何某ニ對スル何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

参照條文 刑訴五六 一一八六 一一九五 刑令一一二四

問　住居、職業、氏名、年齢ハ如何
答　何

茲ニ於テ刑事訴訟法第百八十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問ヒ其ノ該當セルコトヲ認メ證人トシテ訊問スヘキ旨ヲ告ケタリ

問　何
答　何

様式第十五號

様式第十六號

證人訊問調書(第二回)

證人

何某ニ對スル何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ前回ニ引續キ證人ニ對シ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

参照條文 刑訴五六 一一八六 一一九五 刑令一一二四

問　何
答　何

様式第十六號

鑑定人訊問調書

鑑定人

何某ニ對スル何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官

様式第十七號

通事(翻譯人)訊問調書

通事(翻譯人)

何某ニ對スル何事件ニ付大正　年　月　日何警察署(何警察署何警察官駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

参照條文 刑訴五六 一一二八 刑令一一二四

問　住居、職業、氏名、年齢ハ如何
答　何

駐在所)ニ於テ司法警察吏道巡査何某ヲ立會セシメ訊問ヲ爲スコト左ノ如シ

参照條文 刑訴五六 一一二二 刑令一一二四

問　住居、職業、氏名、年齢ハ如何
答　何

茲ニ於テ刑事訴訟法第百八十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問ヒ其ノ該當セルコトヲ認メ鑑定人トシテ訊問スヘキ旨ヲ告ケタル上左ノ事項ノ鑑定ヲ爲シ其ノ結果ハ鑑定書ヲ作成シ提出スヘキ旨ヲ命シタリ

一、某(氏名不詳男「女」)死體ノ創傷ノ位置、形狀、大小、深淺及致死ノ原因
一、他殺、自殺ノ區別
一、致死方法及用器、藥品ノ名稱
一、死後經過シタル時間
一、何

玆ニ於テ刑事訴訟法第百八十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問ヒ其ノ該當セサルコトヲ認メ通事（翻譯人）トシテ訊問スヘキ旨ヲ告ケタル上

問　何

答　何

——

様式第十八號

右通事ヲ介シテ本人ニ讀聞カセ（閲覧セシメ）タルニ相違ナキ旨申立テ通事ト共ニ署名捺印シタリ

通事　氏　名

供述者　氏　名

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

司法警察吏　官　氏　名

参照條文　規程一六三

様式第十九號

右本人ニ讀聞カセ（閲覧セシメ）タルニ相違ナキ旨申立テ署名捺印シタリ

供述者　氏　名

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

司法警察吏　官　氏　名

注意　警察署以外ノ場所ニ於テ作成シタルトキハ何所ニ於テト記載スヘシ

参照條文　規程一六三

様式第二十號

實況見分書

大正　年　月　日何事件ニ付何所何某方ニ臨ミ戸主何某（何某）ノ承諾ヲ得テ何場所（物件）ノ實況ヲ見分スルコト左ノ如シ

一　何

二　何

三　何所ニ於テ發見シタル物件何ハ何ニ依リ本件證據トシテ何某ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置ス

此ノ見分ハ本日午前（後）何時ニ始メ何時ニ終ル

大正　年　月　日

参照條文　規程四二

注意

一　警察署以外ノ場所ニ於テ作成シタルトキハ何所ニ於テト記載スヘシ

二　本人署名スルコト能ハサルトキハ代署シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

何所ニ於テ

——

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

注意　添附圖面又ハ領置目錄アルトキハ之ト契印スヘシ

様式第二十一號

物件提出命令

左記物件ハ何某ニ對スル何事件ニ付差押ノ必要有之候條提出可相成候也

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

殿

——

記

参照條文　刑訴一四〇ノ二　一四一　一七〇　一七四

様式第二十二號

差押調書

何某何事件ニ付大正　年　月　日午前（後）何時何分何所ニ於テ別紙目錄ノ物件ヲ差押フ

本處分ニハ何某之ニ立會ス

大正　年　月　日

何所ニ於テ

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

参照條文　規程四三　刑訴一五七　六三　六八　一一六　一四七ノ二　一四〇　一四一ノ二　一七四　刑令一二

様式第二十三號

差押目錄

物件番號	品目	員數	所持者又ハ保管者 住居 氏名	所有者 住居 氏名	備考

参照條文　規程四三

記載例

一　本用紙ハ黄色紙ヲ用ウヘシ

二　品目員數欄ニハ其ノ物件ノ品質種類ニ從ヒ各別ニ記入シ包括的ノ記入ヲ爲スヘカラス

例、衣類數點アルトキハ「合巾周衣一枚、緋縮緬女物二枚、襦三足ト」記シ又金員ニ係ルトキハ「二十錢銀貨二箇、五十錢銀貨五箇、第一銀行兌換券五圓十枚ト」記入スルカ如シ

様式第二十四號

参照條文　規程四三　刑訴四二一七四

領置調書

何某ニ對スル何事件ニ付別紙目録ノ物件ヲ領置ス

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

物件番號	品目	員數	提出者住居氏名又ハ所有者、所持者、保管者ノ住居氏名	備考

様式第二十五號

参照條文　規程四三

領置目録

物件番號	品目	員數	被疑者其ノ他ノ遺留者又ハ所有者、所持者、保管者ノ住居氏名	備考

注意　一　本目録ハ黄色紙トス

一　品目及員數欄ニハ品質種類ニ從ヒ各別ニ記入シ包括的ノ記入ヲ爲スヘカラス

例　衣類數點アルトキハ「木綿袷男物二枚、長襦袢女物一枚、足袋（白）二足ト」記入シ又金錢ニ係ルトキハ「十錢白銅貨五箇、二十錢銀貨八箇、第一銀行兌換券五圓十枚ト」記入スルカ如シ

司法警察官　官氏名

様式第二十六號

参照條文　刑訴一四五　刑令一一七七四三一〇一四二

捜索調書

何某ニ對スル何事件ニ付捜索處分ヲ爲スコト左ノ如シ

捜索ノ場所	立會人	捜索ノ箇所及物件ノ結果	捜索ノ時間
			著手　大正　年　月　日午　時　分 終了　大正　年　月　日午　時　分

大正　年　月　日

何所ニ於テ

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官氏名

様式第二十七號

参照條文　刑訴一五七　一八三〇

検證調書

大正　年　月　日何事件ニ付何所ニ臨ミ何某立會ノ上檢證スルコト左ノ如シ

一　場所ハ何所ヲ距ル何ノ方約何丁位ニシテ其ノ位置形狀ハ別紙圖面ノ如シ

一　犯所ノ狀況

一　被害者ノ模樣

一　創傷ハ何其ノ部位形狀ハ別紙圖面ノ如シ

一　何ノ創傷ヲ檢スルニ何レモ何品ヲ以テ何シタルモノト認メラレ何

茲ニ於テ醫師某ヲシテ死體（創傷）ノ鑑定ヲ爲サシメタリ

一　何所ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタルモノト認ムヘキ何品ヲ發見シタルヲ以テ之ヲ差押ヘタリ

此ノ檢證ハ本日午前（後）何時何分ニ始メ同何時何分ニ終ル

大正　年　月　日

何所ニ於テ

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官氏名

様式第二十八號

注意

一　檢證調書中ニハ訊問事項ヲ記入セサルヲ可トス若記入スルトキハ必ス其ノ部分ヲ供述者ニ讀聞カセ若クハ閲覽セシメ署名捺印セシムヘシ

二　圖面又ハ領置目録ヲ添附スルトキハ之ト調書ニ契印スヘシ

大正　年　月　日何地方法院（何地方法院何支廳）檢事　ノ命ニ依リ變死者（變死ノ疑アル者）ノ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

検視調書

變死者（變死ノ疑アル者）ノ住居身分職業氏名年齡	
變死ノ場所及其ノ模樣竝死體ノ狀況	
死亡年月日時及死因	
醫師ノ診定及關係者ノ供述	
―	
發覺ノ原因	
携帶品及遺留品ノ有無	
死體ノ處置	
立會人	
檢視ノ時間	著手　大正　年　月　日　午　時　分 終了　大正　年　月　日　午　時　分

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

參照條文
規程七
刑訴一八
二

樣式第二十九號

（呼出用郵便はがき）

第　號

相尋ネ度儀有之候條來ル　月　日　午　時當署（當所）ニ出頭相成度候也

出願ノ際ハ本書ヲ受付係ニ提出ノコト

成ルヘク印章携帶ノコト

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

樣式第三十號

參照條文
刑訴　八四　八六　九七
刑令　一二　一四

召　喚　狀

大正第　號

右何　事件ニ付訊問ノ儀有之候條大正　年　月　日　午　時當署（何所）ニ出頭相成度候也

（若出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘシ）

出頭シタルトキハ本書ヲ受付係ニ差出サルヘシ

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

樣式第三十一號

參照條文
刑訴　一九〇　一九一　一九二　一九四　二一四
刑令　一二　一四

證　人　召　喚　狀

大正第　號

被疑者　ニ對スル　事件ニ付證人トシテ訊問候條大正　年　月　日午　時當署（何所）ニ出頭相成度候也

追テ出頭セサルトキハ過料ニ處セラレ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘシ

出頭シタルトキハ本書ヲ受付係ニ差出サルヘシ

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

住居

殿

〔朝〕

樣式第三十二號

參照條文
刑訴　一九〇　一九一　一九二　一九四　二二八　二三六
刑令　一二　一四

鑑定人（通事）（翻譯人）召喚狀

大正第　號

被疑者　ニ對スル　事件ニ付鑑定人（「通事」「翻譯人」）トシテ訊問候條大正　年　月　日午　時當署（何所）ニ出頭相成度候也

若出頭セサルトキハ過料ニ處セラルルコトアルヘシ

出頭シタルトキハ本書ヲ受付係ニ差出サルヘシ

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

住居

殿

樣式第三十三號

參照條文
刑訴　八八　九四　九七　九八　一〇九　一二三　一二八　一三一　一九三　一九四
刑令　一二　一四

勾　引　狀

大正　年　月　日　午　時　分	引致

大正第　號

住居、職業
氏　名
年　齡

右何事件ニ付訊問ノ爲何署（囑託廳又ハ命令廳）ニ勾引ス

（本勾引狀ハ何警察署司法警察官朝鮮總督府道警視「警部」何某ノ囑託ニ依リ之ヲ發ス）

（本勾引狀ハ何法院「何地方法院何支廳」「裁判長」「豫審掛」朝鮮總督府判事何某ノ囑託ニ依リ之ヲ發ス）

（本勾引狀ハ何法院檢事局「何地方法院何支廳檢事分局」朝鮮總督府檢事何某ノ命令ニ依リ之ヲ發ス）

大正　年　月　日

何警察署
司法警察官　官　氏　名

執行シタル場所	
執行シタル日時	大正　年　月　日午　時　分
執行不能ノ事由	

右之通取扱候也

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官（吏）官　氏　名

樣式第三十四號

參照條文
刑令一四

勾引囑託（命令）書

事件番號	大正第　號
住居職業氏名年齡	

事件名

右之者ニ對シ當廳ニ勾引ノ手續相成度（可相成）及囑託（命令）候也

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官　官　氏　名

殿

回　答　書

執行月日	大正　年　月　日
押送ニ付シタル日	大正　年　月　日
行官署	
轉囑先及其ノ事由	
執行不能ノ事由	

右及回答候也

大正　年　月　日

殿

〔朝〕

様式第三十五號

勾引執行囑託書

参照條文 刑令一一二四

記錄號 大正 第 號

勾引狀 被告疑人（被）
日附 大正 年 月 日

右者ニ對スル勾引狀及送付候條執行方至急取計相成度及囑託候也

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官 官 氏 名

殿

回答書

執行 月日 大正 年 月 日 押送ニ付シタル日 大正 年 月 日

官署

轉囑先及其ノ事由

執行不能ノ事由

右勾引狀執行ニ關スル事項及通報候也

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

殿

様式第三十六號

大正 第 號

住居、職業
氏名
年齢

留置狀

参照條文 規程五二 刑令一三

右何事件ニ付刑事令第十三條ニ依リ何警察署留置場ニ留置ス

大正 年 月 日

何警察署
司法警察官 官 氏 名

釋放 大正 年 月 日

執行シタル場所	執行シタル日時	執行不能ノ事由
	大正 年 月 日午 時 分	

右之通取扱候也

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官（吏）官 氏 名

様式第三十七號

逮捕狀

参照條文 刑訴五五〇 五五二

住居
氏名
年齢

罪名
刑名 刑期

右之者頭書ノ通大正 年 月 日何廳ニ於テ裁判チ受ケ其ノ執行チ遁レ居ルニ付嚴密捜査チ遂ケ逮捕ノ上當署（何所）ニ引致スヘシ

（本逮捕狀ハ何法院（何地方法院何支廳）檢事何某ノ命ニ依リ之チ發ス）

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官 官 氏 名

執行シタル場所	執行シタル日時	執行不能ノ事由
	大正 年 月 日午 時 分	

右之通取扱候也

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官（吏）官 氏 名

時效 年 月 日

大正 年 月 日午 時 分 檢事引致

（注意）本様式ハ勞役場留置ノ場合ニ之チ準用ス

様式第三十八號

人相書

身丈		頭	頭髪
色		眉	習癖
眼		齒	特徴
口		鼻	父母妻子
耳		痘痕	特殊技能
鬚髯		音聲	

著衣及携帶品
立廻先
其ノ他參考事項

参照條文 刑令一四

様式第三十八號

轉囑書

別紙ノ通何警察署（何警察署何警察官駐在所）司法警察官官氏名ヨリ勾引ノ囑託（轉囑）有之候處左記ノ事由ニ依リ及轉囑候也

大正 年 月 日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）
司法警察官 官 氏 名

殿

事由

様式第三十九號

還付請書

一、何
一、何箇
一、何本

右還付相成正ニ領收候也

大正 年 月 日

住居
氏名

何警察署 司法警察官官 氏 名殿

（何警察署何警察官駐在所）

参照條文 規程七九

様式第四十號

假還付請書

左記物件ハ何某何事件ニ付證據トシテ貴署ヘ押收中ノ處今般假還付相成候ニ付テハ善良ナル管理者ノ注意チ以テ保管シ一切ノ處分行爲チ爲ササルハ勿論御用ノ節ハ何時ニテモ提出可致此段御請仕候也

大正 年 月 日

住居
氏名

参照條文 規程七七

氏名

何警察署（何警察署何警察官駐在所）司法警察官　官　氏　名殿

記

一　何　何箇
一　何　何枚

様式第四十一號

保管請書

左記物件ハ何某何事件ノ證據品ナル處今般保管ヲ命セラレ候ニ付テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ保管可致此段請書及提出候也

大正　年　月　日

住居
氏名　㊞

何警察署（何警察署何警察官駐在所）司法警察官　官　氏　名殿

參照條文
規程七六

様式第四十二號

協議書

左記物件ハ何事件ニ付證據トシテ貴署ヘ押收中ノ處今般協議ノ上（返還）仕候ニ付此段連署ヲ以テ及御屆候也

大正　年　月　日

住居
被疑者

住居
被害者（其ノ他）

何警察署（何警察署何警察官駐在所）司法警察官官氏名殿

參照條文
規程七八

記

一　何　何箇
一　何　何本

様式第四十三號

被疑者素行調書

一、何　何箇
一、何　何本

本籍、住居、職業、氏名、年齢	
性質	
素行並本人ニ對スル世評	
家庭並生活ノ狀況	
資產並收入ノ狀況	
教育ノ程度並本人ノ經歷	
老衰者又ハ廢疾者ナルトキハ扶養者ノ住居氏名	

參照條文
規程六七

様式第四十四號

少年素行調書

本籍、住居、身分、職業、氏名、年齢	
前科、猶豫又ハ訓誡放免	
性質、智能、經歷	
嗜好特技	
交友ノ模様	
本人ノ資產、父兄又ハ監督者ノ資產、職業、生計ノ狀況	
家族ノ年齢、性行、本人トノ續柄、家庭ノ狀況	

參照條文
規程六一六七

改悛ノ見込ノ有無

備考

右之通ニ候也

大正　年　月　日

何警察署　司法警察官　官　氏　名

注意　一　素行並本人ニ對スル世評欄ニハ成ル可ク既往現在ノ經歷ニ徵シ事實ヲ擧ケ單ニ良又ハ不良ト云フカ如キ抽象的ノ記載ヲ避クヘシ
二　教育程度並本人ノ經歷欄ニハ學歷アルモノハ其ノ大要ヲ擧ケ然ラサルモノハ普通文字ヲ識ミ又ハ書クコトヲ得ルヤ否等ノ記載ヲ爲スヘシ

本人ノ身體ノ强弱病持及從前大患ニ罹リタル事實	
本人カ平素敎慈若ハ親炙セル人物ノ氏名職業性行	
犯罪ノ動機	
緣由	
監督者ノ有無竝之カ適否	
備考	

右之通ニ候也

大正　年　月　日

何警察署司法警察官　官　氏　名

注意　一　本調査事項中取調不能又ハ困難ナル事情アル場合等ニハ各必要ナル事項ニ付テノミ調査スルコト

一　右調査事項ハ成ルヘク具體的ニ記述スルコト

記載例

一、性質、智能、經歷欄ニハ幼時ノ性質、動作、就學ノ程度、成績ノ良否、學友ノ良否及敎師ニ對スル行動、退學後犯罪時ニ至ル迄ノ境遇殊ニ其ノ職業ノ有無、勉否、住所、品行等、神佛ニ對スル信仰心、父母、同胞其ノ他近親ニ對スル道義觀念、本人ハ犯罪當時罰セラルヘキコトヲ知ルニ足ルヘキ辨別力ヲ有シタリヤ否等ヲ具體的ニ詳細記載スルコト

二、嗜好、特技欄ニハ飮酒、買喰、賭事、活動寫眞、觀劇、稗史、小說其ノ他ノ嗜好又ハ本人ノ特技ヲ具體的ニ記載スルコト

三、交友ノ模樣欄ニハ交友ノ人物、性質、就學程度及交際ノ親疎ノ狀況等ヲ詳細ニ記入スルコト

様式第四十五號

第　號

人相書

本籍、住居、職業氏名、年齡			
丈		肥痩	
顏		色	
頭	髮	耳	
眉		眼	
鼻		口	
齒		音聲	
痘痕			
		黥痕	
特徵			
逃走當時ノ著衣品			

參照條文規程六八

四、家族ノ年齡、續柄、性行、家庭ノ狀況欄ニハ家族ノ年齡、實親子、繼親子、養親子ノ區別、父母及同胞ノ性行、前科、起訴猶豫處分ノ有無、飮酒及遊惰癖ノ有無、家庭ノ和合、不和合ノ狀態ヲ詳細ニ記載スルコト

五、犯罪ノ動機緣由欄ニハ

(一)父兄其ノ他尊屬親ノ犯罪性ヲ享ケタル先天性ノモノナリヤ否、父兄、近親、交友等ノ敎唆若ハ此等ノ者ノ犯罪癖ヲ模倣シタルモノナリヤ否

(二)第二項ニ揭ケタル嗜好ニ原由スルモノナリヤ否

(三)繼父母其ノ他ト家庭上ノ不和若ハ雇主其ノ他ノ虐待又ハ此等ニ對スル自己ノ失策若ハ業務ノ失敗、疾病、負傷等生活上ノ困難ニ因リタルモノナリヤ否ヲ記載スルコト

六、監督者ノ有無竝之カ適否欄ニハ父母、親族、後見人、緣故者、雇主其ノ他監督スヘキモノノ有無、其ノ性行、前科、起訴猶豫處分ノ有無、職業、地位、資產竝監督者トシテノ適否ヲ記載スルコト

七、備考欄ニハ素行調書各欄ニ記載シタルモノノ外參考トナルヘキ事項ヲ記載スルコト

徘徊又ハ潛伏スヘキ場所ノ見込	
備考	

右ノ通ニ候也

大正　年　月　日

何警察署司法警察官　官　氏　名

注意　本人ニ特別ノ技能アルトキハ備考欄ニ記入スヘシ

様式第四十六號

第　號

訓諭放免報告書

本籍、住居、職業氏名、年齡		
罪名		
犯罪事實ノ概要		
發覺原因		
刑事處分起訴猶豫又ハ訓諭放免ヲ受ケタルコトノ有無		
素行ノ概要		
	一	
贓物ノ返還損害ノ賠償謝罪等ノ方法		
法禁物、犯罪供用ノ物件アルトキハ其ノ處分		
幼年者、老衰者、癈疾者ナルトキハ其ノ監督者又ハ扶養者ノ住居、職業、氏名		

參照條文規程七三

改俊ノ見込ノ有無

訓諭放免ヲ爲シタル理由

備考

右及報告候也

大正　年　月　日　何警察署長　官　氏　名

（何地方法院檢事正（何地方法院何支廳檢事）　宛

様式第四十七號

犯罪報告

住居、職業（動位）

氏　名（被疑者不明）　年　齡

右何事件「告訴」（告發）（自首）（申告）（何）ヲ受ケ」「認知シ」捜査中ニ候條此段及報告候也

一、何

一、何

大正　年　月　日　何警察署長　官　氏　名

參照條文規程六

何地方法院檢事正　宛

（何地方法院何支廳檢事）

注意

一　犯罪ノ日時、場所、方法、被害者ノ住居、氏名、被害ノ狀態犯人ノ就捕未就捕等報告當時判明セル程度ニ依リ記載スヘシ

二　檢事ノ臨檢ヲ必要トスルトキハ其事由ヲ記載シ且通事醫師同行及解剖ノ要否其ノ他現場ニ赴ク順路等ヲ附記スヘシ

三　電報電話ヲ以テスルトキト雖犯罪事實ノ要點ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

様式第四十八號

本籍照會書

右之者ニ對シ左記事項取調記入ノ上本書返戻（直接何地方法院檢事局、何地方法院何支廳檢事分局」ニ廻送）相成度及照會候也

追テ本籍氏名等ニ多少ノ相違アルモ之ニ該當スヘシト認ムル者アラハ本文ニ準シ取調ヘ若本籍地ヲ變更シ又ハ寄留シタルモノニ係ルトキハ本籍地ヘ轉送シ本籍不明ナルトキハ其ノ旨備考欄ニ記入シ返戻（廻送）相成度候

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

御中

住居					
本籍					
官吏公議員等					
爵位勳章記章及年金					
兵籍					
恩給扶助料退隱料	戸主及父母兄弟姉妹等ノ氏名				
前科	裁判ノ日及廳名	罪名	刑名、刑期、金額	處刑度數	恩赦事項其ノ他
	年　月　日				
	年　月　日				
	年　月　日				

氏名							
生年月日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	異名
身分職業							
資産概況							
特徵							

様式第四十九號

前科照會書

右之者ニ對スル前科取調左ノ各欄ヘ記入ノ上返戻（直接何地方法院檢事局、何地方法院何支廳檢事分局」ニ廻送）相成度及照會候也

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

御中

住居							
本籍							
氏名							
生年月日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	異名
身分職業							
裁判言渡及確定日	年　月　日言渡　日確定	年　月　日言渡　日確定	年　月　日言渡　日確定	年　月　日言渡　日確定	年　月　日言渡　日確定	年　月　日言渡　日確定	
裁判所名							
罪名							
刑名、刑期、金額							
處刑度數	度	度	度	度	度	度	
恩赦事項其ノ他							
備考							

右及回答候也

大正　年　月　日

御中

様式第五十號

囑託（命令）書

事件番號	大正　第　號				
被疑者					
罪名					
囑託事項	（例）一、何所ニ臨ミ捜索處分ヲ爲シ左記ノ犯罪事實ヲ證スルニ足ルヘキ物件押收ノコト 一、左記ノ者ヲ證人トシテ指定ノ事項訊問ノコト（指定ノ者事實ヲ知ラス他ニ之ヲ知ルモノアルトキハ其者ヲ訊問シ證據物件ヲ發見シタルトキハ押收ノ上廻送ノコト） 一、適當ノ者ヲ鑑定人ニ選定シ左記事項ノ鑑定ヲ命スルコト				
備考	右及囑託（命令）候也				
	大正　年　月　日				
	何警察署（何警察署何警察官駐在所）				
	司法警察官　官　氏　名				
	殿				
	記				
	一				

參照條文　刑訴　一七〇　一四二　二一八　二二三　刑令　一一七

様式第五十一號

過料處分（賠償命令）請求書

證人（「鑑定人」「通事」「翻譯人」）

右ハ何某ニ對スル何事件ニ付大正　年　月　日午　時當署（何所）ニ於テ證人（「鑑定人」「通事」「翻譯人」）トシテ召喚ヲ受ケ（訊問セラルルニ當リ）正當ノ事由ナクシテ出頭セサル（證言「通譯」「翻譯」ヲ拒ミタル）ニ因リ刑事訴訟法第二百十七條ノ決定相成度關係書類相添ヘ請求候也

大正　年　月　日

何警察署（何警察署何警察官駐在所）

司法警察官　官　氏　名

一

何地方法院（何地方法院何支廳）

御中

參照條文　刑訴　一一七　二一八　二三六　刑事令　一二

犯罪捜査簿

進行番號	接受	罪名	被疑者氏名	被害者氏名	押收票番號	犯罪事件簿番號	未濟事件記錄綴込番號	備考
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							
	月　日							

記載例

一　本簿ニハ認知、告訴、告發其ノ他屆出等ニ因リ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ被疑者分明ナラサルトキト雖直ニ記載スヘキモノトス

二　前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ接受シタル書面ニ接受ノ日及番號ヲ記入スヘシ

三　被疑者又ハ被害者數名アルトキハ其ノ主ナル一名ノ氏名ヲ記入シ外何名ト附記スヘシ

四　本簿ハ犯罪事故數ニ應スル進行番號ヲ用ウ(例、一被疑者カ某ニ對スル竊盜、橫領、詐欺ノ犯行アリトセハ三箇ノ進行番號ヲ用ヒ又一被疑者カ五箇所ニ於テ竊盜ノ犯行アリトセハ五箇ノ進行番號ヲ附スルカ如シ)

五　被疑者ヲ檢擧シタルトキハ直ニ犯罪事件簿ニ移記シ犯罪事件簿ノ進行番號ヲ記入スルモノトス

(※ 原文ノ項番號ハ「一、二、三、四」ノ四項トシテ印刷サル：一　本簿ニハ……、二　前項ノ手續……被疑者又ハ被害者……、三　本簿ハ……、四　被疑者ヲ檢擧……)

様式第五十三號

第　　　號	
長官	主任
罪名	
發覺原因	
受理	大正　年　月　日
勾引	大正　年　月　日
留置	大正　年　月　日
釋放	大正　年　月　日
訓誡放免	大正　年　月　日
事件送致　月日	大正　年　月　日
事件送致　送致先	
檢事處分　月日	大正　年　月　日
檢事處分　要旨	
裁判　月日	大正　年　月　日
裁判　裁判所	
裁判　要旨	
押收票番號	大正　第　號
犯罪捜査簿	大正　第　號
被疑者ノ住居職業氏名年齡	
犯罪事實ノ概要	
發見品	
備考	

犯罪事件簿

表面ノ通

記載例

一　本簿ニハ被疑者ノ分明ナル者ニ付テハ直ニ記載シ其ノ分明ナラサル者ニ付テハ檢擧後直ニ記載スヘキモノトス

二、本簿ハ一人ニ一面ヲ用ウ

三　記錄號ハ司法警察官吏執務規程第五條ニ依リ之ヲ附スヘシ

四　犯罪事實ノ概要欄ニハ犯罪ノ日時、場所、方法、被害物件及其ノ價格等ヲ記入スヘシ

五　本簿ニハ氏名索引簿ヲ附設スヘシ

様式第五十四號

押收票第　　號

事件番號　大正　第　號

被疑者被告人氏名

順次番號	受入年月日	品目	員數	處分及其ノ年月日	所有者ノ住居氏名	被押收者(差出人)ノ住居氏名	備考
	年　月　日			(例)年月日何地方法院檢事局ヘ送付			
	年　月　日			同上			
	年　月　日			(例)年月日時效ニ依リ差出人ニ還付			
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
—							
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						
	年　月　日						

様式第五十五號

年　月　日	年　月　日

令狀執行簿

進行番號	令狀ノ區別	令狀發付(囑託、命令)廳名	令狀發付ノ月日	罪名	被告人、被疑者ノ住居、氏名、年齡	令狀綴込帳ノ丁數	令狀執行ノ年月日	備考
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	
			月　日				年　月　日	

記載例

一　令狀(逮捕狀、勾留狀、勾引狀)ヲ受取リタルトキハ直ニ本簿ニ記入シ置キ令狀執行ノ

年　月　日其ノ他必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ記入スヘシ

二、刑事訴訟法第百二條後段ノ場合モ本簿ニ記入スヘキモノトス

三、令狀發付廳名欄ニハ囑託ナルカ命令ナルカノ區分及發付執行ニ關スルモノナルカヲ明ニスヘシ

樣式第五十六號

勾引狀原簿（留置狀原簿）

進行番號	事件番號	主任	被疑者 罪名	被疑者 氏名	終局 執行	終局 其ノ他	備考
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	
					年月日	年月日	

注意　勾引狀原簿及留置狀原簿ハ口座別トス

樣式第五十七號

檢視名簿

進行番號	接受 月日	接受 檢事指揮	發見	變死者又ハ變死ノ疑アル者ノ身分、住居、職業、氏名、年齡	檢視	檢視ノ結果 變死場所	檢視ノ結果 變死ノ死因	處分 年月日	處分 要旨	事件番號	備考
	月日	年月日	年月日		年月日	年月日		年月日		大正　第　號	
	月日	年月日	年月日		年月日	年月日		年月日		大正　第　號	
	月日	年月日	年月日		年月日	年月日		年月日		大正　第　號	
	月日	年月日	年月日		年月日	年月日		年月日		大正　第　號	
	月日	年月日	年月日		年月日	年月日		年月日		大正　第　號	

樣式第五十八號

過料請求簿

進行番號	事件番號	事件標目	被疑者氏名	請求 月日	請求先	被請求者ノ住居、職業、氏名、年齡	請求ノ事由	決定 年月日	決定 要旨	備考
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		
	大正　第　號			月日				年月日		

●朝鮮總督府裁判所及檢事局令狀取扱規程

大正十二年十二月
總訓第五十五號

朝鮮總督府裁判所
同　檢事局

朝鮮總督府裁判所及檢事局令狀取扱規程左ノ通定ム

朝鮮總督府裁判所及檢事局令狀取扱規程

第一條　本規程ニ於テ令狀ト稱スルハ勾引狀、勾留狀、逮捕狀及假逮捕狀ヲ謂フ

第二條　令狀ノ執行ヲ指揮スルニハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外執行指揮書ヲ添附スルヲ要セス

檢事判事ノ發シタル令狀又ハ執行ノ囑託ヲ受ケタル令狀ノ執行ヲ指揮スルニハ其ノ右側上部ニ認印シテ之ヲ爲スヘシ

第三條　令狀ニハ裁判所内又ハ檢證ノ現場等ニ於テ即時執行セシムルモノヲ除クノ外其ノ右側欄外ニ指揮又ハ囑託ヲ爲シタル官署名ヲ記載スヘシ同一人ニ對シ二通以上ノ令狀ヲ發シ其ノ執行ノ指揮又ハ囑託ヲ爲シタル官署ヲ異ニスル場合ニ於テハ各令狀毎ニ其ノ總テノ官署名ヲ記載スヘシ

第四條　外國人（支那人ヲ除ク）ニ對シ發スル令狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添附スヘシ

第五條　共犯者又ハ通謀ノ虞アル者ニ對シ令狀ヲ發スル場合ニ於テハ必要ニ應シ其ノ旨ヲ令狀ニ附箋シ又ハ入監前監獄ノ長ニ通知スヘシ

第六條　受託官署ハ勾引若ハ逮捕ノ轉囑又ハ移送ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ囑託官署ニ通知スヘシ令狀ノ執行ヲ轉囑シタルトキ亦同シ

第七條　受託官署ハ令狀ノ執行ヲ受クヘキ者押送ヲ要スルモノナルトキハ令狀ニ押送指揮書ヲ添附スヘシ

第八條　受託官署ハ令狀ヲ執行シタルトキハ速ニ令狀執行ノ年月日及押送指揮ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ旨ヲ囑託官署ニ通知スヘシ但シ刑ノ執行ヲ併セテ囑託シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス令狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ囑託官署ニ通知シ令狀ヲ送付スヘシ

第九條　令狀執行ノ必要止ミタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ發付及執行又ハ執行ノ指揮又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ通知シ令狀ヲ送付セシムヘシ

第十條　逮捕狀ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外犯罪地、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ本籍地、住居地、徘徊ノ見込アル地ノ司法警察官署及事件ヲ送致シタル司法警察官署ニ送付シテ執行セシムヘシ

前項ノ司法警察官署管轄區域外ナルトキハ其ノ管轄廳ノ檢事ニ逮捕ノ囑託ヲ爲スヘシ

第十一條　逮捕ノ囑託ヲ爲ス場合ハ成ルヘク刑ノ執行ヲ併セテ囑託スヘシ

第十二條　受託檢事刑ノ執行ヲ指揮シタルトキハ刑期起算日ヲ囑託檢事ニ通知スヘシ

第十三條　受託檢事ハ逮捕狀發付後一年ヲ經過シ執行ノ見込ナキトキハ之ヲ取消シ逮捕狀ヲ添ヘ其ノ旨ヲ囑託檢事ニ通知スヘシ但シ管内在籍者及死刑又ハ無期刑ノ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　覆審法院檢事長ノ指揮ニ依リ發付スヘキ勾引狀及逮捕狀ニ付テハ囑託ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條　檢事局ハ毎年一月管内司法警察官ヨリ前年中未執行ニ係ル逮捕狀取調書ヲ送付セシメ原簿ト照合スヘシ

附　則

本規程ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

闕席判決ニ關スル令狀ノ取扱ハ仍從前ノ例ニ依ル

●司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍

大正十三年五月
總令第三十三號

司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍左ノ通定ム

第一條　地方法院檢事局又ハ其ノ管内地方法院支廳檢事分局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第二條　朝鮮ニ於ケル監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第三條　左ニ掲クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ者ノ勤務地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第五號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第六號乃至第九號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　朝鮮ニ於ケル監獄又ハ分監ノ長タラサル朝鮮總督府典獄補及看守長

二　朝鮮總督府營林支廠ニ勤務スル朝鮮總督府營林廠技師、書記、技手及森林主事

三　朝鮮總督府殖産局山林課出張所ニ勤務スル朝鮮總督府技師、屬及技手

四　朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林保護ノ事務ニ從事スル朝鮮總督府林業試驗場技師、屬及技手

五　朝鮮總督府道森林主事

六　朝鮮總督府看守
七　朝鮮總督府警務總監部ニ勤務スル雇員
八　朝鮮總督府警務總監部ニ勤務スル雇員
九　朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林保護ノ事務ニ從事スル雇員

第四條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲ク罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第六號ニ掲ク者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
二　前條第二號及第七號ニ掲ク者ニ在リテハ朝鮮總督府營林廠所管ノ國有林野、第三號及第八號ニ掲ク者ニ在リテハ朝鮮總督府殖産局山林課出張所ニ於テ事務ヲ分掌スル國有林野、第五號ニ掲ク者ニ在リテハ國有林野ノ森林保護區域ニ於ケル森林又ハ其ノ産物若ハ狩獵ニ關スル罪
三　前條第四號及第九號ニ掲ク者ニ在リテハ朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林ニ於ケル森林又ハ其ノ産物ニ關スル罪

第五條　海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

●恩赦令

大正元年九月
勅令第二十三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ恩赦令ヲ裁可シ玆ニ公布セシム

第一條　大赦、特赦、減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條　大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ
二　未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條　特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條　特赦ハ刑ノ執行ヲ免除スル但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條　減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條　勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕スル但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條　復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失又ハ停止セラレタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第十條　復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

復權ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條　刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復權ニ因リ變更セラルルコトナシ

第十二條　特赦、特定ノ者ニ對スル減刑又ハ復權ハ司法大臣之ヲ上奏ス

第十三條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十四條　特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本

●恩赦令施行規則

大正元年十月
總令第二十號

恩赦令施行規則左ノ通定ム

第一條　恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條　恩赦令第十條第二項ニ依レル復權ノ申立書ニハ回復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條　特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ監獄ノ長ヲ經由スヘシ

檢事假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事、監獄ノ長及監督警察官署ニ通知スヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ恩赦狀ノ下付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ裁判所ノ檢事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

第六條　恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事ヘ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事判決ノ正本、謄本及抄本ヲ求ムル者ノ手數料

大正元年八月
總令第三號

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ヲ求ムル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料トシテ三錢ヲ納付スヘシ其ノ一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

明治四十一年九月
勅令第三百十七號

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

●刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件

明治四十二年五月一日
勅令第百二十號

朕刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ揭ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ヲ包含ス

刑法ノ刑　舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑
死刑　死刑
懲役　無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
禁錮　無期流刑、有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金　罰金
拘留　拘留
科料　科料

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勳章褫奪令附則第三項ハ之ヲ廢止ス

●舊刑法

明治十三年七月十七日
太政官布告第三十六號

（四十年法律第四十五號ヲ以テ廢ス、四十一年法律第二十九號ニ依リ尚未タ效ノ存スル條項ノ存ス）

刑法別册ノ通改定候條此旨布告候事

（別冊）

刑法（抄錄）

刑法目錄

第一編　總則
　第一章　刑例
　第二章　附加刑處分
　第三節　公益ニ關スル重罪輕罪
　第四章　信用ヲ害スル罪
　第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪
〔第五章　健康ヲ害スル罪〕
〔第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪〕
〔身體ニ對スル罪〕
第三編　財産ニ對スル重罪輕罪
　第二章　財産ニ對スル罪
　第四節　家資分散ノ際其財産ヲ藏匿スル罪

刑法

第一編　總則
　第二章　刑例
　第三節　附加刑處分

第二編　公益ニ關スル重罪輕罪
　第四章　信用ヲ害スル罪
　第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪
〔第五章　健康ヲ害スル罪〕
〔第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪〕

第二編　公益ニ關スル重罪輕罪
　第四章　信用ヲ害スル罪
　第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百二十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條　賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條　調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔第五章　健康ヲ害スル罪〕
〔第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪〕

第二百四十六條　〔傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス〕

第二百四十七條　〔船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ〕

第二百四十八條　〔傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス〕

第二百四十九條　〔歿病ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編　〔身體ニ對スル重罪輕罪

公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二編　公益ニ關スル重罪輕罪
　第四章　信用ヲ害スル罪
　第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百二十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條　賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條　調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔第五章　健康ヲ害スル罪〕
〔第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪〕

第二百四十六條　〔傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス〕

第二百四十七條　〔船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ〕

第二百四十八條　〔傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス〕

第二百四十九條　〔歿病ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編　〔身體ニ對スル重罪輕罪

第二章　財産ニ對スル罪
　第四節　家資分散ノ際其財産ヲ藏匿スル罪

第三百八十八條　家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

情ヲ知テ虛僞ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條　家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

●朝鮮舊刑所犯ノ罪囚ニ對シ大赦ヲ行フノ件

明治四十三年八月
勅令第二十五號

朕法令ヲ統治スルノ始ニ方リ惠澤ヲ施サムカ爲左ノ條項ニ依リ特ニ大赦ヲ行ハシム

第一條　本令公布前ニ於テ左ニ記載シタル舊韓國法令ノ罪ヲ犯シタル者ハ赦免ス

一　刑法大全第百九十五條ノ罪及同條ニ該當スル犯人ノ情ヲ知リテ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪
三　刑法大全第百九十六條乃至第百九十九條ノ罪
四　刑法大全第二百條ノ罪
五　刑法大全第二百一條ノ罪
六　刑法大全第二百四十三條乃至二百五十二條ノ罪
七　刑法大全第二百六十條ノ罪
八　刑法大全第二百六十二條及第二百六十四條ノ罪
九　刑法大全第二百六十五條ノ罪
十　刑法大全第二百六十六條ノ罪
十一　刑法大全第二百七十五條及第二百八十條ノ罪但シ人ヲ殺シタル罪ヲ除ク
十二　刑法大全第二百八十九條及第二百九十二條ノ罪

十三　刑法大全第二百九十三條第二百九十四條及第二百九十五條ノ罪
十四　刑法大全第三百三條及第三百四條ノ罪但シ第三百四條但書ノ罪ヲ除ク
十五　刑法大全第三百六條ノ罪
十六　刑法大全第三百十二條ノ罪
十七　刑法大全第三百十八條ノ罪
十八　刑法大全第三百二十條乃至第三百二十七條ノ罪但シ第三百二十二條但書及第三百二十七條第五號ノ罪ヲ除ク
十九　刑法大全第三百三十四條乃至第三百三十七條ノ罪但シ死ニ致シタル罪ヲ除ク
二十　刑法大全第三百四十六條ノ罪
二十一　刑法大全第三百五十三條乃至第三百六十一條ノ罪但シ因リテ所犯アリタル者ニシテ其ノ所犯本令ニ依リ赦免スヘカラサル罪ニ該當スルトキハ之ヲ除ク
二十二　刑法大全第三百六十七條乃至第三百七十條ノ罪
二十三　刑法大全第三百八十二條、第三百八十三條及第三百八十六條ノ罪
二十四　刑法大全第四百條乃至第四百三條ノ罪
二十五　刑法大全第四百四條乃至第四百七條ノ罪
二十六　刑法大全第四百八條及第四百九條ノ罪
二十七　刑法大全第四百十三條乃至第四百十六條ノ罪
二十八　刑法大全第四百二十九條乃至第四百三十二條及第四百三十四條ノ罪
二十九　刑法大全第四百三十七條乃至第四百四十六條ノ罪
三十　刑法大全第四百五十三條乃至第四百五十四條ノ罪
三十一　刑法大全第四百五十五條乃至第四百五十七條ノ罪
三十二　刑法大全第四百五十八條乃至第四百六十一條ノ罪
三十三　刑法大全第四百六十二條乃至第四百六十六條、第四百七十一條ノ罪
三十四　刑法大全第四百六十六條及第四百七十一條ノ罪
三十五　刑法大全第四百八十三條ノ罪
三十六　刑法大全第四百八十四條ノ罪
三十七　刑法大全第四百九十三條ノ罪
三十八　刑法大全第四百九十五條及第四百九十六條ノ罪
三十九　刑法大全第四百九十八條第二號及第四百九十九條第六號乃至第八號ノ罪
四十　刑法大全第五百十一條及第五百十五條ノ罪
四十一　刑法大全第五百二十條及第五百二十一條ノ罪
四十二　刑法大全第五百三十條乃至第五百三十二條ノ罪
四十三　刑法大全第五百三十四條及第五百四十一條ノ罪
四十四　刑法大全第五百四十三條ノ罪
四十五　刑法大全第五百四十四條ノ罪
四十六　刑法大全第五百五十七條及第五百五十八條ノ罪
四十七　刑法大全第五百六十條乃至第五百六十四條ノ罪
四十八　刑法大全第六百二十三條及第六百二十四條ノ罪
四十九　刑法大全第六百四十條乃至第六百四十二條ノ罪
五十　刑法大全第六百四十四條乃至第六百四十六條ノ罪
五十一　刑法大全第六百四十九條及第六百五十條ノ罪
五十二　刑法大全第六百五十二條乃至第六百五十六條ノ罪
五十三　刑法大全第六百六十條乃至第六百六十二條ノ罪
五十四　刑法大全第六百六十七條及第六百七十條ノ罪
五十五　刑法大全第六百七十四條乃至第六百七十七條ノ罪
五十六　刑法大全第六百七十九條乃至第六百八十一條ノ罪
五十七　刑法大全第六百八十三條ノ罪
五十八　刑法大全第六百八十四條ノ罪
五十九　刑法大全第六百八十六條ノ罪
六十　刑法大全第六百八十八條ノ罪
六十一　陸軍法律ノ罪但シ第二百七十八條、第二百八十一條、第二百八十八條及第三百九十條及第三百九十一條、第二百九十二條、第二百九十六條、第二百九十七條及第三百九條中死刑ニ該當スル罪ヲ除ク
六十二　開國五百四年法律第十九號違犯ノ罪
六十三　電報事項犯罪人處斷例ノ罪
六十四　郵遞事項犯罪人處斷例ノ罪
六十五　典當舖規則違犯ノ罪
六十六　鐵道事項犯罪人處斷例ノ罪但シ第三條ノ罪及同例ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ死ニ致シタル罪ヲ除ク
六十七　度量衡法及度量衡法施行規則違犯ノ罪
六十八　新聞紙法違犯ノ罪
六十九　保安法違犯ノ罪
七十　誘拐及火藥類取締法違犯ノ罪
七十一　森林法違犯ノ罪但シ第十五條ノ罪ヲ除ク
七十二　人蔘稅法違犯ノ罪
七十三　紅蔘專賣法違犯ノ罪
七十四　漁業法及漁業法施行細則違犯ノ罪
七十五　家屋稅法違犯ノ罪
七十六　酒稅法違犯ノ罪
七十七　煙草稅法違犯ノ罪
七十八　國稅徵收法違犯ノ罪
七十九　出版法違犯ノ罪
八十　民籍法違犯ノ罪
八十一　漁業稅法違犯ノ罪
八十二　屠獸規則違犯ノ罪
八十三　船舶法及船舶法施行細則違犯ノ罪
八十四　船舶檢査法及船舶法施行細則違犯ノ罪
八十五　違犯ノ罪
八十六　檢疫規則違犯ノ罪
八十七　銀行條例違犯ノ罪
八十八　農工銀行條例違犯ノ罪
八十九　鹽稅規程違犯ノ罪
九十　寄附金募集取締規則違犯ノ罪
九十一　種痘規則違犯ノ罪
九十二　檢疫停船規則違犯ノ罪
九十三　痘苗寶下規則違犯ノ罪
九十四　水道給水規則違犯ノ罪
九十五　船準牌規則違犯ノ罪
九十六　警務部令、警視廳令及各道令違犯ノ罪
九十七　前記法令ヲ比附援引シテ處罰シタル罪及處罰スヘキ罪
九十八　前條ノ外舊韓國隆熙二年法律第十六號及第十九號施行前同法律ヲ以テ廢止又ハ削除シタル法律ノ條項ニ依リ又其ノ條項ヲ比附援引シテ處斷セラレタル者ハ之ヲ赦免ス
第三條　二罪以上俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪前二條ニ該當スルトキハ他ノ罪亦之ヲ赦免ス
第四條　赦免ヲ得ルト雖既ニ徵收シタル罰金、科料、收贖金、追徵金及沒入シタル物件ハ之ヲ還付セス
附　則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮舊刑所犯ノ罪囚ニ對シ大赦ヲ行フノ件施行手續

明治四十三年八月
統訓第十七號
統監府裁判所檢事局
統監府監獄
統監府警察官署

本年勅令第三百二十五號大赦ニ關スル件施行手續左ノ通定ム

第一條　本年勅令第三百二十五號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ問ハス總テ赦免ヲ得ルモノトス

第二條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ言渡未タ確定セサル者、言渡確定スルモ未タ其ノ執行ニ著手セサル者及其ノ執行中ニ係ル者ニ對シテハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヨリ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ之ヲ放免スヘシ

第三條　赦免ヲ得ヘキ者刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ監獄ノ長ヨリ其ノ罪名、刑名、刑期、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所名、言渡年月日及氏名ヲ其ノ監獄所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ地方裁判所支部ノ檢事ニ通知スヘシ

檢事前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二條ノ處分ヲ爲シ其ノ旨刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第四條　大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢事ヨリ迅速且明細ニ統監ニ報告スヘシ

●大赦令

大正元年九月
勅令第二十四號

朕大赦令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大赦令

第一條　大正元年七月三十日前左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
二　刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
四　刑法第百六條及第百七條ノ罪
五　明治十三年第三十六號布告刑法第百四十一條ノ罪
六　陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三十一條及第三十二條ノ罪但シ第三十一條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
七　陸軍刑法第三十五條乃至第五十九條ノ罪但シ死傷ニ致シタル罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
八　陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪
九　陸軍刑法第七十三條及第七十四條ノ罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

第二條　大正元年七月三十日前左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
二　刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
四　刑法第百六條及第百七條ノ罪
五　明治十三年第三十六號布告刑法第百四十一條ノ罪

六　陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三十一條及第三十二條ノ罪但シ第三十一條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
七　陸軍刑法第三十五條乃至第五十九條ノ罪但シ死傷ニ致シタル罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
八　陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪
九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪
十　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

第三條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ執行ヲ終リタル者又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪
二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪
三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪竝其ノ未遂罪

第七條　大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正四年十一月
勅令第二百五號

朕減刑ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　大正四年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ執行前ニ係ルモノ、刑ノ執行猶豫中執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪
二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

十一　前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪

第七條　大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正四年十一月
勅令第二百五號

朕減刑ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　大正四年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ執行前ニ係ルモノ、刑ノ執行猶豫中執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪
二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

五　刑法第二百五條第二項ノ罪

六　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

八　刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪竝其ノ未遂罪

九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一　前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪

第七條　大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑若ハ復權ヲ得又ハ大正三年勅令第百四號ニ依リ減刑ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

第八條　本令ニ依リ減刑ヲ爲シタル者ト雖特別ノ事情アルトキハ特赦ヲ行フコトヲ得

第九條　第六條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ爲シタル前各號ニ記載シタル罪及之ト性質ヲ同クスル朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ行ハルル法令又ハ舊法ノ罪ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●王世子李垠ト方子女王トノ結婚ニ丁リ恵澤ヲ施サムカ爲朝鮮人ニ對シ特ニ恩赦ヲ行フノ件

大正九年四月

勅令第百二十號

朕王世子李垠ト方子女王トノ結婚ニ丁リ恵澤ヲ施サムカ爲朝鮮人ニ對シ特ニ恩赦ヲ行フノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　大正九年四月二十八日前左ニ記載シタル罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタル朝鮮人ニシテ刑ノ執行前ニ係ル者、刑ノ執行猶豫中執行中若ハ執行停止中ノ者又ハ假出獄中ノ者ニ對シテハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ竝ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　朝鮮刑事令ニ依ル刑法第九十五條、第百六條及第百七條ノ罪ノ中政治上ノ目的ニ出テタルモノ

二　大正八年制令第七號ノ罪

三　大正十一年法律第二號保安法ノ罪

四　除隊三年法律第六號出版法第十一條及第十四條ノ罪但シ風俗壞亂スル文書圖畫ヲ出版、發賣、頒布又ハ輸入シタル罪ヲ除ク

五　光武十一年法律第一號新聞紙法第十二條ノ規定ニ違反シタル罪、第二十五條及第二十六條ノ罪但シ風俗壞亂ノ事項ヲ記載シタル罪ヲ除ク

六　朝鮮刑事令ニ依ル爆發物取締罰ノ罪ニシテ治安ヲ妨クル目的ヲ以テ犯シタルモノ

七　前各號ニ記載シタル罪ニ關スル犯人藏匿、證據湮滅又ハ僞證ノ罪

八　前項各號ニ記載シタル罪ト犯シタル朝鮮人ニシテ刑法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ他ノ罪ト以テ處斷セラレタル者ニ付亦前項ニ同シ但シ殺人、放火若ハ强盜ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ以テ處斷セラレタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ有期懲役二十年トス

無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮十五年トス

第三條　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ其ノ殘刑期ヲ減輕シタルモノトス但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第四條　大正元年九月十三日若ハ大正四年十一月十日ノ詔書ニ基キ大赦、特赦、減刑若ハ復權ヲ得又ハ大正三年勅令第百四號ニ依リ減刑ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ本令ニ依ル減刑ヲ爲サス

第五條　本令ニ依リ減刑ヲ爲シタル者ト雖特別ノ事情アルトキハ特赦ヲ行フコトヲ得

第六條　第一條第二項但書ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正四年法律第十八號ヲ朝鮮等ニ施行ノ件

大正四年十二月

勅令第二百三十號

朕大正四年法律第十八號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正四年法律第十八號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●法人ノ役員處罰ニ關スル件

大正四年六月

法律第十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル法人ノ役員處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監査役又ハ監事ニシテ刑事訴追又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

附　則

本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治三十八年法律第六十六號第十條又ハ印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ニ關スル件

大正五年四月

總令第三十四號

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ規定又ハ印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ警察署長又ハ警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊若ハ憲兵分遣所ノ長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正五年府令第三十四號ニ依ル官沒ノ命令書樣式竝官沒物品ノ處置方

大正五年四月

警視甲第十五號

警察部長
警察署長
同　憲兵分隊長
分遣所長（警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊ノ長及憲兵分遣所ノ長ヲ以下同シ）

大正五年朝鮮總督府令第三十四號ニ依ル官沒ノ命令書樣式竝官沒物品ノ處置方ノ件左ノ通定ム

第一條　大正五年朝鮮總督府令第三十四號ニ依リ明治三十八年法律第六十六號第十條ノ規定又ハ印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ニ付警察署長（警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊ノ長及憲兵分遣所ノ長ヲ以下同シ）ノ交付スル命令書ハ別記樣式ニ依ルヘシ

第二條　官沒シタル物ハ之ヲ破棄スヘシ但シ原形ヲ破毀シタル後價格アリト認ムルモノハ物品會計官吏ニ之ヲ交付スヘシ

第三條　官沒シタル物ニシテ犯罪捜査上必要アル爲檢事又ハ司法警察官ヨリ要求アリタルトキハ之ヲ交付スルコトヲ得

第四條　前各條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ警察署長ハ警務部長ニ警務部長ハ警務總長ニ速

ニ之ヲ報告スヘシ

（用紙ハ半紙竪帖ノ半面トス）

様式第一號

命令書

原籍
住所
身分職業
氏　　生年月日
名

一圓（疋）造何　何枚（又ハ何箇等）

右ハ明治三十八年法律第六十六號第十條（印紙犯罪處罰法第五條）ニ依リ之ヲ官沒ス

年　月　日　何警察署長　官　氏　名　印

●犯罪即決言渡書ノ謄本作成ニ關スル件

大正四年十一月

警調甲第四十六號

警務部長
警察署長
同　憲兵分隊長
（警察署ノ事務ヲ取扱フ）

犯罪即決言渡書ノ謄本ハ巡査又ハ憲兵上等兵以上ノ者ニ於テ作成シ其ノ末尾ニ謄本タル旨ヲ記載スルノ外刑事訴訟法第二十條第一項及第二十一條ノ規定ニ準シテ取扱フヘシ

●政治ニ關スル犯罪處罰ノ件

大正八年四月

制令第七號

政治ニ關スル犯罪處罰ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　政治ノ變革ヲ目的トシテ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス但シ刑法第二編第二章ノ規定ニ該當スルトキハ本令前項ノ行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ煽動ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條　前條ノ罪ヲ犯シタル者發覺前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第三條　本令ハ帝國外ニ於テ第一條ノ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ亦之ヲ適用ス

●起訴猶豫及起訴中止事件ニ關スル取扱規程

大正六年一月

總内訓第二號

朝鮮總督府檢事
朝鮮總督府司法警察官

起訴猶豫及起訴中止事件ニ關スル取扱規程左ノ通定ム大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

起訴猶豫及起訴中止事件ニ關スル取扱規程

第一條　檢事被告事件ノ起訴ヲ猶豫シタルトキハ被告人ノ住所地ヲ管轄スル司法警察官ニ之ヲ通知スヘシ

檢事起訴猶豫者ニ付特ニ行狀ノ視察ヲ爲スヲ必要アリト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ住所地ヲ管轄スル司法警察官ニ視察ヲ指揮スヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ通知ヲ要セス

第二條　檢事被告事件ノ起訴ヲ中止シタル場合ニ於テ仍捜査ヲ續行スル必要アリト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ定メ檢舉又ハ所在發見ノ見込アル地ヲ管轄スル司法警察官ニ捜査ヲ指揮スヘシ

第三條　第一條第二項又ハ前條ニ規定シタル土地カ他ノ地方法院ノ管轄區域内ナルトキハ檢事ハ所轄地方法院檢事（支部檢事ノ取扱事務ニ關シテハ局長ノ命ヲ含ム）及警察官署又ハ捜査ヲ囑託スヘシ

第四條　地方法院檢事局（支部檢事ノ取扱事務ニ關シテハ局長ノ命ヲ含ム）ハ檢事ヨリ所轄地方法院檢事（支部檢事ノ取扱事務ニ關シテハ局長ノ命ヲ含ム）ニ捜査ヲ囑託スヘシ

第五條　第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ檢事ニ捜査ヲ囑託シタル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ捜査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第六條　檢事ハ視察、捜査ヲ解除シ若ハ新ニ之ヲ命シ又ハ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

第七條　司法警察官視察中ノ起訴猶豫者ニ付左ノ事由アルコトヲ覺知シタルトキハ樣式第五號ノ書面ヲ以テ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一　再ヒ罪ヲ犯シタルトキ

二　餘罪又ハ前科アルコトヲ發見シタルトキ

三　處罰ノ必要アリト認メタルトキ

四　視察ヲ解除シ又ハ其ノ期間ヲ伸縮スル必要アリト認メタルトキ

五　轉住、行衞不明、復歸又ハ死亡シタルトキ

司法警察官視察ヲ爲ササル起訴猶豫者ニ付新ニ視察ノ必要アルコトヲ覺知シタルトキハ其ノ事由ヲ檢事ニ報告スヘシ

第八條　視察中ノ起訴猶豫者其ノ住所ヲ轉シタルトキハ司法警察官ハ速ニ轉住地ヲ管轄スル司法警察官ニ起訴猶豫處分人名簿寫ヲ送付シテ視察ノ引繼ヲ爲スヘシ但シ他ノ地方法院ノ管轄區域内ニ轉住シタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　司法警察官捜査中ノ起訴中止者ニ付左ノ事由アルコトヲ覺知シタルトキハ樣式第五號ノ書面ヲ以テ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一　被告人ヲ檢擧シ又ハ被告人若ハ訴訟關係人ノ所在ヲ發見シタルトキ

二　捜査ヲ解除シ又ハ其ノ期間ヲ伸縮スル必要アリト認メタルトキ

第十條　檢事ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ司法警察官ヲシテ視察又ハ捜査ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第十一條　檢事他ノ地方法院檢事ヨリ視察又ハ捜査ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テハ第一條乃至第六條及前條ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第十二條　檢事他ノ裁判所ノ檢事ノ處分ニ係ル起訴猶豫者又ハ起訴中止者ニ付第七條第一項第一號乃至第三號若ハ第九條第一號ノ原因アルコトヲ覺知シタルトキハ速ニ其ノ處分ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知シ又ハ事件ノ移送ヲ求ムヘシ

第十三條　視察又ハ捜査ノ解除、終結若ハ其ノ期間ノ伸縮又ハ前條ノ通知ハ樣式第六號ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十四條　警察官署ニ於テハ檢事又ハ他ノ司法警察官ヨリ送付シタル受ケタル起訴猶豫又ハ起訴中止處分人名簿寫ヲ各接受ノ順序ニ依リ編綴シ第四條第一號又ハ第二號ノ帳簿ト爲スコトヲ得

様式第一號

（用紙美濃半截）

（何）地方法院（何支廳）檢事（分）局

記錄號	大正　年檢第　號	大正　年檢第　號	大正　年檢第　號
送致官署			
被告人ノ住所、族稱、職業氏名、年齡			
處分年月日	大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日

様式第二號

（用紙美濃全紙）

起訴猶豫處分人名簿

丁	分罪名	指示事項	訓戒年月日	通知先	通知年月日	備考
			大正　年　月　日		大正　年　月　日	
			大正　年　月　日		大正　年　月　日	
			大正　年　月　日		大正　年　月　日	
			大正　年　月　日		大正　年　月　日	

様式第三號

（用紙美濃全紙）

丁	檢事指揮印	起訴猶豫	檢事指揮印	丁

記錄號	大正　年檢第　號	送致官署	檢事指揮	大正　年　月　日

被告人	住所	本籍	職業	族稱	戶主又ハ其ノ續柄	別名	年齡	前科其ノ他	犯罪事實概要	罪名	年月日	處分後ノ事故	備考
											大正　年　月　日		

（何）地方法院（何支廳）檢事（分）局

搜查指揮	大正　年　月　日	搜查官署	搜查期間	搜查終結事由
			大正　年　月　日ヨリ	大正　年　月　日

檢事又ハ司法警察官認印	搜查年月日	搜查ノ狀況	起訴中止處分人名簿
大正　年　月　日			

一　罪名欄ニハ處分罪名ヲ記載スヘシ

二　指示事項欄ニハ訓戒ヲ爲シ又ハ謝罪、贓物返還、損害賠償ヲ爲サシムル等指示ノ要旨ヲ記載スヘシ

三　前科其ノ他欄ニハ前科、起訴猶豫處分、訓戒放免處分ノ罪名及度數ヲ記載スヘシ

四　犯罪事實概要欄ニハ犯罪ノ場所、方法、加害ノ程度、共犯者ノ氏名ヲ摘記シ併合罪アルトキハ犯情最重シト認ムル罪ニ付之ヲ記載シ他ノ罪ニ付テハ其ノ罪名及犯數ヲ記載スヘシ

五　視察官署欄ニハ視察ノ囑託、指揮ヲ爲シタル檢事局若ハ警察官署名又ハ視察ノ引繼ヲ爲シタル警察官署名ヲ記載スヘシ

六　處分後ノ事故欄ニハ猶豫ノ取消、再犯、轉住、行衞不明、復歸等處分後發生シタル事故ヲ記載シ仍犯罪ニ因リ處分セラレタルトキハ其ノ要旨ヲ記載スヘシ

起訴猶豫處分人名簿記載例

丁	分罪名	指示事項	訓戒年月日	通知先	通知年月日	備考
	一	一	大正元年一月一日	一	大正元年一月一日	一
	二	二	大正元年一月一日	二	大正元年一月一日	二
	三	三	大正元年一月一日	三	大正元年一月一日	三
	四	四	大正元年一月一日	四	大正元年一月一日	四

記錄號	大正元年檢第一號	送致官署	視察指揮	大正元年一月一日

被告人	住所	本籍	職業	族稱	戶主又ハ其ノ續柄	別名	年齡	前科其ノ他	犯罪事實概要	罪名	年月日	處分後ノ事故	備考
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	大正元年一月一日	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	大正元年一月一日	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	大正元年一月一日	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	大正元年一月一日	四	四

（何）地方法院（何支廳）檢事（分）局

視察官署	視察期間	處分後ノ事故	訓戒	大正元年一月一日	視察終結事由	大正元年一月一日	備考
一	大正元年一月一日ヨリ	一	一	一	一	一	一
二	大正元年一月一日ヨリ	二	二	二	二	二	二
三	大正元年一月一日ヨリ	三	三	三	三	三	三
四	大正元年一月一日ヨリ	四	四	四	四	四	四

檢事又ハ司法警察官認印	視察年月日	視察ノ狀況	性行	經歷	家庭及資產ノ狀況
大正元年一月一日	大正元年一月一日	一	一	一	一
大正元年一月一日	大正元年一月一日	二	二	二	二
大正元年一月一日	大正元年一月一日	三	三	三	三
大正元年一月一日	大正元年一月一日	四	四	四	四

起訴猶豫處分人名簿記載例

罪名	概要	時效	大正　年　月　日	起訴猶豫處分人名簿	備考
一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四

七　視察終結事由欄ニハ猶豫ノ取消、處罰、視察ノ解除、視察期間ノ滿了、大赦、時效、死亡等ノ區別ヲ記載スヘシ

八　性行、經歷、家庭及資產ノ狀況欄ニハ司法警察官ニ於テ調査シタル結果ヲ記入シ爾後異動ヲ生シタルトキハ之ヲ追補スヘシ

九　規程第八條ニ依リ視察ノ引繼ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本簿中當該用紙ヲ拔取リ送付シタルトキハ其ノ事由ヲ起訴猶豫、起訴中止處分人名索引簿ノ備考欄ニ記入スヘシ

様式第四號

大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	一	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日	大正年月日

丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年

（用紙美濃全紙）

一　起訴猶豫起訴中止處分人名索引簿

之部

					起訴猶豫 起訴中止 氏名 備考 不要視察 要視察											
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
					起訴猶豫 起訴中止 氏名 備考 不要視察 要視察											
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年
丁年	丁年	丁年	丁年	丁年		丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年	丁年

様式第五號

起訴猶豫起訴中止者ニ關スル事故報告書

罪名	
處分	種別
	年月日　大正　年　月　日
	廳名　地方法院　檢事局
氏名	
事故報告	

（用紙半紙半截）

項	
備考	

右及報告候也

大正　年　月　日

（何）地方法院（何支廳）檢事（事務取扱）殿

（警察官署ノ長　官氏名）

様式第六號

起訴猶豫起訴中止者ニ關スル事故通知書

罪名	
處分	種別
	年月日　大正　年　月　日
	廳名　地方法院　檢事局
氏名	
通知事項	
備考	

右及通知候也

大正　年　月　日

（何）地方法院（何支廳）檢事（分）局

（檢事局名）
（警察官署名）御中

（用紙半紙半截）

第三章　監獄

第一款　監獄令

●朝鮮監獄令

明治四十五年三月
制令第十四號

朝鮮監獄令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮監獄令

第一條　監獄ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外監獄法ニ依ル

第二條　監獄法中主務大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第三條　拘置監ニハ管刑ノ執行ヲ受クヘキ者ヲ留置スルコトヲ得

第四條　新ニ入監スル者傳染病ニ罹リタル者ナルトキハ入監セシメサルコトヲ得

第五條　在監者ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●監獄法

明治四十一年三月
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

監獄法

第一章　總則

第一條　監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

一　懲役監　懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二　禁錮監　禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

三　拘留場　拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四　拘置監　刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得

警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但シ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

第二條　二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未滿ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月内ニ刑期終了スヘキ者ハ其ノ殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得

心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條　監獄ニ男監及女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

懲役監、禁錮監、拘留場及拘置監ノ同一區劃内ニ在ルモノハ之ヲ分界ス

第四條　主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閲セシムヘシ

判事及檢事ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其ノ他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條　本法ニ依リ沒入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル者ハ之ヲ監獄慈惠ノ用ニ充ツ

第七條　在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閲官吏ニ請願ヲ爲スコトヲ得

第八條　勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條　本法中別段ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用スヘキ規定ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十條　本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閲シタル後入監セシムヘシ

第十二條　新ニ入監スル婦女其ノ子ヲ携帶セムコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限リ滿一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十三條　新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條　新ニ入監スル者アルトキハ其ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲スヘシ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章　拘禁

第十五條　在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第十六條　雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齢等ヲ斟酌シテ其ノ監房ヲ別異ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其ノ監房ヲ別異ス

十八歳未滿ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除ク外十八歳以上ノ者ト其ノ監房ヲ別異ス但シ心身發育ノ狀況ニ因リ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ五ニ其ノ監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其ノ交通ヲ遮斷ス

第十八條　懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監及ヒ勞役場ノ同一區劃ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ敎誨堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ席次又ハ診察若クハ敎誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章　戒護

第十九條　在監者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル鎗又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限リ在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

一　人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲スヘキ脅迫ヲ加フルトキ

二　危險ナル暴行ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ所持シ其ノ放棄ヲ肯セサルトキ

三　逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

四　逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條　天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ廳舍ノ修築、道路ノ開鑿其ノ他非常ノ役務ニ從事セシムルコトヲ得

第二十二條　在監者ニ左ノ物品ヲ所持スルコトヲ得ス

一　金錢

二　時計

三　飲食物

四　嗜好品

五　遊戲具

六　喫煙具

七　糧食自辨ノ十五日以內ノ停止

八　運動ノ五日以內ノ停止

九　作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削七日以內ノ減食

十　二月以內ノ輕屏禁

十一　七日以內ノ重屏禁

屏禁ハ受罰者ヲ罰室內ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屏禁ニ在テハ仍罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第二十三條　懲罰ニ處セラレタル者疾病其ノ他特別ノ事由アルトキハ其ノ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其ノ懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第二十四條　在監者ニ對シテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スル外作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其ノ額ヲ定ム

第二十五條　在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第二十六條　受刑者ニハ敎誨及ヒ敎育

第二十七條　敎誨及ヒ敎育ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　給養

第二十八條　受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但シ拘留囚ニハ自衣ノ著用ヲ許シ其ノ他ノ者ニハ官衣ノ貸與ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　受刑者ニハ作業賞與金ヲ給ス

第三十條　受刑者ニハ其ノ體質、健康、年齡作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十一條　刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章　衞生及ヒ醫療

第三十二條　在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ剪刈セシムルコトヲ得但シ刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衞生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外其ノ意思ニ反シテ之ヲ剪刈セシムルコトヲ得ス

第三十三條　在監者ハ其ノ拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服スルヿシ

第三十四條　在監者ニハ其ノ健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十五條　在監者ニハ種痘其ノ他傳染病豫防ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得

在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

第四十一條　傳染病者ハ嚴ニ之ヲ隔離シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但シ懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシメンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條　精神病、傳染病其ノ他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條　姙婦、産婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第四十五條　在監者ニ接見セシコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其ノ親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ特ニ必要アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受ケルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ特ニ必要アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其ノ發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條　裁判所其ノ他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閱讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條　接見ノ立會、信書ノ檢閱其ノ他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章　領置

第五十一條　在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價値ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其ノ領置ヲ爲サス又ハ之ヲ廢ク

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ廢キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條　在監者領置物ヲ以テ其ノ父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其ノ他正當ノ用途ニ充テンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條　在監者ニ差入ヲ爲サムコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其ノ差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其ノ差入ヲ許スヘカラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條　在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條　領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條　死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族又ハ親族ノ一之ヲ交付ス

第五十七條　死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ掲ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

逃走者ノ遺留品ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明セサルトキ亦同シ

第十一章　賞罰

第五十八條　受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス

第六十條　懲罰ハ左ノ如シ

一　叱責

二　賞遇ノ三月以內ノ停止

三　賞遇ノ廢止

四　文書、圖畫閱讀ノ三月以內ノ禁止

五　請願作業ノ十日以內ノ停止

六　自辨ニ係ル衣類臥具著用ノ十五日以內ノ停止

第六十八條　滿期ノ者ハ其ノ刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之ヲ釋放ス

第六十九條　釋放セラルヘキ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其ノ請求ニ因リ仍在監セシムルコトヲ得

第七十條　釋放セラルヘキ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セサルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲歸住旅費ノ增加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第七十一條　死刑ノ執行ハ監獄內ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス

大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第七十二條　死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス

第七十三條　在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス

死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得

第七十四條　死亡者ノ親族故旧ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但シ合葬後ハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲病院、學校又ハ其ノ他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則ハ之ヲ廢止ス但シ懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

●朝鮮監獄令施行規則

明治四十五年三月

總令第三十四號

朝鮮監獄令施行規則左ノ通定ム

朝鮮監獄令施行規則

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁スヘキ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國籍船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但シ朝鮮總督ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス

外國人監獄ヲ參觀スルニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡及參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知スヘシ

第四條　朝鮮總督ニ情願ヲ爲スニハ其ノ旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監督官吏ハ之ヲ披閱スルコトヲ得ス

情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ朝鮮總督ニ進達スヘシ

第五條　巡閱官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得

巡閱官吏ニ情願ヲ爲サムコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條　巡閱官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除クノ外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第七條　巡閱官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閱官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其ノ要旨ヲ記載スヘシ

第八條　情願ニ對スル裁決ハ典獄ニ於テ速ニ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第九條　典獄ハ每週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付申立ヲ爲サムコトヲ請フ在監者ニ面接スヘシ

前項ノ申立ヲ爲サムコトヲ豫告スル者アルトキハ前項ノ期間ニ拘ハラス面接ヲ許スヘシ

第十條　在監者ニ對シ敎誨及ヒ敎育ヲ施スヘシ其ノ敎誨及ヒ敎育ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

第十二條　在監者ニ對シ給養ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　在監者ニハ其ノ體質、健康、年齡作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第十四條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

第十五條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

第十六條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

第十七條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

第十八條　在監者ニハ其ノ情願ニ因リ監獄ニ於テ醫療ヲ爲スヘシ

トキハ其ノ氏名ヲ面會簿ニ記載シ其ノ順序ニ從ヒ面接シ本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ之ヲ面會簿ニ記載スヘシ

第十條　本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外懲役囚ニ適用スヘキ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付スヘシ

第十二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其ノ子ヲ監獄所在地ノ警察官署ニ引渡スヘシ携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許スヘカラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十三條　新ニ入監スル者ハ監獄醫其ノ健康ヲ診査スヘシ

第十四條　監獄ニ於テ避病監其ノ他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病ニ罹リタル者ト雖之ヲ入監セシムヘシ

第十五條　監獄令第四條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ且其ノ事情ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第十六條　新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通報スヘシ前項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ準用ス

第十七條　新ニ入監スル者ハ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外入浴ヲ爲サシムヘシ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及衣類ノ檢查ハ女監取締之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及身體衣類ノ檢查ニ之ヲ準用ス

第十八條　入監者ニハ番號ヲ附シ在監中其ノ番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシムヘシ但シ本入監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條　典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項及刑期ノ起算竝終了ノ日ヲ入監者ニ告知スヘシ

典獄ハ入監者ノ身上ニ屬スル事情ヲ調査シ其ノ結果ヲ身上票ニ記載スヘシ

前項ノ調査ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署其ノ他ノ官廳、公署又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲スヘシ

第二十條　典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲スヘシ在監者ニ付亦同シ

第二十一條　新ニ入監シタル者ハ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外三日以內前項ノ受刑者ニハ交書圖畫ノ閱讀ヲ許サス

第二十二條　入監者ノ身分帳簿、名籍原簿、在監人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以內ニ之ヲ整理シ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

在監者遵守事項ハ冊子トシテ之ヲ監房內ニ備ヘ置クヘシ

第三章　拘禁

第二十三條　獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外常ニ一房ノ內ニ獨居セシムヘシ

第二十四條　刑事被告人ハ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十五條　受刑者ハ本令ニ規定スル場合ヲ除クノ外成ルヘク左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

一　刑期二月未滿ノ者

二　二十五歲未滿ノ者

三　初犯者

四　入監後二月ヲ經過セサル者

除罪又ハ刑期限內ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在監受刑者ハ成ルヘク之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條　在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十七條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

第二十八條　典獄及監獄醫ハ少クトモ三十日毎ニ一回、其ノ他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視スヘシ

第二十九條　典獄、監獄醫、敎誨師及女監取締ヲ除クノ外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付亦同シ

第三十條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其ノ視察シタル事項ヲ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條　獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁スヘシ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖仍在房セシムヘシ

第三十三條　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條　病者又ハ不具者ト健康者トハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但シ看護ニ從事スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁スヘシ但シ療養其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　雜居監房、工場、敎場及敎誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止スヘシ

第三十七條　監房ニハ攀ヲ設ケコトヲ得ス但シ拘置監、女監及病監ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　監房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ其ノ上部ニ在房者ノ氏名、年齡、罪質、刑名、刑期、留置期間及犯數其ノ下部ニ番號及入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ藏掩シ置クヘシ

第四十條　雜居監房ニハ其ノ容積、定員及現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ケ置クヘシ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢查スヘシ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可ヲ受クルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置クヘシ若必要ニ因リ一時開放スルトキハ其ノ要所ヲ守衞スヘシ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ヲ除クノ外其ノ授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開閉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但シ病監ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其ノ他戒護ノ障礙ト爲ルヘキ物ヲ置クヘカラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其ノ他攀越ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ構內ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

第四十五條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ每日一回監房ノ檢查ヲ爲サシムヘシ

第四十六條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及衣類ノ檢查ヲ爲サシムヘシ

第四十七條　監房ニハ攀ヲ設ケコトヲ得ス但シ拘置監、女監及病監ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　監房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ其ノ上部ニ在房者ノ氏名、年齡、罪質、刑名、刑期、留置期間及犯數其ノ下部ニ番號及入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ藏掩シ置クヘシ

第四十條　雜居監房ニハ其ノ容積、定員及現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ケ置クヘシ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢查スヘシ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可ヲ受クルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置クヘシ若必要ニ因リ一時開放スルトキハ其ノ要所ヲ守衞スヘシ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ヲ除クノ外其ノ授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開閉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但シ病監ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其ノ他戒護ノ障礙ト爲ルヘキ物ヲ置クヘカラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其ノ他攀越ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ構內ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

第四十五條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ每日一回監房ノ檢查ヲ爲サシムヘシ

第四十六條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及衣類ノ檢查ヲ爲サシムヘシ

第四十七條　在監者ニシテ戒護ノ爲離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

一　拳衣

二　鈬

三　手錠

四　足鎖

五　聯鎖

六　捕繩

鈬ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ繞帶セシメ繞帶ノ所ニ下鍵聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ繞帶セシメ繞帶ノ所ニ下鍵シ二人每ニ連絆ス

第四十九條　戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　拳衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、鈬ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠足鎖及捕繩ハ暴行、逃走若ハ自殺ノ虞アル在監者、聯鎖ハ監房外ノ作業ニ就ク在監者ニシテ必要アリト認ムルモノニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

拳衣ハ六時間以上、兩脚施鈬ハ六月以上、一脚施鈬ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ拳衣、鈬及足鎖ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條　監獄官吏ハ在監者ニ對シテ劍又ハ銃ヲ使用スルトキハ典獄ハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第五十二條　典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ逃防ノ用務ニ就カシムヘキモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條　監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭スヘキ時期及場所ヲ告知スヘシ

第五十四條　在監者ヲ他所ニ護送スヘキ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其ノ護送ヲ停止スヘシ

護送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ關係官廳ニ通報スヘシ

第五十五條　護送中ハ男女ヲ同行セシムヘカラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關逃ルル者ニ付亦同シ

刑事被告人及十八歲未滿ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分スヘシ

第五十六條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及其ノ附近竝逃走者ノ立寄ルヘキ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事情ヲ通報スヘシ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其ノ事實ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ外逃走及逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報スヘシ

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ハ左ノ如シ但シ典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

一月（十二月）七時間	二月（十一月）八時間
三月（九月）九時間	四月（五月）十時間
六月（七月）十一時間	八月（十月）十時間

敎育、敎誨及運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條　作業ノ種類ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條　在監者ニ課スル作業ハ其ノ種類及一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第六十一條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ夫々一ニ之ヲ定ムヘシ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業科程トス

十八歲未滿ノ受刑者、老者、病弱者及不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條　作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコトヲ得

第六十三條　一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖作業時間內ハ繼續シテ作業ニ就カシムヘシ

第六十四條　請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ作業ヲ中止シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條　典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條　刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

第六十七條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ每日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢查セシムヘシ

第六十八條　仕上高ハ每月末日ニ其ノ月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月每ニ其ノ就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第六十九條　前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲スヘシ

第七十條　左ニ揭ケル期間ハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一　累犯ノ懲役囚ニ付テハ入監後三月間

二　監獄法第六十條第六號乃至第八號及第十號乃至第十二號ノ懲罰ニ處セラレタル者ニ付テハ執行中

三　初メテ業ニ就キタル日ヨリ現業日數三十日

四　釋放ノ日ヨリ前五日間

第七十一條　作業賞與金計算高ハ各就業者ノ歲績ヲ普通ノ備工錢ニ見積リ行狀、犯數及作業科程ノ了否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

一　刑事被告人、拘留囚及禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃至十分ノ七

二　懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

第七十二條　監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キ難キ前日ニ限リ前條ニ揭ケタル割合ノ外見積額ノ十分ノ三以內ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條　在監者恐意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其ノ他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ內ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條　就業者ニハ每月十五日迄ニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ通知スヘシ

第七十五條　作業賞與金計算高ハ就業者釋放ノ際之ヲ給與スヘシ

第七十六條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其ノ父、母、妻若ハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ヲ購求ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲特ニ必要アリト認ムヘキ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其ノ父、母、妻又ハ子ノ扶助其ノ他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月內ニ其ノ居所分明セサルトキハ其ノ計算高ヲ拂消スヘシ

第七十九條　監獄法第二十一條及第二十八條ニ依リ手當金ヲ給スヘキ情狀アリト認ムルトキハ典獄ハ調查書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第六章　敎誨及敎育

第八十條　敎誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ典獄ハ必要アリト認ムルトキハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ敎誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及刑事被告人ニハ其ノ居所ニ就キ敎誨ヲ爲スヘシ

第八十二條　受刑者父母ノ計ニ接シ就業ヲ免

セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其ノ亡父母ノ爲讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條　愚蔽、假出獄者ハ、假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其ノ式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲スヘシ

第八十四條　受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲スヘシ

第八十五條　監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以内其ノ教育ノ程度ニ應シ修身、讀書、算術、習字其ノ他必要ノ學科ヲ教授スヘシ

第八十六條　在監者ニハ書籍圖畫ノ閱讀ヲ許ス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其ノ閱讀ヲ許サス

第八十七條　雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三個以上ノ文書圖畫ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但シ字書ハ必要ニ因リ其ノ册數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其ノ監房内ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章　給養

第八十九條　在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及雜具ノ品目左ノ如シ

衣類

一　單衣
二　袷
三　綿入
四　襯衣
五　帶
六　褌
七　腰引

婦女ニハ腰引ニ代ヘ前垂ヲ用ヰシム

臥具

一　蒲團又ハ毛布
二　敷布
三　莞蓆
四　枕
五　蚊帳

雜具

一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物

腰引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限リ之ヲ交付ス

用紙ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

第九十條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及雜具ノ數ハ一人ニ付一箇トス但シ蚊帳ハ此ノ限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス

用紙ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ增減スルコトヲ得

巳ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第一項及第二項ニ定メタル箇數ヲ增減スルコトヲ得

第九十一條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ藍色トス

左ニ揭クル衣類臥具ハ淺葱色トス

一　刑事被告人ニ貸與スル衣類

二　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四　蒲團

第九十二條　自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且監獄ノ紀律及衛生ニ害ナキ物ニ限ル

自辨ノ衣類臥具ノ品目及箇數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條　自辨ノ衣類臥具ハ時時之ヲ交換、補綴又ハ澣濯セシムヘシ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ澣濯シタルトキハ其ノ費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及分量ハ左ノ如シ

	一飯	下白米	一人一回三合以下
		麥	十分ノ四
		十分ノ六	一人一回五錢以下
二　菜			

地方ノ狀況若ハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲必要アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ增加スルコトヲ得

第九十五條　在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ヰ但シ必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ヰルコトヲ得

第九十六條　在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ヰルコトヲ許サス

第九十七條　病者ノ糧食及飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

新聞紙及時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其ノ閱讀ヲ許サス

第九十八條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲スヘキ者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其ノ者ノ出入ヲ禁止スヘシ

第九十九條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第百條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其ノ檢查ヲ爲スヘシ

第百一條　雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ルヘク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用ヰシムヘシ

第八章　衞生及醫療

第百二條　監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其ノ他適當ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ清淨ナラシムヘシ

第百三條　受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ剪剃セシムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ剪剃セシムルコトヲ得ス

第百四條　頭髮、鬚髯ヲ剪剃セシメサル場合ニ於テハ當ニ之ヲ梳理セシムヘシ

第百五條　在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及其ノ他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但シ六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月迄ハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百六條　在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ但シ作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ムヘキ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以内ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歲未滿ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其ノ他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、獨居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシムヘシ

第百八條　十八歲未滿ノ者ハ成ルヘク治療ノ時間及病監ニ於ケル居室ヲ其ノ他ノ者ト異ニスヘシ

第百九條　獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除クノ外其ノ監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ルヘク病監内ノ獨居監房ニ拘禁スヘシ

第百十條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其ノ地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其ノ携帶物ニハ消毒方法ヲ行フヘシ

第百十一條　傳染病豫防ノ爲必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血精注射ヲ施スコトヲ得

第百十二條　傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及贈求ヲ停止スルコトヲ得

第百十三條　在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其ノ狀況ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ警察官署ニ其ノ事實ヲ通報スヘシ

第百十四條　監獄法第四十三條ニ依リ在監者ニ病院ニ移送スヘキトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及移送スヘキ病院トノ協議書ヲ添ヘ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第百十五條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第百十六條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ朝鮮總督ニ其ノ旨ヲ申報スヘシ

第百十七條　治療ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サレハ醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ産婆ヲ附スルコトヲ得

第百十八條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其ノ旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍檢事ニ通報スヘシ

第百十九條　妊婦ハ受胎後七月以上ノ者產婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及信書

第百二十條　十四歲未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但シ辯護人ノ接見ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡、在監者トノ續柄及面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知スヘシ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其ノ氏名、職業及住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍其ノ旨ヲ證明セシムヘシ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第百二十七條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フヘシ

第百二十八條　外國語ニ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超エルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ

第百三十一條　外國文ヲ用ヰタル信書ハ檢閱ノ爲在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條　受刑者ノ發受スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除クノ外日曜日休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書スヘシ

第百三十四條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其ノ他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

書信用紙及封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百三十五條　在監者ニハ發送スル信書ノ數ニ付シタル信書及其ノ他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條　信書ノ檢閱、發送及交付ノ手續ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲スヘシ

第百三十七條　信書ノ發送、交付及廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第百三十八條　第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其ノ受信ニ係ルモノハ假ニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄スヘキモノヲ除クノ外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付スヘシ

第百三十九條　接見ノ立會及信書ノ檢閱ノ際行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第十章　領置

第百四十條　領置物ハ其ノ品目及數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印スヘシ

第百四十一條　金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキト雖前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　在監者ニハ領置ヲ許シタル物ノ外衣類、臥具、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十三條　受刑者ニハ法令其ノ他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢、飲食物及朝鮮總督ニ於テ認可シタル物ヲ除クノ外差入ヲ爲スコトヲ得ス但シ自辨ヲ許シタル物ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類、臥具、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業及住所ヲ調査スヘシ

第百四十七條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢查スヘシ飲食物ノ檢查ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシムヘシ

第百四十八條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキハ之ヲ廢棄ス

第百四十九條　領置ノ手續ヲ爲シタル物ハ本人ニ交付セサルトキハ之ヲ廢棄ス

第百五十條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量竝處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

第百五十一條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受クヘキ者遠隔地ニ在ルトキハ其ノ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得

但シ運送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百五十二條　賞遇ヲ爲スヘキ者ニ賞表ヲ付スヘシ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超エルコトヲ得ス

第百五十三條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヰ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシムヘシ

第百五十四條　賞遇ハ左ノ如シ

一　第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛增加スルコト

二　襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三　作業ノ變更ヲ許スコト

四　第七十一條ニ定メタル作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎ニ十分ノ一宛增加スルコト

五　賞表一箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ一回、賞表二箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ二回、賞表三箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ三回賞ヲ增給スルコト但シ其ノ代償ハ一回三錢以下トス

第百五十五條　賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ

診斷書及移送スヘキ病院トノ協議書ヲ添ヘ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第百十五條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第百十六條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ朝鮮總督ニ其ノ旨ヲ申報スヘシ

第百十七條　治療ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サレハ醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ附スルコトヲ得

第百十八條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其ノ旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍檢事ニ通報スヘシ

第百十九條　妊婦ハ受胎後七月以上ノ者產婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及信書

第百二十條　十四歲未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但シ辯護人ノ接見ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡、在監者トノ續柄及面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知スヘシ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其ノ氏名、職業及住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍其ノ旨ヲ證明セシムヘシ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第百二十七條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フヘシ

第百二十八條　外國語ニ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超エルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ

第百三十一條　外國文ヲ用ヰタル信書ハ檢閱ノ爲在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條　受刑者ノ發受スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除クノ外日曜日休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書スヘシ

第百三十四條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其ノ他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

書信用紙及封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百三十五條　在監者ニハ發送スル信書ノ數ニ付シタル信書及其ノ他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條　信書ノ檢閱、發送及交付ノ手續ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲スヘシ

第百三十七條　信書ノ發送、交付及廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第百三十八條　第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其ノ受信ニ係ルモノハ假ニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄スヘキモノヲ除クノ外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付スヘシ

第百三十九條　接見ノ立會及信書ノ檢閱ノ際行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第十章　領置

第百四十條　領置物ハ其ノ品目及數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印スヘシ

第百四十一條　金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキト雖前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　在監者ニハ領置ヲ許シタル物ノ外衣類、臥具、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十三條　受刑者ニハ法令其ノ他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢、飲食物及朝鮮總督ニ於テ認可シタル物ヲ除クノ外差入ヲ爲スコトヲ得ス但シ自辨ヲ許シタル物ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類、臥具、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業及住所ヲ調査スヘシ

第百四十七條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢查スヘシ飲食物ノ檢查ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシムヘシ

第百四十八條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキハ之ヲ廢棄ス

第百四十九條　領置ノ手續ヲ爲シタル物ハ本人ニ交付セサルトキハ之ヲ廢棄ス

第百五十條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量竝處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

第百五十一條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受クヘキ者遠隔地ニ在ルトキハ其ノ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得

但シ運送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百五十二條　賞遇ヲ爲スヘキ者ニ賞表ヲ付スヘシ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超エルコトヲ得ス

第百五十三條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヰ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシムヘシ

第百五十四條　賞遇ハ左ノ如シ

一　第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛增加スルコト

二　襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三　作業ノ變更ヲ許スコト

四　第七十一條ニ定メタル作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎ニ十分ノ一宛增加スルコト

五　賞表一箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ一回、賞表二箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ二回、賞表三箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ三回賞ヲ增給スルコト但シ其ノ代償ハ一回三錢以下トス

第百五十五條　賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ

賞表ヲ擾乱シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其ノ期間賞表ヲ除去スヘシ

第百五十六條　在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一　在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二　人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿シタルトキ

三　天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百五十七條　減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十八條　懲罰事犯ニ付取調中ノ者ハ成ルヘク之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁スヘシ

第百五十九條　懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スヘシ

第百六十條　懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行スヘシ

戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其ノ健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第百六十一條　減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第百六十二條　減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

前項ニ揭ケタル者ヲ移監ノ爲他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其ノ當日及護送中懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ停止ノ日數ハ之ヲ懲罰期間ニ算入セス

第百六十三條　戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシムヘシ

第百六十四條　懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以內ニ懲罰ノ執行ヲ開始スヘシ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十五條　在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第百六十六條　在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及懲罰簿ニ記載スヘシ

第十二章　釋放

第百六十七條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ハ成ルヘク釋放前三日以內獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ヲ付諭告ヲ爲スヘシ

第百六十八條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

第百六十九條　典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラルヘキ者ノ性格及行狀竝保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署又ハ本人ノ保護ヲ引受クヘキ者ニ通知スヘシ

第百七十條　釋放セラルヘキ者ノ領置物及作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ監獄ノ所在地ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシムヘシ

第百七十一條　釋放ノ際著用スヘキ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若ハ作業賞與金又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與スヘシ

第百七十二條　受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其ノ歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシムヘシ

第百七十三條　受刑者ニ付假出獄ヲ許スヘキ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及執行指揮書ノ謄本竝行狀錄及身上調査書類ヲ添ヘ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第百七十四條　假出獄ニ依リ釋放スヘキ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付スヘシ

第百七十五條　假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ル期間ニ算入セス

其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第百七十六條　第百七十三條及第百七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章　死亡

第百七十七條　在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其ノ死體ヲ檢視スヘシ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ其病名、病歷、死因及死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名スヘシ

自殺其ノ他變死ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及立會者ノ官氏名竝檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百七十八條　死亡者ノ病名、死因及死亡ノ年月日時ハ遲ニモ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報スヘシ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍檢事ニ通報スヘシ

第百七十九條　受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲官公立ノ病院學校又ハ其ノ他ノ公務所ニ之ヲ交付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖其ノ後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料スヘキトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十條　死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲送付シタルトキハ其ノ旨ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百八十一條　死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者アリタル場合ト雖モ第百七十九條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬スヘシ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ遺骨ニ付亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツヘシ

第百八十二條　死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツヘシ

墓標ニハ石ヲ用ウヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件

大正八年七月
勅令第三百五十四號

警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ハ內地ニ於テハ內務大臣、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百六十三號ハ之ヲ廢止ス

●留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料額

明治四十四年八月
總訓第六十九號
改正　大正七年九第四五號、八年九第三五號

警察官署留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料ハ一食二十錢以內ニ於テ一日三食ト爲シ特別ノ事情アル場合ニハ一日一食分迄ヲ增給スルコトヲ得

●監獄職員銃器携帶ニ關スル件

明治四十二年十月
統令第四十八號
改正　明治四四年五第令第五號

朝鮮總督府監獄職員ニシテ巡警、監外ノ作業ニ就ク受刑者ノ戒護、要所ノ警衞及護送ニ從事スル者ニハ常ニ銃ヲ携帶セシム

前項ノ外典獄ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ戒護ニ從事スル監獄職員ニ臨時ニ銃ヲ携帶セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●監獄ニ於テ入監簿其ノ他備付ノ件

大正四年二月
總訓第六號

朝鮮總督府監獄

監獄ニ於テハ入監簿、出監簿、共犯簿、教誨簿、教育簿、健康診斷簿及診療簿ヲ備フヘシ

朝鮮監獄令施行規則及前項ノ規定ニ依ル帳簿ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別冊ノ樣式ニ依ルヘシ

身分帳簿ハ之ヲ名籍原簿ニ代用スヘシ

附　則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別冊略ス）

●假出獄取締規則

明治四十五年三月
總令第三十三號

假出獄取締規則左ノ通定ム

假出獄取締規則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察署（警察分署及憲兵隊ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵分遣所ヲイフ以下同シ）ノ監督ヲ受ク

第二條　典獄假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ其ノ旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及監督警察署ニ通報スヘシ

釋放セラルヘキ者ニ交付スル證票ニハ住居ノ地及監督警察署ニ到著スヘキ期限ヲ定メ之ヲ記載スヘシ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者ハ前條ニ依リ證票ニ記載セラレタル期限迄ニ監督警察署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受クヘシ

天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受クヘシ

前項ノ證明書ハ監督警察署ニ提出スヘシ

第四條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク監督警察署ニ職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ居出ツヘシ假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク住居ヲ定メ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

假出獄ヲ許サレタル者住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第六條　監督警察署ハ六月每ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付キ調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第七條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ釋放シタル監獄ノ典獄ノ意見ヲ聽キ適當ナル者ニ之ヲ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ每月末日前條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者轉住又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　轉住又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察署ハ旅券ヲ交付スヘシ但シ監督警察署ノ管轄區域內ニ轉住又ハ旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條第二項及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ノ之ヲ準用ス

第十條　轉住ヲ許可シタルトキハ監督警察署ハ其ノ旨ヲ第二條第一項ノ檢事、釋放シタル監獄竝新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事及警察署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察署ニ送致スヘシ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ轉住又ハ旅行ヲ中止シタルトキ亦同シ

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ監督警察署ヲ經由シテ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察署ハ其ノ旨ヲ第二條第一項ノ檢事及釋放シタル監獄ヲ經由シテ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

警察署及監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第十四條　朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察署ハ其ノ證明書ヲ交付スヘシ

第十五條　朝鮮外ニ旅行シタル者住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第十六條　前二條ノ屆出ヲ受ケタル警察署ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ且第二條第一項ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第十七條　檢事及警察署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第一號樣式（第三條及第九條ニ依リ交付スルモノ）用紙寸法適宜

假出獄者滯在證明書

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏名
年月日生

一滯在ノ事由
一滯在ノ場所
一滯在ノ地ニ到著シタル　年　月　日
一滯在期間

假出獄取締規則第　條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

年　月　日　　警察署名
　　官氏　名印

第二號樣式（第九條ニ依リ轉住ノ交付スルモノ）用紙鳥ノ子竪五寸横七寸

假出獄者旅券

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏　名
年月日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日自　明治　年　月　日
　　至　明治　年　月　日
一轉住許可
一移轉先地名
明治　年　月　日迄ニ移轉先ニ到著スヘシ
假出獄取締規則第八條ニ依リ此ノ旅券ヲ交付ス

年　月　日　　警察署名
　　官氏　名印

注意事項
一移轉先ニ著シタルトキハ（何）日以内ニ監督警察署ニ出頭シ此ノ旅券ヲ納付スヘシ
一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受ケ移轉先ニ到著ノ上監督警察署ニ提出スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一轉住ヲ止メタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ

第三號樣式（第九條ニ依リ旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

假出獄者旅券

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏　名
年月日生

一罪名
一刑名刑期

一朝鮮内ニ於テ此ノ證明書ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一轉住ヲ止メタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ届出ツヘシ
一再ヒ朝鮮ニ來リタルトキハ遲滯ナク住居ヲ定メ其ノ旨ヲ監督警察署ニ届出ツヘシ

第五號樣式（第十三條ニ依リ朝鮮外旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

證明書

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏　名
年月日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日自　明治　年　月　日
　　至　明治　年　月　日
一旅行許可
一旅行ノ事由
一行先地名
一旅行日數
一出發　年　月　日
明治　年　月　日迄ニ（何地「最終地點」）ヲ出發スヘシ
假出獄取締規則第十二條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

警察署名
年　月　日　　官氏　名印

注意事項
一朝鮮内旅行途中天災、疾病其他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申スヘシ
一朝鮮内ニ於テ此ノ證明書ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一旅行ヲ止メ又ハ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ監督警察署ニ届出ツヘシ

●假出獄及假出場ニ關スル取扱手續

明治四十五年三月
總訓第十六號

朝鮮總督府監獄

假出獄及假出場ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

假出獄及假出場ニ關スル取扱手續

第一條　假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許スヘキ者ノ氏名、年齢、本籍、住所、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算竝終了日、刑期三分ノ一ニ相當スル日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ氏名、職業、住所、生活ノ狀態及保護者ト本人トノ關係ヲ記載スヘシ

第二條　假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許スヘキ者ノ氏名、年齢、本籍、住所、罪名、犯數、刑名、刑期若ハ金額、刑期ノ起算及終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載スヘシ

第三條　監獄令施行規則第百七十三條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附スヘキ行狀錄ハ身分帳簿行狀錄最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ身上調査書類ハ身上票及公務所其ノ他ノ囘答書ニシテ特ニ參考ト爲ルヘキモノノ寫ヲ以テ之ヲ充ツヘシ

第四條　刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ暦ニ從ヒ計算スヘシ

一　刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其ノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二　刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其ノ儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其ノ商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三　刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其ノ和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四　刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其ノ和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

（イ）先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ暦ニ從ヒ計算シ其ノ期間ノ最終日ヲ定ム

（ロ）次ニ（イ）號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ暦ニ從ヒ計算シ其ノ期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

（ハ）（ニ）號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ（イ）號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其ノ最終日ヲ定ム但シ日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五　年ト月トニ跨リ其ノ儘三分スルコト能ハサルトキハ四號（イ）（ロ）ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其ノ算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號（ハ）ノ例ニ依リ計算ス

六　月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其ノ儘三分スルコト能ハサルトキハ前數號ノ例ニ準シ計算ス

七　刑期ニ算入スヘキ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入スヘキ日數ヲ控除シ其ノ殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條　假出獄證票ハ別記第一號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場證票ハ別記第二號書式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第六條　假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及釋放シタル年月日時ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第一號書式（用紙厚紙紙質適宜）

假出獄證票

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏　名
年月日生

一假出獄期間　年　月　日自　明治　年　月　日
　　至　明治　年　月　日
一旅行許可
一行先地名
一出發
明治　年　月　日迄ニ（行先地）ニ到著シ同　年　月　日迄ニ歸著スヘシ
假出獄取締規則第八條ニ依リ此ノ旅券ヲ交付ス

年　月　日　　警察署名
　　官氏　名印

注意事項
一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受ケ歸著ノ上監督警察署ニ提出スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察官署ニ具申スヘシ
一旅行ヲ止メ又ハ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ

第四號樣式（第十三條ニ依リ朝鮮外旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

證明書

本籍
住所（假出獄後住居ノ地）
氏　名
年月日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日自　明治　年　月　日
　　至　明治　年　月　日
一轉住許可
一移轉先地名
一出發　年　月　日
明治　年　月　日迄ニ（何地「最終地點」）ヲ出發スヘシ
假出獄取締規則第十二條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

警察署名
年　月　日　　官氏　名印

注意事項
一朝鮮内旅行途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申スヘシ

（表　　面）

罪名
刑名刑期
明治　年　月　日ヨリ執行
明治　年　月　日刑期終了
假出獄期間　年　月　日　自明治　年　月　日　至明治　年　月　日
住居ノ地ヲ管轄スル警察署ニ出頭スヘキ期間明治　年　月　日
住居ノ地ニ到著スヘキ期限　明治　年　月　日
假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此ノ證票ヲ附與ス
明治　年　月　日
某監獄
朝鮮總督府典獄　氏　名　印

記事及警察官吏ノ認印

（裏　　面）

（六寸五分）

假出獄者心得事項

一 此ノ證票ニ記載シタル日限ニ住居ノ地ヲ管轄スル警察署（警察分署及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵分遣所ヲ含ム以下同シ）ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受クヘシ
二 天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受クヘシ
此ノ證明書ハ監督警察署ニ提出スヘシ
三 假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察署ノ監督ヲ受ク
四 遲滯ナク監督警察署ニ職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツヘシ保護者アルトキハ連署ヲ要ス
五 轉住又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受クヘシ第一、第二ノ規定ハ此ノ場合ニ準用ス
六 旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ轉住ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ轉住又ハ旅行ヲ中止シタルトキ亦同シ
七 朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察署及釋放シタル監獄ヲ經由シテ朝鮮總督ノ許可ヲ請ヒ監督警察署ヨリ證明書ヲ受クヘシ
八 朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ於テ轉住又ハ旅行ヲ中止シ若ハ旅行ヲ爲シ轉住ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ届出ツヘシ
九 朝鮮外ニ轉住ヲ爲シタル場合ニ於テ再ヒ朝鮮ニ來リタルトキハ遲滯ナク住所ヲ定メ其ノ旨ヲ監督警察署ニ届出ツヘシ

右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左ニ掲クル事由アルトキハ假出獄ノ處分ヲ取消サルルコトアルヘシ
一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ爲スヘキトキ
假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

（尺　　一）

第二號書式（用紙厚紙紙質適宜）

假出場證票

本籍
住所（假出場後住居ノ地）
氏名
年　月　日生
罪名
拘留又ハ勞役場留置期間
明治　年　月　日ヨリ執行
明治　年　月　日滿期
假出場期間　年　月　日　自明治　年　月　日　至明治　年　月　日
假出場ヲ許サレタルヲ以テ此ノ證票ヲ附與ス
明治　年　月　日
某監獄
朝鮮總督府典獄　氏　名　印

（八　　寸）
（五寸五分）

●指紋取扱規程

大正十年十二月 總訓第七十一號　朝鮮總督府監獄

指紋取扱規程左ノ通改正ス

指紋取扱規程

第一條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル受刑者ニ付テハ其ノ指紋ヲ押捺セシメ指紋原紙ヲ作成スヘシ

第二條　指紋原紙ハ刑ノ執行ニ著手シタル後三日內ニ之ヲ作成スヘシ
疾病其ノ他ノ事故ニ因リ指紋ヲ押捺セシムルコト能ハサル者ニ付テハ其ノ事故ノ止ミタル後直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　指紋原紙ハ様式第一號ニ依リ二通ヲ作成スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ指紋原紙ニ代ヘ様式第三號ノ指紋原紙受刑追加小票一通ヲ作成スヘシ
一 受刑中他ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行指揮アリタルトキ
二 朝鮮總督府監獄ニ於テ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行ヲ受ケ再ヒ入監シタルトキ

第四條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ釋放前ニ指紋ヲ押捺セシムルコト能ハサル場合ニ於テハ指紋原紙及指紋原紙受刑追加小票各欄ノ記入ヲ爲シ表面備考欄ニ其ノ事由ヲ朱記スヘシ

第五條　様式第一號ノ指紋原紙ハ一通ヲ本人ノ身分帳簿ニ編綴シ他ノ一通及指紋原紙受刑追加小票ハ一月毎ニ取纏メ様式第四號ノ送付書ヲ添附シ翌月十日迄ニ本府ニ發送スヘシ但シ刑期二月以下ニ係ルモノニ付テハ作成ノ都度之ヲ送付スヘシ

第六條　前條ノ手續ヲ爲シタル後左ノ事項アリタルトキハ各所定ノ様式ニ依リ一月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ報告スヘシ
一 懲役又ハ禁錮ノ前科アルコトヲ發見シタルトキ（様式第五號）
二 刑期ニ異動アリタルトキ（様式第六號）
三 刑期終了前出監シタルトキ（假出獄ノ場合ヲ除ク）（様式第七號）
四 假出獄ノ取消、刑執行停止ノ取消又ハ逃走後ノ逮捕ニ依リ復監シタルトキ（様式第八號）
五 死亡シタルトキ又ハ出監後死亡シタルコトヲ知リタルトキ（様式第九號）
六 氏名ニ異動アリタルトキ（様式第十號）
七 身柄ノ移監ヲ受ケタルトキ（様式第十一號）

第七條　在監中指頭損傷シタルトキハ更ニ指紋原紙ヲ作成シ表面備考欄ニ其ノ事由ヲ朱記シ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ
第三條第二號ニ該當スル場合ニ於テ指頭ノ損傷アリタルトキハ指紋原紙ヲ作成シ表面備考欄ニ［再入］ノ記號ヲ押捺シ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　第二條乃至第四條及前條ノ場合ニ於テ內地人ナルトキハ様式第一號ノ指紋原紙又ハ指紋原紙受刑追加小票ノ外様式第二號ノ指紋原紙二通ヲ作成シ共ニ送付スヘシ

第九條　在監者ヲ移監スル場合ニ於テ前各條ノ手續ヲ終ラサルトキハ其ノ旨ヲ通報シ移監ヲ受ケタル官廳ニ於テ所定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　指紋ノ對照ヲ求メムトスルトキハ指紋原紙ノ表面備考欄ニ［要對照］ノ記號ヲ押捺シ本府ニ之ヲ送付スヘシ

第十一條　懲役又ハ禁錮ノ刑ノ前科アルコトヲ發見シ又ハ其ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係裁判所ノ檢事ニ通報スヘシ

第十二條　監獄又ハ分監ニ指紋擔當者ヲ置キ指紋ノ事務ニ從事セシムヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規程ニ依リ作成シタル指紋原紙ハ本規程施行ノ際在監スル者ニ付テハ速ニ身分帳簿ニ編綴シ其ノ他ノ者ニ付テハ他ノ監獄ヨリ終結身分帳簿取寄ノ照會アリタルトキ又ハ再ヒ入監シ若ハ復監シタルトキニ於テ身分帳簿ニ編綴シテ整理スヘシ

様式第一號

備考　指紋番號
異名
紀元　2,5,　年生
年　月　日生
身分　職業
氏名（一寸四分）
男女
原籍地
出生地
住所

左手				
拇指	示指	中指	環指	小指
		（一寸八分）		

右手				
拇指	示指	中指	環指	小指
		（一寸八分）		

右手	左手
	（一寸八分）

折
大正　年　月　日法務局檢査　大正　年　月　日作成

縱八寸六分　橫六寸一分

判決ヲ受ケタル氏名	判決言渡年月日	言渡官署	罪名	刑名刑期	執行官署	出獄年月日	摘要

右手拇指	身長	備考
自署	尺　寸　分	
	特徴	

〔朝〕